

日本女子体育大学 | 2023年度

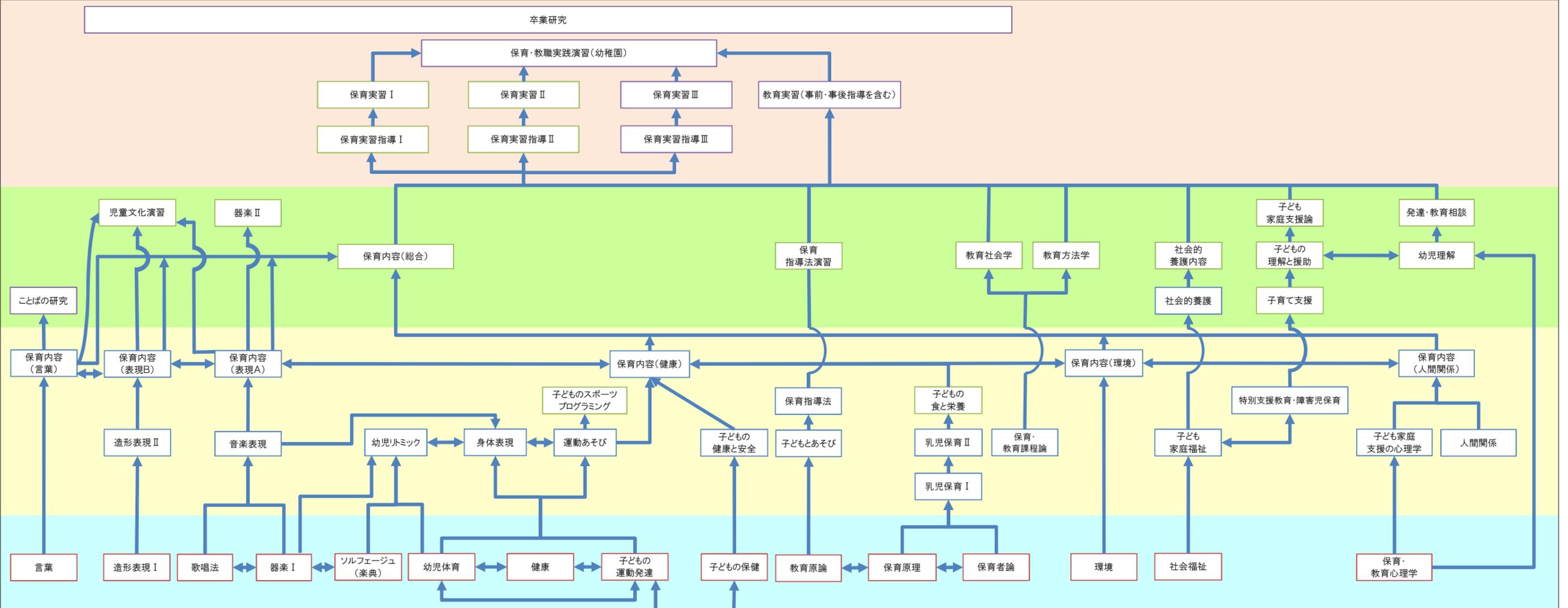
# シラバス



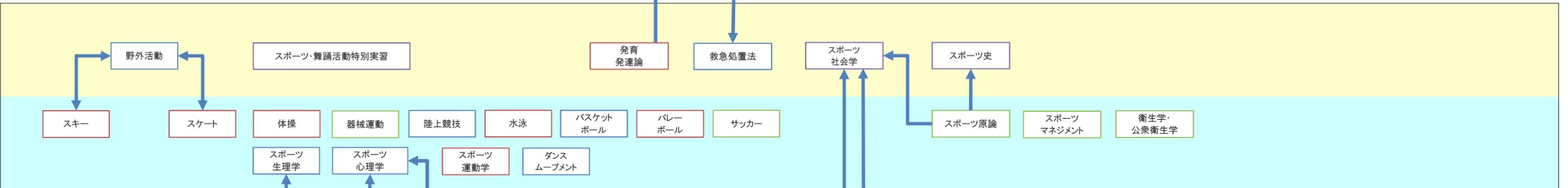
Japan Women's College of Physical Education

# 子ども運動学科 カリキュラムマップ

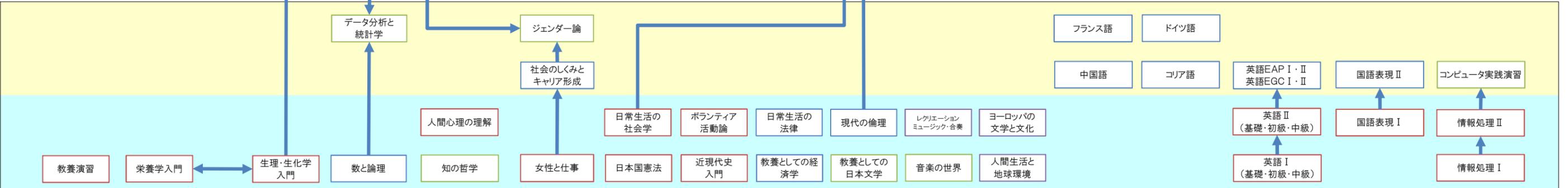
## 専門基礎教育・専門教育科目



## 体育関連科目



## 教養科目



# 子ども運動学科 科目ナンバー

1桁目：学科コード (S=スポーツ科学科, D=ダンス学科, H=健康スポーツ学科, C=子ども運動学科) / 2～4桁目：分野コード / 5桁目：授業レベル / 6～7桁目：枝番

分類	基礎科目 (100番台)		初級科目 (200番台)		応用科目 (300番台)		上級科目 (400番台)	
	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー
必修科目	日本国憲法	CLR101	国語表現Ⅱ	CLR201				
	女性と仕事	CLR102						
	教養演習	CLR103						
	情報処理Ⅰ	CLR104						
	情報処理Ⅱ	CLR105						
	国語表現Ⅰ	CLR106						
	英語Ⅰ (基礎)	CLR107						
	英語Ⅰ (初級)	CLR108						
	英語Ⅰ (中級)	CLR109						
	英語Ⅱ (基礎)	CLR110						
	英語Ⅱ (初級)	CLR111						
	英語Ⅱ (中級)	CLR112						
教養科目	栄養学入門	CLE101	英語E A P I	CLE201				
	生理・生化学入門	CLE102	英語E G C I	CLE202				
	近現代史入門	CLE103	英語E A P II	CLE203				
	人間心理の理解	CLE104	英語E G C II	CLE204				
	ボランティア活動論	CLE105	ドイツ語	CLE205				
	日常生活の社会学	CLE106	フランス語	CLE206				
	数と論理	CLE107	中国語	CLE207				
	現代の倫理	CLE108	ロシア語	CLE208				
	日常生活の法律	CLE109	社会のしくみとキャリア形成	CLE209				
	教養としての経済学	CLE110	データ分析と統計学	CLE210				
	知の哲学	CLE111	ジェンダー論	CLE211				
	教養としての日本文学	CLE112	コンピュータ実践演習	CLE212				
	音楽の世界	CLE113						
	人間生活と地球環境	CLE114						
	ヨーロッパの文学と文化	CLE115						
	レクリエーションミュージック・合奏	CLE116						
必修科目	保育・教育心理学	CBR101	身体表現	CBR201	幼児理解	CBR301		
	社会福祉	CBR102			発達・教育相談	CBR302		
	子どもの運動発達	CBR103			児童文化演習	CBR303		
	保育原理	CBR104						
	スポーツ運動学	CBR105						
	水泳	CBR106						
	体操	CBR107						
	スポーツ生理学	CBR108						
	スポーツ心理学	CBR109						
	ダンスムーブメント	CBR110						
	スポーツ原論	CBR111						
選択科目	造形表現Ⅰ	CBE101	発育発達論	CBE201	子ども家庭支援論	CBE301		
	言葉	CBE102	救急処置法	CBE202	器楽Ⅱ	CBE302		
	ソルフェージュ (楽典)	CBE103	人間関係	CBE203	ことばの研究	CBE303		
	環境	CBE104	造形表現Ⅱ	CBE204				
	健康	CBE105	運動あそび	CBE205				
	歌唱法	CBE106	野外活動	CBE206				
	器楽Ⅰ	CBE107	子どものスポーツプログラミング	CBE207				
	バレーボール	CBE108	スポーツ社会学	CBE208				
	スキー	CBE109	スポーツ史	CBE209				
	スケート	CBE110						
	バスケットボール	CBE111						
	陸上競技	CBE112						
	スポーツマネジメント	CBE113						
	衛生学・公衆衛生学	CBE114						
	器械運動	CBE115						
	サッカー	CBE116						
必修科目	保育者論	CMR101	保育・教育課程論	CMR201	教育社会学	CMR301		
	教育原論	CMR102	保育指導法	CMR202	教育方法学	CMR302		
	幼児体育	CMR103	保育内容 (健康)	CMR203	保育内容 (総合)	CMR303		
			保育内容 (環境)	CMR204	保育指導法演習	CMR304		
			保育内容 (言葉)	CMR205				
			保育内容 (人間関係)	CMR206				
			保育内容 (表現A)	CMR207				
			保育内容 (表現B)	CMR208				
			音楽表現	CMR209				
			特別支援教育・障害児保育	CMR210				
			幼児リトミック	CMR211				
選択科目	子どもの保健	CME101	子ども家庭福祉	CME201	社会的養護	CME301	保育実習指導Ⅰ	CME401
			乳児保育Ⅰ	CME202	社会的養護内容	CME302	保育実習指導Ⅱ	CME402
			子ども家庭支援の心理学	CME203	子育て支援	CME303	保育実習Ⅰ	CME403
			乳児保育Ⅱ	CME204	子どもの理解と援助	CME304	保育実習Ⅱ	CME404
			子どもの健康と安全	CME205			保育・教職実践演習 (幼稚園)	CME405
			子どもとあそび	CME206			保育実習指導Ⅲ	CME406
			子どもの食と栄養	CME207			保育実習Ⅲ	CME407
			スポーツ・舞踊活動特別実習	CME208			教育実習 (事前・事後指導を含む)	CME408
						卒業研究	CME409	

## 【卒業認定方針と科目の関連性】

### スポーツ科学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ方法	各種運動・スポーツ種目の基本的な技能や戦術を理解するとともに身につけ、実践することができる
⑦	スポーツコンディショニング	スポーツの技能・競技力を最大限に発揮できる身体的・心理的条件を整えるコンディショニングの知識・理論を身につけ実践できる
⑧	スポーツコーチング	競技力を向上させるトレーニング理論や実践的なプログラミング・コーチング理論を身につけ実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

### ダンス学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	ダンス芸術	ダンスの身体技能を合理的に構築し、質の高いダンスとして表現できる 作品創作や振付方法、演出方法に関する知識と理論を修得し、高度な表現の実現に応用できる
⑦	ダンス教育	多様な対象に適したダンスの学習目的に応じた内容・方法に関する知識と理論を修得し、幅広くダンス指導に応用できる
⑧	ダンス・マネジメント	ダンス上演やダンス学習を支える環境の管理および方法に関する知識と理論を修得し、実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

### 健康スポーツ学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ教育	教員として質の高い保健体育の授業を実践し、運動部活動では児童生徒の心身の実態に則した適正な指導を行うことができる。また、地域のスポーツ指導者として地域住民のニーズと実態に応じたスポーツ活動を提供し指導できる
⑦	健康運動指導	健康や体力について専門的に学び、多様な対象者に健康体力の保持・増進を目的とした健康運動指導を行うことができる
⑧	スポーツマネジメント	地域活動やNPO及びビジネスとしてのスポーツなどの効果的な仕組み作りやその運営を行うことができる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

### 子ども運動学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学習・学問に必要な基礎的スキルの修得
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術の向上
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーの向上
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等への応用力の向上
⑤	キャリア教育	学生の将来に関わる実学的資質の育成
⑥	子どもの運動能力や感性	子どもの運動能力や感性を育てるための働きかけ方を学ぶ
⑦	子どもの健康と発達	子どもの心身の健康に関わる理論や実践方法を学ぶ
⑧	子育て支援	保育を広くとらえ、特別な配慮を必要とする子どもや保護者などへの支援の理論と方法を学ぶ

科目名	日本国憲法			担当者	中村安菜		
英文名	Constitutional Law						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR101・DLR101	HLR101・CLR101	卒業認定方針との関連	④	
<b>【到達目標】</b> 日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定とも出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
憲法に関する基礎的事項・理論について		理論や学説等を理解し自らまとめて説明できる。		憲法に関する理論や学説を教科書や配布資料を参照しながら説明することができる。		理解が不十分で説明できない。	
憲法に関する研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。		研究知見を資料等を参照しながら自ら説明することができる。		知見の理解が不十分で説明できない。	
憲法の研究知見の活用に関する事項		知見の活用について自らの意見を示すことができる。		知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。		知見の活用に関する理解が不十分で自らの意見を述べることができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション、なぜ憲法を学ぶか。憲法とはどのような法か。</b> 【到達目標】 (1) 体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。 (2) 憲法がどのような法であるのかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)				<b>第9回 社会権</b> 【到達目標】 (1) 社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2) 生存権等の社会権の具体的内容を理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第2回 日本における憲法の歴史</b> 【到達目標】 (1) 大日本帝国憲法の制定過程と、その内容について理解する。 (2) 日本国憲法の制定過程とその基本原則について、大日本帝国憲法と比較しつつ理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)				<b>第10回 労働権・労働基本権</b> 【到達目標】 (1) 労働権と労働基本権について理解する。 (2) 公務員の労働基本権に対する制約について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第3回 基本的人権総論</b> 【到達目標】 (1) 基本的人権が保障されることの意味を理解する。 (2) 基本的人権の種類を理解する。 (3) 基本的人権が誰に、どの程度保障されるのかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)				<b>第11回 象徴天皇制</b> 【到達目標】 (1) 憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2) 天皇の存在と国民民主主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第1章・第11章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第4回 法の下での平等</b> 【到達目標】 (1) 法の下での平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第12章を熟読する。(4.0hr)				<b>第12回 国会</b> 【到達目標】 (1) 国会の地位と構成・役割について理解する。 (2) 国会と国民民主主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第5回 精神的自由権①</b> 【到達目標】 (1) 思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第4章を熟読する。(4.0hr)				<b>第13回 内閣</b> 【到達目標】 (1) 行政権の概念について理解する。 (2) 内閣の地位と構成、役割や権能について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第6回 精神的自由権②</b> 【到達目標】 (1) 学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)				<b>第14回 裁判所①</b> 【到達目標】 (1) 司法権の概念について理解する。 (2) 司法権の限界について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第7回 精神的自由権③</b> 【到達目標】 (1) 表現の自由の重要性を理解する。 (2) 表現の自由に対する規制について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)				<b>第15回 裁判所②</b> 【到達目標】 (1) 司法権の独立について理解する。 (2) 違憲審査制について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)			
<b>第8回 経済的自由権</b> 【到達目標】 (1) 経済的自由権には具体的にどのようなものがあるかを理解する。 (2) 職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (3) 財産権とはどのようなものであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第6章を熟読する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事例について、自らすずんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業回数が増えた場合でも、授業内容に大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と穴埋め式の資料・補足資料、各回の復習課題である。資料の配信などに関する説明は、オンデマンド方式の授業が開始される前にポータルで行う。また、授業ごとの復習課題の提出によって授業への参加度を確証し、復習課題は成績評価の対象とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「【合格水準】教職のための憲法 第2版」志田陽子 編著、法律文化社、2023							
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と学期末における最終課題などを総合的に評価する。							

科目名	女性と仕事			担当者			
英文名	Career Development Studies (Women and Work)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR102・DLR102・HLR102・CLR102		卒業認定方針との関連	③⑤	
<b>【到達目標】</b> 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら課題を発見し自律的に思考することによって、4年間の学生生活に取り組み姿勢を確固たるものにする。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、教養高き社会人の基礎を培うとともに、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。							
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 本講義の目的と狙いを理解し、現時点の自己を把握するために自らの振り返りと未来の予測を、具体的に書きまとめてみる。  <b>【授業時間外学習】</b> テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。(4.0hr)			<b>第9回 社会を知る(7) 講演⑥</b> <b>【到達目標】</b> 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)				
<b>第2回 自己理解と自己分析</b> <b>【到達目標】</b> 自己理解や自己分析を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 性格・適性診断及びレジリエンス診断を行う。(4.0hr)			<b>第10回 社会を知る(7) 講演⑥</b> <b>【到達目標】</b> 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)				
<b>第3回 社会を知る(1) (ライフプランと資金管理)</b> <b>【到達目標】</b> 自己のライフイベントと金銭的な面からキャリア形成について考える。業界や業種について知る。  <b>【授業時間外学習】</b> ライフイベント表・家計予算表を作成する。(4.0hr)			<b>第11回 日本の労働市場と女性</b> <b>【到達目標】</b> 日本における女性を取り巻く現状や労働問題の概要を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 男女共同参画に関する最新の情報を調べる。(4.0h)				
<b>第4回 社会を知る(2) (女性のワークキャリア)</b> <b>【到達目標】</b> 社会人基礎力やコミュニケーション能力を高める方法を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分が実践すべき具体的事項(マングラチャート)を作成する。(4.0hr)			<b>第12回 基礎知識(1) 雇用保険</b> <b>【到達目標】</b> 雇用保険制度の概要を学ぶとともに、雇用保険の主な給付(求職者給付、育児介護休業給付等)とその内容を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 育児休業中・介護休業中の経済支援について調べる。(4.0h)				
<b>第5回 社会を知る(3) 講演①</b> <b>【到達目標】</b> 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			<b>第13回 女性のライフコース</b> <b>【到達目標】</b> 現代の日本の状況について政府統計等のデータを用いて学ぶとともに、自分自身の将来のライフコースを考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 結婚と家族をめぐる基礎データについて調べる。(4.0h)				
<b>第6回 社会を知る(4) 講演②</b> <b>【到達目標】</b> 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			<b>第14回 女性とキャリア</b> <b>【到達目標】</b> キャリアと職業の違いから、仕事と人生のバランスについて考える。  <b>【授業時間外学習】</b> キャリアの転機と折り合いの付け方について調べる。(4.0h)				
<b>第7回 社会を知る(6) 講演③</b> <b>【到達目標】</b> 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			<b>第15回 女性とキャリア</b> <b>【到達目標】</b> 多様な女性のキャリア・パターンについて理解するとともに、自己のキャリア形成について考えをまとめる。  <b>【授業時間外学習】</b> これまでの学修を踏まえ、自己のキャリア形成についてまとめる。(4.0hr)				
<b>第8回 社会を知る(6) 講演④</b> <b>【到達目標】</b> 社会で活躍している女性による講演を通して様々な仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成の基礎を育む。  <b>【授業時間外学習】</b> 自分のキャリア形成について考える。(4.0hr)			<b>※本シラバスは、令和4年度の内容です。 令和5年度の内容に差し替えが発生する予定です。</b>				
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し理解を深めていく。また、ゲストセッションを通して、書籍や資料だけでは得難い体験に基づいた講話やオンタイムの情報を得る機会を提供する。各自の理解度や気づきの程度の確認のため、小レポートを提出し授業の達成度を確認する。 授業回により、学生はプレゼンテーション資料を作成し、授業の理解度を確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> <b>【オンライン授業の場合】</b> キャリア・ノート(各自)							
<b>【成績評価方法】</b> 対面授業の場合もオンライン授業の場合も評価方法は変わらない。 原則として、授業への出席・参加(50%)、学期内のレポート・課題(50%)で評価する。							

科目名	教養演習					担当者
英文名	Preparations for Academic Studies					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR103・DLR103・HLR103・CLR103		卒業認定方針との関連	①③④
<b>【到達目標】</b> この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。						
<b>【ルーブリック(学修の到達レベル)】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
アカデミック・スキルズについて		スキルズを習得し活用できる		ハンドブック等を参照しながら活用できる		習得が不十分で活用できない
ソーシャル・スキルズについて		スキルズを習得し活用できる		ハンドブック等を参照しながら活用できる		習得が不十分で活用できない
レポート・プレゼンテーションについて		やり方を習得し自分で行うことができる		ハンドブック等を参照しながら行うことができる		習得が不十分で行うことができない
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 アイスブレイク</b> 【到達目標】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。  【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)			<b>第9回 レポート・論文作成の技術(1)</b> 【到達目標】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。  【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)			
<b>第2回 私の学生生活</b> 【到達目標】 これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。  【授業時間外学習】 授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るのかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)			<b>第10回 レポート・論文作成の技術(2)</b> 【到達目標】 レポート・論文作成における各種の不正行為を防ぐ方法、および研究倫理を具体例を通して学習する。また参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。  【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)			
<b>第3回 日本女子体育大学を知る(1)</b> 【到達目標】 日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。  【授業時間外学習】 創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			<b>第11回 プレゼンテーションの技術</b> 【到達目標】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。  【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)			
<b>第4回 日本女子体育大学を知る(2)</b> 【到達目標】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。  【授業時間外学習】 本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			<b>第12回 専門への架け橋</b> 【到達目標】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。  【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)			
<b>第5回 話し合いの技術</b> 【到達目標】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。  【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)			<b>第13回 レポート・プレゼンテーション①</b> 【到達目標】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。  【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 ノートテイクの技術</b> 【到達目標】 大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。  【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			<b>第14回 レポート・プレゼンテーション②</b> 【到達目標】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。  【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 データを読む技術</b> 【到達目標】 量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。  【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			<b>第15回 レポート・プレゼンテーション③</b> 【到達目標】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。  【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)			
<b>第8回 データをまとめる技術</b> 【到達目標】 質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「K」法を習得する。  【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 【対面授業の場合】 この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。  【オンライン授業の場合】 担当教員の指示に従って毎回のテーマを学習し、レポート・課題を期限内で提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。						
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業の場合】 スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン上の演習で行ったスキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。						

科目名	情報処理 I			担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥 水野 有希・阿南 大		
英文名	Information Literacy I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR104・DLR104・HLR104・CLR104	卒業認定方針との関連	②③		
<b>【到達目標】</b> ICT (Information & Communication Technology) の基礎や情報倫理を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメールの活用法やコンピュータウイルスに対する対策についても理解する。							
<b>【ルーブリック (学修の到達レベル)】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル		未到達レベル		
PCを利用するために必要最低限な知識		PCの利用で問題点などを判断できる知識の習得	Web上のマナー・著作権・ネットの仕組みの理解		利用するためのネットの仕組みや注意点の無理解		
アプリケーションの大学生としての標準的スキル		与えられた課題を思考・判断して取り組む力の取得	Officeアプリの標準的なスキルの取得		大学生としての標準的スキルの未取得		
周辺機器の標準的な利用方法		周辺機器を自律的に使いこなせる能力の取得	ファイルと保存、プリンタなどの設定方法の取得		周辺機器の利用と設定に支障のあるレベル		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 インターネットについての理解と利用</b> 【 到達目標 】 (1)ポータルサイトの概要やオンライン授業について理解し、利用方法を習得する。 (2)メールの署名の設定し、メールの送り方を理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第9回 数値分析・データ加工法の理解</b> 【 到達目標 】 (1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第2回 情報倫理と著作権</b> 【 到達目標 】 (1)情報倫理について概要を学び、ネットを利用することで生じる問題を理解する。 (2)著作権を学び、生活の中で発生する著作権法違反を理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第10回 数値分析・データ加工の方法</b> 【 到達目標 】 (1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第3回 メディアリテラシーとWebコミュニケーション</b> 【 到達目標 】 (1)情報におけるメディアリテラシーの重要性を理解する。 (2)Webコミュニケーションのマナー、活用法や問題点を理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第11回 プレゼンテーション法の理解</b> 【 到達目標 】 (1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2)PowerPointによるスライド作成を習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第4回 情報化社会の問題と情報セキュリティ</b> 【 到達目標 】 (1)情報化社会における問題点を知り、情報漏洩の経路や原因を理解する。 (2)情報セキュリティの必要性と対策を理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第12回 プレゼンテーションの方法1</b> 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第5回 文書作成法の理解</b> 【 到達目標 】 (1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2)テキストデータ作成と編集について理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第13回 プレゼンテーションの方法2</b> 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第6回 文書作成の方法</b> 【 到達目標 】 (1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解</b> 【 到達目標 】 (1)OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第7回 ビジュアル表現法の理解</b> 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第15回 ファイルについての知識および管理の方法</b> 【 到達目標 】 (1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2)様々な保存形式について理解する。 (3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第8回 ビジュアル表現の方法2</b> 【 到達目標 】 (1)文書上の図形描画(ドロー系コンテンツ)を習得する。 (2)文書の印刷方法について理解し、習得する。  【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、背景にある文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的な知識や考え方を学び、情報機器の活用に必要な情報倫理や著作権などの知識を学ぶことで、専門科目における活用の基礎となるスキルと知識を得ることを目標とする。 <b>【対面授業の場合】</b> 講義は情報処理実習室で授業を実施する。毎回授業時に関連した課題を提出してもらう。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。配信される資料はスライドと資料とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載する。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認する。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイスが所有していることが望ましい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 別途、授業時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面・オンライン授業共通】</b> 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	情報処理II			担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥 水野 有希・阿南 大		
英文名	Information Literacy II						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR105・DLR105・HLR105・CLR105	卒業認定方針との関連		②③	
<b>【到達目標】</b> 「情報処理I」よりワンランク上の内容を学ぶ。Wordでは、より高度な文書作成（データの差し込み等）を学ぶ。Excelでは、データの並べ替えや抽出等を活用できるようにする。Power Pointでは、相手に伝わるプレゼンテーションを作るための工夫を学び、実際にプレゼンテーションをおこなう。また、画像や映像ファイルの編集方法を学び、実際に撮影や録画したデータから作品を作り、発表する。さらに、ネットワークコンピューティング、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル		未到達レベル		
PCを実用的に利用できる高度な知識		実際に発生する問題の解決・判断と知識の習得	WebやPCの利用に関する問題意識と適切な判断と知識の取得		WebやPC利用上の適切さ・知識の欠如		
アプリケーションの実際の問題を解決する力		実際の問題へのPC、ネットによる高度な解決能力の取得	PCアプリの実用的課題に対し自律的に計画できる能力		PCアプリによる実際の問題への解決能力の欠如		
周辺機器を含めたPCの総合的な利用		高度なファイル管理やクラウドの設定の理解	ファイル管理・ネットワーク機器・クラウドの設定の標準的理解		ファイル管理・ネットワーク機器の利用知識の欠如		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 情報ツールとネットワーク・コンピューティング</b> <b>【到達目標】</b> (1)情報端末機器とWebについての理解する。 (2)情報ツール、Wifiについて理解する。 (3)クラウド(Cloud)について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第9回 数値データのビジュアル化</b> <b>【到達目標】</b> (1)分析に適したグラフを理解する。 (2)分析結果をグラフで表現する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第2回 パソコンの構成と周辺機器</b> <b>【到達目標】</b> (1)パソコンの構成を理解する。 (2)パソコンの周辺機器の用途や機能について理解する。 (3)パソコンの設定について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第10回 データベースのデータの活用</b> <b>【到達目標】</b> (1)データベースについて理解する。(2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。 (2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第3回 文書作成の方法(応用)</b> <b>【到達目標】</b> (1)高度なワード文書の作成に必要な機能を理解する。 (2)文書上のオブジェクトの編集方法を習得する。 (3)校閲、参考資料の機能を理解し、操作方法を修得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第11回 マルチメディアデータの取込と編集</b> <b>【到達目標】</b> (1)知的財産権について理解する。 (2)マルチメディアのファイルについて理解する。 (3)マルチメディアをPCで取込む方法や編集ソフトの利用方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第4回 ビジュアル表現の方法(応用)1</b> <b>【到達目標】</b> (1)目的・用途に合わせた表や図形の編集方法を習得する。 (2)画像編集ソフトの活用を修得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第12回 スライドを使ったプレゼンテーション1</b> <b>【到達目標】</b> (1)プレゼンテーション内容に適したスライド作成を理解する。 (2)グループワークによりプレゼンテーション用スライドを作成する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第5回 ビジュアル表現の方法(応用)2</b> <b>【到達目標】</b> (1)複雑な図形表現の方法を習得する。 (2)作成されたオブジェクトの利用方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第13回 スライドを使ったプレゼンテーション2</b> <b>【到達目標】</b> (1)スライドの作成を完了する。 (2)プレゼンテーションを行うための資料作成を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第6回 ビジュアル表現の方法(応用)3</b> <b>【到達目標】</b> (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第14回 スライドを使ったプレゼンテーション3</b> <b>【到達目標】</b> (1)スライドを使ってプレゼンテーションを行う。 (2)他のグループによる評価を行い、プレゼンテーションしたグループにフィードバックする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第7回 数値データの分析1</b> <b>【到達目標】</b> (1)EXCELの式と関数によるデータ処理を理解する。 (2)絶対参照の利用方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				<b>第15回 ファイル管理とPCの設定</b> <b>【到達目標】</b> (1)高度なファイル操作・管理・設定を習得する。 (1)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
<b>第8回 数値データの分析2</b> <b>【到達目標】</b> (1)統計に必要な関数の利用方法を習得する。 (2)データに条件をつけて分析・表示させる方法を習得する。 <b>【授業時間外学習】</b> 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 「情報処理I」で学んだ事を踏まえて、アプリケーションのスキルアップをするともに、ネットワーク・コンピューティングの仕組みと活用についての実践的知識を習得することで、専門科目、卒業研究などに活用可能な知識を得ることを目標とする。							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義は情報処理実習室で授業を実施する。毎回授業時に関連した課題を提出してもらう。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。配信される資料はスライドと資料とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認する。なお、課題の遂行にはMicrosoft Officeが使用できるデバイスが所有していることが望ましい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 別途、授業時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業・オンライン授業共通】</b> 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	国語表現 I		担当者	高橋 良久・並木真理子 石元みさと		
英文名	Japanese Composition and Rhetoric I					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106	卒業認定方針との関連		②
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語力や読解力、文章力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。</li> <li>・自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。</li> <li>・文章を読んだり書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。</li> </ul>						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
言語運用能力を高める		十分な言語運用能力を得られた		標準的な言語運用能力を得られた		十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う		十分な言語リテラシーを得られた		標準的な言語リテラシーを得られた		十分な言語リテラシーを得られなかった
批判的思考力を養う		十分な批判的思考力を習得できた		批判的思考力を習得できた		批判的思考力を身につけられなかった
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）			第9回 文章力を身につける①（レポートの書き方）			
【到達目標】 この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。			【到達目標】 ・構成について学ぶ。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、自身の立てた目標を達成するために必要なことをリストアップする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)			
第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語）			第10回 文章力を身につける②（成文化）			
【到達目標】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。			【到達目標】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。			
【授業時間外学習】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使うようにする(4.0hr)			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
第3回 国語力（知識）を身につける②（文法）			第11回 文章力を身につける③（接続詞）			
【到達目標】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。			【到達目標】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。			
【授業時間外学習】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる(4.0hr)			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)			
第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）			第12回 文章力を身につける④（文構造）			
【到達目標】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。			【到達目標】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。			
【授業時間外学習】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)			
第5回 国語力（知識）を身につける④（手紙・メール）			第13回 文章力を身につける⑤（反論）			
【到達目標】 ・手紙のマナーや書き方について理解を深める。 ・Eメールのマナーや書き方について理解する。			【到達目標】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。			
【授業時間外学習】 実際にEメールを作成してみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)			
第6回 読解力を身につける①（文章整理・長文読解）			第14回 文章力を身につける⑥（修正）			
【到達目標】 ・文章の構成について理解し、文章整理問題に取り組む。			【到達目標】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。			
【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書、論文なども積極的に読んでみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
第7回 読解力を身につける②（要約）			第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題			
【到達目標】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。			【到達目標】 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。			
【授業時間外学習】 新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)			
第8回 読解力を身につける③（根拠の検討、分析）						
【到達目標】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。						
【授業時間外学習】 教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】						
ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること(電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨)。						
【オンライン授業の場合】						
オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。資料のPDFや授業動画を配布・配信する。						
【教科書・参考書など】						
教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。						
参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織 [ほか] 著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40%						
【オンライン授業の場合】 毎回の提出物60%、試験課題40%						

科目名	英語 I (基礎)			担当者	加賀岳彦		
英文名	English I (Elementary)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR107・DLR107・HLR107・CLR107		卒業認定方針との関連	②	
<b>【到達目標】</b>							
この授業では英語の基礎を確認・再学習し、その応用演習を行う。要点は、1) 基本語彙を覚える、2) 文法・発音の基礎を復習・確認する、3) 平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて英語になじむための活動や、各自がこれから自立して英語を学習していけるようになるための演習を取り入れる。							
<b>【ルーブリック (学修の到達レベル)】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語の基礎的な語彙・文法を習得する		授業で学習した語彙・文法が身についている		授業で学習した語彙・文法が辞書・ノートを参照して理解・運用できている		授業で学習した語彙・文法が習得できていない	
基礎的な英文を理解し、表現する		授業で学習した英文を辞書・ノートで理解・表現できる		授業で学習した英文を辞書・ノートを参照して理解・表現できる		授業で学習した英文を理解・表現できない	
主体的な英語学習を行う		授業前・授業・授業後に自発的な学習を行う		自発的な学習を自分のペースで行う		自発的な学習姿勢が身につけていない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレテストの実施</b>				<b>第9回 英語基礎総合演習⑨</b>			
【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどういった能力が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「性格・個性」を英語で表現する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 英語基礎総合演習①</b>				<b>第10回 英語基礎総合演習⑩</b>			
【到達目標】 プレテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。 日常生活における英語の質問文を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「性格・個性」を英語で表現する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 英語基礎総合演習②</b>				<b>第11回 英語基礎総合演習⑪</b>			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 日常生活における英語の質問文を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「性格・個性」を英語で表現する(3) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第4回 英語基礎総合演習③</b>				<b>第12回 英語基礎総合演習⑫</b>			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「専門」を英語で表現する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「健康」について英語で表現する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 英語基礎総合演習④</b>				<b>第13回 英語基礎総合演習⑬</b>			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「専門」を英語で表現する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「健康」について英語で表現する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 英語基礎総合演習⑤</b>				<b>第14回 英語基礎総合演習⑭</b>			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分のスポーツ・ダンスなどの「経験」を英語で表現する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分の「健康」について英語で表現する(3) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 英語基礎総合演習⑥</b>				<b>第15回 英語基礎総合演習⑮</b>			
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 自分のスポーツ・ダンスなどの「経験」を英語で表現する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 第9回から第15回までの総復習を行う 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 英語基礎総合演習⑦</b>							
【到達目標】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 第2回から第7回までの総復習を行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
担当教員の指示に従うこと。 辞書を持参すること(電子辞書可)。							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。							
【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。							

科目名	英語 I (初級)		担当者	カーリン 清佳		
英文名	English I (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108	卒業認定方針との関連	②	
<b>【到達目標】</b>						
この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生がこれから自立的学習を行っているようになるための学習指導も取り入れる。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。		
	英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。		
	日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレテストの実施</b>						
【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分は何のような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)						
<b>第2回 英語初級総合演習①</b>						
【到達目標】 英語の基礎について復習しながら、理解を深める。 英語の特徴について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>第3回 英語初級総合演習②</b>						
【到達目標】 英語の基礎について復習しながら、理解を深める。 英語の特徴について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>第4回 英語初級総合演習③</b>						
【到達目標】 英語の基礎について復習しながら、理解を深める。 英語の特徴について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>第5回 英語初級総合演習④</b>						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>第6回 英語初級総合演習⑤</b>						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>第7回 英語初級総合演習⑥</b>						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>第8回 英語初級総合演習⑦</b>						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b>						
【対面授業の場合】主体的に授業に参加し、各自予習・復習を継続しておこなうこと。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限内で提出すること。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
担当教員の指示に従うこと。						
<b>【成績評価方法】</b>						
【対面授業の場合】原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】原則として、授業への出席50%、レポート・課題50%とし、総合的に評価する。						

科目名	英語 I (中級)			担当者	中村大輔		
英文名	English I (Intermediate)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR109・DLR109・HLR109・CLR109	卒業認定方針との関連	②		
<b>【到達目標】</b> この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。							
<b>【ルーブリック(学修の到達レベル)】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語基礎知識の強化		高校レベル以上の英語基礎知識を習得できる		高校レベルでの未習得知識を習得できる		高校レベルでの未習得知識を習得できない	
英語receptive skillsの熟達		授業外でlistening・readingを基礎レベルで運用できる		授業内でlistening・readingを基礎レベルで運用できる		reading・speakingを基礎レベルで運用できない	
自学習の促進		授業外で積極的に英語を学習する意欲を持つ		授業外で英語を予習する意欲を持つ		授業外で英語を学習する意欲を持たない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーションおよびプレテストの実施</b> 【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどういった技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)				<b>第9回 英語中級総合演習⑨</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
<b>第2回 Introduction 英語中級総合演習①</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				<b>第10回 英語中級総合演習⑩</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
<b>第3回 英語中級総合演習②</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				<b>第11回 英語中級総合演習⑪</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
<b>第4回 英語中級総合演習③</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				<b>第12回 英語中級総合演習⑫</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
<b>第5回 英語中級総合演習④</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				<b>第13回 英語中級総合演習⑬</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
<b>第6回 英語中級総合演習⑤</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				<b>第14回 英語中級総合演習⑭</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)			
<b>第7回 英語中級総合演習⑥</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)				<b>第15回 英語中級総合演習⑮</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習(4.0 hr)			
<b>第8回 英語中級総合演習⑦</b> 【到達目標】 演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。 強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習(4.0 hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 予習をして授業に参加すること。授業時の私語を慎むこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 開講時に指示する							
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業の場合】 平常点(出席・授業内活動など)50%、試験50%で判断する。 【オンライン授業の場合】 平常点(出席)50%、オンライン提出課題50%で判断する。							

科目名	英語Ⅱ（基礎）				担当者	加賀岳彦	
英文名	English II (Elementary)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR110・DLR110	HLR110・CLR110	卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】 この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、英語の理解力およびコミュニケーション力の向上を図る。また、これから受講生が自立して英語を学習していけるようになるための演習を行う。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語の基礎的な語彙・文法を習得する		授業で学習した語彙・文法が身についている		授業で学習した語彙・文法が辞書・ノートを参照して理解・運用できている		授業で学習した語彙・文法が習得できていない	
基礎的な英文を理解し、表現する		授業で学習した英文を辞書・ノートなしで理解・表現できる		授業で学習した英文を辞書・ノートを参照して理解・表現できる		授業で学習した英文を理解・表現できない	
主体的な英語学習を行う		授業前・授業・授業後に自発的な学習を行う		自発的な学習を自分のペースで行う		自発的な学習姿勢が身につけていない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 授業説明および英語基礎総合演習① 【到達目標】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていきけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)				第9回 英語総合演習⑨ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 英語のさまざまな丁寧表現を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第2回 英語基礎総合演習② 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 さまざまな質問文・疑問文を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第10回 英語基礎総合演習⑩ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 英語のさまざまな丁寧表現を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第3回 英語基礎総合演習③ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 さまざまな質問文・疑問文を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第11回 英語基礎総合演習⑪ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 「助言」を求める・与える英語表現を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第4回 英語基礎総合演習④ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 さまざまな質問文・疑問文を習得する(3) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第12回 英語基礎総合演習⑫ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 「助言」を求める・与える英語表現を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第5回 英語基礎総合演習⑤ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 感謝と謝罪の英語表現を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第13回 英語基礎総合演習⑬ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 「意見」を述べるための英語表現を習得する(1) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第6回 英語基礎総合演習⑥ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 感謝と謝罪の英語表現を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第14回 英語基礎総合演習⑭ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 「意見」を述べるための英語表現を習得する(2) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第7回 英語基礎総合演習⑦ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 感謝と謝罪の英語表現を習得する(3) 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				第15回 英語基礎総合演習⑮ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 第9回から第15回までの総復習を行う 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。(4.0hr)			
第8回 英語基礎総合演習⑧ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 第1回から第8回までの総復習を行う 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 辞書を持参すること（電子辞書可）。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。							
【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。							

科目名	英語Ⅱ（初級）		担当者	カーリン 清佳		
英文名	English II (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111	卒業認定方針との関連	②	
<b>【到達目標】</b>						
この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また、受講生がこれから自立的学習を行っていただけるようになるための学習指導も引き続き行う。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。	
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。		英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。		英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。	
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。		辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。		理解が不十分で英語で表現できない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 イントロダクション・英語初級総合演習①</b>			<b>第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨</b>			
【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身に付ける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 英語初級総合演習②</b>			<b>第10回 英語初級総合演習⑩</b>			
【到達目標】 英語で学習した内容について復習しながら、さらに理解を深める。 英語の特徴について復習する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 英語初級総合演習③</b>			<b>第11回 英語初級総合演習⑪</b>			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 英語初級総合演習④</b>			<b>第12回 英語初級総合演習⑫</b>			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 英語初級総合演習⑤</b>			<b>第13回 英語初級総合演習⑬</b>			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 英語初級総合演習⑥</b>			<b>第14回 英語初級総合演習⑭</b>			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 英語初級総合演習⑦</b>			<b>第15回 英語初級総合演習⑮</b>			
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第8回 英語初級総合演習⑧</b>						
【到達目標】 英語の語彙・表現について学ぶ。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。 日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b>						
【対面授業の場合】主体的に授業に参加し、各自予習・復習を継続しておこなうこと。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限内で提出すること。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
担当教員の指示に従うこと。						
<b>【成績評価方法】</b>						
【対面授業の場合】原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】原則として、授業への出席50%、レポート・課題50%とし、総合的に評価する。						

科目名	英語Ⅱ（中級）			担当者	中村大輔		
英文名	English II (Intermediate)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR112・DLR112・HLR112・CLR112	卒業認定方針との関連	②		
<b>【到達目標】</b>							
この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また、受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
発展的英語知識の獲得		初歩的な学術英語表現を獲得できる		日常生活における発展的英語表現を獲得できる		高校レベル以上の知識を獲得できない	
英語productive skillsの熟達		授業外でspeaking・writingを基礎レベルで運用できる		授業内でspeaking・writingを基礎レベルで運用できる		speaking・writingを基礎レベルで運用できない	
自立学習におけるテーマの発展		自ら興味を抱いたテーマを継続的に学習できる		授業で扱ったテーマを自ら継続的に学習できる		授業で扱ったテーマを継続的に学習できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 Introduction 英語中級総合演習①</b>				<b>第9回 英語中級総合演習⑨</b>			
【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
<b>第2回 英語中級総合演習②</b>				<b>第10回 英語中級総合演習⑩</b>			
【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
<b>第3回 英語中級総合演習③</b>				<b>第11回 英語中級総合演習⑪</b>			
【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
<b>第4回 英語中級総合演習④</b>				<b>第12回 英語中級総合演習⑫</b>			
【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
<b>第5回 英語中級総合演習⑤</b>				<b>第13回 英語中級総合演習⑬</b>			
【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
<b>第6回 英語中級総合演習⑥</b>				<b>第14回 英語中級総合演習⑭</b>			
【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）			
<b>第7回 英語中級総合演習⑦</b>				<b>第15回 英語中級総合演習⑮</b>			
【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）				【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習（4.0 hr）			
<b>第8回 英語中級総合演習⑧</b>							
【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 獲得した発展的英語知識をspeaking及びwritingで積極的に活用する。 【授業時間外学習】 授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）							
<b>【学習上の留意点】</b>							
予習をして授業に参加すること。授業時の私語を慎むこと。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
開講時に指示する							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】 平常点（出席・授業内活動など）50%、試験50%で判断する。 【オンライン授業の場合】 平常点（出席）50%、オンライン提出課題50%で判断する。							

科目名	国語表現Ⅱ			担当者	高橋 良久・並木真理子 石元みさと		
英文名	Japanese Composition and Rhetoric II						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語表現Ⅰで培った国語力や読解力、文章力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。</li> <li>・新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。</li> </ul>							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
言語運用能力を高める		十分な言語運用能力を得られた		標準的な言語運用能力を得られた		十分な言語運用能力を得られなかった	
言語に関するリテラシーを養う		十分な言語リテラシーを得られた		標準的な言語リテラシーを得られた		十分な言語リテラシーを得られなかった	
アカデミック・ライティングについて		理解して活用できた		理解できた		理解できなかった	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）</b> 【到達目標】 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。  【授業時間外学習】 興味や関心のある新聞記事を探す。(4.0hr)				<b>第9回 アカデミック・ライティングの基礎①（レポートの書き方）</b> 【到達目標】 ・構成について学ぶ。 ・構成メモ（設計図）を書く。  【授業時間外学習】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)			
<b>第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語）</b> 【到達目標】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。 ・場面ごとに敬語を適切に使えるようにする。  【授業時間外学習】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使うようにする。(4.0hr)				<b>第10回 アカデミック・ライティングの基礎②（成文化）</b> 【到達目標】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。 ・話し言葉や原稿用紙の使い方に注意してレポートを書き上げる。  【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
<b>第3回 国語力（知識）を身につける②（文法）</b> 【到達目標】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。 ・使役表現、可能表現を適切に使えるようにする。  【授業時間外学習】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる。(4.0hr)				<b>第11回 文章力を身につける①（接続詞）</b> 【到達目標】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。 ・前後の文脈を考えて適切に接続詞・接続助詞を使うようにする。  【授業時間外学習】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)			
<b>第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）</b> 【到達目標】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。 ・語彙力を養うために、類義語や対義語などについて学ぶ。  【授業時間外学習】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)				<b>第12回 文章力を身につける②（文構造）</b> 【到達目標】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。 ・修飾語について理解する。  【授業時間外学習】 新聞記事や評論の主語述語に注目して読む。(4.0hr)			
<b>第5回 読解力を身につける①（文章整理・長文読解）</b> 【到達目標】 ・文章の構成について理解し、文章整理問題に取り組む。 ・接続詞やキーワードについて学び、長文読解に取り組む。  【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)				<b>第13回 文章力を身につける③（反論）</b> 【到達目標】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。  【授業時間外学習】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)			
<b>第6回 読解力を身につける②（専門的な文章を読む）</b> 【到達目標】 ・論文などの専門的な文章であっても、話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。  【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)				<b>第14回 文章力を身につける④（修正）</b> 【到達目標】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえて、レポートがより良くなるように修正する。  【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
<b>第7回 読解力を身につける③（要約）</b> 【到達目標】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。 ・文と文とのつながりを考えながら、一つの文章として読めるように要約する。  【授業時間外学習】 新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。(4.0hr)				<b>第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて</b> 【到達目標】 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見直しを持つ。  【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 読解力を身につける④（根拠の検討、分析）</b> 【到達目標】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。 ・客観的な事実・データを根拠にした理由に説得力があるか検討、分析する。  【授業時間外学習】 教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】							
ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること（電子辞書も可、オンラインならWeblioなどを利用することを推奨）。							
【オンライン授業の場合】							
オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。資料のPDFや授業動画を配布・配信する。							
【教科書・参考書など】							
教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。 参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織【ほか】著（大修館書店）2020年							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40% 【オンライン授業の場合】 毎回の提出物60%、試験課題40%							

科目名	栄養学入門			担当者	古泉 佳代・大村 恵利		
英文名	Primary Nutrition						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE101・DLE101・HLE101・CLE101		卒業認定方針との関連	①	
<b>【到達目標】</b> 食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。 本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
食生活を取り巻く環境に関する基礎事項		食生活を取り巻く環境を理解し、自らの言葉で説明できる		食生活を取り巻く環境を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる		食生活を取り巻く環境を理解できない	
食生活と健康に関する基礎事項		栄養素に関する基礎事項を理解し、自らの言葉で説明できる		栄養素に関する基礎事項を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる		栄養素に関する基礎事項を理解できない	
食生活と文化に関する基礎事項		フードリテラシーや、味わい、食文化を理解し、自らの言葉で説明できる		フードリテラシーや、味わい、食文化を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる		フードリテラシー、味わい、食文化を理解できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 カイダンス・食生活と社会環境</b> <b>【到達目標】</b> (1)自分の食生活を振り返り、食べることについて考えることができる。 (2)食生活は色々な環境が関係していることに気付く。 <b>【授業時間外学習】</b> 毎日の食事から食生活を振り返り、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第9回 食生活と健康④食生活と健康</b> <b>【到達目標】</b> (1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。 (3)栄養バランスの良い食事をするために重要な点についてディスカッションできる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 食を取り巻く環境の変化</b> <b>【到達目標】</b> (1)フードシステムの複雑化にともなっている食生活の課題を認識する。 <b>【授業時間外学習】</b> 食に関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第10回 食生活と健康⑤たんばく質</b> <b>【到達目標】</b> (1)たんばく質の種類、代謝を理解できる。 (2)たんばく質の摂取方法について考えることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 食料の供給と課題</b> <b>【到達目標】</b> (1)食料自給率の低下とその背景を理解する。 (2)農業再生に向けた取り組みの現状を把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> フードロスに関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第11回 食生活と健康⑥ビタミン・ミネラル・水</b> <b>【到達目標】</b> (1)ビタミン・ミネラルの種類、代謝を理解できる。 (2)水の出入を理解できる。 (3)ビタミン、ミネラル、水の摂取方法について考えることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 食品の安全性①食中毒・リスク分析</b> <b>【到達目標】</b> (1)食品由来の有害要因と健康へのリスクについて理解する。 (2)食中毒とその有害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。 (3)リスク分析の考え方や3つの構成要素について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 食中毒予防を実践し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第12回 食生活と健康⑦食の情報を読み解くリテラシー・飲み物の糖度</b> <b>【到達目標】</b> (1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。 (2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。 (3)飲み物の糖度について理解できる。(4)糖質の摂取方法について考え、ディスカッションできる。 <b>【授業時間外学習】</b> 健康により根拠は何かを考え、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度</b> <b>【到達目標】</b> (1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。 (2)食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考えることができる。 (3)食品の安全性やフードシステムについて、ディスカッションできる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第13回 食生活と文化⑧食物のおいしさ</b> <b>【到達目標】</b> (1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。 (2)おいしさの要因を理解することができる。 (3)おいしさについて、ディスカッションできる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 食生活と健康⑧食物と栄養（栄養バランス）</b> <b>【到達目標】</b> (1)栄養バランスの評価方法を理解し、栄養バランスの良い食事を考えることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第14回 食生活と文化⑨日本の食文化・共食の現代的課題</b> <b>【到達目標】</b> (1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたかを理解できる。 (2)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 食生活と健康⑨炭水化物</b> <b>【到達目標】</b> (1)炭水化物の種類、代謝を理解できる。 (2)炭水化物の種類を理解することができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第15回 食育とフード・リテラシー</b> <b>【到達目標】</b> (1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解できる。 (2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、フード・リテラシーを生かした食生活を実践する。(4.0hr)			
<b>第8回 食生活と健康⑩食物と栄養（脂質）</b> <b>【到達目標】</b> (1)脂質の種類、代謝を理解できる。 (2)脂質の摂取方法について考えることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。受講生は、授業前までにPhollyにアップされた資料をダウンロード、印刷等で用意し、各自準備する必要がある。授業内では、教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけでなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。 講義では、毎回、授業内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 編著者 金子佳代子・松島悦子「白熱教室 食生活を考える」(アイ・ケイコーポレーション出版) 参考資料は、適宜配布する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 試験を試験期間中に別途実施する。期末テストでの評価は60%、レポート(1題)の評価を10%、理解度テストを30%、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。							

科目名	生理・生化学入門			担当者	大澤拓也		
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE102・DLE102・HLE102・CLE102		卒業認定方針との関連	①	
<b>【到達目標】</b> 生理学・生化学とは、からだの中でどのようなことが起きているのか、からだの仕組みを機能の観点から明らかにする学問である。本講義では、スポーツ科学や健康科学に関連した基礎的な生理学・生化学を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
知識・理解に関する観点		講義内容を単元ごとでなく、複数の単元をリンクさせて理解することができる。		講義内容を単元ごとに理解することができる。		講義内容を理解できていない。	
思考・判断に関する観点		講義内容を自身の生活や運動時などの具体例を挙げながら、自分の言葉で説明できる。		講義内容を講義で上げた例を使って説明できる。		講義内容に関して例を挙げられない。	
関心・意欲に関する観点		講義内容に新しさや面白さを発見して、自分でそれを活かす想像ができる、また疑問を持つことができる。		講義内容を実際にあてはめることができる、また疑問を持つことができる。		講義内容を実際にあてはめることができない、また疑問を持たない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション・概論</b> <b>【到達目標】</b> 講義の進め方、生理学や生化学とはどんなことを理解する。日常生活やスポーツ・ダンス時における生理応答を考え、その機能を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第9回 ホルモン (1)</b> <b>【到達目標】</b> 筋肥大や興奮、血糖値の調節に関するホルモンを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 筋 (1)</b> <b>【到達目標】</b> 筋の種類・構造、筋線維タイプ、筋収縮の種類を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第10回 ホルモン (2)</b> <b>【到達目標】</b> 性ホルモンや月経を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 筋 (2)</b> <b>【到達目標】</b> 筋の損傷・痛み、トレーニングや食事による変化を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第11回 血液</b> <b>【到達目標】</b> 血液の成分や役割、運動による変化を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 神経</b> <b>【到達目標】</b> 神経の種類、運動に関係する自律神経、運動神経・感覚神経を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第12回 骨</b> <b>【到達目標】</b> 骨の構造、運動や年齢による変化を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 呼吸</b> <b>【到達目標】</b> 呼吸の仕組み、運動時の変化、最大酸素摂取量を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第13回 脂肪</b> <b>【到達目標】</b> 脂肪の種類や代謝、測定法を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 循環 (1)</b> <b>【到達目標】</b> 心臓や血管の役割、運動による変化を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第14回 体温</b> <b>【到達目標】</b> 暑熱環境や寒冷環境下におけるヒトの体温調節を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 循環 (2)</b> <b>【到達目標】</b> 運動時や運動後の血流・血圧の変化を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第15回 睡眠</b> <b>【到達目標】</b> 睡眠時の生理応答、睡眠が運動パフォーマンスに及ぼす影響を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第8回 代謝</b> <b>【到達目標】</b> エネルギー代謝の種類と特徴、乳酸の役割、糖と脂肪の利用を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 要点をまとめた穴埋め形式のパワーポイント資料を用いて、口頭でその詳細を説明して講義を進める。講義内では、質疑応答や設問解答による発言、生理学的な実験に関する映像資料の視聴、生理学的測定等を行い理解を深める。また、講義終了時に小レポート、翌回開始時に小テストを実施する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 要点をまとめた穴埋め形式のパワーポイント資料を配布する。配信動画は2種類あり、ひとつは資料に沿って具体例を示しながら内容を説明する講義動画、もうひとつはテーマに沿った実験動画である。毎講義後、復習問題と講義の感想・質問を提出する。 <b>【共通】</b> 本講義の理解には、講義内容を自身の経験や実際のスポーツ・ダンス時の身体を想像すること、学んだことを他者(友人や家族など)に話をするのが大切である。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」に関する書籍を参考にすることは講義の理解を深める。「筋」や「持久力」に関する書籍も非常に有益である。また、自身の専門とする運動に関する書籍にある「運動生理学」に関する内容も大変有益である。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義各回での発言・レポートを30%、筆記試験の結果を70%として総合的に評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 講義各回での課題を30%、筆記試験の結果を70%として総合的に評価する。社会的状況等により筆記試験が実施できない場合は、最終レポート課題となる。また、その場合は成績評価法の一部を変更する可能性がある。							

科目名	近現代史入門			担当者	山本唯人		
英文名	Introductory Course to the Modern Japanese History						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE103・DLE103・HLE103・CLE103		卒業認定方針との関連	④	
<b>【到達目標】</b> 「開かれて」いるけれど、「壊れやすい」社会ができるまで—新・近現代史入門 いまの社会は、多様なひとびとの参加に「開かれている」という特徴を持っています。それは、外に「開かれている」がゆえに、かたちを変えやすく、今あるものは「壊れていく」ということでもあります。「昔」はそうではありませんでした。日本は外国に対して「閉じて」いて、それゆえに、長く安定した時代が続きました。みなさんにとって、どちらの方が「よい」社会ですか？わたしたちが生きる「近現代」の社会は、壊れやすいけれど、多様なものに開かれた社会です。なぜ、どのように、誰がそんな社会を作ったのか？この質問を出発点に、日本の近現代史を学んでいきます。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
近現代史を学ぶための知識を身に付ける。		標準的な近現代史のテキストが、参考書なしでも読める。		標準的な近現代史のテキストが、参考書を使いながら読める。		標準的な近現代史のテキストが、参考書を使っても読めない。	
読み、書き、発表する能力・技術を身に付ける。		自分の力で、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できる。		アドバイスを受ければ、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できる。		アドバイスを受けても、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できない。	
知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。		自分の力で、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。		アドバイスを受ければ、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。		アドバイスを受けても、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 イントロダクション</b> <b>【到達目標】</b> この講義のテーマ、進め方、評価方法などを説明します。受講を希望する方は必ず出席してください。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第9回 議会ができるまで (1) 自由民権運動</b> <b>【到達目標】</b> ひとびとに「開かれた政治」のコアにあるのが議会です。議会が誰がどのように作ったのか。自由民権運動からの流れを学びます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 「現代」はいつからか—ワークショップ</b> <b>【到達目標】</b> 「現代」はいつからかをテーマにしたワークショップを開催します（教員の出題するテーマを授業中に考えワークシートに答えを書き出して共有します）。歴史学習のイメージをつかんでください。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第10回 議会ができるまで (2) 大日本帝国憲法の成立</b> <b>【到達目標】</b> 議会の開設を定めた法が、大日本帝国憲法です。「開かれた政治」をつくるという視点から日本で最初の憲法を読み直しましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 幕末・維新のはじまり—喜望峰から見た風景</b> <b>【到達目標】</b> それまで鎖国で「閉じて」いた日本が、どのように「開かれた社会」に移行したか。世界の目線から見ていきます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第11回 普通選挙を求めて (1) 日露戦争と日比谷焼き討ち事件</b> <b>【到達目標】</b> すべての成人に選挙権を与える制度が普通選挙です。日本ではアジア太平洋戦争後の日本国憲法で成立しましたが、その出発点は日露戦争後の日比谷焼き討ち事件にさかのぼると言われます。原点を見ることで、人びとの側からの普通選挙の理由を考えます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 資料を読む—『ペリー提督日本遠征記』</b> <b>【到達目標】</b> 歴史を学ぶとは、資料からその時代を生きたひとの声を読み取ることです。実際にやってみましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第12回 普通選挙を求めて (2) 第一次世界大戦と米騒動</b> <b>【到達目標】</b> 普通選挙をもたらした次の大きなインパクトは米騒動です。民主化の原動力という視点で米騒動を考えます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 黒船来航 (1) 黒船と交渉したひと</b> <b>【到達目標】</b> 黒船が「来た」ことは知っていても、黒船と「交渉したひと」を知っている人は少ないでしょう。そのひとの姿勢・ふるまいから社会の「開き方」を学びます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第13回 アジア太平洋戦争の前と後 (1) アジア太平洋戦争</b> <b>【到達目標】</b> アジア太平洋戦争について学びます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 黒船来航 (2) 国際法の二重構造</b> <b>【到達目標】</b> 日本は「開国」はしましたが、戦争はしませんでした。世界には「法」があるという視点からその理由を考えます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第14回 アジア太平洋戦争の前と後 (2) 日本国憲法</b> <b>【到達目標】</b> 日本国憲法について学びます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 開国への道 (1)</b> <b>【到達目標】</b> 開くべきか、そうでない方がよいのか。なぜ「開く」という意見が有力になったのかを、幕府内部の議論を参考に考えます。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)				<b>第15回 まとめ</b> <b>【到達目標】</b> 全体をふりかえります。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第8回 開国への道 (2) 日米和親条約</b> <b>【到達目標】</b> 国を「開いた」結果、どうなったのか。日米和親条約の条文を読みながら、確かめましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 聞く、考える、書くをもう一つのテーマとして授業をすすめます。毎回の授業で提供されるテーマについて、その場で集中的に聞き、考え、その結果を書き、表現するトレーニングを重ねます。授業のはじめに前回の話題をフィードバックし、ふりかえりの時間を持つので、その時間にこれまでの学習をふりかえってください。入門の講義なので予備知識はいりません。「歴史」「日本」などのテーマに関心のあるみなさんの参加を歓迎します。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。テーマは同じですが、オンラインの講義と、みなさまから出していたワークシートを通じてやりとりします。ワークシートは負担が重くなりすぎないように配慮します。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特にありません。毎回資料を配ります。参考書は随時教えます。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> ワークシートと期末レポートで評価します。ワークシート40%、期末レポート60%で評価します。 <b>【オンライン授業の場合】</b> ワークシートと期末レポートで評価します。ワークシート40%、期末レポート60%で評価します。							

科目名	人間心理の理解			担当者	三好昭子		
英文名	Personality Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE104・DLE104・HLE104・CLE104	卒業認定方針との関連		③	
【到達目標】 本講義は、人間の心と行動についてデータに基づき偏りなく、論理的に考えることができるようになることを目的とする。人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかをふまえ、それぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心（パーソナリティや知能を含む）をどのようにとらえ、研究してきたのかを理解し説明できるようになる。対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深め日常生活に活かすことができるようになる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
人間心理に関する重要キーワードや理論について		自分の言葉で説明できる。		ノートや参考書を参考にしながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
人間心理についてデータに基づき偏りなく論理的に考える		自分自身でデータに基づき偏りなく論理的に考えることができる。		解説があればデータに基づき偏りなく論理的に考えることができる。		解説があってもデータに基づき偏りなく論理的に考えることができない。	
人間心理に関する重要キーワードや理論により自己洞察を深め日常生活に活かす		自分自身で自己洞察を深め日常生活に活かすことができる。		適切な教示があれば自己洞察を深め日常生活に活かすことができる。		適切な教示があっても自己洞察を深め日常生活に活かすことができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 心理学とは</b> 【到達目標】 (1)心理学の定義を説明することができる。 (2)人間心理を科学的に研究するということを理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 心理学という学問についての課題を行う。(4.0hr)				<b>第9回 パーソナリティ④構造論</b> 【到達目標】 (1)フロイトの構造論について理解し説明することができる。 (2)レヴィンの構造論について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 構造論に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 感覚・知覚</b> 【到達目標】 (1)人間が外界をどのように知覚するかを理解し説明することができる。 (2)同じものを見ても見え方が異なることを理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 人間の感覚・知覚についての課題を行う。(4.0hr)				<b>第10回 防衛機制に基づく個人差と無意識による自己理解</b> 【到達目標】 (1)防衛機制に基づく個人差について理解し説明することができる。 (2)投影法を実施し、自己分析することができる。 【授業時間外学習】 防衛機制に基づく個人差と投影法に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 対人認知・印象形成</b> 【到達目標】 (1)印象形成の特徴を理解し説明することができる。 (2)対人認知の歪みについて理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 印象形成と対人認知に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第11回 知能とは何か</b> 【到達目標】 (1)知能の定義について理解し説明することができる。 (2)知能テストについて理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 知能と知能テストに関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第4回 態度変容</b> 【到達目標】 (1)態度変容に影響を与える要因について理解し説明することができる。 (2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について説明することができる。 【授業時間外学習】 態度変容に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第12回 知能の発達</b> 【到達目標】 (1)行動遺伝学について理解し説明することができる。 (2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 知能の発達に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 グループダイナミクス(集団力学)</b> 【到達目標】 (1)向社会的行動(思いやり)について理解し説明することができる。 (2)他者への同調・服従について理解し説明することができる。 (3)他者への同調・服従がまねく危険性について説明することができる。 【授業時間外学習】 向社会的行動や同調・服従に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第13回 アイデンティティとは</b> 【到達目標】 (1)アイデンティティとは何かを理解し説明することができる。 (2)自分のアイデンティティについて自己洞察を深めることができる。 【授業時間外学習】 アイデンティティに関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 恋愛</b> 【到達目標】 (1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解し説明することができる。 (2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析することができる。 【授業時間外学習】 恋愛に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第14回 アイデンティティからの人間理解</b> 【到達目標】 (1)アイデンティティを求める人間の傾向について理解し説明することができる。 (2)アイデンティティから恋愛を説明することができる。 【授業時間外学習】 アイデンティティ概念の応用に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 パーソナリティ①類型論</b> 【到達目標】 (1)クレッチマーの類型論について理解し説明することができる。 (2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析することができる。 【授業時間外学習】 類型論に関する課題を行う。(4.0hr)				<b>第15回 アイデンティティを超えて</b> 【到達目標】 (1)自我感覚の拡大について理解し説明することができる。 (2)真の自己実現について理解し説明することができる。 【授業時間外学習】 自我感覚の拡大と自己実現に関する課題を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 パーソナリティ②特性論</b> 【到達目標】 (1)共通特性について理解し説明することができる。 (2)ギルフォードの特性論について理解し説明することができる。 (3)Big Fiveについて理解し自己分析することができる。 【授業時間外学習】 特性論に関する課題を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなうため、深く自分と向き合うことが求められる（それを幸いと感じる方は受講のタイミングを検討する必要がある）。また授業で学んだ知識を日常生活で活かせるようグループワークをおこなうことがあるため積極的に受講することが求められる。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業動画は授業日の前日に、本学ポータルサイトの Google Drive 上にアップロードし、ポータルサイトから配信する。資料は授業の前日まではPhollyの「参考資料」にアップロードする。資料をプリントアウトし、実際の教室での授業のように、ノートを作ることができる体勢で受講すること。出席は、Phollyの「アンケート課題」の提出によって確認する。次回の授業動画で「アンケート課題」の解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなうため、深く自分と向き合うことが求められる（それを幸いと感じる方は受講のタイミングを検討する必要がある）。学んだことを日々の生活に活かせるよう考えながら受講することが求められる。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎 2020 『心理学 第5版補訂版』 東京大学出版会							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 時間外学習としてのPholly「アンケート課題」20%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。合格基準は60%である。							
【オンライン授業の場合】 対面授業の場合と同じ。							

科目名	ボランティア活動論			担当者	森田 恵		
英文名	Citizenship Education						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE105・DLE105・HLE105・CLE105	卒業認定方針との関連		④	
<b>【到達目標】</b> 東日本大震災や全国で起こる災害、2021年の東京オリンピック・パラリンピック等あらゆる場面でボランティアの存在が欠かせないものとなっている。また持続可能な社会に向けた地球規模の課題解決においても一人ひとりの取り組みが求められている。本講義では、私たちを取り巻く社会課題をトピックとして取り上げ、それらと自身の暮らしとのつながりへの気づきを促進するとともに、課題解決の取り組み事例を学ぶ。時間外学習として実際にボランティア活動を体験しながら、市民社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの市民性を高め、社会に貢献する人材となることが、本講義の最終的なねらいである。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ボランティアと市民社会についての理解と関係性		ボランティアや市民が活動する望ましい市民社会のあり方について自分ごととして独自の考えを展開できている		ボランティアや市民活動の現状と相互の関係性について説明できる		理解が不十分で説明できない	
SDGsなどの社会課題に関する基本的な知識と情報		右記に加えてSDGsに代表される社会問題への対策について幅広い情報収集と分析ができています		SDGsとは何か、およびSDGsに代表される社会問題の現状について説明できる		理解が不十分で説明できない	
社会課題に取り組む多様なアクターの意義と役割		ボランティア活動の実践を通して、社会課題への取組の意義を体得し、市民として実生活に応用できる		NPO、NGOなど市民活動の多様なアクターの取組と役割について説明できる。		理解が不十分で説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）/市民と市民社会</b> 【到達目標】 (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを理解する。 (2)市民及び市民社会について理解する。 (3)自分の学習目標を決める。 【授業時間外学習】 自分の学習目標を決める。(4.0hr)				<b>第9回 社会課題⑥ 日本の子どもの貧困</b> 【到達目標】 (1)日本における子どもの貧困の状況について理解する。 (2)地域の取り組み事例を、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 子どもの貧困についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 ボランティアの役割と背景</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。 【授業時間外学習】 実施できそうなボランティア活動の情報収集を行い、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第10回 社会課題⑦ 共生社会</b> 【到達目標】 (1)障がいの社会モデルについて説明できる。 (2)当事者理解に対する自身の傾向を知る。 【授業時間外学習】 共生社会についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)			
<b>第3回 ボランティアを支えるNPO</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動を始めるためのステップを理解する。 (2)ボランティアを支えるNPOなどのしくみを理解する。 (3)ボランティア活動計画書の目的と書き方を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成を進め、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第11回 社会課題⑧ 災害救援ボランティア</b> 【到達目標】 (1)災害救援ボランティア活動の概要について理解する。 (2)どこでも起こり得る災害について、学生に求められる役割と対応について説明できる。 【授業時間外学習】 防災対策についてさらに調べて学修を展開する。ボランティア活動レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 ボランティア活動のための自己理解</b> 【到達目標】 (1)ボランティア活動における対人関係の側面を理解する (2)自分自身を理解し、ボランティア活動の実践における自身の課題を明確にする 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書を完成させ、実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第12回 ボランティア活動体験と報告(1)</b> 【到達目標】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第5回 社会課題⑨ スマホから考えるSDGs</b> 【到達目標】 (1)自分の暮らしと世界とのつながりに気づき課題を理解する。 (2)なぜSDGsが必要なのか、どういった仕組みなのかを説明できる。 【授業時間外学習】 SDGsに関する情報収集を行う。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第13回 ボランティア活動体験と報告(2)</b> 【到達目標】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 社会課題⑩ 児童労働の実現(オンデマンド授業)</b> 【到達目標】 (1)映像を通じて児童労働の現状を理解する。 【授業時間外学習】 児童労働についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第14回 ボランティア活動体験と報告(3)</b> 【到達目標】 (1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。 (2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る 【授業時間外学習】 実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第7回 社会課題⑪ 児童労働から考える子どもの権利</b> 【到達目標】 (1)子どもの権利条約および児童労働の現状を理解する。 (2)児童労働の課題解決のための取り組みを理解し、自分にできる行動を見つける。 【授業時間外学習】 子どもの権利条約について調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)				<b>第15回 再考 市民社会のなかの私(学習目標到達度の検証)</b> 【到達目標】 (1)授業で取り上げたトピックを振り返り、市民社会と自身の関わりについて言語化できる。 【授業時間外学習】 関心の高いトピックにおける自分自身の今後の関わり方について情報収集をして検討を進める			
<b>第8回 社会課題⑫ 課題解決としてのフェアトレード</b> 【到達目標】 (1)フェアトレードが必要な背景と概要について理解する (2)フェアトレードの取り組みを理解し、自分にできる行動を見つける。 【授業時間外学習】 フェアトレードについてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> パワーポイントや映像等を用いて学修を進める。本授業は、日常生活および自分自身との向き合いを大切にするため、グループワークやディスカッションへの積極的な参加と自己洞察を求める。ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験発表(学生によるプレゼンテーション)、活動レポートの作成および相互評価によるフィードバックを行う。各テーマの理解度テストを行う。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容が変更される場合は事前にアナウンスする。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い別途指示する。出席は、各授業回の課題の期限内提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 資料プリント、映像教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 各回の授業時での課題、理解度テスト70%、ボランティア活動発表およびレポート30%として評価する。合格基準は60%以上である。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。合格基準は60%以上である。							

科目名	日常生活の社会学			担当者	田北康成		
英文名	Introductory Sociology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE106・DLE106・HLE106・CLE106		卒業認定方針との関連	④	
<b>【到達目標】</b> 私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみようことを目的とする。授業内で得られた社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的で有効なアイテムとして実感できることを授業のねらいとしている。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	社会学の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	社会学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。			
	社会学の研究知見の実生活への応用に関する事項	研究知見を修得し自らの判断で実生活に積極的に応用できる。	知見の応用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら活用することができる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> (1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。 (2)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直す習慣を身につける。 (3)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「日本」という国の好きなおとこ、きらいなおとこを考えておく。(4.0hr)			<b>第9回 グローバル社会とエスニシティ (1)</b> <b>【到達目標】</b> (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「方言」について考えることをまとめておく。(4.0hr)				
<b>第2回 社会学はどのような考え方をし、どのように調べるのか</b> <b>【到達目標】</b> (1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。 (2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)			<b>第10回 グローバル社会とエスニシティ (2)</b> <b>【到達目標】</b> (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「日本」の好きなおとこ、きらいなおとこをまとめておく。(4.0hr)				
<b>第3回 社会で生きる「私」と家族</b> <b>【到達目標】</b> 相互行為と「自我」の意味の形成についての基本的な知識と理解をする。 「地位」と「役割」とは何かについて考えることができるようにする。 家族集団にはどのような特徴があるかを考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「家族」について考えていること、感じていることを整理しておく。(4.0hr)			<b>第11回 グローバル社会とエスニシティ (3)</b> <b>【到達目標】</b> (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 (3)海外にルーツをもつ隣人とどのように共生していくか、考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：海外に旅行／移住／留学をしてみたいと思うか、否か、その理由を考えておく。(4.0hr)				
<b>第4回 性の多様なあり方考える</b> <b>【到達目標】</b> (1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。 (2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固定化していく心理を読み解けるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)			<b>第12回 グローバル社会とエスニシティ (4)</b> <b>【到達目標】</b> (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 (3)「国境」の先にある社会と「日本」のつながりを意識できるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「国境」と往來の自由について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)				
<b>第5回 社会で生活するための社会学—労働・産業・消費—</b> <b>【到達目標】</b> (1)労働・消費などの活動と企業・産業について基本的な知識と理解を得る。 (2)産業構造の変化とともに、私たちの生活に及んできている影響について考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：子どもの時になりたかった職業、現在考えているキャリアをまとめておく。(4.0hr)			<b>第13回 「宗教」から社会をとらえる</b> <b>【到達目標】</b> (1)文化・表象・宗教について基本的な知識と理解を得る。 (2)宗教を手がかりとして、社会と文化についての理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「日本の宗教」についての自分の考えをまとめておく。(4.0hr)				
<b>第6回 「格差」の社会学</b> <b>【到達目標】</b> (1)階層・階級・社会的不平等についての基本的な知識と理解をする。 (2)近年の格差拡大論、階層の変化とジェンダーの観点から「格差社会」を考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：どのくらいの給料なら満足できるかを考えておく。(4.0hr)			<b>第14回 社会の中のメディア メディアが動かす社会</b> <b>【到達目標】</b> (1)メディア・情報・コミュニケーションの基本的な知識と理解を得る。 (2)それぞれのメディアがどのように情報を媒介し、コミュニケーションを成立させているかの理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：「評判」や「ロコミ」と、自分の判断とどちらを大事にするか、まとめておく。(4.0hr)				
<b>第7回 生活空間としての地域社会について考える (1)</b> <b>【到達目標】</b> (1)都市・農村などの地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解を得る。 (2)身近な「社会」である地域社会の特徴を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：将来、いなかと都会のどちらに住みたいか、その理由も考えておく。(4.0hr)			<b>第15回 逸脱行動と社会問題・犯罪社会学</b> <b>【到達目標】</b> (1)「自由」「権利」とは何か、なぜ「秩序」が作られ、「逸脱行動」が非難されるかを考える。 (2)法規制の厳罰化や社会的制裁の強化がもたらす影響について考えられるようにし、難しい判断を迫られるような状況にも主体的に取り組むことができるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：許せない他人の癖や行動、ネット上の炎上事件などを調べておく。(4.0hr)				
<b>第8回 生活空間としての地域社会について考える (2)</b> <b>【到達目標】</b> (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。 (2)コミュニティの繋がり、協力態勢について、主体的な居住者として考えられるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 予習課題：自分が住んでいる地区のゴミ集積所、避難場所、掲示板、広報紙を調べておく。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> この授業は、社会的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。ほぼ毎回、授業開始時に身近な質問が用意されており、授業を受けたことにより考えた内容を問いかけるので、好奇心を持って主体的な参加をしてほしい。毎回の授業後、Pholly上でレスポンスシートの提出を課する。記述／質問内容のなかから、履修生全体の学修効果が見られるものについて、次の授業時に匿名で紹介したり、回答したりすることがある。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンドで実施する場合の授業内容（各授業回の動画と動画内で使用するパワーポイント資料）については、Phollyを通して配信・配布する。対面授業のスケジュールに従い、同一曜日授業開始正午をめぐって本学ポータルサイトPholly上で公開することとし、翌週前日正午まで掲載するので、その期間に視聴、課題提出を行ってほしい。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は不使用。 参考書は随時指示するが、下記の文献を事後学習に役立ててほしい。 ①篠原清夫・栗田真樹編著（2016）『大学生のための社会学入門』見洋書房、②田中正人編著（2019）『社会学用語図鑑』プレジデント社							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 予習課題に連動した毎回のレスポンスシート（40％）と、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテスト（60％）との総合点で評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 各回のレスポンスシートの評価合計（100％）とし、提出回数や内容によって総合評価とする（提出回数のみでは合格点に達しないことがある）。 ※合格基準はいずれも60％である。							

科目名	数と論理				担当者	水野有希	
英文名	Arithmetic and Logic						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE107・DLE107・HLE107・CLE107		卒業認定方針との関連	③	
<b>【到達目標】</b> これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている特殊な計算手法や、集合、論理バズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身につけ、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	数学的思考の基本的な概念や原理・法則に関する事項	基本的な概念や原理・法則を十分に理解し、自ら説明できる。	基本的な概念や原理・法則を教科書等を参照しながら説明できる。	基本的な概念や原理・法則の体系的な理解が不十分で説明できない。			
	数学的思考を活用した考察に関する事項	数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現で自ら説明できる。	資料等を参照しながら事象を考察し、数学的な表現で説明できる。	数学を活用して事象を考察するのに理解が不十分で説明できない。			
	体育・スポーツに係る問題の探求に関する事項	数学的思考で論理的論拠に基づいた判断や、問題解決の過程を自ら説明できる。	資料等を参考に、問題解決に向けた判断や解決までの過程を説明できる。	数学的思考を用いて問題解決に向けた判断や考察が不十分で、解決に至らない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 計算の基礎1、整数の基礎</b> <b>【到達目標】</b> (1) 四則算、計算の順序について復習する。 (2) 約数と倍数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)			<b>第9回 空間図形</b> <b>【到達目標】</b> (1) 平面図形の応用と展開図について学ぶ。 (2) 立体図形の面積や断面図、体積について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 図形の面積や体積の求め方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
<b>第2回 計算の基礎2、平方根</b> <b>【到達目標】</b> (1) 正負、小数点、分数の計算について復習する。 (2) 平方根の計算について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 実数および平方根の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			<b>第10回 比の計算</b> <b>【到達目標】</b> (1) 比の算出方法について復習する。 (1) 割合と値段について学ぶ。 (2) 定価・原価・損益について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 百分率や歩合の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
<b>第3回 方程式1</b> <b>【到達目標】</b> (1) 1次方程式、連立方程式について学ぶ。 (2) 2次方程式について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 方程式の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			<b>第11回 特殊算</b> <b>【到達目標】</b> (1) 仕事算について理解する。 (2) 濃度・速さについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 濃度・速さの公式や計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
<b>第4回 方程式2、関数1</b> <b>【到達目標】</b> (1) 2次方程式を復習し、応用を修得する。 (2) 比例と反比例、1次関数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 比例反比例、1次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			<b>第12回 場合の数と確率</b> <b>【到達目標】</b> (1) 順列と組み合わせについて学ぶ。 (2) 確率について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 順列と組み合わせの公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
<b>第5回 関数2</b> <b>【到達目標】</b> (1) 1次関数を復習し、応用を修得する。 (2) 2次関数について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 2次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			<b>第13回 集合と命題</b> <b>【到達目標】</b> (1) 集合（全体集合、補集合、共通部分、和集合）について学ぶ。 (2) 対偶、三段論法的应用について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 集合や命題の対偶の考え方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
<b>第6回 関数3</b> <b>【到達目標】</b> (1) 2次関数を復習し、応用を学習する。 (2) 2次不等式について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 2次不等式の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			<b>第14回 推論と表や資料の読み取り</b> <b>【到達目標】</b> (1) 命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。 (2) 表や資料から命題の真・偽について判断する方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 推論の考え方、表や資料の見方について予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)				
<b>第7回 数列</b> <b>【到達目標】</b> (1) 関数の領域（不等式）、応用について学ぶ。 (2) 等差数列、等比数列について理解し、応用について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 関数の領域（不等式）、数列の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)			<b>第15回 数理論理の応用と実践</b> <b>【到達目標】</b> (1) 教授や公務員試験、SPIなどの過去問を確認する。 (2) これまで学んだ内容について確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> これまで学んだ問題について予習、過去問の復習をする。(4.0hr)				
<b>第8回 平面図形</b> <b>【到達目標】</b> (1) 関数と平面図形の応用について学ぶ。 (2) 平行線と角、円周角の定義について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 平面図形の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間に理解度の確認のため、20分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをしますので、間違えた人は必ず復習をしてください。 <b>【対面授業の場合】</b> 講義は指定の教室で実施します。毎回授業日前日までに授業プリントを配布し、授業時に公式や法則の説明や解説した後に確認課題を提出してもらいます。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は変更しません。配信される資料は授業テキスト、解説動画、確認課題のフォームとし、対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに授業テキストを、当日の9:00に解説動画と確認課題のフォームを本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に確認課題を提出し、出席は各授業の確認課題の提出によって確認します。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 講義中に指示します。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 毎回行う確認課題50%、期末試験50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。確認課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(週週に出すことや、研究室に持っていくこと)は、いかなる理由であっても認めません。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 毎回行う確認課題（第1回～第14回）50%、確認試験（試験は第15回に実施）50%として評価します。確認課題や確認試験は、指定された期日までに提出してください。							

科目名	現代の倫理			担当者	宇多村俊介		
英文名	Ethics in Modern Life						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE108・DLE108・HLE108・CLE108		卒業認定方針との関連	④	
<b>【到達目標】</b>							
倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいしにしの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	倫理的思考のもつ特質に関する事項	行動の科学としての倫理的思考のもつ特質を理解し、その枠組みで考え意見を表明することができる。	行動の科学としての倫理的思考のもつ特質を、資料等を見ながら説明することができる。	倫理的思考のもつ特質の理解が不十分で、その枠組みの中で考えることができない。			
	主要な倫理学説・基本原則の考察	各概念に基づく道徳的な善悪導出の機構を理解し、その問題点を含め意見を述べるができる。	各概念に基づく善悪導出の機構を理解し、その観点から道徳現象を説明することができる。	各概念の理解が不十分で、その視点から道徳現象を捉えることができない。			
	現代的諸課題(応用倫理)の考察	各論の倫理的問題の所在を理解し、自ら考え意見を表明することができる。	各論の倫理的問題の所在を、資料等を見ながら説明することができる。	各論の倫理的問題の所在の理解が不十分で、自らの思考に取り入れることができない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：倫理的思索が生まれるとき</b> 【到達目標】 倫理的な問のもつ特質を理解するとともに、考察に関わる基礎概念の学習を通して倫理と倫理的思索についての輪郭をつかむ。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>に取り組む。(4.0hr)				<b>第9回 環境倫理：未来に対する責任</b> 【到達目標】 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第2回 「善」とは何かという問：定義</b> 【到達目標】 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握した上で、「～とは何か」という問を問うために必要な思考の手続きとして定義の構成を理解し、善の定義を試み、その問題点を考察する。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第10回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会</b> 【到達目標】 メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第3回 普遍化可能性1：社会契約</b> 【到達目標】 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を、社会契約の観点から考察することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第11回 生命倫理1：人間の尊厳</b> 【到達目標】 生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第4回 普遍化可能性2：自由意志</b> 【到達目標】 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第12回 生命倫理2：生殖医療</b> 【到達目標】 テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1)</b> 【到達目標】 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第13回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任</b> 【到達目標】 科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第6回 功利の原理(2)：他者危害の原則</b> 【到達目標】 功利の原理が下敷きにする自由主義的な行為原則のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第14回 倫理的相対主義</b> 【到達目標】 倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第7回 正義：自由と平等</b> 【到達目標】 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、格差(是正)原理を通してそれらの両立可能性について考えることができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				<b>第15回 規範なき時代とニヒリズム</b> 【到達目標】 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考察することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
<b>第8回 自然と文明：道具的理性批判</b> 【到達目標】 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問は翌週冒頭に取り上げ理解度を確認してもらいます。各回の主題に沿って原理的に考えることを求めますが、事例や具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには相応の資料を読み一定の思考の手続きを踏むことを要します。新しい事柄やものの見方を学ぶ意欲をもって臨んでください。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施します。取り上げる主題の定性的な方面は変更しません。配信教材は原則的に講義の概要を記したPDF資料ファイルと解説用の音声ファイルです(資料形態は受講者全員の受信環境によって変更することもあります)。配信日時は対面授業時間割に準じ、本学ポータルサイトより各授業に先立って配信される授業連絡に記載されたファイルの格納場所にアップし、課題提出締切日まで掲載します。出席は各授業回に定める期日内の課題の提出をもってカウントします。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の提出課題70%、学期末レポート30%で評価する。定期試験は実施しない。なお、欠席届相当の証明書類の提出のある欠席者には別途課題を課し、出席確認と課題評価の機会を設ける。							

科目名	日常生活の法律			担当者	中村安菜	
英文名	Law in Everyday Life					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE109・DLE109・HLE109・CLE109		卒業認定方針との関連	④
【到達目標】 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに關係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法の習得も目指す。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
日常生活に密接な法律の基礎的事項・理論について		理論や学説を理解し自らまとめて説明できる。	理論や学説を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
日常生活に密接な法律の研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。		
日常生活に密接な法律の研究知見の活用に関する事項		知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参照しながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
<b>第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて</b> 【到達目標】 (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。 【授業時間外学習】 日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr)				<b>第9回 家族と法律③</b> 【到達目標】 (1) 実際の親子関係不存在確認訴訟の事例について理解する。 【授業時間外学習】 親子関係不存在確認訴訟(2014年7月17日)に関する新聞記事をコピーする。(4.0hr)		
<b>第2回 アルバイトと法律①</b> 【到達目標】 (1) 契約について理解する。 (2) 労働基準法の内容について理解する。 【授業時間外学習】 自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr)				<b>第10回 表現物と法律①</b> 【到達目標】 (1) 知的財産の種類について理解する。 (2) 特許制度について理解する。 【授業時間外学習】 実際に特許をとっている製品を調べる。(4.0hr)		
<b>第3回 アルバイトと法律②</b> 【到達目標】 (1) 労働に関連する法的問題について理解する。 (2) ブラックアルバイトについて理解する。 【授業時間外学習】 ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr)				<b>第11回 表現物と法律②</b> 【到達目標】 (1) 著作権法について理解する。 (2) 著作権法において規定されている諸権利について理解する。 【授業時間外学習】 著作権法違反が問題となった事例を調べる。(4.0hr)		
<b>第4回 恋愛関係と法律①</b> 【到達目標】 (1) 恋愛関係による法的問題の存在を理解する。 (2) ストーカー規制法について理解する。 【授業時間外学習】 恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr)				<b>第12回 ペットの飼育と法律①</b> 【到達目標】 (1) 法律における「ペット」の位置づけを理解する。 (2) ペットに関する諸法律の存在について理解する。 【授業時間外学習】 遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr)		
<b>第5回 恋愛関係と法律②</b> 【到達目標】 (1) DV防止法について理解する。 【授業時間外学習】 DV防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)				<b>第13回 ペットの飼育と法律②</b> 【到達目標】 (1) 動物愛護管理法の内容について理解する。 (2) 動物愛護管理法の改正と飼主の責任について理解する。 【授業時間外学習】 動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr)		
<b>第6回 恋愛関係と法律③</b> 【到達目標】 (1) リベンジポルノ防止法について理解する。 【授業時間外学習】 リベンジポルノ防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)				<b>第14回 人身の自由、犯罪の取り調べと裁判の進め方</b> 【到達目標】 (1) 日本国憲法で保障されている人身の自由について理解する。 (2) 取り調べ、起訴から判決までの流れについて理解する。 【授業時間外学習】 日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr)		
<b>第7回 家族と法律①</b> 【到達目標】 (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 夫婦に関する法的問題について理解する。 【授業時間外学習】 婚姻届けの記載事項を調べる。(4.0hr)				<b>第15回 日々の暮らしと法律</b> 【到達目標】 (1) マンションをめぐる法的問題について理解する。 (2) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr)		
<b>第8回 家族と法律②</b> 【到達目標】 (1) 法的な親子関係の発生について理解する。 (2) 嫡出否認や親子関係不存在確認訴訟について理解する。 【授業時間外学習】 嫡出否認と親子関係不存在確認との違いを整理する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b> 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事例について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業回数が減った場合でも、授業内容に大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と穴埋め式の資料・補足資料、各回の復習課題である。資料の配信などに関する説明は、オンデマンド方式の授業が開始される前にポータルで行う。また、授業ごとの復習課題の提出によって授業への参加度を確認し、復習課題は成績評価の対象とする。						
<b>【教科書・参考書など】</b> この授業では、教科書等の指定はない。						
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と学期末における最終課題などを総合的に評価する。						

科目名	教養としての経済学			担当者	高橋信勝		
英文名	Introductory Economics						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE110・DLE110・HLE110・CLE110	卒業認定方針との関連		④	
<b>【到達目標】</b>							
目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
経済学の基礎の修得		経済学の基礎を修得し、具体例を挙げて説明できる。		教科書等を参照して、経済学の基礎を説明できる。		経済学の基礎の修得が不十分であり、説明できない。	
経済学的視点の修得		経済学的視点にもとづいて経済社会を理解し、説明できる。		経済学的視点にもとづいて身近な生活を理解し、説明できる。		経済学的視点の修得が不十分であり、経済社会と生活の理解がままならず説明できない。	
経済学的視点の活用		経済社会の問題について、経済学的視点にもとづいて説明できる。		身近な生活の問題について、経済学的視点にもとづいて説明できる。		経済学的視点にもとづいて、経済問題に関する見解を示せない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 経済学への誘い（1）</b> 【到達目標】 市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。 経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。 経済学の学問的特質を理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケネー）。(4.0hr)				<b>第9回 有効需要論（2）</b> 【到達目標】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳入）。(4.0hr)			
<b>第2回 経済学への誘い（2）</b> 【到達目標】 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。 経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（スミス）。(4.0hr)				<b>第10回 IS-LM分析（1）</b> 【到達目標】 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。 IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。 市場経済への公的介入についての理解を深める。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳出）。(4.0hr)			
<b>第3回 企業と経済</b> 【到達目標】 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。 企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。(4.0hr)				<b>第11回 IS-LM分析（2）</b> 【到達目標】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。(4.0hr)			
<b>第4回 GDPと三面等価の原則</b> 【到達目標】 ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。 国民経済の数量的把握について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。(4.0hr)				<b>第12回 国際収支と為替レート（1）</b> 【到達目標】 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。 変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。 世界経済と日本経済とのかわりかかわりを理解する。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードの比較生産費説）。(4.0hr)			
<b>第5回 中央銀行の機能と金融政策（1）</b> 【到達目標】 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。 中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。 金融政策の枠組みについて理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。(4.0hr)				<b>第13回 国際収支と為替レート（2）</b> 【到達目標】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。(4.0hr)			
<b>第6回 中央銀行の機能と金融政策（2）</b> 【到達目標】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。(4.0hr)				<b>第14回 戦後の日本経済</b> 【到達目標】 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。 戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。(4.0hr)			
<b>第7回 インフレとデフレ</b> 【到達目標】 インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。(4.0hr)				<b>第15回 授業の総復習と問題演習</b> 【到達目標】 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。 問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 【授業時間外学習】 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。(4.0hr)			
<b>第8回 有効需要論（1）</b> 【到達目標】 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。 経済のマクロ分析について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】 授業理解の第一のカギは継続的な出席である。授業ではキーワードを板書き、教科書とレジュメを参照しながら説明する。詳細な板書は行わないので、受講生は筆記ノートを整理し直すこと。理解度を確認するため、問題演習を単元ごとに実施し、後続の授業で解説する。 【オンライン授業の場合】 授業はオンデマンド方式とする。コンテンツは、対面授業の配置曜日の前日までに本学のポータルサイトにアップロードする。コンテンツは1週間後に消去する。出席回数は、ポータルサイトを介した各授業回のワークシートあるいはミニレポートの提出をもって、確認する。※詳細は初回授業時に説明する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】問題演習（30%）と期末試験（70%）にもとづいて評価する。試験は、試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回のワークシートあるいはミニレポート（80%）と、期末レポート（20%）にもとづいて評価する。 対面とオンラインのいずれの形式においても、単位付与の基準は60%である。※詳細は初回授業時に説明する。							

科目名	英語EAP I			担当者	中村大輔		
英文名	English for Academic Purposes I						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE201・DLE201・HLE201・CLE201	卒業認定方針との関連		②	
<b>【到達目標】</b> <p>学術論文を理解するためには語彙・文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業では学術語彙リスト掲載語彙やcause-effect関係の把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。また受講生が今後それぞれの目標・キャリアに応じて自立的に英語を学習していけるようになるための指導や演習も取り入れる。予習を前提としている授業なので、受講生は十分に準備した上で授業に臨むことになる。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英文論理構造の理解		自分の専門分野の論文の論理構造を把握できる		身近な社会問題に関する論文の論理構造を把握できる		topic sentenceやsupporting details等の論理関係を把握できない	
英語reading skillsの習得		初見の文章の理解においてreading skillsを使用できる		reading skillsへの意識が高められる		reading skillsを理解できない	
学術語彙リスト掲載語彙の獲得		学術語彙リスト掲載の語彙を使用して自らの考えを表現できる		学術語彙リスト掲載の語彙を使用して文章を理解できる		学術語彙リスト掲載の語彙を使用できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 導入</b> <b>【到達目標】</b> 授業の進め方・学習の仕方を理解する。 授業担当者が提示する英語初期演習を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 「意味の類推」に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				<b>第9回 英文読解演習 (8)</b> <b>【到達目標】</b> メインアイデアに関するサポート情報を発見できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 句に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)			
<b>第2回 英文読解演習 (1)</b> <b>【到達目標】</b> 単語の意味を推測できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「パラグラフのトピック」に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				<b>第10回 英文読解演習 (9)</b> <b>【到達目標】</b> 句を理解し、使用頻度の高い句を発見できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「対比」に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)			
<b>第3回 英文読解演習 (2)</b> <b>【到達目標】</b> パラグラフのトピックを発見できるようになる。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> 「接辞」に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				<b>第11回 英文読解演習 (10)</b> <b>【到達目標】</b> 対比構造を理解できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 「因果関係」に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)			
<b>第4回 英文読解演習 (3)</b> <b>【到達目標】</b> 接辞の意味を理解し、単語の意味を類推できるようになる。 比較的長めの文章の構造を把握できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 代名詞に関する問題演習を行う。(4.0hr)				<b>第12回 英文読解演習 (11)</b> <b>【到達目標】</b> テキストにおける因果関係を把握できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 時系列に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)			
<b>第5回 英文読解演習 (4)</b> <b>【到達目標】</b> 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> パラグラフのメインアイデアに関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				<b>第13回 英文読解演習 (12)</b> <b>【到達目標】</b> 出来事を時系列に沿って理解できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 速読に関する問題演習を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 英文読解演習 (5)</b> <b>【到達目標】</b> パラグラフのメインアイデアを把握できるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> コロケーションに関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)				<b>第14回 英文読解演習 (13)</b> <b>【到達目標】</b> 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。  <b>【授業時間外学習】</b> 第9回以降の総復習を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 英文読解演習 (6)</b> <b>【到達目標】</b> コロケーションを理解し、テキストに出現するコロケーションを発見できる。  <b>【授業時間外学習】</b> ここまでの総復習を行う(4.0hr)				<b>第15回 英文読解演習 (14)</b> <b>【到達目標】</b> 第9回以降の3章分の総復習を行い、理解度・習熟度を見る。  <b>【授業時間外学習】</b> 総復習から見えてきた各自の課題点をもう一度復習する。(4.0hr)			
<b>第8回 英文読解演習 (7)</b> <b>【到達目標】</b> ここまでの総復習を行い、理解度・習熟度を見る。  <b>【授業時間外学習】</b> メインアイデアとサポートの関係に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。</li> <li>授業には辞書を携帯すること。</li> <li>履修者のレベルは英語1・2（初級・中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は一切行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。</li> </ul> <b>【オンライン授業の場合】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記の内容を、オンデマンド形式で受講し、毎回課題を提出することになる。</li> </ul>							
<b>【教科書・参考書など】</b> 開講時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 平常点（出席・授業内活動など）50%、期末試験50%で判断する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 平常点（出席）50%、オンライン提出課題50%で判断する。							

科目名	英語EGCI			担当者	渡邊浩子		
英文名	English for General Communication I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE202・DLE202・HLE202・CLE202		卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】 This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
SPEAKING		伝えたい内容を80%以上伝えることができる。		伝えたい内容を50%以上伝えることができる。		伝えたい内容を伝えることができない。	
LISTENING		内容を80%以上理解できる。		内容を50%以上理解できる。		内容をほぼ理解できない。	
VOCABULARY		語義を英語で説明できる。		語義を日本語で説明できる。		語義を知らない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 Introductions</b> 【到達目標】 Previewing contents and goals of the course  【授業時間外学習】 Preview syllabus (4.0hr)				<b>第9回 Is that right?</b> 【到達目標】 Listening in context  【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)			
<b>第2回 Hello</b> 【到達目標】 Speaking about yourself  【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)				<b>第10回 Backchanneling</b> 【到達目標】 Listening in context  【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			
<b>第3回 Small Talk</b> 【到達目標】 Listening in context  【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				<b>第11回 How about you?</b> 【到達目標】 Previewing vocabulary  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
<b>第4回 That's a lovely T-shirt.</b> 【到達目標】 Listening in context  【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				<b>第12回 Showing interest</b> 【到達目標】 Discussing your interest  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
<b>第5回 Compliments</b> 【到達目標】 Practising vocabulary  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				<b>第13回 Reading a storoy</b> 【到達目標】 Reading comprehension  【授業時間外学習】 Reading preparation (4.0hr)			
<b>第6回 Pardon</b> 【到達目標】 Practising vocabulary  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				<b>第14回 Preparations for Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)			
<b>第7回 I really enjoyed it.</b> 【到達目標】 Listening in context  【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				<b>第15回 Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Course Review  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
<b>第8回 Information</b> 【到達目標】 Answering with additional information  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!  【オンライン授業の場合】 To make the online class go smoothly, it is very important that before logging on, you <u>read and try to understand the weekly updates and check the teaching materials</u> I will send.							
【教科書・参考書など】 <i>Keep talking</i> , K.Murata, Kirihara Shoten							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%  【オンライン授業の場合】 Participation 40%, Speaking Assignments 60%							

科目名	英語EAP II			担当者	カーリン 清佳		
英文名	English for Academic Purposes II						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE203・DLE203・HLE203・CLE203		卒業認定方針との関連	②	
<b>【到達目標】</b>							
この授業では語彙・リスニング・リーディング学習を通して、総合的な英語力の向上を目指す。また、様々なトピックについて学ぶことで、視野を広げ多様性を受容する素地を作る。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
英語の語彙・表現		語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。		語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。	
英語のリスニング・リーディング		英語の活動内容が理解できる。		教科書・辞書を参照しながら英語の活動内容が理解できる。		教科書・辞書を参照しても、英語の活動内容が理解できない。	
英語を使用したコミュニケーション		自分の考えを英語で表現できる。		辞書や資料等を参考にしながら、自分の考えを英語で表現できる。		理解が不十分で自分の考えを英語で表現できない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション 英語演習（1）</b>				<b>第9回 英語演習（9）</b>			
【到達目標】 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。				【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 英語演習（2）</b>				<b>第10回 英語演習（10）</b>			
【到達目標】 英語I・IIで学習した内容について復習する。 英語の特徴について復習する。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 英語演習（3）</b>				<b>第11回 英語演習（11）</b>			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 英語演習（4）</b>				<b>第12回 英語演習（12）</b>			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 英語演習（5）</b>				<b>第13回 英語演習（13）</b>			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 英語演習（6）</b>				<b>第14回 英語演習（14）</b>			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 学習した語彙や表現を使いながら、アクティビティを通して実践的に英語を使うことができる。 英語で自分の考えを表現できる。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 英語演習（7）</b>				<b>第15回 英語演習（15）</b>			
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。				【到達目標】 授業全体のふり返しを行う。 今後の学習目標を設定する。			
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第8回 英語演習（8）</b>							
【到達目標】 語彙や表現について理解する。 英語の特徴を理解しながら、英語のリスニング・リーディングに取り組む。							
【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】主体的に授業に参加し、各自予習・復習を継続しておこなうこと。							
【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
プリントを配布します。							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】原則として、授業への出席50%、レポート・課題50%とし、総合的に評価する。							

科目名	英語EGC II			担当者	渡邊 浩子		
英文名	English for General Communication II						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE204・DLE204・HLE204・CLE204		卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】 This course (English for General Communication II) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.							
【ルーブリック (学修の到達レベル)】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
SPEAKING		伝えたい内容を80%以上伝えることができる。		伝えたい内容を50%以上伝えることができる。		伝えたい内容を伝えることができない。	
LISTENING		内容を80%以上理解できる。		内容を50%以上理解できる。		内容をほぼ理解できない。	
VOCABULARY		語義を英語で説明できる。		語義を日本語で説明できる。		語義を知らない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 Introductions</b> 【到達目標】 Previewing the contents and goals of the course  【授業時間外学習】 Preview syllabus (4.0hr)				<b>第9回 Requests</b> 【到達目標】 Practising polite requests  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
<b>第2回 Thank you so much</b> 【到達目標】 Practising vocabulary  【授業時間外学習】 Review vocabulary (4.0hr)				<b>第10回 Invitations</b> 【到達目標】 Practising vocabulary  【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			
<b>第3回 Thanking</b> 【到達目標】 Listening in Context  【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				<b>第11回 Saying "no"</b> 【到達目標】 Practising vocabulary  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)			
<b>第4回 Excuse me, but...</b> 【到達目標】 Practising vocabulary  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				<b>第12回 Softeners</b> 【到達目標】 Listening in context  【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)			
<b>第5回 Complaints</b> 【到達目標】 Listening in context  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				<b>第13回 Reading a Story</b> 【到達目標】 Reading comprehension  【授業時間外学習】 Reading Preparation (4.0hr)			
<b>第6回 This is my fault</b> 【到達目標】 Practising vocabulary  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)				<b>第14回 Preparations for Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)			
<b>第7回 Apologies</b> 【到達目標】 Practising vocabulary  【授業時間外学習】 Practise model conversation (4.0hr)				<b>第15回 Mid-term Presentations</b> 【到達目標】 Course Review  【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)			
<b>第8回 I'd rather not say</b> 【到達目標】 Dealing with undesirable questions  【授業時間外学習】 Preview vocabulary (4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!							
【オンライン授業の場合】 To make the online class go smoothly, it is very important that before logging on, you <u>read and try to understand the weekly updates and check the teaching materials</u> I will send.							
【教科書・参考書など】 <i>keep talking</i> , K. Murata, Kirihara Shoten							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%							
【オンライン授業の場合】 Participation 40%, Speaking Assignments 60%							

科目名	ドイツ語		担当者	藤由順子		
英文名	German Language					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE205・DLE205・HLE205・CLE205	卒業認定方針との関連		②
【到達目標】 初級レベルの基礎知識を確実なものにする。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
基本的なドイツ語運用に必要な文法の理解		ドイツ語の言語的特徴を理解し運用する。		資料を参照しながらドイツ語を運用する。		理解が不十分で説明できない。
ドイツ語圏の文化・言語に対する関心の向上		文化・言語への関心を自学へ導き発展させる。		文化・言語への関心を自学へ導く。		ドイツ語の文化・言語に関心がない。
ドイツ語で表現		自分のことや意見を表現できる。		資料を参照しながら自分のことや意見を表現できる		理解が不十分で全く表現できない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベットの確認			第9回 前置詞の格支配			
【到達目標】 音声的基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。 あいさつやとっさの一言が言える。			【到達目標】 状況を説明するフレーズを表現できる。 「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等と言える。			
【授業時間外学習】 アルファベットの確認をし、文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 例文を覚える。(4.0hr)			
第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認			第10回 助動詞			
【到達目標】 日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。 初めて見る地名や人名を正確に発音できる。			【到達目標】 話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。 例)私は～できる／～したい／～しなければならない。			
【授業時間外学習】 語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)			
第3回 ドイツ語の文構造／自己紹介(1)			第11回 否定表現			
【到達目標】 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、自分について簡単な説明ができる。 例)私は～出身です／～を専攻しています。			【到達目標】 否定冠詞を使つての否定文を作る。 否定詞を用いた否定文の法則をしる。 例)兄弟はいない／～を知らない			
【授業時間外学習】 基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分に関連した否定文を作ってみる。(例:私は魚を食べない、等)(4.0hr)			
第4回 ドイツ語の名詞と、主語となる代名詞を知る			第12回 疑問文			
【到達目標】 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。 例)父が／友人に／ピアノを／それは／あなたは／彼は、などを表現できる。			【到達目標】 疑問、質問を相手に行うことができる。 疑問詞疑問文を作ったり、問い合わせをスムーズにするフレーズを使ったりする。			
【授業時間外学習】 格変化の表の見方に慣れる。／自分と関連する名詞を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 例文を覚えて、これをアレンジする。(4.0hr)			
第5回 冠詞の役目：不定冠詞、定冠詞、所有冠詞			第13回 映画鑑賞(1)			
【到達目標】 英語のa, an, the, myと異なる、冠詞の役目を確認する。 「1つの～が」「その～を」「私の～に」等の表現を身につける。			【到達目標】 ドイツ語フレーズやアクセントに意識を置いてドイツ映画を観る。 ドイツ人の仕事や言い回しなどから日本との文化の違いを感じ取る。			
【授業時間外学習】 自分で格変化表を作成してみる。自分の持ち物や身内を表現する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる。(4.0hr)			
第6回 複数形			第14回 映画鑑賞(2)			
【到達目標】 sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを知る。 自分のよく使うような単語の複数形を調べて、表現する。 例)私には二人の姉がいる。／靴は3足しかない。			【到達目標】 ドイツの社会・歴史的背景を映画から読み取る。			
【授業時間外学習】 単数形に戻す練習を重ねる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 映画を見て感じたことを感想としてまとめる。(4.0hr)			
第7回 数詞(1)			第15回 理解度の確認と補足説明			
【到達目標】 1から12までを確実に言う。13から20までの法則を押さえる。 頻度や回数、継続、曜日を表す。(頻繁に、5回、日曜日には、等) 時刻を表現する。			【到達目標】 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。			
【授業時間外学習】 自分のスケジュールを表してみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)			
第8回 人称代名詞						
【到達目標】 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。						
【授業時間外学習】 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 ※半期しかないで、日本あるいは外国において自分の言いたいことをドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。						
【対面授業の場合】 発音練習を自宅で行うようにしてください。理解度確認小テストやレポート課題は実施します。これらを受けて次回授業にフィードバックを行いますので、間違いや指摘されたより適切な表現をしっかりと確認して、ドイツ語表現の幅を広げてください。						
【オンライン授業の場合】 音声データを用いて発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。授業資料は、授業スケジュールに従い授業実施曜日・開始時刻にPhollyにて配信します。オンデマンド授業だからこそ、受講生の自学の理解度を確保するために毎回、課題を実施します。欠かさず提出するよう心がけてください。また、この課題提出は出席確認に用います。みなさんは課題提出を、授業に関する質問や感想を書き添える機会にしてください。後日配信されるフィードバックを参考に、間違いの箇所や、より適切な表現をしっかりと確認するようにして、ドイツ語表現の幅を広げてください。						
【教科書・参考書など】 『お菓家で学ぶドイツ語』小野森都子 平山茂樹 藤由順子著(朝日出版社) 独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業時の発表・課題提出、理解度確認のための小テスト40%、試験結果を60%として評価する(試験は試験期間中に別途実施する)。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド授業時の課題提出・積極的な取組姿勢を50%、試験結果を50%として評価する(試験は試験期間中に別途実施する)。						

科目名	フランス語		担当者	森本悠人		
英文名	French					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE206・DLE206・HLE206・CLE206	卒業認定方針との関連	②	
【到達目標】 はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらい、シャンソンや映画のフランス語を通して文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れる。それによって、フランス語を使う人々の表現世界を理解することを目指す。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
フランス語にかなする基本的な知見について		フランス語の成り立ちを説明できる		教科書を参照すればフランス語の成り立ちを説明できる		フランス語の成り立ちを説明できない
フランス語の発音と綴り字の規則について		規則を理解し、自立的に運用できる		教科書等を参照すれば発音が理解できる		理解が不十分であり、発音できない
フランス語の文法事項について		名詞の性数を理解し、動詞の活用を運用できる		辞書等を用いれば名詞の性数、動詞の活用が理解できる		動詞の活用や名詞の性数が理解できない
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション：挨拶・アルファベ・綴りと発音、フランスとフランス文化			第9回 フランス語の文法②			
【到達目標】 (1)フランス語の挨拶やアルファベ、綴り、発音に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。			【到達目標】 (1)名詞・形容詞の性数一致を理解する。 (2)冠詞の用法を理解する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の成り立ち」を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 プリント「フランス語の文法②」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力			第10回 フランス語の文法③と小説『美女と野獣』			
【到達目標】 (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。			【到達目標】 (1)物語で使用される動詞の時制を理解する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランスとフランス語圏」を読む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 プリント「フランス語の文法③」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第3回 フランス語の童謡①			第11回 小説『美女と野獣』の読解①			
【到達目標】 (1)歌の表現世界を理解する。 (2)フランスのシャンソンの背景や表現を理解する。			【到達目標】 (1)動詞の過去形を理解する。 (2)顔出単語を把握する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の童謡①ポイント解説」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第4回 フランス語の童謡②			第12回 小説『美女と野獣』の読解②			
【到達目標】 (1)歌の表現世界を理解する。 (2)フランス語の特徴的な読み方の規則を理解する。			【到達目標】 (1)前置詞を理解する。 (2)前置詞と定冠詞の縮約を理解する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の童謡②ポイント解説」を読む。指示に従って音声録音・提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第5回 フランス語の文法①			第13回 楽曲「La belle et la bête」で学ぶ聞き取り			
【到達目標】 (1)フランス語の基本的な構造を理解する。 (2)主語、動詞の活用を理解する。			【到達目標】 (1)聞き取りの発音上のポイントを把握する。 (2)聞き取りと文法の関係を理解する。			
【授業時間外学習】 プリント「フランス語の文法①」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指示に従って課題を提出。(4.0hr)			
第4回 『レ・シャンゼリゼ』とフランス語の綴り字			第14回 映画『美女と野獣』の場面を再現する			
【到達目標】 (1)歌の表現世界を理解する。 (2)フランス語の発音と綴り字の規則を理解する。			【到達目標】 (1)指定された場面をスクリプトを元に再現する。			
【授業時間外学習】 プリント「『レ・シャンゼリゼ』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声録音・提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 指示に従って音声録音・提出。(4.0hr)			
第5回 『Ce rêve bleu』とフランス語の母音・子音			第15回 授業のまとめ			
【到達目標】 (1)歌の表現世界の理解。 (2)フランス語の特徴的な発音や有声音と無声音の違いを理解する。			【到達目標】 (1)名詞・冠詞・形容詞、動詞、前置詞について文法をまとめる。 (2)発音の規則をまとめる。			
【授業時間外学習】 プリント「『Ce rêve bleu』の訳・ポイント解説」を読む。指示に従って音声録音・提出。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業を振り返り、自分なりのまとめを行う(4.0hr)			
第6回 映画『美女と野獣』の鑑賞						
【到達目標】 (1)フランス映画の表現世界の理解。 (2)フランス語の会話のリズムをつかむ。						
【授業時間外学習】 プリント「『美女と野獣』の一部訳・ポイント解説」を読む。指示に従って課題を提出。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 半期の授業なので、毎回集中して授業に臨むこと。授業内容に則した課題を出すので、授業を欠席しないこと。						
【オンライン授業の場合】 リアルタイム方式とオンデマンド方式の両方を活用して授業を実施する。授業内容は授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。						
【教科書・参考書など】 授業時に適宜プリント配布						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】試験結果60%、復習・予習課題20%、小テスト20%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						
【オンライン授業の場合】各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点で、それらを総合的に評価する。また、最終授業時に最終課題を提出することになる。最終まとめ課題40%、復習・予習課題40%、小テスト20%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	中国語		担当者	道上峰史		
英文名	Chinese					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE207・DLE207・HLE207・CLE207		卒業認定方針との関連	②
【到達目標】 本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語の文法や漢字に慣れてもらうため、受講生には基礎的な課題を出します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
初歩の中国語を読んで理解できる。		動詞や形容詞を用いた表現や、完了形を用いた中国語の文章を、全て理解できる。		動詞や形容詞を用いた基本的な中国語の短文が理解できる。		中国語の文章が理解できない。
初歩の中国語の文章を作成できる。		日常生活で用いる単語を使いながら、中国語で自己紹介をすることができる。		定型句を用いて短文を駆使して、中国語で自己紹介をすることができる。		中国語の作文ができない。
初歩の中国語の発音ができる。		講義で学習した中国語の単語を、全て正しく発音できる。		基本的な中国語の単語を正しく発音できるようにする。		正しく中国語の発音ができない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション：中国語について 【到達目標】 (1)言語としての中国語の特性を理解する。  【授業時間外学習】 身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。(4.0hr)			第9回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文の応用 【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。  【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第2回 発音の基礎：発音記号と四声 【到達目標】 (1)言語としての中国語の音声（発音・リズム）を習得する。  【授業時間外学習】 授業で習った発音を、繰り返し発音する。(4.0hr)			第10回 基礎構文(Ⅳ)：完了形 【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)完了形がある構文を習得する。  【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第3回 文字について：中国の簡体字と日本の漢字 【到達目標】 (1)中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。  【授業時間外学習】 実際に簡体字を自分で書いてみる。(4.0hr)			第11回 基礎構文(Ⅳ)：完了形の応用 【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)完了形がある構文の否定形、疑問形を習得する。  【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第4回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文 【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)是を使った構文を習得する。  【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			第12回 作文：自己紹介 【到達目標】 (1)自分について紹介する文章を作る。  【授業時間外学習】 自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。(4.0hr)			
第5回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文の応用 【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。  【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			第13回 作文：日常の表現 【到達目標】 (1)日常表現をするための語彙を増やす。  【授業時間外学習】 普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。(4.0hr)			
第6回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文 【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)目的語がある構文を習得する。  【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			第14回 中国の文化(Ⅰ)：中国文化と中国語Ⅰ 【到達目標】 (1)中国語の成り立ちと中国文化を理解する。 (2)中国語の語彙を増やす。  【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)			
第7回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文の応用 【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。  【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			第15回 中国の文化(Ⅱ)：中国文化と中国語Ⅱ 【到達目標】 (1)中国文化の中で成長した中国語について理解する。 (2)中国語の語彙を増やす。  【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)			
第8回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文 【到達目標】 (1)中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2)形容詞がある構文を習得する。  【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義期間中に1度課題を出します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。参加学生が中国語を用いた会話などを行うことで、中国語を身につけていけるように指導します。それだけでなく、普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更はしません。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料です。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載します。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。						
【教科書・参考書など】 講義用の参考書(講義担当者作成)を準備します。初回のオリエンテーションにて詳細をお伝えします。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業時の課題が30%、学期末の筆記試験(試験は試験期間中に別途実施)が70%となります。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価します。さらに全授業回終了時点で中国語の文章作成を課して評価します。各授業回の総合評価を60%、全授業終了後の文章作成の評価を40%とし、あわせて100%として評価します。合格基準は60%です。						

科目名	コリア語			担当者	李 美 賢		
英文名	Korean language						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE208・DLE208・HLE208・CLE208		卒業認定方針との関連	②	
<b>【到達目標】</b>							
韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。生活や文化の正確な理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
韓国語の初級レベルに達するための参加意欲		欠席ゼロで、学習に関する質問を積極的にする		欠席ゼロで、質問に対する答えを積極的にする		何度の欠席、目線を合わせず他のことをする	
韓国語の初級レベルの話す能力		自分の意見をきれいな発音で上手に話せる		勇気を出して自分の意見を積極的に言おうとする		呼ばれても何も答えようとならない	
韓国語の初級レベルの理解力		フレーズの聞き取りや書き取りができる		フレーズの書き取りより聞き取りができる		フレーズの聞き取り、書き取りが全くできない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か</b>				<b>第9回 日常生活の表現：疑問表現</b>			
【到達目標】 (1)言語としての韓国語の特性を理解する。 (2)文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3)ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時間外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)			
<b>第2回 ハングルの発音：基本母音</b>				<b>第10回 日常生活の表現：否定表現</b>			
【到達目標】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)基本母音を習得する。 【授業時間外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)			
<b>第3回 ハングルの発音：子音（1）</b>				<b>第11回 日常生活の表現：用言の表現（1）</b>			
【到達目標】 (1)文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2)子音（平音・激音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)			
<b>第4回 ハングルの発音：子音（2）</b>				<b>第12回 日常生活の表現：用言の表現（2）</b>			
【到達目標】 (1)ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)			
<b>第5回 ハングルの発音：合成母音</b>				<b>第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形</b>			
【到達目標】 (1)合成母音を習得する。 【授業時間外学習】 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時間外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)			
<b>第6回 ハングルの発音：パッチム、挨拶</b>				<b>第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1）</b>			
【到達目標】 (1)文字としてのパッチムを習得する。 【授業時間内学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)			
<b>第7回 日本語のハングルの表記</b>				<b>第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2）</b>			
【到達目標】 (1)日本語のハングル表記を習得する。 (2)辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時間外学習】 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。(4.0hr)				【到達目標】 (1)韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)			
<b>第8回 日常生活の表現：肯定表現</b>							
【到達目標】 (1)日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れる（ドラマ・映画・歌、等）ようにすることが語学の上達の上で重要である。ほぼ毎回、各課ごとの応用練習帳の作成及び提出の課題が出される。課題の結果、間違いやすい部分や注意すべき点などに関して、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また、1-2回ほど理解度の確認のため、小テストや中間テストを行う。テスト結果は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業になった場合は、オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞旻）著（白水社）							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	社会のしくみとキャリア形成			担当者	八 田 益 之		
英文名	Career, Business and Social System						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE209・DLE209・HLE209・CLE209	卒業認定方針との関連		④⑤	
<b>【到達目標】</b> 大学卒業後の社会には、今までのようなレールがありません。どんな情報を手掛かりにするか、誰を信頼するか、どの組織の一員として生きてゆくのかは、自分で考え、決め、行動することが求められます。「キャリア」とはそんな自己決定の足あとです。この講義では、そのための基礎知識としての「社会のしくみ」を理解します。個人やグループで、実際の社会における課題をとりあげて、自分なりに考えてみることを軸に、興味関心を広げ、就職活動・進路選択につなげていきます。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
①「社会のしくみ」を理解する		会社・団体に学生なりの提案を評価される	会社・団体の立場から社会を見ることができる	「お客様」の受け身な立場で社会を眺めているだけ			
②自身の「キャリア形成」を考える		自分が貢献できそうな相手・状況などを考えられている	自分の興味関心、得意不得意、などを客観視できている	「好きか嫌いかわからない」しか考えていない			
③進路選択への一歩を踏み出す		興味ある仕事につくための必要要素と、自分の今のギャップを理解し、具体的に行動している	興味ある仕事について調べ始めている	将来を何も考えず、今熟中していることもない			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 3つの学修到達目標について</b> <b>【到達目標】</b> ①社会のしくみを理解する②自身のキャリア形成を考える ③進路選択への一歩を踏み出す これら当講義のゴールを説明します。みなさんの将来の希望なども調査します。 <b>【授業時間外学習】</b> 上記3つの目標を自分なりに考える(4.0hr)				<b>第9回 ロジカルシンキングの基本</b> <b>【到達目標】</b> 集めた情報を整理するための論理思考について、マンドラチャート、ロジックツリー、因果関係と相関関係、など各種手法を説明。また論理思考の鍛え方、その限界について、理解します。 <b>【授業時間外学習】</b> 論理思考の実践(4.0hr)			
<b>第2回 進路選択の2大基本：①自己理解と②相手の理解について</b> <b>【到達目標】</b> よくある悩み：「好きなことを仕事にしたい」「やりたいことがわからない」などについて、日本の雇用制度の特徴、就職活動の実態を踏まえて、理解します。その上で、進路選択の基本となる「相手の理解」について考えていきましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> やりたいこと、好きなこと、について自分なりに考える(4.0hr)				<b>第10回 アイデアの伝え方、プレゼンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 「頭はいいのに伝え方が下手」「できなかった人ほど教えるのがうまい」と感じた経験はありませんか？考えを相手に伝える基本技法を理解しましょう。映画『プラダを着た悪魔』（例）などを使い、物語の基本パターンも理解します。 <b>【授業時間外学習】</b> プレゼンテーションを考える(4.0hr)			
<b>第3回 社会に必要なコミュニケーションについて</b> <b>【到達目標】</b> 日本の就活では「コミュニケーション能力」が重要といわれます。なぜなのか？日本企業と法制度の特徴、学生と仕事でのコミュニケーションの違い、などを理解します。 <b>【授業時間外学習】</b> 自分自身のコミュニケーションの経験、特徴、課題を考える。(4.0hr)				<b>第11回 チームビルディング・コーチング</b> <b>【到達目標】</b> グループワークをより効果的にするためのチームビルディング手法、とくに傾聴、質問などの手法を踏まえたコーチングについて理解し、実践します。 <b>【授業時間外学習】</b> グループでのチームビルディング体験(4.0hr)			
<b>第4回 コミュニケーション実践編</b> <b>【到達目標】</b> 自分のコミュニケーションのクセを「タイプ分け」「優位感覚」などの手法をもとに振り返ります。対立する場面などを、いろいろな技法を使ってどうするか、理解を深めます。 <b>【授業時間外学習】</b> 具体的なコミュニケーション課題について考える。(4.0hr)				<b>第12回 チームワーク体験の振り返り</b> <b>【到達目標】</b> グループワークなどの実際の自分自身が行ったチームビルディング体験を振り返ります。自分や他者についての理解を深めましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> グループワーク体験を振り返る(4.0hr)			
<b>第5回 企業を知るための方法</b> <b>【到達目標】</b> Webの活用（就活サイト、さまざまな企業情報サイト）、人の活用（OGや直接コンタクト）の基本を理解し、インターンなど「現場」の体験についてのアンテナも立てていきましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> 自分の関心ある分野について具体的に調べてみる(4.0hr)				<b>第13回 学歴社会について</b> <b>【到達目標】</b> 就職の「学歴フィルター」という言葉があります。その実態、対応法を理解します。現実には、ウェブテスト、OGなど人脈や情報力、転職、など学歴の壁はあったとしても超えられます。まずは、ウェブテストから理解していきましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> 受検してみる(4.0hr)			
<b>第6回 企業の課題を解決する</b> <b>【到達目標】</b> 企業はどのような「課題」を抱えているのか？ 大学生の立場からどのような「貢献」ができるのか？過去の学生コンテストでの高評価提案を分析し、問題のパターン別の考え方を理解します。 <b>【授業時間外学習】</b> 自分なりに企業課題を考える(4.0hr)				<b>第14回 社会で本当に必要な「国語」と「算数」について</b> <b>【到達目標】</b> 高校までの国語と、社会（と就活）で必要な国語との違い、共通点 高校までの数学と、社会（と就活）に必要な数式的思考との違い、共通点を理解することが、ウェブテスト対策にもつながります。基本を再確認しましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> 受検結果を振り返る(4.0hr)			
<b>第7回 アイデアの出し方</b> <b>【到達目標】</b> クリエイティブシンキング、デザインシンキングなど、アイデアの出し方のパターンを理解し、一人で考える、グループで考える、など実践していきます。 <b>【授業時間外学習】</b> グループワーク（※グループワーク実施時期はテーマに合わせて調整）(4.0hr)				<b>第15回 学生生活アクションプラン</b> <b>【到達目標】</b> では、あなたはどうか？学年別、時期別に、進路に向けた具体的な行動を考えていきましょう。 <b>【授業時間外学習】</b> 最終レポート作成を行う(4.0hr)			
<b>第8回 調査方法の基本</b> <b>【到達目標】</b> 文字情報（ネット検索、AI検索、本）、数字情報（量的調査）、人や現場の情報（質的調査）、といった調査方法の基本を理解します。 <b>【授業時間外学習】</b> 各種調査の実践(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業・オンライン授業ともに共通】</b> 「みなさん一人一人が何をやるか？」を自分なりに見出しってもらうための、受講者全員が主体的に参加する「アクティブ・ラーニング」方式の講義です。みなさんの時々の反応を受けて進捗を修正していきます。そのため毎回ごとで取り扱う内容も変更されます（その都度告知します）が、全15回トータルでの学びの内容は保ちます。上記の「授業時間外学習」は、グループワークとして行う場合があります。成果を確認しながら実施時期や内容を調整していきます。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 上記の講義を、動画配信によるオンデマンド講義形式で行います。「動画を受け身で見ているだけの講義」ではありません。オンラインの場合のグループワークは、①複数名のグループを組む（履修者の一覧表などを大学内専用ネットワーク内で公表します） ②時間を合わせグループワークを進める ③成果物を講義内で紹介、という方式を予定しています。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 講義ごとにオンライン配信、もしくは紙の資料として配布します。（ノートは紙もしくはパソコン等で用意してください）							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業・オンライン授業ともに共通】</b> 覚えたことを書くタイプの試験はありません。成績評価も、あなたが自分なりに考えたこと、を基本的に評価します。高い評価はどのようなものかは講義中に都度示していきます。具体的な成績評価は、①講義後の小レポート（オンライン提出中心）50%、②グループワークでの成果物20%、③最終レポート30%、の配分とします。							

科目名	データ分析と統計学				担当者	水野有希	
英文名	Data Analysis and Statistics						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE210・DLE210・HLE210・CLE210		卒業認定方針との関連	③	
<b>【到達目標】</b> 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方や統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
統計学の基本的事項・理解に関する事項		基本的な概念や原理・法則を体系的に十分に理解し、自ら説明できる。		基本的な概念や原理・法則を資料等を参照しながら説明できる。		基本的な概念や原理・法則の体系的な理解が不十分で説明できない。	
統計学の実践的な活用に関する事項		事象を適切な分析から考察し、統計学的な表現を用いて自ら説明できる。		資料等を参照し、事象を分析し、統計学的な表現を用いて説明できる。		統計学を活用して事象を考察するのに理解が不十分で説明できない。	
体育・スポーツ研究の科学的根拠に関する事項		統計学的思考を用いて根拠に基づいた分析や論理的に考察を自ら説明できる。		資料等を参考に、根拠に基づいた分析や論理的に考察を説明できる。		根拠に基づいた分析が不十分で科学的根拠が説明できない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 統計の心構え、ビックデータとAI</b> <b>【到達目標】</b> (1)世の中にある情報（データ）にどのようなものがあるか理解する。 (2)データの特徴や分析により、様々な課題解決につながることを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。(4.0hr)				<b>第9回 平均と分散の推定と区間推定</b> <b>【到達目標】</b> (1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（平均・分散の推定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 データの種類・尺度水準、度数分布表とヒストグラム</b> <b>【到達目標】</b> (1)データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。 (2)データの特徴にはばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（尺度水準）の復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 t検定（対応あり）</b> <b>【到達目標】</b> (1)平均の差の検定の種類を理解する。 (2)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 データのばらつきを数値に表すには</b> <b>【到達目標】</b> (1)ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。 (2)代表値とばらつきを関数を使って算出する方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 t検定（対応なし）</b> <b>【到達目標】</b> (1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（対応のないt検定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 散布図と相関、相関係数</b> <b>【到達目標】</b> (1)散布図を作成し、パターンを理解する。 (2)相関係数の求め方を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（相関係数）の復習をする。(4.0hr)				<b>第12回 分散分析（一元配置）</b> <b>【到達目標】</b> (1)実際の例をとらえながら、一元配置分散分析を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（一元配置分散分析）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 回帰直線</b> <b>【到達目標】</b> (1)回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（回帰直線）の復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 分散分析（二元配置）</b> <b>【到達目標】</b> (1)実際の例をとらえながら、対応ありの二元配置分散分析を理解する。 (2)実際の例をとらえながら、対応なしの二元配置分散分析を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（二元配置分散分析）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 アンケート作成</b> <b>【到達目標】</b> (1)アンケート作成の基本を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> アンケート項目を考えアンケートを作成する。(4.0hr)				<b>第14回 カイ二乗検定</b> <b>【到達目標】</b> (1)仮説検定の考え方を理解する。 (2)カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 仮説検定と有意差について</b> <b>【到達目標】</b> (1)推計統計学において仮説検定がなぜ必要かを理解する。 (2)確率の意味を復習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題の復習をする。(4.0hr)				<b>第15回 実践課題</b> <b>【到達目標】</b> (1)実際のデータを使って分析を行います。  <b>【授業時間外学習】</b> 分析方法と表とグラフについて復習する。(4.0hr)			
<b>第8回 正規分布とその他の分布</b> <b>【到達目標】</b> (1)どのような分布があるかを学ぶ。 (2)一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3)標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 提出課題（正規分布）の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解できるように工夫します。また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半15～20分は課題を遂行する時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。 <b>【対面授業の場合】</b> 講義は情報処理実習室で授業を実施します。毎回授業時に関連した課題を提出してもらいます。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は変更しません。配信される資料はスライド、授業資料、解説動画とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認します。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイス所有していることが条件です。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 講義中に指示します。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 毎回行われる確認課題(講義中に出すもの)60%、実践課題(第15回)40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 毎回行われる確認課題(第1回～第14回)60%、実践課題(第15回)40%として評価します。確認課題や実践課題は、指定された期日までに提出してください。							

科目名	知の哲学			担当者	宇多村俊介		
英文名	Philosophy of Knowledge						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE111・DLE111・HLE111・CLE111		卒業認定方針との関連		①③
<b>【到達目標】</b>							
この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理的に解説する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなして、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
知をめぐる問題の所在と接近法		問題の所在を理解し、知へ接近する道程を多角的に説明することができる。		知の成立条件や知へ到る思考の過程を、資料等を見ながら説明することができる。		理解が不十分で、従前の意識と思考の枠組みから出ることができない。	
思考の諸技能と明晰な言語使用		批判的思考の諸要件と諸段階を理解し、実践することができる。		批判的思考の諸要件と諸段階を、資料等を見ながら運用を試みることができる。		原則や概念の理解が不十分で、各諸技能を運用することができない。	
知への視角と現代の知の諸相に関する事項		各主題の観点から世界や自己のあり様を分析し意見を述べることができる。		資料等を参照しながら、各主題の観点に基づいて事例を考えることができる。		各主題への理解が不十分で、新しい視点を事例の分析と思考に取り入れることができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ</b> 【到達目標】 哲学的なもの特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の〈検討課題〉に取り組む。(4.0hr)				<b>第9回 感情：感情と認識</b> 【到達目標】 感情の三つの極態を弁別し、それぞれの認識の三能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を省みることができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第2回 知の成立条件と定義：必要条件と十分条件</b> 【到達目標】 定義の構成と充たすべき要件を理解した上で、知の古典的な定義とその問題点を考察することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第10回 思考と行為：プラグマティックな意味基準</b> 【到達目標】 行為の一段階として思考を捉える視点からプラグマティズムの守則を理解し、観念や言明を明晰化する手法として適用することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第3回 意味と明晰さ：曖昧と漠然</b> 【到達目標】 ことばを明晰に使用し、無用な混乱を避けるための分析的な諸観点を弁別して理解し、各種の事例に適用することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第11回 コミュニケーションの哲学：社会的自我</b> 【到達目標】 コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第4回 立論の批判的評価の諸段階1：推論の2類型</b> 【到達目標】 立論(論証)の構造と、そこに体现される推論の2つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知</b> 【到達目標】 現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と成立条件、および限界について考えることができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第5回 立論の解剖学：樹形図の方法</b> 【到達目標】 複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第13回 現代の知の諸相2：科学的接近法</b> 【到達目標】 問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第6回 立論の批判的評価の諸段階2：問と論駁</b> 【到達目標】 対話的な討論の枠組みのなかで立論の目的を把握し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別して理解することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第14回 現代の知の諸相3：俗悪なもの形而上学</b> 【到達目標】 形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第7回 立論の批判的評価の諸段階3：歪んだ思考</b> 【到達目標】 成功する立論の充たすべき諸要件に対する違反として欺瞞的な立論(虚偽)の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				<b>第15回 知の主體的責任と知的誠実性</b> 【到達目標】 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
<b>第8回 知覚経験と認識：現象と実在</b> 【到達目標】 知の四つの源泉およびそれらに対応する認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を把握して、知覚経験のもつ限界と知覚経験の記述の客観性の諸条件について考察することができる。  【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に5〜6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問、解答例のある課題については翌週の解答・解説によって理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが、各回、必ずしも馴染みのない概念や観点を学びます。集中して理解し、実地に適用する心構えで下さい。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施します。取り上げる主題の定性的な方面は変更しません。配信教材は原則的に講義の概要を記したPDF資料ファイルと解説用の音声ファイルです(資料形態は受講者全員の受信環境によって変更することもあります)。配信日時は対面授業時間割に準じ、本学ポータルサイトより各授業に先立って配信される授業連絡に記載されたファイルの格納場所にアップし、課題提出締切日まで掲載します。出席は各授業回に定める期日内の課題の提出をもってカウントします。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 授業内の課題ミニレポート40%、定期試験60%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の提出課題70%、学期末レポート30%で評価する。定期試験は実施しない。なお、欠席届相当の証明書類の提出のある欠席者には別途課題を課し、出席確認と課題評価の機会を設ける。							

科目名	教養としての日本文学		担当者	石元みさと		
英文名	Introduction to Japanese Literature					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE112・DLE112・HLE112・CLE112	卒業認定方針との関連		①④
<b>【到達目標】</b>						
現代日本の児童文学作品を通時的・共時的に概観し、児童文学の変化を考察し、マンガやアニメなどの他ジャンルとの関わりにも目を配り、児童文学というジャンルの可能性について検討する授業である。						
現代児童文学の状況とその作品に関心を持ち、分析するための基本的な知識を得ることを目標とする。また、関わりのある他ジャンルにも視野を広げ、起こっている現象や問題に意識的になり、自分なりの解釈・分析をできるようにすることを目指す。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
現代児童文学の状況とその作品について		背景やジャンルなども含め総合的に説明できる。	基本的な知識を説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
関心を持つ作品について		自分なりの解釈・分析ができる。	先行論をもとにした解釈・分析ができる。	先行論の理解はできる。		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 ガイダンス</b>			<b>第9回 1990年代の児童文学 アジアン・ファンタジー2</b>			
【到達目標】 教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。 明治から昭和までの児童文学の歴史を学ぶ。			【到達目標】 1990年代の児童文学としてアジアン・ファンタジーの隆盛について学ぶ。『月の影 影の海』を取り上げる。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 童話伝統批判</b>			<b>第10回 ボーダーレス化する児童文学</b>			
【到達目標】 『少年文学宣言』と『子どもと文学』について学び、それまでの児童文学観との違いを理解する。			【到達目標】 1990年代に広がったボーダーレスな作品について学ぶ。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 現代児童文学の誕生</b>			<b>第11回 作品を分析する1</b>			
【到達目標】 現代児童文学のはじまりとされる『だれも知らない小さな国』について学ぶ。			【到達目標】 『デューク』を取り上げ、作品を詳細に分析する。ドラマ版を視聴し、他者の解釈を学ぶ。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 1960年代の児童文学</b>			<b>第12回 作品を分析する2</b>			
【到達目標】 1960年代の児童文学として『龍の子太郎』を取り上げ、創作民話について理解する。			【到達目標】 『西の魔女が死んだ』を取り上げ、作品のテーマについて考える。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 1970年代の児童文学</b>			<b>第13回 作品を分析する3</b>			
【到達目標】 1970年代の児童文学として『屋根裏の遠い旅』を取り上げ、「反・行きて帰りし物語」となっている構成について学ぶ。			【到達目標】 『西の魔女が死んだ』を取り上げ、作品のモチーフを分析する。映画版を視聴し、他者の解釈を学ぶ。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 タブーの崩壊</b>			<b>第14回 児童文学とメディアミックス</b>			
【到達目標】 1970年代後半から80年代にかけて起こった「タブーの崩壊」という現象について理解する。その作品の一つとして「デブの四、五日」を取り上げる。			【到達目標】 『DIVE!!』を取り上げ、近年盛んに行われているメディアミックスについて考える。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 1980年代の児童文学</b>			<b>第15回 まとめ</b>			
【到達目標】 1980年代の児童文学作品として『ズッコケ三人組』を取り上げ、エンターテインメントについて理解する。			【到達目標】 これまで扱った作品を振り返り、自分なりの解釈・分析をする。			
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)			
<b>第8回 1990年代の児童文学 アジアン・ファンタジー1</b>						
【到達目標】 1990年代の児童文学としてアジアン・ファンタジーの隆盛について学ぶ。『空色勾玉』を取り上げる。						
【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<b>【対面授業の場合】</b>						
・毎時間、授業内で小レポート（作品の感想）を課す。その提出をもって出席とみなす。						
・読み書きの自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。						
・小テスト、最終レポートを課す。						
<b>【オンライン授業の場合】</b>						
・動画配信の授業とする。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
教科書 授業時にレジュメを配布する。取り上げる作品のダイジェストを配布するが、できる限り事前に作品全体に目を通してから授業に臨んでほしい。						
参考書 授業時に適宜紹介する。						
<b>【成績評価方法】</b>						
<b>【対面授業の場合】</b>						
・毎回の課題提出(30%)・小テスト(20%)、最終レポート(50%)						
<b>【オンライン授業の場合】</b>						
・毎回の課題提出(オンライン実施30%)・小テスト(オンライン実施20%)、最終レポート(オンライン実施50%)						

<b>科目名</b>	音楽の世界			<b>担当者</b>	森 立 子		
<b>英文名</b>	The World of Music						
<b>単位数</b>	2	<b>科目区分・必修 ／選択の区別</b>	<b>スポーツ科学科</b>	<b>ダンス学科</b>	<b>健康スポーツ学科</b>	<b>子ども運動学科</b>	
<b>履修年次</b>	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
<b>授業形態</b>	講義	<b>科目ナンバー</b>	SLE113・DLE113・HLE113・CLE113	<b>卒業認定方針との関連</b>		④⑤	
<b>【到達目標】</b> 西洋音楽の基礎的知識を学びつつ、さらに世界のさまざまな音楽にも視野を広げ、音楽と現代社会がどのように関わっているのか、あるいは関わりうるのかについて考察を進める。履修者は、解説された事項を理解するとともに、音楽と社会との関わりについて自分自身の体験にも照らしながら論じることが求められる。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
<b>学修内容</b>		<b>理想的な到達レベル</b>		<b>標準的な到達レベル</b>		<b>未到達レベル</b>	
音楽の基礎的知識について		授業で扱った概念をすべて自分の言葉で説明できる		それぞれの概念の意味するところを事典などを参考にしながら理解することができる		それぞれの概念の意味が理解できない	
音楽と社会との関わりについて		自分独自の方法論で分析ができる		授業で説明された分析が理解できる		授業で説明された分析が理解できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 序説～人間と音楽</b> 【到達目標】 人間は音楽をどのような場面で必要とし、またどのように音楽と関わってきたのか。いくつかの例を基に考察する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				<b>第9回 音階とは何か</b> 【到達目標】 音階の定義を学び、異なる音階に基づく音楽がもたらす聴覚的効果について理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
<b>第2回 さまざまな楽器(1)</b> 【到達目標】 楽器の分類法について学び、体鳴楽器、気鳴楽器について理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				<b>第10回 音楽と記録(1)</b> 【到達目標】 さまざまな種類の楽譜とその用途について理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
<b>第3回 さまざまな楽器(2)</b> 【到達目標】 弦鳴楽器、電鳴楽器について理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				<b>第11回 音楽と記録(2)</b> 【到達目標】 録音、再生技術の歴史について理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
<b>第4回 声(1)</b> 【到達目標】 歌唱における各種の発声法について理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				<b>第12回 西洋音楽の歴史(1)</b> 【到達目標】 西洋音楽史の時代区分を確認し、バロック時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
<b>第5回 声(2)</b> 【到達目標】 西洋音楽の声種について、その実例を鑑賞しながら理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				<b>第13回 西洋音楽の歴史(2)</b> 【到達目標】 古典派、ロマン派時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
<b>第6回 音楽材としてのノイズ</b> 【到達目標】 ノイズを素材としていかに音楽を構成することが出来るのか、実例を鑑賞しながら考察する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				<b>第14回 西洋音楽の歴史(3)</b> 【到達目標】 近代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
<b>第7回 環境と音楽(1)</b> 【到達目標】 「環境音楽」の歴史的展開について理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)				<b>第15回 日本における西洋音楽の受容</b> 【到達目標】 日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)			
<b>第8回 環境と音楽(2)</b> 【到達目標】 「サウンド・スケープ」の理念とその実践例について理解する。  【授業時間外学習】 授業時に指定した音楽の視聴。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> パワーポイントを用いて要点を示しながら、詳細を口頭で説明する形で講義を進める。音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席をしないことが大前提となる。なお、各授業時にコメントカードの提出を求める。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。また提出されたコメントの内容を踏まえて、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。受講に際して音楽の知識の有無は問わないが、課題に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と参考動画である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし6日間掲載する。毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課し、このミニ・レポートの提出をもって出席とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 授業の際に随時紹介する。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 各授業回で課すコメントカードの内容60%、学期末レポート40%の割合で評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回で課すミニ・レポート60%、学期末レポート40%の割合で評価する。							

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山新		
英文名	Gender Issues						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE211・DLE211・HLE211・CLE211	卒業認定方針との関連		③④	
【到達目標】							
本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせて、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ジェンダーに関する基礎的知識		知識を理解し、現実社会の課題の理解に応用できる		知識について、配布資料等を参照しながら説明することができる		知識を十分に説明できない	
スポーツ場面におけるジェンダー課題について		課題について理解し、それについての自らの意見を述べることができる		課題について理解し、配布資料等を参考に意見を述べるができる		課題の理解が不十分で、意見を述べるできない	
教育場面におけるジェンダー課題について		課題について理解し、それについての自らの意見を述べるができる		課題について理解し、配布資料等を参考に意見を述べるができる		課題の理解が不十分で、意見を述べるできない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 インTRODクシヨソ				第9回 近代スポーツとジェンダー			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。 (2)ジェンダー・ギャップ指数(GGI)を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。 (3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。				(1)「近代スポーツ」の概念を理解する。 (2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。 (3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの歴史とその意義を把握する。			
【授業時間外学習】授業内で提示するジェンダー・ギャップ指数のレポートを閲覧し、日本が特に経済と政治の分野で女性の参画が少ない状況を詳細に把握する。(4.0hr)				【授業時間外学習】授業内容のうち、「プライド宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。(4.0hr)			
第2回 フェミニズムの歴史				第10回 保健体育科教育とジェンダー			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。 (2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。 (3)現代における男性とフェミニズムの関係を理解する。				(1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。 (2)保健体育科教員の男女比の偏りがもたらす問題について理解する。 (3)競技スポーツに偏っている体育のカリキュラムに対するオルタナティブを考える。			
【授業時間外学習】授業内で提示する参考文献のうち、男性学に関する文献を読み、現代のフェミニズムの特徴を理解する。(4.0hr)				【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、保健体育科教育におけるジェンダー問題を理解し、解決するための方法を検討する。(4.0hr)			
第3回 男女共同参画社会ってなんですか				第11回 セクシュアル・マイノリティと学校教育			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。 (2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。 (3)スポーツ場面における男女共同参画に関する取り組みを知る。				(1)セクシュアル・マイノリティと学校をめぐる近年の社会的動向を把握する。 (2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。			
【授業時間外学習】内閣府男女共同参画局HPより、第5次男女共同参画基本計画の説明資料を閲覧し、どのような分野でどのような課題があるのかを調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、教員やスポーツの指導者としてセクシュアル・マイノリティ当事者への配慮のありかたを考える。(4.0hr)			
第4回 セクシュアル・マイノリティの基礎知識				第12回 スポーツにおけるセクシュアル・マイノリティ			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)人間の「性」の多様性と多層性について理解する。 (2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。 (3)当事者の仲間としてできること、大切にすべきことを理解する。				(1)セクシュアル・マイノリティとスポーツをめぐる世界的な動向を把握する。 (2)スポーツにおけるホモフォビアの存在とその現状を理解する。 (3)日本スポーツ協会による指導者への啓発・情報提供の取組の概要を知る。			
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように描かれているかを調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】授業内で提示する日本スポーツ協会のハンドブックを読み、授業内容とあわせ、指導者として知っておくべき事柄を理解する。(4.0hr)			
第5回 「リアリティ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方				第13回 メディアとスポーツとジェンダーと			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。 (2)性感染症の現状について理解する。 (3)アスリートと生理に関する課題と社会的な動向について知る。				(1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。 (2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。 (3)メディアコンテンツの分析ツールについて知る。			
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、厚生労働省のWebサイトに掲載されている性感染症に関する情報を閲覧し、正確な知識と情報を得る。(4.0hr)				【授業時間外学習】『データでみるスポーツとジェンダー』の「第7章スポーツメディアとジェンダー」を読み、メディアにおけるジェンダー問題の具体例を理解する。(4.0hr)			
第6回 実は身近なデートDV				第14回 スポーツと人権			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)デートDVの構造と実態を理解する。 (2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。 (3)「ピア・サポート」の概要と重要性を理解する。				(1)トランスジェンダーのアスリートの競技参加に伴う課題を知る。 (2)DSDs(性分化疾患)のアスリートの競技参加に伴う課題を知る。			
【授業時間外学習】授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。(4.0hr)				【授業時間外学習】トランスジェンダーのアスリートの競技参加に関するIOCのルールについて、その変遷をまとめる。(4.0hr)			
第7回 スポーツ・ジェンダー学という世界				第15回 日常生活世界に見るジェンダー			
【到達目標】				【到達目標】			
(1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。 (2)ジェンダーの視点でスポーツを捉え直す時に見えてくる課題について知る。 (3)オリンピックへの女性の参加の歴史について知る。				(1)スポーツ界特有のセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。 (2)クオータ制の概要と、政治や学術などの場面におけるその必要性を理解する。 (3)育児休業の期間や取得率の男女差、育休後の女性の復職率などの実態を知る。			
【授業時間外学習】あらかじめ『よくわかるスポーツとジェンダー』の「1総論」を自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。(4.0hr)				【授業時間外学習】授業内で提示する男女共同参画白書令和5年版(Web版)の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。(4.0hr)			
第8回 女子ボクシングの昨日・今日・明日							
【到達目標】							
(1)日本における女子ボクシングの現状を知る。 (2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。 (3)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。							
【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】							
パワーポイントを提示しながらの講義形式で行います。必要に応じ、映像資料等も使用する予定です。毎時間ハンドアウトを配布します。授業内容を理解するためには、単なるハンドアウトの穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。また、理解度を確認するためのリアクションペーパーを複数回提出してもらいます。リアクションペーパーの内容については、次回以降の授業で一部を共有し、解説によるフィードバックを行います。							
【オンライン授業の場合】							
オンデマンド方式で実施します。形式は対面授業の場合と同様です。動画と配布資料をポータルサイトのGoogle Drive上にアップします。対面授業のスケジュールに基づき、前日の17時にアップし、1週間掲載する予定です。出席はポータルサイトの「この呼出・連絡を読みました」ボタンを押すことによって確認します。							
【教科書・参考書など】							
教科書 特指定しない。 参考書 『よくわかるスポーツとジェンダー』飯田貴子・熊安貴美江・来田草子著(2018)ミネルヴァ書房、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著(2016)八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江著(2013)ミネルヴァ書房							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】							
リアクションペーパー30%、期末試験70%で評価する。※試験は試験期間中に別途実施する。							
【オンライン授業の場合】							
理解度を確認するためのリアクションペーパーに代わるミニレポート3回と、全授業回終了後にまとめるレポートを実施する。リアクションペーパー30%、まとめるレポート70%で評価する。							

科目名		コンピュータ実践演習		担当者	水野有希		
英文名		Lecture and Practice in Information and Communication Technology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE212・DLE212	HLE212・CLE212	卒業認定方針との関連	②③④	
<b>【到達目標】</b> 会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、画像処理、関数の応用やデータベース操作を身に付け、ホームページや資料作成などの様々な手法による情報発信技術について学びます。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
情報技術や情報倫理の基本的事項		情報発信を通して、情報の科学的な見方・考え方を自ら説明できる。		情報の科学的な見方・考え方を、資料等を参考に説明できる。		情報の科学的な見方・考え方の理解が不十分で説明できない。	
情報発信技術の実践的活用に関する事項		Webやアプリを用いた情報発信と情報収集の技術を修得し、自ら説明できる。		資料等を参照してWebやアプリを用いた情報発信と情報収集の技術が説明できる。		情報発信・情報収集の技術の修得が不十分で説明できない。	
体育・スポーツ研究のための情報技術活用に関する事項		論文・プレゼン資料作成の高度なスキルを修得し、自ら説明できる。		論文・プレゼン資料作成に必要なスキルを修得し、資料等を参考に説明できる。		論文・プレゼン資料作成に必要なスキルの修得が不十分で説明できない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 情報技術について</b> <b>【到達目標】</b> (1)情報技術とは何かを理解する。 (2)情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第9回 クラウドの活用：アンケート調査の基礎</b> <b>【到達目標】</b> (1)GoogleDriveを利用したアンケートの作成、集計技術を理解する。 (2)アンケートの質問項目に関する作成手順や注意事項を理解する。 (※グループワークを行います)  <b>【授業時間外学習】</b> アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)			
<b>第2回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について</b> <b>【到達目標】</b> (1)インターネットの仕組みを理解する。 (2)インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3)情報についてのマナー、セキュリティー、プライバシー、知的財産権について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 クラウドの活用：アンケート調査の応用</b> <b>【到達目標】</b> (1)クラウドを用いたデータ集計やデジタルデータの扱い方を理解する。 (2)回収したデジタルデータの整理方法について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 レポート・論文作成の基礎</b> <b>【到達目標】</b> (1)レポートや論文の体裁や作成の注意点などを理解する。 (2)長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 データベースの基本操作</b> <b>【到達目標】</b> (1)データベースとは何かについて学ぶ。 (2)質的データと量的データの違いを理解する。 (3)フィルターやピボットの操作について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 レポート・論文作成の応用</b> <b>【到達目標】</b> (1)注釈、図表番号、目次の作成技術を学ぶ。 (2)レポートや論文に添付する抄録や要約について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第12回 グラフの作成</b> <b>【到達目標】</b> (1)基本的なグラフについて復習し、グラフの応用技術を学ぶ。 (2)目的に応じた、効果的なグラフの作成について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 スライドデザインの技術</b> <b>【到達目標】</b> (1)見やすい、わかりやすい、訴求力の高い資料作成について学ぶ。 (2)画像処理アプリケーションソフトについて学び、効果的な資料作成技術を修得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 Excelの上級</b> <b>【到達目標】</b> (1)Excel関数の応用(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2)データの特徴を捉えるためのデータ整理技術や簡単な統計処理について学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 ホームページ作成の基礎</b> <b>【到達目標】</b> (1)Googleサイトを利用したホームページの作成技術を理解する。 (2)ホームページ作成におけるマナーや問題点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)				<b>第14回 資料作成の基礎</b> <b>【到達目標】</b> (1)officeアプリを互換し、資料(報告書)を作成する。 (2)既存の情報(公的機関、論文など)を活用した効果的な資料作成技術を修得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 ホームページ作成の実践</b> <b>【到達目標】</b> (1)画像データの編集技術について学ぶ。 (2)ホームページを作成・公開までの一連の作業を修得する。  <b>【授業時間外学習】</b> さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)				<b>第15回 資料作成の応用</b> <b>【到達目標】</b> (1)TP0に応じた資料作成技術を習得する。 (2)情報発信方法について「振り返り」をして、効果的な情報発信技術を学ぶ。 (※プレゼンをし、評価および振り返りを行います)  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 クラウドについて</b> <b>【到達目標】</b> (1)GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。 (2)クラウドを活用するメリット・デメリットを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 本日の授業内容の復習と次回授業のアンケート項目を考える。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 1年生に行った情報処理Ⅰ・Ⅱの知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。 <b>【対面授業の場合】</b> 講義は情報処理実習室で授業を実施します。毎回授業時に関連した課題を提出してもらいます。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は一部変更(グループワークやプレゼン)がありますが、ほぼ同じ内容で進みます。配信される資料はスライド、授業資料、解説動画とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認します。なお、課題の遂行にはMicrosoft Officeが使用できるデバイスを所有していることが条件です。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 資料を配付します。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 毎回行われる確認課題(講義中に提出)40%、HP・グループワーク課題(第7,9回)20%、最終レポート40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 毎回行われる確認課題(第1回～第14回)60%、資料の評価+最終レポート(第15回)40%として評価します。確認課題や最終レポートは、指定された期日までに提出してください。							

科目名	人間生活と地球環境			担当者	鈴木信夫		
英文名	Human life and Earth Environment						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE114・DLE114・HLE114・CLE114		卒業認定方針との関連	④	
<b>【到達目標】</b> 環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
原始地球の形成と、環境の変化に関して		理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。		基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
生物の出現にともなう地球環境の変化に関して		理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。		基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
人類誕生後、人間が他の生物に与えてきた影響について		理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。		基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)				<b>第9回 温室効果ガス</b> <b>【到達目標】</b> 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等で京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べる。(4.0hr)			
<b>第2回 原始地球の環境(1)</b> <b>【到達目標】</b> 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)				<b>第10回 崩れる生態系</b> <b>【到達目標】</b> 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等で外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。(4.0hr)			
<b>第3回 原始地球の環境(2)</b> <b>【到達目標】</b> 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等でカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>第11回 リサイクル法(1)</b> <b>【到達目標】</b> 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでドイツのゴミリサイクルに関する現状(問題点)を調べる。(4.0hr)			
<b>第4回 恐竜の絶滅</b> <b>【到達目標】</b> 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>第12回 リサイクル法(2)</b> <b>【到達目標】</b> 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等で自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べる。(4.0hr)			
<b>第5回 人為圧による野生生物の絶滅</b> <b>【到達目標】</b> 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやリョウコウバトの絶滅を例に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等でドードー・リョウコウバト以外の絶滅動物について調べる。(4.0hr)				<b>第13回 リサイクル法(3)</b> <b>【到達目標】</b> 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ネット等で日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べる。(4.0hr)			
<b>第6回 酸性雨</b> <b>【到達目標】</b> 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べる。(4.0hr)				<b>第14回 環境監査(1)</b> <b>【到達目標】</b> 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。(4.0hr)			
<b>第7回 水問題</b> <b>【到達目標】</b> 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>第15回 環境監査(2)</b> <b>【到達目標】</b> EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。(4.0hr)			
<b>第8回 温室効果ガス</b> <b>【到達目標】</b> 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。定期的に授業内容に関する小レポートを作成し、授業の理解度を確認する。結果については、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回のパワーポイントと補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に使用せず、プリントを配布(オンデマンドの場合は、Pholly上にPDF資料をアップ)する。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 小レポートの達成度を100%として評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	ヨーロッパの文学と文化			担当者	加賀岳彦		
英文名	European Literature and Culture						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE115・DLE115・HLE115・CLE115	卒業認定方針との関連		④	
【到達目標】							
ヨーロッパの文学は、日本をも含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ヨーロッパの歴史の時系列的な流れ		時系列的な流れを理解し説明できる		時系列的な流れをノート等を参照しながら理解し説明できる		時系列的な流れの理解が不十分で説明できない	
各時代におけるヨーロッパ文学の特徴		各時代の文学の特徴を理解し説明できる		各時代の文学の特徴をノート等を参照しながら理解し説明できる		各時代の文学の特徴の理解が不十分で説明できない	
授業で学習したヨーロッパの文化的な諸側面		諸側面を理解し説明できる		諸側面をノート等を参照しながら理解し説明できる		諸側面の理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観</b> 【到達目標】 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第9回 ヨーロッパ中世の文学</b> 【到達目標】 ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話</b> 【到達目標】 ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第10回 ルネサンスの文学①</b> 【到達目標】 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何なのかを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学①</b> 【到達目標】 ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第11回 ルネサンスの文学②</b> 【到達目標】 前回到続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学②</b> 【到達目標】 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第12回 宗教改革</b> 【到達目標】 宗教改革(Reformation)は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学</b> 【到達目標】 その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第13回 ヨーロッパ近代の文学①</b> 【到達目標】 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。主にディケンズの作品を扱う。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 ユダヤ=キリスト教① 『旧約聖書』</b> 【到達目標】 ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第14回 ヨーロッパ近代の文学②</b> 【到達目標】 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱って表現していったのか、その特徴を理解する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 ユダヤ=キリスト教② 『新約聖書』</b> 【到達目標】 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)				<b>第15回 ヨーロッパの現代文学</b> 【到達目標】 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 ヨーロッパ中世の文化</b> 【到達目標】 ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。  【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
<b>【対面授業の場合】</b> 授業時に配布する資料・テキストをしっかりと読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。  <b>【オンライン授業の場合】</b> 上記の内容をオンデマンド方式で行う。毎回、テキスト・資料・動画がオンラインで配信され、受講生はそれらを用いて毎回のテーマを学習し、レポート・課題を期限まで提出することになる。							
【教科書・参考書など】 授業時に資料集を配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。							
【成績評価方法】							
<b>【対面授業の場合】</b> 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。							

科目名	レクリエーションミュージック・合奏		担当者	今角夏織		
英文名	Recreation music (Ensemble)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE116・DLE116・HLE116・CLE116		卒業認定方針との関連	④⑤
【到達目標】 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
楽譜についての基礎的な知識について		自ら楽譜を読み、演奏することができる。	楽譜を読み解く際、教員のサポートを得ながら演奏することができる。	楽譜を用いて演奏することが出来ない。		
合奏への参加方法・演奏の習熟		自分の担当する楽器の、その曲における役割を理解し、音楽に対して創意工夫が出来る。	楽器の正しい扱いや発音の原理を理解し、演奏に参加出来る。	楽器の演奏方法を習得できず、合奏に参加出来ない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入 【到達目標】 基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。  【授業時間外学習】 楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			第9回 ボディーパーカッション② 【到達目標】 グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。  【授業時間外学習】 第8回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			
第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル 【到達目標】 校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。  【授業時間外学習】 校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)			第10回 ボディーパーカッション③(発表)/楽譜の基礎知識② 【到達目標】 第9回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。  【授業時間外学習】 第9回で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル① 【到達目標】 プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。  【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)			第11回 リコーダー選指③/トーンチャイム導入 【到達目標】 リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。  【授業時間外学習】 これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。(4.0hr)			
第4回 身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入 【到達目標】 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。  【授業時間外学習】 リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)			第12回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム① 【到達目標】 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。  【授業時間外学習】 トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			
第5回 身近なものを使ったアンサンブル③(発表)/リコーダー選指① 【到達目標】 グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。  【授業時間外学習】 学習したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)			第13回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー① 【到達目標】 トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。  【授業時間外学習】 リコーダーの奏法；タンギングの復習をする。(4.0hr)			
第6回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ① 【到達目標】 各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。  【授業時間外学習】 打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)			第14回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー② 【到達目標】 トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。  【授業時間外学習】 担当するパートの復習をする。(4.0hr)			
第7回 楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②(発表) 【到達目標】 カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。  【授業時間外学習】 第6回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			第15回 リコーダー&トーンチャイム(発表) 【到達目標】 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。  【授業時間外学習】 第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)			
第8回 ボディーパーカッション①/リコーダー選指② 【到達目標】 身体を打ち鳴らして出る様々な音を発音する。リコーダーで1オクターブの音域を使って演奏する。  【授業時間外学習】 リコーダーの運指を復習する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。 各回に提出された課題に対してコメントをする形で取り組みに対する評価を行う。 【オンライン授業の場合】 教科書の特性上、オンライン形式での授業は不可能であるため、状況によって90分授業を45分ずつに分け、学生の登校を分散させた上での授業を実施する。 その際はプリント等で課題を配布し評価する。						
【教科書・参考書など】 適宜楽譜を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。						

科目名	保育・教育心理学			担当者	倉盛美穂子		
英文名	Developmental and Educational Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR101		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b>							
(1)ヒトの生涯に渡る心身の発達・学習に関する基礎的な知識を身につける。 (2)乳幼児期を中心に、各発達段階の心理的特性を踏まえた教育や養護の基礎となる考え方を理解する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	学習に関する理論や考え方に関する理解	学習に関する理論や考え方を理解し、具体例をえながら説明できる	学習に関する理論や考え方を理解し、説明できる	学習に関する理論や考え方を理解が不十分で、説明することが難しい			
	乳児期～児童期に関する発達に関する理解	乳児期～児童期に関する発達特徴を理解し、具体例を交えながら説明できる	乳児期～児童期に関する発達特徴を理解し、説明できる	乳児期～児童期に関する発達特徴の理解が不十分で、説明することが難しい			
	知見に基づいた教育や養護のあり方の理解	知見に基づいた教育や養護のあり方を理解し、具体例を交えながら説明できる	知見に基づいた教育や養護のあり方を理解し、説明できる	知見に基づいた教育や養護のあり方の理解が不十分で、説明することが難しい			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 保育・教育心理学について学ぶ意味</b> 【到達目標】 (1)実践と理論の往還について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第9回 記憶(2)</b> 【到達目標】 (1)記憶のプロセスについて理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 保育は子どもの何を育てるのか?</b> 【到達目標】 (1)主体としての心を育むためのかわりについて理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 メタ認知</b> 【到達目標】 (1)学習を振り返り、コントロールする意義について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 人はいかに学ぶか(1)</b> 【到達目標】 (1)学習に関する理論(行動主義、認知主義)を理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 学びの評価</b> 【到達目標】 (1)保育・教育実践や子どもの学びを評価する際の視点やバイアスについて理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 人はいかに学ぶか(2)</b> 【到達目標】 (1)学習に関する理論(社会的構成主義)について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第12回 集団の捉え方</b> 【到達目標】 (1)集団心理について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 人はいかに学ぶか(3)</b> 【到達目標】 (1)学習に関する理論(状況論)について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 インクルーシブ教育の考え方と新しい障害観</b> 【到達目標】 (1)インクルーシブ教育の考え方を理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 やる気について(1)</b> 【到達目標】 (1)内発的動機づけと外発的動機づけについて説明できる。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第14回 乳幼児期・児童期の発達</b> 【到達目標】 (1)乳幼児期・児童期の発達特徴について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第7回 やる気について(2)</b> 【到達目標】 (1)動機づけを阻害するものを理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第15回 青年期の発達</b> 【到達目標】 (1)青年期の発達特徴について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 記憶(1)</b> 【到達目標】 (1)記憶のメカニズムについて理解する。 (2)知識の種類やその性質について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義ではパワーポイントを用いて、要点を説明する。パワーポイントの内容は、購入する教科書に準拠したものである。受講者は講義を聞きながらメモを取ったり、教科書に書き込んだりしながら、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料を配布する。受講者の子ども理解を促すために、映像教材を適宜使用する。質問は適宜受け付け、次の授業冒頭で全員で共有する。授業後、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。受講者は、毎授業後、課題提出(講義で提示された心理学用語を説明する)をすること。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンライン授業になった場合は、オンデマンド方式で授業を行う。出席は、毎授業後の課題提出によって確認する(Pholly)。課題の提出とともに、授業内容についての質問や感想を積極的に言うことを推奨する(質問への解答は当該学生にフィードバックしたり、全員で共有したほうがよい質問や感想は次週授業内容に反映させます)。動画は、授業日9時に本学ポータルサイトにアップし、一週間掲載する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 「絶対役立つ教育心理学 実践の理論、理論を実践」藤田哲也・編(ミネルヴァ書房)							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】毎授業後の課題提出 50%、期末試験 50% 【オンライン授業の場合】毎授業後の課題提出 50%、期末試験 50%							

科目名	社会福祉			担当者	雨宮由紀枝		
英文名	Social Welfare						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR102		卒業認定方針との関連	⑧	
<b>【到達目標】</b>							
子ども家庭支援を行う専門職として必要な社会福祉の考え方、社会福祉法制度、社会福祉実践について学ぶことを目的とする。 我が国では少子高齢化が加速的に進み、多様な生活問題のリスクが増えつつある。社会福祉は、すべての人が生きていく上で必ず利用する制度やサービスである。ライフステージに応じた生活問題とその支援について、基本的知識を習得することをねらいとする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
社会福祉の法制度や実施体制の習得について		法制度や実施体制を十分理解し、説明できる		法制度や実施体制を、資料を参照しながら説明できる		社会福祉の法制度や実施体制の理解が不十分で、説明できない	
社会福祉の動向と課題の理解と、課題解決に向けた論理的思考について		動向や課題について十分理解し、課題解決に向け、論理的に考えることができる		動向や課題について理解し、課題解決に向け、ある程度論理的に考えることができる		動向や課題の理解が不十分で、課題解決に向け、論理的に考えることができない	
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について		社会福祉の理論・方法を十分理解し、専門職としての確かな説明と意見表明ができる		社会福祉の理論・方法を理解し、専門職としての確かに説明できる		社会福祉の理論・方法の理解が、専門職として不十分で、的確に説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 社会福祉の意義、理念、歴史</b> <b>【到達目標】</b> (1)現代社会における社会福祉の意義、理念を理解する。 (2)社会福祉の歴史の変遷を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)				<b>第9回 母子保健・医療福祉</b> <b>【到達目標】</b> (1)母子保健施策の概要を理解する。 (2)保育・教育・療育・保健・医療等の連携について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第2回 子ども家庭支援と社会福祉（1）少子高齢化社会</b> <b>【到達目標】</b> (1)少子高齢化の進行をめぐる社会の変容について理解する。 (2)少子高齢化社会における子育て支援に関する今後の課題を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)				<b>第10回 地域福祉・ボランティア活動</b> <b>【到達目標】</b> (1)在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 (2)ボランティア活動、NPO活動の役割を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第3回 子ども家庭支援と社会福祉（2）現代の生活問題</b> <b>【到達目標】</b> (1)子ども家庭をめぐる現代の生活問題とその支援について、多角的に理解する。 (2)日常的に社会福祉の動向と課題を捉え、主体的に考察できる。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)				<b>第11回 利用者保護制度</b> <b>【到達目標】</b> (1)情報提供と第三者評価について理解する。 (2)利用者の権利擁護と苦情解決について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第4回 社会福祉の制度と実施体系</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会福祉の制度と法体系を理解し、概要を説明できる。 (2)社会福祉行政、実施機関、社会福祉施設等を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)				<b>第12回 社会福祉における相談援助</b> <b>【到達目標】</b> (1)相談援助の意義と原則について理解する。 (2)相談援助の方法と技術について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第5回 社会福祉と子ども家庭福祉</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会福祉と子ども家庭福祉の関係性について理解する。 (2)社会福祉と子どもの人権擁護、子ども家庭支援との関係性について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)				<b>第13回 社会福祉の専門職</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会福祉の専門職・実践者について理解する。 (2)社会福祉専門職としての保育士について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第6回 社会保障・公的扶助</b> <b>【到達目標】</b> (1)社会保障の概要を理解する。 (2)生活保護制度について理解する。 (3)生活困窮者自立支援制度について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)				<b>第14回 これからの社会福祉の課題</b> <b>【到達目標】</b> (1)在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 (2)社会福祉の今後の課題を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第7回 障害者福祉</b> <b>【到達目標】</b> (1)インクルージョン、共生社会、合理的配慮等の障害者福祉の理念を理解する。 (2)障害者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)				<b>第15回 諸外国の動向</b> <b>【到達目標】</b> (1)諸外国の社会福祉の動向を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
<b>第8回 高齢者福祉</b> <b>【到達目標】</b> (1)高齢者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。 (2)介護保険制度について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 新聞やTVのニュース報道を適宜取り上げ、現代社会に実際に起こっている生活問題をテーマにディスカッションを進めていく。日頃から、社会の動きを敏感にキャッチする感性を養っておくことが大切である。自身の生活と結びつけながら福祉関連問題を理解し、子ども家庭支援を行う専門職として必要な基礎知識を身につけてほしい。 パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b>							
各回の授業時での小レポート課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。期末に試験を行う。							
<b>【オンライン授業の場合】</b>							
各回の小レポート課題により評価を行う。							

科目名	子どもの運動発達			担当者	森田陽子		
英文名	Development of Children's Movement						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR103		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b>							
子どもの誕生から就学前までの発育に伴う運動発達を、運動学的な観点から捉えて学習する。子どもの体力低下が問題視されている現在、幼稚園教諭や保育士等にとって必要な子どもの運動に関する知識や、子どもたちが自ら運動発生させられる環境について理解し、実践できるよう学習する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	子どもの運動発達の基礎的事項・理論について	子どもの運動発達の基礎的事項・理論について説明できる。	子どもの運動発達の基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	子どもの運動発達の基礎的事項・理論について説明できない。			
	子どもの運動発達の応用的事項・理論について	子どもの運動発達の応用的事項・理論について説明ができる。	子どもの運動発達の応用的事項・理論について授業資料を参照しながら説明ができる。	子どもの運動発達の応用的事項・理論について説明ができない。			
	子どもの運動発達の現代的な課題について	子どもの運動発達の現代的な課題について、今後の方向性の理解ができる。	子どもの運動発達の現代的な課題について理解ができる。	子どもの運動発達の現代的な課題について理解ができない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 近年の子どもたちの状況</b> 【授業時間外学習】 (1)近年の子どもたちの育ちに見る変化と実態を理解する。 (2)乳幼児期とはどのような時期なのかを理解する。  【授業時間外学習】 近年の子どもたちの状況についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第9回 運動指導のポイント3（環境を工夫する、安全を考える）</b> 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、運動にふさわしい環境、安全についての基本的な考え方を理解する。  【授業時間外学習】 環境の工夫、安全について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第2回 運動とは何か1（運動能力の低下からみえてくるもの）</b> 【到達目標】 運動能力の低下からみえてくる幼児期の運動の在り方や、運動能力検査から見た課題を知り、運動がなぜ幼児に必要かということを理解する。  【授業時間外学習】 運動能力の低下からみえてくるものについて、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第10回 運動指導のポイント4（援助の仕方を考える）</b> 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、子どもの特性に合った援助の仕方を理解する。  【授業時間外学習】 援助の仕方について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第3回 運動とは何か2（運動することで期待できる効果）</b> 【到達目標】 運動がなぜ幼児に必要かという観点から、運動することで期待できる効果について理解する。  【授業時間外学習】 運動することで期待できる効果について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第11回 運動指導のポイント5（遊びの変化や発展を考える）</b> 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、子どもの遊びの変化や発展を理解する。  【授業時間外学習】 遊びの変化や発展について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第4回 遊びと運動1（生活としての運動）</b> 【到達目標】 遊びと運動の観点から、生活としての運動とはどういうことを意味するのかを知る。また、子どもの生活と運動との関連について理解する。  【授業時間外学習】 生活としての運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第12回 運動にかかわる現代的課題1（幼小の連携、家庭との連携）</b> 【到達目標】 運動にかかわる現代的課題の観点から、幼小の連携、家庭との連携における課題を理解する。  【授業時間外学習】 幼小の連携、家庭との連携について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第5回 遊びと運動2（遊びの中の運動）</b> 【到達目標】 遊びと運動の観点から、遊びの中の運動、運動と遊びについて理解する。  【授業時間外学習】 遊びの中の運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第13回 運動にかかわる現代的課題2（個人差のある場合の指導）</b> 【到達目標】 運動にかかわる現代的課題の観点から、個人差のある場合の指導について理解する。  【授業時間外学習】 個人差のある場合の指導について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第6回 遊びと運動3（動機づけと運動）</b> 【到達目標】 遊びと運動の観点から、動機づけと運動、特に子どもの運動遊びに関連した動機づけについて理解する。  【授業時間外学習】 動機づけと運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第14回 運動にかかわる現代的課題3（現代の子どもの運動）</b> 【到達目標】 運動にかかわる現代的課題の観点から、現代の子どもの運動について理解し、いかに運動的なアプローチをかけるかを理解する。  【授業時間外学習】 現代の子どもの運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第7回 運動指導のポイント1（運動量を考える）</b> 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、子どもの運動量について理解するとともに、生活の見直しという点にも目を向ける。  【授業時間外学習】 運動量について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第15回 保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者に必要な今後の方向性の理解</b> 【到達目標】 現場における運動指導を事例として挙げる。それについてこれまでの講義で理解したことを基に今後現場で必要とされる子どもの運動発達について考える。そこから保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者等に必要となる方向性を理解する。  【授業時間外学習】 第1回～第15回の学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 運動指導のポイント2（運動の質を考える）</b> 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、運動の質を考える。運動パターンのバリエーションを考え、運動指導の質を高める。  【授業時間外学習】 運動の質について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 保育現場において、子どもの体力不足に対応できる指導力を身につけた幼稚園教諭や保育士等が求められている。幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことができるよう学習する。 <b>【対面授業の場合】</b> 授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式での展開とする。授業内容については、授業回数に変更が出ても大幅な変更はしない。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 『幼児の体育—動きを通して心を育む』前橋明編著、建帛社（2017年） 『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、『幼児連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省厚生労働省、『保育所保育指針』（最新版）厚生労働省							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 授業の習熟度・理解度・課題提出50%、最終試験50%。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 毎回の課題提出50%、最終レポート50%。							

科目名	保育原理			担当者	百瀬ユカリ		
英文名	Principle of Child Care						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		科目ナンバー	CBR104		卒業認定方針との関連	⑦
授業形態	講義						
<b>【到達目標】</b>							
保育の意義及び保育の基本、子ども観の変遷や保育の思想の歴史的経緯と、保育所・幼稚園・認定こども園の成立の経緯や保育制度について理解している。また、子どもの最善の利益や子どもの権利保障、発達保障など保育の理念や保育の意義について、現代の子どもや子育てにかかわる課題を踏まえ説明できる。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
保育の意義、保育の基本(保育の原理)について	保育の意義、保育の基本、保育の原理について具体的に説明できる。	保育の意義、保育の基本、保育の原理について教科書等を参照しながら説明できる。	保育の意義、保育の基本、保育の原理について理解していない。	保育の意義、保育の基本、保育の原理について理解していない。			
保育の思想と歴史的変遷を学び、保育観・子ども観について	保育の思想及び歴史的変遷と保育観・子ども観について総合的に説明できる。	保育の思想及び歴史的変遷と保育観・子ども観について基本的な事項を説明できる。	保育の思想及び歴史的変遷と保育観・子ども観について基本的な事項を説明できない。	保育の思想及び歴史的変遷と保育観・子ども観について基本的な事項を説明できない。			
現代社会の保育の意義と課題について	保育制度成立の経緯について理解し、保育の現状、今日的課題を総合的に説明できる。	保育制度成立の経緯について理解し、保育の現状、今日的課題の基本的な事項を説明できる。	保育の現状、今日的課題を理解していない。	保育の現状、今日的課題を理解していない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 はじめに：「保育原理」のオリエンテーション</b> 【到達目標】 「保育」の意味を考え、「保育原理」で学ぶ全体像を理解している。  【授業時間外学習】 テキストの「はじめに」と「目次」を読み、保育原理の全体像を掴む。(4.0hr)				<b>第9回 保育をどのように考え、進めるべきか</b> 【到達目標】 保育所保育指針に学ぶ保育原理の考え方を理解している。  【授業時間外学習】 保育所保育指針の保育所保育の特性日本の保育施設が誕生する頃の時代背景を調べる。(4.0hr)			
<b>第2回 「保育」の意味を考える1</b> 【到達目標】 児童福祉法、児童憲章を視点として保育の意味を理解している。  【授業時間外学習】 テキストの児童福祉法、児童憲章を読み、保育の意味を考える。(4.0hr)				<b>第10回 保育所保育の内容</b> 【到達目標】 「保育内容」の構造とポイントを知り、「養護」と「教育」の一体化について理解している。  【授業時間外学習】 保育所保育指針を読み、保育内容への理解を深める。(4.0hr)			
<b>第3回 「保育」の意味を考える2</b> 【到達目標】 保育士の専門性とその修得に必要な学びについて理解している。  【授業時間外学習】 保育士に必要な専門性について確認する。(4.0hr)				<b>第11回 保育の計画と保育の質の向上</b> 【到達目標】 保育の計画の意義と保育の循環について理解している。  【授業時間外学習】 保育の計画について、どのような計画があるのかを調べる。(4.0hr)			
<b>第4回 保育の場について知る1</b> 【到達目標】 家庭における保育について、子育てをめぐる社会の変化を通して理解している。  【授業時間外学習】 子育てをめぐる社会の変化について資料を読み、家庭における保育の社会背景を考える。(4.0hr)				<b>第12回 多様化する保育ニーズ</b> 【到達目標】 多様化する保育形態、保育ニーズについて理解している。  【授業時間外学習】 多様化する保育ニーズについて調べる。(4.0hr)			
<b>第5回 保育の場について知る2</b> 【到達目標】 保育所保育についての意義及び目的を理解している。  【授業時間外学習】 保育所保育指針の保育所の役割を読み、改めて保育士の役割を考える。(4.0hr)				<b>第13回 保育者に求められる子育て支援</b> 【到達目標】 子育て支援の必要性とその実際を理解している。  【授業時間外学習】 地域子ども・子育て支援事業について調べ、概要について確認する。(4.0hr)			
<b>第6回 保育の場について知る3</b> 【到達目標】 幼稚園、認定こども園について、保育の意義及び目的を理解している。  【授業時間外学習】 幼稚園の現状、認定こども園の現状を調べ、最近の傾向を知る。(4.0hr)				<b>第14回 保育者のあり方を考える</b> 【到達目標】 社会状況の変化からみた保育者の存在について理解している。  【授業時間外学習】 自分の関心のある保育の時事問題について調べ、考えをもつ。(4.0hr)			
<b>第7回 保育の思想・歴史を学ぶ1</b> 【到達目標】 西洋における近代保育思想・歴史について理解している。  【授業時間外学習】 コメニウス・ルソー・フレーベル・ペスタロッチの保育思想を調べて確認する。(4.0hr)				<b>第15回 日本の保育の現状と課題</b> 【到達目標】 これまでの総括として、最近の保育問題について、社会的背景をもとに説明できる。  【授業時間外学習】 これまでに学んだ内容を整理し、再確認する。(4.0hr)			
<b>第8回 保育の思想・歴史を学ぶ2</b> 【到達目標】 日本における保育思想・歴史について理解している。  【授業時間外学習】 倉橋惣三の保育思想を調べて確認する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】教科書を中心に、必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら進める。毎時間配布する小レポートを作成し、復習に役立て、理解度の確認をすること。小レポートの内容は、次回の授業時にフィードバックを行う。保育原理は保育に関する基盤となる科目であり、自ら保育の全体像を描く努力をしてほしい。なお、理解度確認のため、授業内試験を行う。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減っても大幅な変更はしない。配信資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業の時間割と同一時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする（掲載期限はその都度確認のこと）。出席は各回の課題提出により確認する。							
<b>【実務経験のある教員による授業科目】</b>							
保育現場での実務経験のある教員が、さまざまな保育の場における保育の実態や、我が国における保育の現状と課題、保育思想と歴史、保育の意義や社会的役割について講義を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書：『新・保育原理[第4版]—すばらしき保育の世界へ—』三宅茂夫編（株式会社みらい） 参考書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針』（内閣府・文部科学省・厚生労働省） その他適宜参考資料を提示、配布する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】平常点(授業への参加度、授業内の小レポートを含む)及び課題提出により50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】毎回の授業課題と最終課題レポートの内容を評価する。毎回の授業課題の評価を60%、最終課題レポート評価40%の合計100%として評価する。							

科目名	スポーツ運動学			担当者	石塚 浩		
英文名	Sport Movement Theory						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR105		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b>							
運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーズ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	スポーツ運動学の基礎的理論・事項について	理論を理解し、実践場面を想定して説明が可能	理論を教科書等の参照により、説明が可能	理解が不十分で、説明が不可能			
	スポーツ運動学の研究知見について	研究知見を利用し、実践場面を想定して説明が可能	研究知見に関わる資料等を利用して、説明が可能	研究知見の理解が不十分で、説明は不可能			
	スポーツ運動学の実践への応用について	理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合ができ、実践場面を想定して説明が可能	理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合しての説明が可能	理論・研究知見への理解が不十分で、説明が不可能			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 運動技能の構造</b>				<b>第9回 運動技能の構造に関する諸要因とその関連性</b>			
【到達目標】 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。				【到達目標】 運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。			
【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第2回 技術や戦術と専門的体力の関係</b>				<b>第10回 運動の構造（局面構造に着目して）（1）</b>			
【到達目標】 複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。				【到達目標】 運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第3回 運動技能と発育発達との関係</b>				<b>第11回 運動の構造（リズム構造に着目して）（2）</b>			
【到達目標】 年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に变化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。				【到達目標】 運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。			
【授業時間外学習】 中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。(4.0hr)				【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第4回 宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術</b>				<b>第12回 運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層</b>			
【到達目標】 武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。				【到達目標】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)				【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第5回 戦術に関する要因とその具体例（1）</b>				<b>第13回 運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層</b>			
【到達目標】 代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。				【到達目標】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)				【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第6回 戦術に関する要因とその具体例（2）</b>				<b>第14回 運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層</b>			
【到達目標】 技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。				【到達目標】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)				【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第7回 技術練習の方法</b>				<b>第15回 運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得</b>			
【到達目標】 技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。				【到達目標】 運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。			
【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)				【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
<b>第8回 戦術練習の方法</b>							
【到達目標】 戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。							
【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。数回のレスポンスカードによる確認を行なう。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。							
【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補助資料である。配信は、対面授業スケジュールに従い、同一曜日の0:00頃に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間程度掲載する。出席は、各授業回におけるキーワードの記載と課題の提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）および配布プリント 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳（大修館書店） 「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】全体の20%は回数配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの80%はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に別途実施する。							
【オンライン授業の場合】各授業回の提出された課題の評価、全授業回数終了時点で試験の実施、から評価を行う。それぞれの評価配分は授業課題30%・テスト70%である。合格基準は60%以上である。							

科目名	水泳		担当者	森田陽子		
英文名	Swimming					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・必修
授業形態	実技	科目ナンバー	CBR106		卒業認定方針との関連	⑥
<b>【到達目標】</b>						
幼児教育や生涯体育の基礎となる種目に取り組み、水泳に関する基礎知識を理解し、正しい泳法を習得する。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
水泳の基礎的事項・理論		基礎的事項・理論について説明ができる。	基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。	基礎的事項・理論についての理解が不十分で説明できない。		
水泳の基礎的事項・実技		基礎実技を体得し、模範的な実践ができる。	基礎実技を体得し、実践ができる。	基礎実技の体得が不十分で実践ができない。		
水泳の基礎的事項等の理解とその応用（指導）		基礎的事項（理論・実技）に基づき年齢に応じた関わりができる。	基礎的事項（理論・実技）に基づいた関わりができる。	基礎的事項（理論・実技）に基づいた関わりができない。		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> (1) 授業の進め方を理解する。 (2) 各泳法を映像で確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			<b>第9回 ベーシスイミングや障害児と水泳について学習する</b> <b>【到達目標】</b> (1) 特殊な水泳指導を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			
<b>第2回 幼稚園・保育園における水あそびの現状</b> <b>【到達目標】</b> (1) 保育現場の水あそび事情を知る。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			<b>第10回 よりスムーズな基本泳法の習得①</b> <b>【到達目標】</b> (1) 正しいフォームをマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			
<b>第3回 水と事故・入水に当たっての諸注意</b> <b>【到達目標】</b> (1) 子どもと水の事故について知る。 (2) 着衣泳を体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			<b>第11回 よりスムーズな基本泳法の習得②</b> <b>【到達目標】</b> (1) それぞれの泳法のリズムを意識して泳ぐ。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			
<b>第4回 浮きやすい姿勢を意識して泳ぐ</b> <b>【到達目標】</b> (1) 浮きやすい姿勢を体得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			<b>第12回 よりスムーズな基本泳法の習得③</b> <b>【到達目標】</b> (1) 苦手な泳法に取り組む。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			
<b>第5回 進みやすい姿勢を意識して泳ぐ</b> <b>【到達目標】</b> (1) 進みやすい姿勢を体得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			<b>第13回 よりスムーズな基本泳法の習得④</b> <b>【到達目標】</b> (1) それぞれの泳法のタイムを計測する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			
<b>第6回 水を押す方向を意識して泳ぐ</b> <b>【到達目標】</b> (1) 水を押す方向を意識して泳ぐ。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			<b>第14回 リズム水泳①</b> <b>【到達目標】</b> (1) 音楽にあわせて水の中で体を動かすことを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			
<b>第7回 補助用具を使用して泳ぐ</b> <b>【到達目標】</b> (1) 手や足に補助用具をつけて泳ぎ、正しい技術の習得をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			<b>第15回 リズム水泳②</b> <b>【到達目標】</b> (1) 音楽にあわせて泳ぐことを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）			
<b>第8回 苦手な泳ぎを撮影し自分の泳ぎを確認する</b> <b>【到達目標】</b> (1) 撮影した映像を見て各自の泳ぎを修正する。  <b>【授業時間外学習】</b> 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。（1.0hr）						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<b>【対面授業の場合】</b> それぞれの泳法（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ）の技術を習得すること。それぞれの特性に合わせた体の使い方を理解すること。怪我や事故のないように、自己の体調管理には十分気をつけて授業に臨むこと。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 4回のみオンデマンド方式での展開とする。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。残りの11回については、プールに入って実技を行うこととする（対面授業参照）ため、状況によって連絡をする。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
授業の中で、随時紹介する。						
<b>【成績評価方法】</b>						
<b>【対面授業】</b> 各種目の習熟度40%、実技テスト（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ各25m）60%。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 4回の配信レポート（40%）、実技テスト（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ各25m）60%。						

科目名	体操			担当者	木皿久美子		
英文名	Gymnastics						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・必修	
授業形態	実技	科目ナンバー	CBR107		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b>							
手軽に行うことのできる色々な運動や律動的な運動の実践を通して、自分の体を知り、自分の体の状態に応じて体の調子を整えたり、運動の実践を通して仲間と積極的に交流ができるようにする。また、運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする、健康・安全を確保することができるようにすることを目的とする。自分自身はもちろん、幼児にとっての運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、それぞれ個々の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
体操の基礎的な動きの習得について		見本となるデモンストレーションができる。		体操の基礎的な動きを習得することができる。		体操の基礎的な動きを習得することができない。	
体操の基礎的な知識について		理解し自ら説明できる。		資料等を参照しながら説明することができる。		理解が不十分で説明できない。	
幼児の体操の意義について		幼児を想定して、運動プログラムを構成することができる。		幼児の体の構造や発達のレベルに応じた動きが想定できる。		幼児の体の構造や発達のレベルに応じた動きが想定できない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーションと体気づき、体ほぐし</b> <b>【到達目標】</b> 体操のねらい、学習の方法、授業の進め方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)				<b>第9回 手具体操（短縄とび）の効果について</b> <b>【到達目標】</b> タイミングの良い運動と発展させた運動が実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)			
<b>第2回 ストレッチ体操：アライメントチェックとストレッチの基本</b> <b>【到達目標】</b> 体の歪みをチェックし、日常生活で体を歪める原因となる姿勢や行動について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)				<b>第10回 手具体操（短縄とび）の効果について</b> <b>【到達目標】</b> 短縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)			
<b>第3回 ストレッチ体操：2人組のストレッチ体操</b> <b>【到達目標】</b> 自分と相手の体と心に気づき、調整しながら運動が行える。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)				<b>第11回 手具体操（フープ）の特性について</b> <b>【到達目標】</b> フープの特性を活かした運動を実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)			
<b>第4回 ストレッチ体操：音楽に合わせた柔軟体操</b> <b>【到達目標】</b> 音楽に合わせた一連のストレッチ運動を覚えて実施する。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)				<b>第12回 手具体操（フープ）の発展と方法</b> <b>【到達目標】</b> グループになり、フープを操作する面白さを体感する。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)			
<b>第5回 手具体操（ボール）とトレーニング体操①</b> <b>【到達目標】</b> ボールの特性を活かした運動を実践できる。 ボールの動きと巧みさの関係を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)				<b>第13回 リズム体操：実技課題の実践①</b> <b>【到達目標】</b> 音楽のリズムと動きのリズムを調和させながら、フレーズの動きを実践できる。 様々なステップを実践することで、動きのリズムを習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)			
<b>第6回 手具体操（ボール）とトレーニング体操②</b> <b>【到達目標】</b> ボールの特性を活かした運動を実践できる。 2人組やグループになり、他者に応じたボールコントロールを体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)				<b>第14回 リズム体操：実技課題の実践②</b> <b>【到達目標】</b> これまで習得した動きの修正を行い、更にスムーズな一連の動きになるよう実践を重ねる。 一連の動きを自然な動きで実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)			
<b>第7回 手具体操（長縄とび）の特性について</b> <b>【到達目標】</b> 長縄跳びの特性を考え、実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)				<b>第15回 体操の課題発表</b> <b>【到達目標】</b> これまで習得した良い動きを、のびのびとした動作で発表できる。 他者の動きを観察し、自己の参考にする。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)			
<b>第8回 手具体操（長縄とび）の発展と方法</b> <b>【到達目標】</b> 長縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 二人組や数人のグループで行う内容が多いので、互いに不快感を与えないような服装や身だしなみ、態度を大切にしてほしい。自分の「からだ」について理解を深め、ひとの動き方などを参考にして、できない動きや不慣れた動きのコツを習得できるよう工夫し、良い動き方を身に付けられるよう努める。 毎時間授業内容に関する復習課題を提示し、学期末には実技テストを行い、理解度の確認を行う。課題の内容は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。配信する内容は、音声入りパワーポイント動画と学習内容となる技能や運動に関する動画である。配信は、授業が行われる日の朝9:00に本学のPhollyにアップし、1週間後の17:00まで掲載する。出席の確認は、課題の提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
特になし。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 実技試験70%、レポート30% <b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の提出されたレポート40%、期末のレポート60%として評価する。							

科目名	スポーツ生理学			担当者	定本 朋子		
英文名	Sport Physiology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2					専門基礎・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR108		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b>							
<p>スポーツ生理学は、ヒトが身体運動をした際の生理的反応や習慣的運動による適応のメカニズムを探究する学問である。本講義では、競技力向上のためのスポーツ生理学ではなく、日常生活における一般的な身体活動・スポーツ・運動の実施に伴う生理的反応および適応の仕組みに関する知識を学ぶ。またこの科目を通して、健康・体育・スポーツ関連領域の基盤となる「動くからだ」への興味関心を高め、生理学的な視点に立った探究心を涵養する。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	安静時における人体生理学に関する基礎事項について	安静時の生理的諸機能を理解し自らまとめて説明できる。	安静時の生理的諸機能を教科書を参照しながら説明できる。	安静時の生理的諸機能の理解が不十分で説明できない。			
	一過性の運動に対する生理的反応について	運動時にみられる生理機能を理解し自らまとめて説明できる。	運動時にみられる生理機能を教科書を参照しながら説明できる。	運動時にみられる生理機能の理解が不十分で説明できない。			
	習慣的身体活動や運動トレーニングに伴う生理的反応について	運動継続に伴う生理機能の変化を理解し自らまとめて説明できる。	運動継続に伴う生理機能の変化を教科書を参照しながら説明できる。	運動継続に伴う生理機能の変化の理解が不十分で説明できない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 スポーツ生理学（運動生理学）の学びについて</b>				<b>第9回 スポーツと循環（2）</b>			
<p>【到達目標】 スポーツ生理学（運動生理学）の研究史の概略と本講義で学ぶ範囲と学習到達目標などを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>				<p>【到達目標】 血管の種類、動脈血圧、血管コンプライアンスについて理解する。運動様式と血圧反応を理解する。運動トレーニングに伴う循環器系の適応について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>			
<b>第2回 スポーツと骨格筋・神経（1）</b>				<b>第10回 スポーツと代謝（1）</b>			
<p>【到達目標】 骨格筋の構造（微細構造も含む）について理解する。シナプス、運動終板、活動電位の伝わり方について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>				<p>【到達目標】 異化、同化、酵素など代謝の基礎知識を習得する。中間代謝の基礎知識を習得する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>			
<b>第3回 スポーツと骨格筋・神経（2）</b>				<b>第11回 スポーツと代謝（2）</b>			
<p>【到達目標】 筋線維組成とスポーツ種目、筋線維のトレーニング適応について理解する。運動単位、筋力調節、運動神経と上位中枢との連絡について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>				<p>【到達目標】 糖質、脂質、タンパク質の代謝を理解する。運動時の糖質と脂質代謝を理解する。運動とタンパク質代謝を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>			
<b>第4回 スポーツとエネルギー供給機構（1）</b>				<b>第12回 スポーツと脳機能（1）</b>			
<p>【到達目標】 アデノシン3リン酸（ATP）の構造と分解について理解する。三つのATP再合成機構について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>				<p>【到達目標】 神経系の構成と脳の構造を理解する。随意運動の発現に関わる脳の調節機構について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>			
<b>第5回 スポーツとエネルギー供給機構（2）</b>				<b>第13回 スポーツと脳機能（2）</b>			
<p>【到達目標】 運動強度・運動時間とエネルギー供給機構について理解する。トレーニングによるエネルギー供給機構の変化について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>				<p>【到達目標】 身体活動による脳機能改善に関する種々の研究成果を理解する。運動時の体水分の調節に働くホルモンについて理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>			
<b>第6回 スポーツと呼吸（1）</b>				<b>第14回 スポーツと環境（1）</b>			
<p>【到達目標】 呼吸運動の仕組みを理解する。運動に伴う呼吸数、一回換気量、毎分換気量の変化を理解する。肺と血液、血液と組織のガス交換について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>				<p>【到達目標】 体温調節に働く仕組みの概略を理解する。運動時の体温変化と発汗作用を理解する。運動時の体温変化に対するトレーニングの効果について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>			
<b>第7回 スポーツと呼吸（2）</b>				<b>第15回 スポーツと環境（2）</b>			
<p>【到達目標】 換気性閾値、乳酸性閾値について理解する。酸素摂取量、酸素借、酸素負債、運動後過剰酸素消費量について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>				<p>【到達目標】 寒冷環境と暑熱環境における体温調節について理解する。低酸素環境が身体諸機能および運動能力に対する影響について理解する。水中環境が身体諸機能および運動能力に対する影響について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>			
<b>第8回 スポーツと循環（1）</b>							
<p>【到達目標】 体循環と肺循環、心臓の構造、刺激伝導系について理解する。心拍数と一回拍出量を調節する仕組みを理解する。運動時の心拍数と一回拍出量の変化を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）</p>							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<p>【対面授業の場合】講義は指定教科書を用いるので、教科書購入を予定しておくこと。講義はパワーポイントを用いて説明する。パワーポイントの印刷資料は配布する。受講者は事前に指定教科書を読み、内容理解に努める。</p> <p>【オンライン授業の場合】オンデマンド方式で行う。指定教科書を用いるので、教科書購入を予定しておくこと。配信資料として、パワーポイント音声入り講義動画、スライド印刷資料などを、授業日に指定のURL上に公開する。本学ポータルサイトからURLにアクセスして、講義動画を視聴し、内容を理解する。配信資料等の案内は全てポータルサイトで行う。出席状況は、各回の「評価テスト」の回答送信により確認する。受講者は事前に指定教科書を読み、内容理解に努める。</p> <p>【授業時間外学習課題と質問・疑問への対応】対面形式であってもオンライン形式であっても、各回の講義内容の理解度を確保する「評価テスト」を受ける（本学ポータルサイトから配信する）。オンライン授業では正解・不正解・得点については回答送信時に自動的に返信されるので、間違った点を中心に丁寧に復習する。また次回の授業内でも解説をする。対面授業の場合には、授業内において評価テストについて解説をする。</p>							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
指定教科書（テキスト）として、「はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3 スポーツ生理学」富樫健二編著、化学同人（最新版）を用いる。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<p>【対面授業の場合】各回の確認テストにおける成績を40%とし、定期試験期間中に別途実施するテストの成績を60%とし、合計100%として最終的な成績を評価する。合格基準は60%以上とする。</p> <p>【オンライン授業の場合】各回の確認テストにおける成績を60%とし、最後に行う「最終確認テスト」の成績を40%とし、合計100%として最終的な成績を評価する。合格基準は60%以上とする。</p>							

科目名	スポーツ心理学			担当者	佐々木万丈		
英文名	Sport Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2					専門基礎・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR109	卒業認定方針との関連		⑥	
【到達目標】							
スポーツ心理学に関連する理論や研究知見および最新の研究成果に関わる基礎的事項を理解し説明できる。また、スポーツ競技者やダンサーとその指導者、健康運動活動に取り組む人々とその指導実践担当者、さらに、幼児を対象に運動あそび等を通じて発達を支援する保育者として、学修したスポーツ心理学の知見を有効に活用できる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ心理学の基礎的事項・理論について		理論を理解し自らまとめて説明できる。		理論を教科書等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
スポーツ心理学の研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。		研究知見を資料等を参照しながら説明できる。		知見の理解が不十分で説明できない。	
スポーツ心理学の研究知見の活用に関する事項		知見の活用を具体的に提案できる。		知見の活用法を理解しており、資料等を参考にしながら説明できる。		知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 スポーツ心理学概説</b> 【到達目標】 (1) スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。 (2) スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 復習課題（授業のまとめ）と予習課題（不安の役割を調べる）に取り組む。（4.0hr）				<b>第9回 スポーツ傷害・障害と選手の心理</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手の傷害・障害発生を心理学的に理解し、説明することができる。 (2) ストレス理論を用いたスポーツ傷害・障害の予防及び対処の方法を説明できる。 (3) リハビリテーションの心理的留意事項を理解し、効果的な取り組みの方法を説明できる。 【授業時間外学習】復習（授業のまとめ）と予習（バーンアウト、学習性無力感について調べる）に取り組む。（4.0hr）			
<b>第2回 スポーツと不安</b> 【到達目標】 (1) 不安には状態不安と特性不安が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。 (2) 逆U字理論を説明できる。 (3) 不安と覚醒水準の関係を理解し、競技場面の緊張の調整に対する活用法を説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（ストレスの解説を読み自分の経験を整理）に取り組む。（4.0hr）				<b>第10回 スポーツとバーンアウト</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手のバーンアウトや体育学習者の学修性無力感の発症機序を説明できる。 (2) バーンアウトや学習性無力感に陥らないための対処法を、具体的に提案できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（配布資料を読んで自分の引退後を考える）に取り組む。（4.0hr）			
<b>第3回 スポーツとストレス</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。 (2) 競技場面のストレス状況を解消するための認知的評価と対処行動の活用法を説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（動機づけの解説を読みその定義を考える）に取り組む。（4.0hr）				<b>第11回 スポーツとキャリアアトランジション</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。 (2) 部活動引退後の自らのキャリア形成に関する展望を具体的に立案し提示できる。 【授業時間外学習】復習（授業のまとめ）と予習（ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する）に取り組む。（4.0hr）			
<b>第4回 スポーツと動機づけ（1）</b> 【到達目標】 (1) 動機づけ、欲求、誘因について理解し、説明できる。 (2) 内発的動機づけおよび外発的動機づけを理解し、それぞれの理論的背景を説明できる。 (3) 自己決定理論を理解し、スポーツ活動を適正に実施するための活用法を説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（資料を読みやる気高める方法を考える）に取り組む。（4.0hr）				<b>第12回 スポーツとライフスキル</b> 【到達目標】 (1) スポーツ活動により獲得される心理社会的スキルの内容を説明できる。 (2) 心理社会的スキルがライフスキルに般化することを理解し、その影響要因を説明できる。 (3) ライフスキルの形成に寄与するスポーツ活動の在り方を理解し、指導法を提案できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（LGBTを告白したスポーツ選手を調べる）に取り組む。（4.0hr）			
<b>第5回 スポーツと動機づけ（2）</b> 【到達目標】 (1) 期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。 (2) 動機づけの諸理論を活用したスポーツ場面のやる気高める方法について説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（運動技能の分類について整理する）に取り組む。（4.0hr）				<b>第13回 スポーツとジェンダー</b> 【到達目標】 (1) ジェンダーの概念、LGBTQなどの基本的事項を理解し、説明できる。 (2) スポーツ活動場面のジェンダー問題や課題を具体的に説明できる。 (3) スポーツ活動に関わるジェンダー問題の課題解決について自らの考えを表明できる。 【授業時間外学習】復習（授業のまとめ）と予習（神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害について調べる）に取り組む。（4.0hr）			
<b>第6回 スポーツと運動学習</b> 【到達目標】 (1) 運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。 (2) 練習方法の種類について理解し、練習内容・手順について具体的に提案できる。 【授業時間外学習】復習（授業のまとめ）と予習（ガイダンス仮説、文脈干渉効果などを調べる）に取り組む。（4.0hr）				<b>第14回 スポーツと摂食障害</b> 【到達目標】 (1) 摂食障害の一般的な症状について理解し、説明することができる。 (2) 国内外のスポーツ選手の摂食障害の実態とその原因を理解し、説明できる。 (3) スポーツ競技者の摂食障害を防ぐための認知・行動的留意事項を提案できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（平均が頻繁に使用される理由を考える）に取り組む。（4.0hr）			
<b>第7回 運動学習とフィードバック</b> 【到達目標】 (1) 練習の違い（ブロックとランダム）、文脈干渉効果、ガイダンス仮説を説明できる。 (2) フィードバックの種類と方法を理解し、説明できる。 (3) 運動学習の理論的背景に基づいた効果的な練習法を考案し説明することができる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（自分の心理的競技能力のレベルを測定する）に取り組む。（4.0hr）				<b>第15回 スポーツ心理学研究法</b> 【到達目標】 (1) 心理学研究法（質問紙法、面接法、事例研究法）の違いを理解し、説明できる。 (2) 量的研究で用いられる統計分析法の種類を理解し、使用目的を説明することができる。 (3) 度数分布、平均、標準偏差を求め、標本の特徴をまとめ、説明することができる。 【授業時間外学習】 本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。（4.0hr）			
<b>第8回 スポーツと心理的競技能力</b> 【到達目標】 (1) スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2) 自らの心理的競技能力を把握し、向上のための方法を具体的に提案できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（自らを振り返りケガの要因をまとめる）に取り組む。（4.0hr）							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】パワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者は、指摘された重要事項を整理しながら記録すると共に、集中してメモを取り、運動やスポーツの実践あるいはその指導に役立つオリジナルのノートの作成を目指す必要がある。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。特に、復習課題では、授業で説明された理論や心理学的知見を、スポーツの活動や指導の実践場面で具体的にどのように活用するのか、自らの考えをまとめて説明することが課題となる。したがって、授業以外の時間を有効に使い、学修事項の理解を深め、知識としての定着を図る努力が必要である。復習課題に対する回答には、評価とコメントを付しフィードバックするので、受講者は内容を確認の上、以降の自らの学修の参考にしなければならない。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅な変更は行わない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、学生支援課より指示された曜日の9:00に行う。配信先は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上であり、掲載期間は1週間とする。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。復習課題及び予習課題の提示および回答の確認は、Phollyを用いて行う。内容は、「対面授業の場合」と同じである。							
【教科書・参考書など】							
教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」（著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房）を使用する。また、適宜、参考資料を配付する。各授業回の復習課題を毎回評価し（予習課題は確認のみ）、15回の授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに期末課題を実施し（対面授業の場合は期末テスト）、15回予習・復習課題の総合評価（50%）と期末課題（50%）を合わせて成績評価（100%）を算出する。合格基準は60%である。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】各授業回の予習課題と復習課題を毎回評価し、15回の授業終了時点でそれらの総合評価を行う。さらに期末課題を実施し（対面授業の場合は期末テスト）、15回予習・復習課題の総合評価（50%）と期末課題（50%）を合わせて成績評価（100%）を算出する。合格基準は60%である。【オンライン授業の場合】対面授業の場合と同じ。							

科目名	身体表現		担当者	渡邊孝枝		
英文名	Body Expression					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CBR201		卒業認定方針との関連	⑥
<b>【到達目標】</b>						
子どもの身体表現の意義と発達の様子を理解し、発達段階に即した身体表現の指導と援助の方法を習得する。また、動きの特性を理解し、動きを読み取る力と自分自身の表現力を高め、動きによるコミュニケーションの技能を高めることを目的に、手遊びやリズムダンス、創造的な身体表現などを構成して発表を行い、自己・相互評価を展開する。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
子どもの身体表現の意義について		理論を理解し自らまとめて説明できる。	教科書等を参考にしながら理論を説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
子どもの身体表現の指導と援助について		子どもの実際と発達に対し最適な指導と援助の計画・実践・評価ができる。	子どもの実際と発達を踏まえた指導と援助の計画・実践・評価ができる。	子どもの身体表現の指導・援助について計画・実践・評価ができない。		
動きを読み取る力および表現力について		より良く表現するための動きの探究および仲間との協働に積極的に取り組むことができる。	より良く表現するための動きの探究と仲間との協働ができる。	より良く表現するための動きの探究と仲間との協働ができない。		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 オリエンテーション</b>			<b>第9回 身体表現活動②風船と紙飛行機</b>			
【到達目標】 (1)授業の進め方、評価の方法を理解する。 (2)身体表現のねらいについて理解する。			【到達目標】 (1)音楽に合わせたイメージや動きを、グループで工夫する。 (2)音楽に合わせた動きをグループで工夫し、発表する。			
【授業時間外学習】 授業への取り組みの心構えをつくる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 宇宙について調べる。(4.0hr)			
<b>第2回 からだで遊ぼう①音楽に合わせて動く</b>			<b>第10回 身体表現活動③宇宙旅行①</b>			
【到達目標】 (1)からだを使った遊びで（道具を使わない）、楽しく実技をする。 (2)リズムに乗ってからだを解放し、身体を自由に動かす。			【到達目標】 (1)他の表現手法を用いてイメージを膨らませる。 (2)音楽に合わせた動きをグループで工夫する。			
【授業時間外学習】 子どもたちがリズムに乗って身体を動かし、表現することが育むことを考える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 発表時のシミュレーションをする。(4.0hr)			
<b>第3回 からだで遊ぼう②真似っこダンス</b>			<b>第11回 身体表現活動④宇宙旅行②発表</b>			
【到達目標】 (1)模倣しあうことを体験し、動きを通してコミュニケーションを促進することを学ぶ。			【到達目標】 (1)音楽に合わせた動きをグループで工夫し、発表する。			
【授業時間外学習】 模倣することが持つ意味や発達について調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 発表して感じたこと、また他者の発表を見て感じたことをまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 題材を工夫する①新聞紙で遊ぼう！</b>			<b>第12回 模擬保育の計画</b>			
【到達目標】 (1)日常で使う身近な物を使い、自由な発想を引き出す。 (2)出てきた発想から様々な動きを創作する。			【到達目標】 (1)身体表現活動の方法と発達に応じた計画・援助について理解する。 (2)題材に合わせた指導をグループで計画する。			
【授業時間外学習】 身近なもので、どんな身体表現ができるか考える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 模擬保育の指導案の作成及び模擬保育のシミュレーションをする。(4.0hr)			
<b>第5回 題材を工夫する②子どもの時に親しんだ遊びを工夫する</b>			<b>第13回 模擬保育の実施</b>			
【到達目標】 (1)幼い頃に親しんだ遊びを題材に、イメージや動きを広げる。			【到達目標】 (1)指導案をもとに、模擬保育を実施できる。 (2)先生役、子ども役（年長児）として参加することで、身体表現活動実践時の課題を見つける。			
【授業時間外学習】 幼い頃に親しんだ遊びをどんな身体表現として展開できるか考える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 先生役として模擬保育を実践し、子ども役として模擬保育に参加したことの気づきをまとめる(4.0hr)			
<b>第6回 変身を楽しむ①動物ごっこ</b>			<b>第14回 子どもの身体表現を考える一本授業の振り返り</b>			
【到達目標】 (1)動物に変身し、表現することを楽しむ。 (2)音楽に合わせて、即興的に動物になりきって表現する。			【到達目標】 (1)身体表現と、身体表現活動の関係を理解する。 (2)身体表現活動時の実践的な課題とその解決に向けた検討ができる。			
【授業時間外学習】 子どもが変身を楽しむ事例等を調べて、変身の持つ意味を考える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 教科書及び参考図書を読み、考えたことをまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 変身を楽しむ②忍者ごっこ</b>			<b>第15回 子どもの身体表現を支え、育むことについて</b>			
【到達目標】 (1)忍者に変身し、表現することを楽しむ。 (2)他者と共同し、イメージを共有して動きを生み出す。(忍者の術を考案する)			【到達目標】 (1)子どもを中心に据えた身体表現について、実際の映像を見て考える。 (2)遊びや生活における子どもの身体表現を見つめ、その環境や援助について考える。			
【授業時間外学習】 洗濯の様子を観察し、記述する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 授業で学んだことを自分の言葉でまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 身体表現活動①洗濯しよう</b>						
【到達目標】 (1)音楽に合わせたイメージや動きを、グループで工夫する。 (2)音楽に合わせた動きをグループで工夫し、発表する。						
【授業時間外学習】 風船や紙飛行機のイメージにふさわしい音楽について構想する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<b>【対面授業の場合】</b> 身体表現を育む多様な活動や遊びを実際に行いながら、遊びのねらい、保育者の援助、環境設定、安全への配慮についても学ぶ。身体を動かすことに喜びを持って、身体を動かすことを楽しみながら積極的に授業に参加すること。毎時間授業内容に関して、授業記録（身体表現ノート）の作成及び学期末の提出を求める。また、授業後にコメント票の記入を求め、コメント表の内容は翌週以降に授業内でフィードバックする。						
<b>【オンラインの場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。配信する内容は、学習内容となる身体表現に関する講義動画及び課題である。配信は、授業が行われる日の朝9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の17:00まで掲載する。出席の確認は、課題の提出によって確認する。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書 「コンパス 保育内容表現」建帛社、2019年4月、編者：島田由紀子・駒久美子 参考書 「子どもを中心に保育の実践を考える」、厚生労働省、2019年6月						
<b>【成績評価方法】</b>						
<b>【対面授業の場合】</b> 実技試験及び身体表現活動の発表50%、授業記録（身体表現ノート）20%、期末レポート30%						
<b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の提出されたレポート40%、期末のレポート60%として評価する。						

科目名	ダンスムーブメント			担当者	國本眞由子		
英文名	Dance Movement						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2						専門基礎・必修
授業形態	実技	科目ナンバー	CBR110			卒業認定方針との関連	⑥
<b>【到達目標】</b>							
音楽と融合したナチュラルで快い情緒的な動きやリズムカルな動きなど、ダンスムーブメントの基礎的な技能を習得し、ダンスの表現特性について理解するとともに、自己の表現力も高め、豊かな身心の育成をはかる。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ダンスの基礎的事項について		理論を理解し他者に指導できる		理論を教科書等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
ダンスの研究知見に関する事項		研究知見の要点をまとめ説明できる		研究知見を資料等を参照しながら説明できる		知見の理解が不十分で説明できない	
ダンス実技に関する事項		指示がなくとも身体を自由に動かすことができる		他者の指示に沿って身体を動かすことができる		理解が不十分で動くことができない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 授業の進行についてのオリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 授業の進行について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				<b>第9回 表現練習1</b> <b>【到達目標】</b> 身体運動を通じた表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第2回 リラクゼーションの習得1</b> <b>【到達目標】</b> リラクゼーションの仕方をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				<b>第10回 表現練習2</b> <b>【到達目標】</b> 身体運動を通じた表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第3回 リラクゼーションの習得2</b> <b>【到達目標】</b> リラクゼーションの仕方をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				<b>第11回 表現練習3</b> <b>【到達目標】</b> 身体運動を通じた表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第4回 リラクゼーションの習得3</b> <b>【到達目標】</b> リラクゼーションの仕方をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				<b>第12回 課題による身体表現1</b> <b>【到達目標】</b> 課題を通して、各種身体表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第5回 身体練習とリズム練習1</b> <b>【到達目標】</b> いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				<b>第13回 課題による身体表現2</b> <b>【到達目標】</b> 課題を通して、各種身体表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第6回 身体練習とリズム練習2</b> <b>【到達目標】</b> いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				<b>第14回 課題による身体表現3</b> <b>【到達目標】</b> 課題を通して、各種身体表現をマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
<b>第7回 身体練習とリズム練習3</b> <b>【到達目標】</b> いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)				<b>第15回 課題発表と達成度の確認</b> <b>【到達目標】</b> 全体の確認をする事によって、ダンスに必要な要素を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全体の復習とまとめをする事によって、ダンスについて更に理解を深める。(1.0hr)			
<b>第8回 身体練習とリズム練習4</b> <b>【到達目標】</b> いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> とにかく、自分が楽しんでダンスに接する事が出来るように、積極的に取り組んで下さい。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、次週の授業日前日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部的様子を撮影した動画（15分程度）の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
特にありません。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 時間毎のレポート60%、実技試験20%、授業内での活動の成果20%の割合で総合的に評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	スポーツ原論			担当者	都 筑 真		
英文名	Principle of Sports						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBR111		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b>							
古代から現代に至るまでのスポーツや体育に関する歴史や哲学を概観しながら、これまでのスポーツや体育のあり様や諸問題について理解し、説明できるようになる。これまでのスポーツや体育のあり様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育のあり方について自らの考えを表明できるようになる。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	スポーツ史学やスポーツ哲学の基礎的事項	基礎的事項を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	スポーツ史学やスポーツ哲学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。			
	スポーツ史学やスポーツ哲学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 ガイダンス+A14:J36A14:J36A14A14:J63</b>				<b>第9回 体育の理念の変遷</b>			
【到達目標】 (1) 講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。				【到達目標】 (1) 体育の理念の変化について理解し、説明することができる。 (2) 体育において求められる人間像の変化について理解し、説明することができる。			
【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第2回 古代のスポーツ</b>				<b>第10回 社会変化と今後の体育</b>			
【到達目標】 (1) ギリシャやローマなどの古代のスポーツのあり様を理解し、説明することができる。 (2) 古代のスポーツと現在のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) 社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、説明することができる。 (2) 社会やスポーツ需要の変化を踏まえ、今後の体育のあり方について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第3回 中世のスポーツ</b>				<b>第11回 スポーツのグローバリゼーションとナショナルリズム</b>			
【到達目標】 (1) ヨーロッパや日本などの中世のスポーツのあり様を理解し、説明することができる。 (2) 中世のスポーツと現在のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を理解し、説明することができる。 (2) スポーツのグローバリゼーションの長所や問題点について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 近代のスポーツ①</b>				<b>第12回 スポーツと政治</b>			
【到達目標】 (1) イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解し、説明することができる。 (2) イギリスで近代スポーツが発展した理由について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) スポーツ界が掲げる「政治的中立」という理想と現実について理解し、説明することができる。 (2) スポーツと政治の関係について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第5回 近代スポーツ②</b>				<b>第13回 スポーツとドーピング</b>			
【到達目標】 (1) 近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解し、説明することができる。 (2) 近代スポーツが国際的に普及した意義について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) スポーツ界におけるドーピング問題と反ドーピングの取り組みを理解し、説明することができる。 (2) ドーピング問題の解決に向けて自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 近代オリンピックの創始</b>				<b>第14回 スポーツとジェンダー</b>			
【到達目標】 (1) 近代オリンピックが何故創始されたのかを理解し、説明することができる。 (2) 日本の近代オリンピックとの関わりを理解し、説明することができる。				【到達目標】 (1) スポーツにおける男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解し、説明することができる。 (2) 性の多様なあり方がスポーツにもたらす課題について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第7回 近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題</b>				<b>第15回 「スポーツ・フォー・オール」運動</b>			
【到達目標】 (1) 近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解し、説明することができる。 (2) 近代オリンピックが戦争やボイコットなどと関係する理由について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解し、説明することができる。 (2) 今後の「生涯スポーツ」推進策について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 体育とスポーツの違いと体育の目的</b>							
【到達目標】 (1) 体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解し、説明することができる。 (2) 体育は何を目的として行われているのかを理解し、説明することができる。							
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と補足資料である。資料は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の課題の提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 講義毎に課す小レポート(50%)及び期末課題の結果(50%)で評価する。合格基準は60%である。							

科目名	幼児理解			担当者	倉盛美穂子		
英文名	Understanding Children						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門基礎・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CBR301			卒業認定方針との関連	⑧
<b>【到達目標】</b>							
幼児理解は、よりよい保育・教育実践のための基本となるものである。本授業では、幼児理解の意義や原理を理解した上で、幼児の生活や遊びの観察を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を習得することを目的とする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	子どもを理解するとは	子ども理解の意義や原理を理解し、具体例を交えながら説明できる	子ども理解の意義や原理を理解し、説明できる	子ども理解の意義や原理の理解が不十分で、説明することが難しい			
	子どもを理解する方法	子どもを理解する方法を理解し、具体例を交えながら説明できる	子どもを理解する方法を理解し、説明できる	子どもを理解する方法の理解が不十分で、説明することが難しい			
	発達過程で生じるつまづきの理解	発達過程で生じるつまづきの意味を理解し、具体例を交えながら説明できる	発達過程で生じるつまづきの意味を理解し、説明できる	発達過程で生じるつまづきの意味の理解が不十分で、説明することが難しい			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 幼児理解とは</b> <b>【到達目標】</b> (1) 幼児理解の意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第9回 個と集団</b> <b>【到達目標】</b> (1) 集団の中で個の育ちを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもを理解する方法 観察法 - 発達を捉える -</b> <b>【到達目標】</b> (1) 観察法の種類とその手法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 保育環境と子どもの発達 (1)</b> <b>【到達目標】</b> (1) 保育環境と子どもの発達との関係を理解する ー乳児期ー  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもを理解する方法 観察法 - 学びを捉える -</b> <b>【到達目標】</b> (1) 子どもや大人の行動を観察し、記録することができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 保育環境と子どもの発達 (2)</b> <b>【到達目標】</b> (1) 保育環境と子どもの発達との関係を理解する ー幼児期ー  <b>【授業時間外学習】</b> 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもを理解する方法 質問紙法 - 個人差を捉える -</b> <b>【到達目標】</b> (1) 質問紙法の種類とその手法について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)				<b>第12回 環境の変化や移行</b> <b>【到達目標】</b> (1) 環境移行が子どもに及ぼす影響について考える。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもを理解する方法 共感的理解</b> <b>【到達目標】</b> (1) 事例を通じて共感的理解について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 発達の課題に応じた援助と関わり (1)</b> <b>【到達目標】</b> (1) 特別な配慮を要する子どもに関する理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 実験結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 感情の発達</b> <b>【到達目標】</b> (1) 感情の発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)				<b>第14回 発達の課題に応じた援助と関わり (2)</b> <b>【到達目標】</b> (1) 気になる子どもに関する理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 実験結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第7回 社会性の発達</b> <b>【到達目標】</b> (1) 子ども発達や学びの過程で生ずる葛藤やつまづきについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)				<b>第15回 保護者の心情理解と発達支援</b> <b>【到達目標】</b> (1) 保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第8回 社会性の発達 (2)</b> <b>【到達目標】</b> (1) モノや人との関わりについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 適宜資料を配布する。観察や事例をもとに討議しながら、理解を深める。質問は適宜受け付け、次回の授業冒頭で全員で共有する。授業後、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。受講者は、毎授業後、課題を提出をすること。松原校舎で授業を行うこともある。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンライン授業になった場合は、オンデマンド方式で授業を行う。出席は、毎授業後の課題提出によって確認する (Pholly)。課題の提出とともに、授業内容についての質問や感想を積極的に行うことを推奨する (質問への解答は当該学生にフィードバックしたり、全員で共有したほうがよい質問や感想は次週授業内容に反映させます)。動画は、授業日9時に本学ポータルサイトにアップし、一週間掲載する。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
参考書 「子どもの理解と援助」清水益治・森俊之（編）中央法規							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 毎授業後の課題提出 50%、最終レポート 50% <b>【オンライン授業の場合】</b> 毎授業後の課題提出 50%、最終レポート 50%							

科目名	発達・教育相談			担当者	角 田 和 也		
英文名	Developmental Consultation and Educational Counseling in Preschool						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門基礎・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CBR302		卒業認定方針との関連	⑧	
<b>【到達目標】</b>							
<p>本来、発達・教育相談の対象年齢は幅広いが、ここでは主に乳幼児に焦点を絞り、保育現場で日常的に行われている発達相談および教育相談についての知識や技術を学習する。また、実際の保育現場で保育者が乳幼児とかわる際に生じる問題や、特別な配慮が必要となる子どもたちへのかかわり方についても、発達相談および教育相談の視点からはどのように対処していく必要があるのかを学習する。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
発達・教育相談の基本的事項・理論について		基本的事項・理論について理解し自らまとめて説明ができる		基本的事項・理論について理解している		理解が不十分で説明できない	
子ども理解に必要な相談技術とカウンセリングマインドについて		相談技術・カウンセリングマインドについて工夫しながら日常的に活用できる		相談技術・カウンセリングマインドについて理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
発達・教育相談の展開について		既出の知見を基に展開の方法・問題点について自らの意見を示すことができる		展開の方法・問題点について既出の知見を理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション/発達・教育相談</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)発達相談、教育相談とは何かを理解する。 (2)保育場面での「相談」の概要を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成。(4.0hr)				<b>第9回 子ども理解の方法④ 「話す」ことについて①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子ども理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。 (2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第2回 発達・教育相談の実践</b> <b>【 到達目標 】</b> (1) (前回の授業を受けて) 保育者のかかわりが実際にどのような「相談」の流れの中で展開されるのか、その全体像を把握する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成。(4.0hr)				<b>第10回 子ども理解の方法④ 「話す」ことについて②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)不快に思われない話し方について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成/次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第3回 幼児教育における発達・教育相談の意義</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)保育者を目指す学生が発達・教育相談を学ぶ意義を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成/次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				<b>第11回 子ども理解の方法④ 「みる」ことについて①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子ども理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。 (2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第4回 発達・教育相談の基本的事項① 実践のための基本的な理論・概念①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)発達・教育相談の実践に必要な、臨床心理学(カウンセリング)の基本理論・概念を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				<b>第12回 子ども理解の方法④ 「みる」ことについて②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成/次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第5回 発達・教育相談の基本的事項② 実践のための基本的な理論・概念②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)前回の授業内容を踏まえ、発達・教育相談で実践されている臨床心理学(カウンセリング)の理論・概念について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				<b>第13回 発達・教育相談の展開① 「私」が発達相談・教育相談を行うために</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)テーマに沿って、実際に発達・教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第6回 発達・教育相談の基本的事項③ カウンセリングマインドの必要性</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)発達・教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成/次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				<b>第14回 発達・教育相談の展開② 連携の必要性について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)実際に発達・教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
<b>第7回 子ども理解の方法④ 「きく」ことについて①</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)子ども理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。 (2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)				<b>第15回 発達・教育相談の展開③ 組織的な取り組みの必要性について</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)発達・教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成。(4.0hr)			
<b>第8回 子ども理解の方法④ 「きく」ことについて②</b> <b>【 到達目標 】</b> (1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 課題レポートの作成/次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成した課題は後日提出してもらい、評価に反映させていただきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 <b>【オンライン授業の場合】</b> ①オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しません。 ②各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ③出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。 ④授業に理解を深めるための課題作成を、授業時間外に課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定のURLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
・市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布する(オンライン形式の場合はオンライン上で配信する)プリント教材を使用します。 《参考書》①小田豊他編著『保育臨床相談』北大路書房、②現代保育実践研究会編『保育実践事例集』第一法規、③松橋有子他編著『精神保健』北大路書房、④文部科学省『幼稚園教育要領解説』(最新版)							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 <b>【オンライン授業の場合】</b> ・毎授業時の提出物の評価……75% 期末課題の結果……25% ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。							

科目名	児童文化演習				担当者	諸富満希子・桐川 敦子 本永 直子	
英文名	Seminar in Children's Culture						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	演習	科目ナンバー	CBR303		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b> 1～5回は児童文化を歴史から振り返り、今を生きる子どもがこれからも共有・伝承し得る、子どもを主役とする文化に触れ、総合的に理解する。6回以降は、教員のサポートを受けながら、学生が協力し合い人形劇を作成する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
児童文化についての基礎的事項・理論について		児童文化の理論について、自らまとめ、説明できる。		児童文化の理論について、資料を参照しながら説明できる。		児童文化に対する理解が不十分で説明できない。	
人形劇の作成方法を理解し、積極的に取り組む。		人形劇の作成方法を理解し、新たなアイデアを加えながら取り組むことができる。		人形劇の作成方法について資料を参照しながら取り組むことができる。		人形劇の作成方法の理解が不十分で、取り組むことができない。	
人形劇の演じ方を理解し、積極的に取り組む。		人形劇を演じ方を理解し、演技を追求しながら積極的に取り組む。		人形劇の演じ方を理解し、積極的に取り組む。		人形劇の演じ方に対する理解が不十分であり、演技ができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 児童文化の概念とその領域</b> （担当：桐川敦子） 【到達目標】 児童文化という名称のなりたちや、児童文化についての諸々の捉え方、および領域区分について学んだ上で、幼稚園や保育園の現場で用いられる児童文化財を中心に学修を深めていくこの授業にあり方について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）				<b>第9回 中間まとめ・調整</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 三班の具体的作業の中間まとめをし、合同で調整を行う。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。（4.0hr）			
<b>第2回 日本の児童文化の歴史と伝承</b> （担当：桐川敦子） 【到達目標】 児童文化の流れを昔話、わらべ唄を中心に学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）				<b>第10回 役割分担（配役等）・練習</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 全体で上演の役割を決定し、各々練習を開始する。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。（4.0hr）			
<b>第3回 現在の子どもの生活と文化</b> （担当：桐川敦子） 【到達目標】 現在の子どもを取り巻く環境の変化を捉え、現在の子どもたちの文化について考える。情報機器及び教材の理解も深める。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）				<b>第11回 パート毎練習</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 役割や台本の部分的な練習、修正を行う。 【授業時間外学習】 他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。（4.0hr）			
<b>第4回 保育の中で取り上げられる児童文化財①</b> （担当：桐川敦子） 【到達目標】 遊具、玩具、おもちゃの由来と現状を理解する。幼稚園教育要領などを確認しながら、教材としての重要性を学習していく。また、一つ一つの児童文化財の保育における取り上げ方について、小学校との接続を考慮しながら考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）				<b>第12回 全体練習</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 役割全体や台本を通して練習、修正を行う。 【授業時間外学習】 他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。（4.0hr）			
<b>第5回 保育の中で取り上げられる児童文化財②</b> （担当：桐川敦子） 【到達目標】 絵本や人形劇の種類、紙芝居の歴史、現状を理解する。パネルシアター、ペープサート、エプロンシアターについて理解を深める。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れ、児童文化財を教材として取り上げる際の留意点について理解し、指導計画を立てられるようにする。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）				<b>第13回 試演（リハーサル）・調整</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 発表本番を念頭に置いた練習の後、映像等で確認し調整する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。（4.0hr）			
<b>第6回 児童劇とは何か</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 子どもを対象とする演劇の概要と特質を理解し、先行作品を映像鑑賞することで、創作の手掛かりを得る。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。（4.0hr）				<b>第14回 総稽古（グネプロ）</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 発表本番同様の上演をし、再度調整をする。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。（4.0hr）			
<b>第7回 題材の検討と選定</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 劇にする物語を選び、構成・アレンジの概略を決定する。 【授業時間外学習】 児童文化財について研究をする。（4.0hr）				<b>第15回 作品発表（上演）・講評</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 鑑賞者の前で上演し、講評を行う。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を、責任を持って遂行できるよう準備する。（4.0hr）			
<b>第8回 作業班分け、基本計画作成</b> （担当：諸富満希子・本永直子） 【到達目標】 言葉、造形、音楽の班分けの後、基本計画を定め、調整を行う。 【授業時間外学習】 児童文化財について研究をする。（4.0hr）							
<b>【学習上の留意点】</b> 1～5回（桐川）：児童文化について歴史から学ぶ。また幼少期からどのような文化に触れてきたのか、自らの体験・経験を基に、これからよりよい文化を生み出す子どもたちへの支援について考える。 6回以降（諸富・本永）：実習が中心になるので自律的に活動し、動きやすい服装を手掛けること。基本的な用具（文房具や消耗品等）は各自で用意する。作品制作上必要な、素材、用具（含楽器）の調達も学習の一環とするが、教員が適宜援助する。 作品の完成度によっては、授業回数が増えることもあり、作品発表（上演）の時期も次年度に持ち越す場合もある。また新型コロナウイルスの感染状況によっては、一部オンライン授業となる場合がある。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）							
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業の場合】 児童文化財についてのレポート50%、および作品制作・作品発表への貢献度50%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下において実技授業の実施が著しく困難な場合は、児童文化財についてのレポート50%、および授業終了後の課題レポート50%で評価する。							

科目名		発育発達論		担当者	井筒紫乃		
英文名		Growth and Development					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE201		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b> ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、それぞれのステージの身体の発育と運動発達との関係を理解し、そのステージに必要な運動プログラムの作成方法について、考慮しなければならないことについて理解する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ヒトの身体の発育や心・運動発達の過程・理論について		理論について自らまとめて説明できる		理論を資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
ヒトの心身の発育発達の知見に関する事項		発育発達の要点を自らまとめて説明できる		理論を資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
ヒトの心身の発育発達に関わる運動発達の知見に関する事項		発育発達の要点を自らまとめて説明できる		理論を資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 発育発達とは、心理的特徴</b> 【到達目標】 (1)発育発達の概念を理解する。 (2)身体計測の測定法を理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、発育と発達の違いについて調べてくること。(4.0hr)				<b>第9回 中学生期の発育発達</b> 【到達目標】 (1)身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。 (2)日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。  【授業時間外学習】 受講前に幼児期運動指針を調べてくること。(4.0hr)			
<b>第2回 地球の誕生・人類の誕生と進化</b> 【到達目標】 (1)地球の誕生から、人類への進化過程について理解する。 (2)人類はどのように二足歩行を獲得したのかを理解する。  【授業時間外学習】 ノートに、生物の誕生から人類への進化を時系列にまとめる。(4.0hr)				<b>第10回 高校生の発育発達</b> 【到達目標】 (1)高校生の身体の発育と心の発達を理解する。  【授業時間外学習】 スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)			
<b>第3回 赤ちゃんの発育発達</b> 【到達目標】 (1)出生後、赤ちゃんはどのように発育し、発達していくかを理解する。 (2)生物学的成熟度について理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、生まれた時の自身の身長、体重を調べておくこと。(4.0hr)				<b>第11回 日本と世界の子ども身体的特徴と生活習慣の現状</b> 【到達目標】 (1)日本と世界の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。 (2)47都道府県の子ども身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、世界の子ども肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)			
<b>第4回 発育発達期の身体的特徴（体重・身体組成）</b> 【到達目標】 (1)子どもの肥満の弊害について理解する。 (2)やせの問題について理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)				<b>第12回 発育発達期の運動プログラム</b> 【到達目標】 (1)発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。 (2)発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。  【授業時間外学習】 子どもの運動プログラムを考える際、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
<b>第5回 幼児期前期（1～3歳）の発育発達</b> 【到達目標】 (1)幼児期前期の身体の発育と運動発達について理解する。 (2)幼児期前期の形態・発達の特徴について理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)				<b>第13回 思春期の女性のからだ</b> 【到達目標】 (1)思春期の女性の身体的特徴を理解する。 (2)思春期の身体の変化における心の発達を理解する。  【授業時間外学習】 思春期の女性の身体の変化の留意点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
<b>第6回 幼児期後期（4～5歳）の発育発達</b> 【到達目標】 (1)幼児期後期の身体の発育と運動発達を理解する。 (2)幼児期後期の形態・発達の特徴について理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、スキヤモンの発育曲線について調べてくること。(4.0hr)				<b>第14回 女性とスポーツ</b> 【到達目標】 (1)女性選手の三主徴について理解する。 (2)女性の痩せについて理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、女性アスリートを指導する際に、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
<b>第7回 小学生期の発育発達</b> 【到達目標】 (1)小学生期の身体の発育と運動発達について理解する。 (2)ゴールデンエイジの身体の発育の発達について理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)				<b>第15回 ヒトの一生と発育発達</b> 【到達目標】 (1)ヒトの一生の発育と成長、心と運動発達を理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、14回目で作成したノートをまとめておくこと。(4.0hr)			
<b>第8回 ジュニア期の運動発達</b> 【到達目標】 (1)ジュニア期の身体の発育と運動発達の特性について理解する。 (2)ゴールデンエイジの運動発達の特徴について理解する。  【授業時間外学習】 受講前に、プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジについて調べてくること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 【対面授業の場合】 対面形式授業を実施する。各授業回において、パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて資料を配布するため、資料を使用しながら、ノートを作成していく。ほぼ毎時間、講義内容に関する理解度確認テストを行う。結果は、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。補足資料を用い、ノートを作成していく。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の、講義内容に関する理解度確認テストを実施する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 特に指定はしない。							
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業の場合】各授業回の理解度確認テストを60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート課題を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	造形表現 I			担当者	本 永 直 子		
英文名	Formative Expression I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE101	卒業認定方針との関連	⑥		
<b>【到達目標】</b> 子どもと造形という観点に立ち、基本的な造形素材の特質および表現技法を学び、指導者としての基礎技能を身につけるとともに、自らの表現力と教材への応用力を養う。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どもの造形的発達について		理解に基づき、説明することが出来る。		資料等を参照しながら説明すること出来る。		理解が不十分で説明することが出来ない。	
造形表現素材への理解と利用について		理解に基づき、適切に用いることが出来る		資料等を参照しながら適切に用いることが出来る。		理解が不十分で適切に用いることが出来ない。	
造形表現技術及び技能について		適切に用いることが出来る。		資料等を参考にしながら適切に用いることが出来る。		理解が不十分で適切に用いることが出来ない。	
<b>第1回 「造形表現」とは何か／平面表現と面・線・色彩</b> <b>【 到達目標 】</b> 子どもの遊びから芸術作品まで幅広く捉える。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第9回 色彩と表現（変わる）</b> <b>【 到達目標 】</b> フィンガーペインティングや小麦粉ねんどなどを通して、手触りや色の変化がもたらす子どもの心の動きや発見を体験し、子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第2回 面と表現（見立てる）</b> <b>【 到達目標 】</b> 「やぶく」「切る」を使った表現方法を学ぶと共に、切り取った形から見立てるの世界を体験することによって、子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第10回 面・線・色と表現</b> <b>【 到達目標 】</b> かたちを貼ったり、かたちを残したり、線を描いたり、色を塗ったり、色を吹き付けたり、様々な技法を用いることによって見えてくる世界を「〇〇な世界」に見立てて表現すると共に、子どもの想像力豊かな造形活動への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第3回 面と表現（繋げる）</b> <b>【 到達目標 】</b> 「貼る」「繋げる」を使った表現方法を学び、実際の制作を通して子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第11回 平面表現（絵本をてがかりに）</b> <b>【 到達目標 】</b> レオ・レオニやエリック・カールなどの絵本に見られる表現方法を紐解きながら様々な平面技法を学ぶと共に、子どもの制作過程への展開に生かす。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。(4.0hr)			
<b>第4回 面と表現（切る・貼る）</b> <b>【 到達目標 】</b> 「切る」「貼る」を使った表現方法を学ぶと共に、実際の制作を通して子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第12回 平面表現（広がる・たれる・とびちる）</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンテクニックの中でも代表的な技法（デカルコマニー・ドリップング・たらし絵など）を体験し、偶然に出来た様々な形や色と出会った時の心の動きを知ると共に、様々な制作過程に繋がる展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第5回 線と表現（打つ・おしつける・描く）</b> <b>【 到達目標 】</b> サインペンやバルテルなどの描画材を使って、長い線・ぐにやぐにやな線・太い線・短い線・色の線・くるくるの線など、様々な線の表現を体験し、子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第13回 平面表現（うつす・にじむ・あらう）</b> <b>【 到達目標 】</b> モダンテクニックの中でも代表的な技法（マッピング・洗い絵・にじみ絵など）を体験し、偶然に出来た様々な形や色と出会った時の心の動きを知ると共に、子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第6回 線と表現（見る・描く）</b> <b>【 到達目標 】</b> 野菜のかたち、植物のかたち、虫のかたち、動物のかたち、人のかたちなど、様々な形を観察すると共に、良く見て表す線の表現を体験し、子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第14回 平面造形表現（組み合わせる）</b> <b>【 到達目標 】</b> 写真の「私」と平面技法を用いて作った色紙をコラージュし、私が行ってみたい・やってみたい夢や願望の「ワンシーン」を画面に表現することで、子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第7回 色彩と表現（三原色・補色）</b> <b>【 到達目標 】</b> 色の基本的な知識や特質を知り、子どもの制作過程への展開に生かす。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第15回 発表・まとめ</b> <b>【 到達目標 】</b> コラージュ作品に表現された「夢」を発表すると共に、その表現を共有し、鑑賞し合うことで、意見を交換する。また、制作と発表の経験を振り返り、子どもの造形表現について話し合うと共に、子どもの造形表現・造形活動について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第8回 色彩と表現（混ざる）</b> <b>【 到達目標 】</b> 絵具や色水を通して色の変化がもたらす子どもの心の動きや発見を体験し、子どもの制作過程への展開を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 実習が中心になるので自律的に活動すること。造形作業のしやすく汚れても良い服装を心掛け、基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。  <b>【オンライン授業の場合】</b> 対面による授業を原則とするが、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じてオンライン形式の授業を導入する。その際、各授業回の指定に応じて出来る限り実技課題に取り組むこと。また、場合によってはレポート課題を指定することがある。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 東山明編著『絵画・製作・造形あそびカンペキBOOK』ひかりの国 樋口一成編著『幼児造形の基礎－乳幼児の造形表現と造形教材－』萌文書林							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 制作過程を50%、ノートやワークシート等の提出物を30%、課題作品や発表20%として総合的に評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 写真データやレポート等の提出により制作過程を判断する。							

科目名	言葉			担当者	並木真理子		
英文名	Language in the Childcare						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE102		卒業認定方針との関連	⑥	
【到達目標】 子どもの言葉を豊かに育むことのできる保育者を目指し、児童文化財に関する知識を身に付け、実践演習を通して保育者に必要とされる言語表現力を身に付ける。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どもの言葉を育む保育について		十分に理解し自らまとめて説明できる		内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
児童文化財に関する知識を身につける		知識を習得し活用できる		知識を習得し、資料等を参照しながら説明できる		知識が不十分で説明できない	
保育者に必要な言語表現力を身につける		十分に理解し自らまとめて説明できる		内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 ガイダンス／絵本をみる観点</b> 【到達目標】 授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。絵本を読む観点を学び、自主的に読み進める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業計画表を読み込み授業の見直しをもつ。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第9回 紙芝居の作成と実演</b> 【到達目標】 紙芝居の特性を活かして、ミニ紙芝居を作成する。グループ内で相互に自作の紙芝居の実演を行って、子どもが楽しめる演出の方法を追究する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、作成した紙芝居の動画を作成する。(4.0hr)			
<b>第2回 保育者の言語表現</b> 【到達目標】 保育現場における保育者の言語表現について知り、言語表現を学ぶ意義を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、保育者に必要な語り方の練習を行う。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第10回 ペーパーサート・パネルシアターを楽しむ</b> 【到達目標】 ペーパーサート、パネルシアターの特性を理解し、子どもが楽しめる実践方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 言葉遊びと手遊び</b> 【到達目標】 言葉遊び、手遊びを通して、言葉の面白さ、表現することの楽しさに触れる。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、保育者に必要な語り方の練習を行う。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第11回 人形劇を楽しむ</b> 【到達目標】 人形劇の特性を理解し、子どもが楽しめる実践方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 絵本を知る</b> 【到達目標】 様々な絵本に触れながら、絵本の種類や特質について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、絵本構造や作家への理解を深める。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第12回 児童文化財の作成</b> 【到達目標】 オリジナルの絵本の作り方を学び、言葉のリズムを楽しみながら対象年齢に合わせた絵本を製作する。 【授業時間外学習】 発表に向けて、作成、読み聞かせの練習を行う。(4.0hr)			
<b>第5回 読み聞かせの意義と方法</b> 【到達目標】 読み聞かせの意義を学び、基本的な方法で練習し合って、読み聞かせのコツを掴む。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、保育者に必要な読み方の練習を行う。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第13回 児童文化財の実演発表①</b> 【到達目標】 グループごとに自作の絵本の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 読み聞かせの実践</b> 【到達目標】 対象とする子どもの年齢に合わせて、子どもが楽しめる読み聞かせ法を追求する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、子どもの言語発達過程を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第14回 児童文化財の実演発表②</b> 【到達目標】 グループごとに自作の絵本の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 読み聞かせから遊びへの展開</b> 【到達目標】 読み聞かせから様々な遊びへの展開方法について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、絵本の様々な応用方法を調べる。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第15回 子どもの言葉を育む保育者の言語表現力</b> 【到達目標】 保育現場における保育者の言語表現力について確認する。 【授業時間外学習】 配布プリントを読み返して、授業での学びを振り返る。(4.0hr)			
<b>第8回 紙芝居を知る</b> 【到達目標】 様々な紙芝居に触れながら、紙芝居の歴史や特質、種類について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、紙芝居と絵本の違いへの理解を深める。課題に取り組む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 ・授業は講義と演習を組み合わせで行う。グループワークやディスカッションには積極的に取り組み、言語表現技術の向上に努めること。 なお、児童文化財ごとに実演発表を行う。 ・自主的に絵本等の児童文化財に触れ、児童文化財をみる目を養うこと。 ・毎回、授業での学びをまとめる授業シートを記入する。授業シートをもとに次回授業でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 ・オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、オンデマンド授業の課題提出状況によって順番を入れ替える場合がある。 ・配布資料はPDF資料や授業動画としてポータル配信する。ポータル配信の方法は初回授業で説明する。 ・相互に課題内容を共有するため、実践や作品について写真や動画での提出を求めることがある。 ・毎回、出席確認を兼ねた課題フォームを配信する。課題フォームの回答をもとに次回授業でフィードバックを行う。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。 参考図書：『ベーシック絵本入門』生田美秋・石井光恵・藤本朝巳 編著（ミネルヴァ書房）2013年							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 授業内発表40%、グループワークや提出物20%、試験課題40%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 授業内発表30%、毎回の課題30%、試験課題40%として総合的に評価する。							

科目名	ソルフェージュ (楽典)			担当者	諸 富 満 希 子		
英文名	Solfège (Musical Grammar)						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE103		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b>							
楽器の演奏、歌唱、創作等、音楽活動において欠かすことの出来ない楽典の知識を深め、読譜力を付けることを目的とする。また、聴音やリズム打ちの練習を通して、音感、リズム感を養う。初回に音楽学習調査を行い、クラス分けを行う。「基礎クラス」では、読譜やリズムの理解ができるようになることを主たる目的として指導を行う。「応用クラス」ではこの授業を通して、作曲や編曲ができるようになるまで指導を行う。							
<b>【ルーブリック (学修の到達レベル)】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
ソルフェージュ能力の習熟		音やリズムを、能動的にも受動的にも正確に再現できる		音やリズムを、能動的にも受動的にもある程度再現できる		音やリズムの再現が不正確である	
音楽理論の理解		楽曲を理論的に理解することができる		解説があれば楽曲を理論的に理解することが可能である		楽曲を理論的に理解する能力が乏しい	
楽譜の理解		読譜が完全にでき、他の曲にも応用ができる		読譜はできているが、応用ができない		読譜能力が不十分である	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 音楽と楽譜</b> <b>【到達目標】</b> 音楽と楽譜の関係を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 楽譜に興味をもつとともに、授業時に出席する復習問題を解く。(4.0hr)				<b>第9回 音階①</b> <b>【到達目標】</b> 長音階を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ハ・ト・ヘ長調の音階をピアノで弾き、耳で音を確認する。(4.0hr)			
<b>第2回 五線と音部記号①</b> <b>【到達目標】</b> 五線と2種の音部記号について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 高音部譜表の音を読むように練習する。(4.0hr)				<b>第10回 音階②</b> <b>【到達目標】</b> 短音階を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> イ短調の音階をピアノで弾き、耳で音を確認する。(4.0hr)			
<b>第3回 五線と音部記号②</b> <b>【到達目標】</b> 五線と2種の音部記号について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 低音部譜表の音を読むように練習する。(4.0hr)				<b>第11回 移調①</b> <b>【到達目標】</b> 移調楽譜の作成が出来るようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どものうたを使って、移調楽譜を作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 音符と休符</b> <b>【到達目標】</b> 音符と休符の意味と正しい書き方を覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に出席する楽曲を写譜する。(4.0hr)				<b>第12回 移調②</b> <b>【到達目標】</b> 移調楽譜の作成が出来るようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どものうたを使って、移調楽譜を作成する。(4.0hr)			
<b>第5回 拍子</b> <b>【到達目標】</b> 拍子と拍の関係を理解し、正しく数えられるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に出席する楽曲を写譜する。(4.0hr)				<b>第13回 和音とコードネーム①</b> <b>【到達目標】</b> 和音とコードネームを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> コードネームのついた簡単な曲を使い、自分で伴奏譜を作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 リズム</b> <b>【到達目標】</b> 付点音符、連符を含めたリズムを正しく打てるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 復習テストに向け、リズム課題を練習する。(4.0hr)				<b>第14回 和音とコードネーム②</b> <b>【到達目標】</b> セブンスのコードなど、少し難易度の高いコードを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> ポップスなどで使用されているコードを用いながら、編曲に挑戦する。(4.0hr)			
<b>第7回 音程①</b> <b>【到達目標】</b> 1、4、5、8度音程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に出席する復習問題を解く。(4.0hr)				<b>第15回 音楽用語・記号</b> <b>【到達目標】</b> 頻出する音楽用語・記号を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「器楽Ⅰ」で使用している「バイエル」の中に使用されている用語を調べる。(4.0hr)			
<b>第8回 音程②</b> <b>【到達目標】</b> 2、3、6、7度音程を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 次回の復習テストに向け、音程全般を復習する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 高校までの音楽履修歴などを踏まえ、クラスを「基礎クラス」と「応用クラス」に分け、授業を展開する。各回の授業は、それ以前の授業の内容を理解しているという前提の上で行う。毎回ノートをチェックし、読譜・リズムなどの理解度確認テストを行う。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンドにて楽典部分を配信する。配信は、本来の各授業回が予定されている日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。出席の確認は、所定の様式による報告書の提出によって行う。なお、ソルフェージュの部分については対面授業を実施する。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
適宜プリントを配布する。五線のノートは各自で用意すること。 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 理解度復習テスト20%、提出課題20%、楽典問題の筆記テスト(聴音を含む)60%の割合で評価する。なお、「基礎クラス」だからと言って「応用クラス」より評価が低くなるわけではなく、どのクラスにおいても内容の理解度によって評価を行う。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 新型コロナウイルスの感染状況下においては、1回ごとの理解度復習テストを行わず、楽典問題の筆記テスト(聴音を含む)で100%評価を実施する。							

科目名	環境			担当者	鈴木信夫		
英文名	Environment						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		科目ナンバー	CBE104		卒業認定方針との関連	⑧
授業形態	演習						
<b>【到達目標】</b>							
<p>「幼児の心身成長に自然環境や社会環境、物的環境が重要な役割を果たしている。家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。子どもの成長にとって望ましい「環境」を、「物的環境」「自然環境」「社会環境」の面から捉え、保育者に求められる援助について理解し、特に「自然環境」について、子どもの成長にとって望ましい自然体験と保育者の適切な援助方法、「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助、自然と生命を尊重する態度を身に付け、子どもに伝える方法について学習する。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	幼児の心身成長における物的環境の役割について	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	幼児の心身成長における社会環境の役割について	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	幼児の心身成長における自然環境の役割について	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b>				<b>第9回 植物の栽培と観察(2)</b>			
<b>【到達目標】</b> 「環境」の授業の概要とねらいを理解する。				<b>【到達目標】</b> 冬季における植物の栽培例として、チューリップやヒヤシンスの栽培の基本を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで球根植物について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
<b>第2回 環境とは</b>				<b>第10回 公園の自然</b>			
<b>【到達目標】</b> 子どもの成長にとって望ましい、「物的環境」「自然環境」「社会環境」について理解する。特に「物的環境」と「社会環境」について考える。				<b>【到達目標】</b> 都市部においても、公園を自然環境として活用することで、子どもの健全な成長を促すことができることを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 都立公園についてインターネットで調べること。(4.0hr)			
<b>第3回 自然環境とは</b>				<b>第11回 水族館</b>			
<b>【到達目標】</b> 子どもの成長にとって望ましい、「自然環境」について理解する。さらに自然環境が子どもの成長に及ぼす影響を考える。				<b>【到達目標】</b> 普段の生活では経験できない自然とのふれあいとして、水族館で出会える生き物について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料を読んでおくこと。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 代表的な水族館についてインターネットで調べること。(4.0hr)			
<b>第4回 昆虫の特徴</b>				<b>第12回 いきものさがし(1)</b>			
<b>【到達目標】</b> 小さい子どもが興味を示す生き物として、昆虫を取り上げ、その特徴を理解する。				<b>【到達目標】</b> 冬になると多くの生き物は姿を消してしまいが、それぞれの方法で春を待っていることを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料を読んでおくこと。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでミノムシについて調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
<b>第5回 小動物の飼育と観察</b>				<b>第13回 いきものさがし(2)</b>			
<b>【到達目標】</b> 小動物の飼育の一例としてモンシロチョウの飼育と観察の要点を理解する。また、小動物を飼育することの意義を理解する。				<b>【到達目標】</b> 生き物を積極的に呼び戻す方法として、エコアップの技術を理解する。また、ピオトープの例としてトンボ池の意義を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 大学周辺の畑でモンシロチョウの産卵を観察すること。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでピオトープの作り方を調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
<b>第6回 野鳥観察</b>				<b>第14回 記録する道具</b>			
<b>【到達目標】</b> 園庭や公園で見られる都市鳥を覚えることで、野鳥観察の基本を理解する。野鳥の子育てについても理解する。				<b>【到達目標】</b> 子ども達の様々な活動を記録する道具として、カメラの仕組みと撮影方法の基本を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 大学周辺や自宅周辺で、授業で習った都市鳥を探すこと。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでデジタルカメラの仕組みについて調べること。(4.0hr)			
<b>第7回 植物の特徴</b>				<b>第15回 環境とは</b>			
<b>【到達目標】</b> 植物を観察・栽培の基礎知識として、顕花植物の分類体系の基本を理解する。				<b>【到達目標】</b> 子どもの成長にとって望ましい、「物的環境」「自然環境」「社会環境」について総括する。それぞれの環境が、子どもの成長にどう影響するか、理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 大学周辺や自宅周辺のセイヨウタンポポカカントウタンポポを調べること。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> これまでに配布された資料等を読み返し、理解を深める。(4.0hr)			
<b>第8回 植物の栽培と観察(1)</b>							
<b>【到達目標】</b> 子どもがよく知っている植物として、アサガオの栽培の基本を理解する。また、子どもにとって植物を栽培することの意義を考える。							
<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでアサガオの栽培について調べ、理解をさらに深めること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。課題として、「リサイクルおもちゃ」を作成するので、指定された期日までに必ず準備すること。ほぼ毎時間、授業の終わりに講義内容等に関するレスポンスカードを書いてもらい、多かつた疑問・質問等について、次回の授業の初めに説明する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回のパワーポイントと補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書は特に使用せず、プリントを配布（オンデマンドの場合は、Pholly上にPDF資料をアップ）する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 課題を20%、テストを80%として評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	健康			担当者	森田陽子		
英文名	Child Health						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・選択	
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE105		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b>							
乳幼児が自ら積極的に体を動かして活動に取り組み、心身ともに健康な生活を営むためには、どのような援助が必要なのかを理解する。様々な観点からの知識を得ることは、適時に適切な援助ができることに繋がることを学習する。保育者を目指す者として、乳幼児期の発育・発達基礎を理解し、さまざまな事例を知ることで、実践で役立つ力を身につける。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
「健康」の基礎的事項・理論		「健康」の基礎的事項・理論について説明できる。		「健康」の基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。		「健康」の基礎的事項・理論について説明できない。	
「健康」の応用的事項・理論		「健康」の応用的事項・理論について説明できる。		「健康」の応用的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。		「健康」の応用的事項・理論について説明できない。	
「健康」の保育現場での実践		「健康」について理解し、知見を活用しながら現場での実践に繋げることができる。		「健康」について理解し、現場での実践に繋げることができる。		「健康」について理解不足で、現場での実践に繋げることができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション—健康とは—</b> <b>【到達目標】</b> (1)授業内容や評価方法について知る。 (2)子どもたちの生活の変化と健康 <b>【授業時間外学習】</b> この授業での目的とねらいを確認し、各自の学習目標をレポートする。(4.0hr)				<b>第9回 0～2歳児の生活と動き</b> <b>【到達目標】</b> (1)0～2歳児の生活と動きについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 0～2歳児の生活と動きについての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第2回 幼児期の健康と生活リズム—その1—</b> <b>【到達目標】</b> (1)健康の3条件について理解する。 (2)保護者への健康教育について学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 幼児期の健康と生活（休養）についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第10回 0～2歳児の生活習慣の獲得</b> <b>【到達目標】</b> (1)0～2歳児の身近自立について理解する。 (2)0～2歳児の生活習慣の獲得について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 0～2歳児の生活習慣の獲得についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第3回 幼児期の健康と生活リズム—その2—</b> <b>【到達目標】</b> (1)健康の3条件（について理解する。 (2)保護者への健康教育について学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 幼児期の健康と生活（栄養）についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第11回 0～2歳児のあそび</b> <b>【到達目標】</b> (1)生活の中にあるあそびを知る。 (2)戸外遊びを知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 0～2歳児のあそびについての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第4回 幼児期の健康と生活リズム—その3—</b> <b>【到達目標】</b> (1)健康の3条件について理解する。 (2)保護者への健康教育について学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 幼児期の健康と生活（運動）についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第12回 3～5歳児の生活習慣の獲得</b> <b>【到達目標】</b> (1)3～5歳児の身近自立について理解する。 (2)3～5歳児の生活習慣の獲得について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 3～5歳児の生活習慣の獲得についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第5回 生活の中での健康づくり</b> <b>【到達目標】</b> (1)幼児期の生活の問題を知る。 (2)保育者（大人）の役割について知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 生活の中での健康づくりについての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第13回 3～5歳児の運動あそびの実践</b> <b>【到達目標】</b> (1)からだを使った運動あそびの実践を知る。 (2)道具を使った運動あそびの実践を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 3～5歳児の運動あそびの実践についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第6回 子どものからだの発達と運動能力</b> <b>【到達目標】</b> (1)出生前の発育・発達について知る。 (2)出生後の発育・発達について知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 子どものからだの発達と運動能力についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第14回 安全への配慮</b> <b>【到達目標】</b> (1)危険について理解する。 (2)リスクとハザードの実態について知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 安全への配慮についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第7回 体力・運動能力と動きの獲得</b> <b>【到達目標】</b> (1)体力・運動能力と動きとの関係について学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 体力・運動能力と動きの獲得についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第15回 保育者（大人）の役割</b> <b>【到達目標】</b> (1)子どもの育ちを理解する。 (2)保護者・家庭支援について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育者（大人）の役割についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 乳幼児の安全指導</b> <b>【到達目標】</b> (1)ケガ・事故の実態について学ぶ。 (2)乳幼児への安全指導について学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 乳幼児の安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
単元に応じた資料を基に講義を行う。さらに内容に即した映像を使ってより理解が深められるように授業を展開していく。							
<b>【対面授業の場合】</b>							
授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。							
<b>【オンライン授業の場合】</b>							
オンデマンド方式での展開とする。授業内容については、授業回数に変更がなくても大幅な変更はしない。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
コンパス保育内容健康 前橋 明編著、建帛社（2018年）							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b>							
毎回のレポート30%、課題プレゼンテーション30%、最終レポート40%。							
<b>【オンライン授業の場合】</b>							
毎回のレポート30%、最終レポート70%。							

科目名	歌唱法			担当者	諸富満希子		
英文名	Singing						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		科目ナンバー	CBE106		卒業認定方針との関連	⑥
授業形態	実技						
<b>【到達目標】</b> 基礎となる正しい発声法を学ぶことによって、保育現場に立った時、疲労しにくい無理のない声で指導ができるようになることを目標とする。そして、子どもたちに音楽を通して楽しい表現活動を提供できるように、現場に直結した「歌う」「動く」などの力を養う。また、独唱・合唱などの様々な歌唱形態を体験し、授業内での発表を通して、人前で豊かに表現することを学ぶ。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育者として必要とされる技量		子どもとともにうたを楽しむことができる		子どもを意識してうたを歌うことができる		子どもを意識してうたを歌うことに対して、苦手意識を持っている	
子どものうたに対する習熟度		子どものうたの取り扱いについて習熟している		いろいろな子どものうたを歌うことができる		子どものうたのレパートリーが少ない	
正しい発声		きれいな声、正確な音程・リズムで歌うことができる		正確な音程・リズムで歌うことができる		正確な音程・リズムで歌うことができない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 声の出るしくみ</b> <b>【到達目標】</b> 声の出るしくみを理解し、声を大切にすることを学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 毎日発声練習を行う。(1.0hr)				<b>第9回 子どものうた④</b> <b>【到達目標】</b> 秋を題材にしたうたを学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			
<b>第2回 発声法の訓練</b> <b>【到達目標】</b> 基本的な発声練習に慣れる。  <b>【授業時間外学習】</b> 毎日発声練習を行う。(1.0hr)				<b>第10回 子どものうた⑤</b> <b>【到達目標】</b> 冬を題材にしたうたを学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			
<b>第3回 子どものうた①</b> <b>【到達目標】</b> 園生活でよく取り上げられるうたをマスターする。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)				<b>第11回 子どものうたの伴奏①</b> <b>【到達目標】</b> 課題曲「きのこ」（簡易伴奏版）を中心に、子どものうたの伴奏法を学習する。個人指導を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題曲となった曲のピアノ伴奏を練習する。(1.0hr)			
<b>第4回 子どものうた②</b> <b>【到達目標】</b> 春を題材にしたうたを学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)				<b>第12回 子どものうたの伴奏②</b> <b>【到達目標】</b> 課題曲「きのこ」（簡易伴奏版）を中心に、子どものうたの伴奏法をマスターする。個人指導を行う。  <b>【授業時間外学習】</b> 課題曲となった曲のピアノ伴奏を練習する。(1.0hr)			
<b>第5回 子どものうた③</b> <b>【到達目標】</b> 夏を題材にしたうたを学習する。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)				<b>第13回 女声2部合唱①</b> <b>【到達目標】</b> 声の重なり合う美しさを感じるとともに、正確な音程を保つことができるよう心掛ける。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)			
<b>第6回 わらべうた</b> <b>【到達目標】</b> 日本に伝承されているわらべうたを遊びながら覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業で習った以外のわらべうたを探す。(1.0hr)				<b>第14回 女声2部合唱②</b> <b>【到達目標】</b> 他のパートを聴きながら歌うことができるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)			
<b>第7回 動きを伴ううた①</b> <b>【到達目標】</b> 手遊びや身体を使いながら歌ううたを実践しながら覚える。  <b>【授業時間外学習】</b> 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)				<b>第15回 発表会</b> <b>【到達目標】</b> 発表会における自分の役割を確実に果たす。音楽的な演奏ができるよう心掛ける。  <b>【授業時間外学習】</b> 学習したうたを子どもの前でも歌えるように復習する。(1.0hr)			
<b>第8回 動きを伴ううた②</b> <b>【到達目標】</b> 手遊びや身体を使いながら歌ううたを創作する。  <b>【授業時間外学習】</b> いろいろな遊びうたを探す。(1.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 発声・音楽的な基礎練習は毎回行う。この授業はアクティブラーニングなので、積極的に声を出し歌うことが必要である。2年次の「保育内容（表現A）」で、幼稚園に行き園児といっしょに歌うので、1年次のうちにしっかり声を出し、子どものうたに慣れ親しむこと。一定の水準になるまで繰り返し学習を継続するため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 新型コロナウイルスの感染状況によっては、クラスを分割し人数を制限した上で指導を行い、一部オンラインで伴奏を配信し復習してもらおう形をとる。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社）、その他適宜楽譜を配布する。 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 子どものうた・2部合唱などの実技演奏能力80%、授業内課題・発表会への取り組み方20%で評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 新型コロナウイルスの感染状況によっては、発表会は中止し、実技試験を個別に行う。その場合は、実技演奏能力80%、授業内課題への取り組み方20%で評価を行う。							

科目名	器楽 I			担当者	諸富満希子・森 立子 辛島安妃子		
英文名	Instrumental Music I						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1						専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE107			卒業認定方針との関連	⑥
【到達目標】 ピアノ演奏技能の基礎を学びながら、高い感性を培うことを目標とする。 少人数のグループレッスンの形態でスタートし、経験度、到達度に応じた個人レッスンも交えて指導する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育者として必要とされる技量		音楽を通して子どもに働きかけることができる		音楽を子どもの前で披露することができる		音楽を子どもの前で披露するための技術が不十分である	
音楽的な表現		強弱などを含め、音楽的に表現できる		強弱などは理解しているが、表現力が乏しい		強弱など表情を出すための技術が不十分である	
楽譜の理解		読譜が完全にでき、他の曲にも応用ができる		読譜はできているが、応用ができない		読譜能力が不十分である	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ピアノ演奏のための基本的事項について 【到達目標】 楽譜と鍵盤の関係、指番号などピアノ演奏の基本的事項を理解する。  【授業時間外学習】 読譜の練習をする。(1.0hr)				第9回 バイエル78番 【到達目標】 3声部構造を理解して弾く。  【授業時間外学習】 左手の5の指の音を保持する場合と保持しない場合を区別して練習する。(1.0hr)			
第2回 バイエル14番・31番 【到達目標】 1の指から5の指の動きを、いろいろなパターンでマスターする。  【授業時間外学習】 音をしっかりと読んだ上で、片手ずつ練習する。(1.0hr)				第10回 バイエル80番 【到達目標】 二長調の音階を理解し、軽快な3拍子で演奏する。  【授業時間外学習】 装飾音や臨時記号の音を正確に読む。(1.0hr)			
第3回 バイエル87番・34番 【到達目標】 連弾の楽しさを味わう。他の演奏者と呼吸を合わせて弾くことを学ぶ。  【授業時間外学習】 連弾なので、止まらずに演奏できるように練習する。(1.0hr)				第11回 バイエル88番 【到達目標】 ト長調の音階を理解するとともに、付点のリズムをレガートに弾く。  【授業時間外学習】 ト長調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
第4回 バイエル58番 【到達目標】 右手のメロディーを強めに弾くとともに、左手の伴奏を柔らかく演奏する。  【授業時間外学習】 左手の伴奏型を繰り返し練習する。(1.0hr)				第12回 バイエル90番 【到達目標】 8分の6拍子を理解して弾く。重音のときにメロディーがつながるように演奏する。  【授業時間外学習】 同音を連打するときの指使いを正確にし、音のバランスが取れるように練習する。(1.0hr)			
第5回 バイエル52番 【到達目標】 8分の6拍子を理解して弾く。  【授業時間外学習】 6拍子にならず、2拍子の感じを出して演奏できるようにする。(1.0hr)				第13回 バイエル93番 【到達目標】 一時的な平行調への転調を意識して演奏する。  【授業時間外学習】 イ短調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
第6回 バイエル66番 【到達目標】 8分の6拍子を理解して弾く。  【授業時間外学習】 前回に引き続き、2拍子の感じを出して演奏できるようにする。(1.0hr)				第14回 バイエル100番 【到達目標】 3部形式とコーダを理解して演奏する。  【授業時間外学習】 ヘ長調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
第7回 バイエル65番 【到達目標】 ハ長調の音階の指使いを理解する。  【授業時間外学習】 ハ長調のスケールを練習する。(1.0hr)				第15回 発表会 【到達目標】 曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。  【授業時間外学習】 緊張の中でも演奏できるように、曲を弾きこむ。(1.0hr)			
第8回 バイエル73番 【到達目標】 臨時記号を理解し、メロディーをレガートに演奏する。  【授業時間外学習】 強弱記号にも注意を払い、演奏に生かす。(1.0hr)							
【授業時間外学習】 毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課す。個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。教員が認めた場合、ブルクミュラーなどに進む場合もある。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンドで曲の模範演奏と学習上のポイントを配信するが、どのような状況下においても必ず数回は対面授業を行う。							
【教科書・参考書など】 「バイエル」（全音楽譜出版）、「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下においても同様の基準で判断する。ただし、試験を行う時期については検討する。							

科目名	バレーボール			担当者	ヨコ・カリン・セッター・アント		
英文名	Volleyball						
単位数	1	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・選択	
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE108		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b>							
バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。							
<b>【ルーブリック(学修の到達レベル)】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
バレーボールの用語、ルール、成り立ちについて		用語、ルールをよく理解し、説明することができる		用語、基本的なルールを理解している		ルールを理解できていない	
基本の技術の習得に関する事項		正しいフォームで行うことができる		正しいフォームに近い形で行うことができる		正しいフォームを形成できない	
試合形式での実施に関する事項		システムを理解し、試合が行える		試合中のラリーに加わることができる		試合のシステムを理解できていない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 バレーボールの歴史と発展</b>				<b>第9回 ゲームの進め方・ルール・審判法の理解</b>			
【到達目標】 (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。				【到達目標】 (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
<b>第2回 基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)</b>				<b>第10回 ゲーム実践Ⅰ</b>			
【到達目標】 (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。				【到達目標】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
<b>第3回 基礎技能の応用(各種レシーブ・トス)</b>				<b>第11回 個人技能の評価方法と技能修正方法</b>			
【到達目標】 (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換しているような方向へコントロールできる。				【到達目標】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
<b>第4回 基礎技能の習得Ⅱ(サーブ)</b>				<b>第12回 個人技能の評価方法と技能修正方法</b>			
【到達目標】 (1)アンダーハンドサーブ、フロッターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。				【到達目標】 (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
<b>第5回 基礎技能の習得Ⅲ(スパイク)</b>				<b>第13回 バレーボールのポジションとその役割の理解</b>			
【到達目標】 (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。				【到達目標】 (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
<b>第6回 集団技能の理解と集団での技術・戦術</b>				<b>第14回 ゲーム実践Ⅲ</b>			
【到達目標】 (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。				【到達目標】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
<b>第7回 基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃)</b>				<b>第15回 ゲーム実践Ⅳ</b>			
【到達目標】 (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。				【到達目標】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。			
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)				【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
<b>第8回 基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション)</b>							
【到達目標】 (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。							
【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリ類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更しない。全15回の授業を通じて各テーマについて理解を深め、各自が可能な範囲で技術の習得に取り組むこと。また、対面授業が可能となった際にはすみやかに実践できるように課題の自習にも取り組むこと。配信資料は、本来の対面授業が予定されている曜日の前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その1週間後まで掲載する。各課題の提出方法についてはPhollyにて行うこととし、接続トラブル等で提出が難しい場合には、メール添付にて提出も可とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特になし。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 各回の提出されたレポートを毎回評価し、全授業終了時点で総合的に評価する(70%)。全授業終了後にまとめのレポートを実施し、評価する(30%)。							

科目名	スキー			担当者	中丸信吾		
英文名	Skiing						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・選択	
授業形態	実習	科目ナンバー	CBE109		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【目的とねらい】</b> この授業の目的は、スキーの基本技術や理論、ルールやマナーを実践を通して学習し、ゲレンデで楽しく安全にスキーをする技術を習得することである。また、本実習を通して、生涯スポーツとして自然の中でスキーを楽しむ素養を身に着けることをねらいとしている。併せて、本実習は宿泊集中授業で行うため、集団生活での配慮行動についても学習することとする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スキーの理論およびルール・マナーの理解		理論やルール・マナーを理解し自ら説明できる。		資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
安全かつ効率の良いスキー技能の習得		急斜面や不整地で安全かつ効率良く滑ることができる。		中斜面で安全かつ効率良く滑ることができる。		緩斜面で滑ることができない。	
集団生活での配慮行動		自ら率先して集団生活をよりよくするための働きかけができる。		自ら考えて集団生活での配慮行動ができる。		集団生活の配慮行動ができない。	
<b>【授業内容】</b> 2月中旬から下旬において学外での宿泊実習（4泊5日）を行う。実習参加者は、複数回の事前指導に参加するものとする。							
<b>【到達目標】</b> 1. スキーの理論およびルール・マナーについて実践を通して理解する。 (1) ターンの原理を理解する。 (2) スキー場でのルール・マナーを理解する。 2. 安全かつ効率の良いスキー技能を習得する。 (1) スタンスとポジション (2) 登行、直滑降、制動と停止、ブルークファーレン (3) ブルークボーゲン (4) 滑走ブルーク (5) 横滑りの展開 (6) システム動作 (7) 基礎パラレルターン 小回り (8) 基礎パラレルターン 大回り (9) 総合滑降 3. 集団生活での配慮行動を実践を通して理解する。							
<b>【授業時間外学習】</b> 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（参加費¥85,000程度）に参加すること。学外で実施するため、服装、言葉使いなど、日本女子体育大学の学生として相応しい言動を行うこと。宿泊を伴うため、集団生活のあり方を十分理解し、他人に配慮した行動をとること。実習はグループ毎に活動するので、協力しながら積極的に取り組むこと。用具の取り扱いや管理は丁寧に行うこと。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 本実習では、必要に応じて一部の授業をオンライン形式（オンデマンド）で実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし掲載する。出席の確認は、小レポートの提出によって行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。 参考書：「日本スキー教程」（公財）全日本スキー連盟、2014年							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> レポート20%、スキー技術の理解度と習熟度70%、集団生活の適応度10%。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンライン形式（オンデマンド）にて実施した授業は、各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、「スキー技術の理解度」の評価に含めることとする。							

科目名	スケート		担当者	湯田 淳		
英文名	Skating					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					
授業形態	実習	科目ナンバー	CBE110		卒業認定方針との関連	⑦
<b>【到達目標】</b>						
スケートの未経験者及び初級レベルを対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、グループスケーティング等について学習及び実習を行う。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	スケート（滑走）の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を参考書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
	スケート（滑走）の技能に関する事項	要点を押さえ、状況に応じた十分な滑走ができる。	指示に従って滑走できる。	技能の習得が不十分で滑走できない。		
	スケート（滑走）の知見・技能の活用に関する事項	知見・技能を十分に活用し、他者の水準に応じた適切な指導ができる。	知見・技能の活用に関する理解はできており、他者の指導ができる。	知見・技能の活用に関する理解が不十分で、他者の指導ができない。		
<b>【授業内容】</b>						
5～7月に学内でガイダンスを実施することによってスケートへの理解を深め、9月に学外実習を実施する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li><b>ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1）</b> 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。</li> <li><b>スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2）</b> ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。</li> <li><b>リンクでの安全な行動法、基礎技術（前進滑走）（学外実習1）</b> 氷上への安全な入退場、安全な転倒法、転倒後の立ち上がり法を実践する。前方への歩行、滑走をできるようにする。</li> <li><b>グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2）</b> 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。</li> <li><b>講義（学外実習3）</b> スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。</li> <li><b>基礎技術（前進滑走、後進滑走）（学外実習4）</b> 前進滑走および後方への歩行、滑走をできるようにする。</li> <li><b>基礎技術（カーブ滑走）（学外実習5）</b> 前進滑走から半円上を惰力滑走できるようにする。</li> <li><b>基礎技術（ターン滑走）（学外実習6）</b> 前進滑走から後進滑走、後進滑走から前進滑走へ変換できるようにする。</li> <li><b>応用技術（連続滑走、停止）（学外実習7）</b> ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。</li> <li><b>グループスケーティング（学外実習8）</b> 2～3人のグループで滑走できるようにする。</li> <li><b>グループミーティング（発表準備）（学外実習9）</b> 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。</li> <li><b>応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習10）</b> 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続してできるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽に合わせてできるようにする。</li> <li><b>グループスケーティング、ミニホッケー（導入）（学外実習11）</b> 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。</li> <li><b>試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12）</b> 実習班ごとの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケーティングを音楽に合わせて実践する。</li> <li><b>試験、グループによる演技発表（学外実習13）</b> 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケーティングを発表する。</li> </ol>						
<b>【授業時間外学習】</b>						
自身の滑走動作改善のための課題を確認し、改善のための方策を検討する。						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<b>【対面授業の場合】</b>						
学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。						
<b>【オンライン授業の場合】</b>						
学内での授業について、必要に応じてオンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入り動画とPDF資料である。配信は本学ポータルサイトのGoogle Drive上にて行い、出席は各授業回の小課題の提出によって確認する。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
教科書：教科書は使用しない。 参考書：「改訂 アイススケーティングの基礎」 大学スケート研究会編（アイオーエム）						
<b>【成績評価方法】</b>						
実技試験の達成度を40%、演技発表の完成度を40%、実習レポートの達成度を20%の割合として評価する。						

科目名	救急処置法			担当者	夏井裕明		
英文名	First Aid						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE202		卒業認定方針との関連	⑤⑦	
<b>【到達目標】</b> 本講義は臨床スポーツ医学の外科系および内科系として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。							
<b>【ループリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
外傷各論		頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置を説明できる		頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できている		頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できていない	
スポーツ医学各論		内科的応急処置を説明できる		内科的応急処置が理解できている		内科的応急処置が理解できていない	
心肺蘇生法		心肺蘇生法を実践できる		心肺蘇生法を説明できる		心肺蘇生法が理解できている	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)				<b>第9回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝関節）</b> <b>【到達目標】</b> 膝のスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 123 を読む。(4.0hr)			
<b>第2回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで）</b> <b>【到達目標】</b> 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 260 を読む。(4.0hr)				<b>第10回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（大腿、下腿、足部）</b> <b>【到達目標】</b> 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105, 123 - 139 を読む。(4.0hr)			
<b>第3回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで）</b> <b>【到達目標】</b> 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 260 - 262 を読む。(4.0hr)				<b>第11回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器・呼吸器の急性疾患）</b> <b>【到達目標】</b> 運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153, 163 - 171, 187 - 198 を読む。(4.0hr)			
<b>第4回 応急処置総論</b> <b>【到達目標】</b> RICE処置の内容・方法・効果について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。(4.0hr)				<b>第12回 内科的疾患とスポーツⅡ（慢性疾患と感染症）</b> <b>【到達目標】</b> 貧血と主な感染症について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 180 - 182 を読む。(4.0hr)			
<b>第5回 頭部のスポーツ外傷</b> <b>【到達目標】</b> 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39, 55 - 58, 157 - 160 を読む。(4.0hr)				<b>第13回 内科的疾患とスポーツⅢ（熱中症）</b> <b>【到達目標】</b> 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。(4.0hr)			
<b>第6回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節）</b> <b>【到達目標】</b> 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。(4.0hr)				<b>第14回 心肺蘇生法の理論</b> <b>【到達目標】</b> 心肺蘇生法の理論について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。(4.0hr)			
<b>第7回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から手指）</b> <b>【到達目標】</b> 上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 89 を読む。(4.0hr)				<b>第15回 心肺蘇生法実習</b> <b>【到達目標】</b> 心肺蘇生法実習を通じて、BLS (Basic Life Support) ができるようになる。  <b>【授業時間外学習】</b> BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。(4.0hr)			
<b>第8回 体幹のスポーツ外傷・障害（頸部から腰部）</b> <b>【到達目標】</b> 頸部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61, 89 - 100 を読む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 本科目は選択科目である。 第15回の実習は夏休みの補講・集中講義期間中に対面で実施する。 <b>【対面授業の場合】</b> パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド形式の授業を行う。授業当日9時までに各授業回の音声入りパワーポイント動画を本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップロードし、呼出・連絡掲示板を通じてURLと補足資料を配信する。視聴（出席）の確認は小テスト問題の解答により行い、Phollyを通じて授業開始時刻から授業6日後の23時59分まで小テスト問題の解答を受け付ける。							
<b>【実務経験のある教員による授業科目】</b> 医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本スポーツ協会							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 期末試験成績（100%）で成績を評価する。合格基準は60%以上である。なお、試験は試験期間中に別途実施。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 対面授業の場合と同じ。							

科目名	人間関係			担当者	角田和也		
英文名	Social Relation of Kindergarten Children and Nursery School Children						
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		科目ナンバー	CBE203		卒業認定方針との関連	⑧
<b>【到達目標】</b>							
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および保育所保育指針に示されている、領域「人間関係」について学ぶ。人間関係の基礎を培う乳幼児期を中心に、乳幼児の発達特性を踏まえながら、人とのかかわりがどのように育っていくのかについて理解を深める。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
領域「人間関係」と子どもを取り巻く人間関係の基本的事項について		基本的事項について自らの意見を示すことができる		基本的事項について理解している		理解が不十分で説明できない	
保育者と子どものかかわりについて		子どもとのかかわり方について自らの意見を示すことができる		子どもとのかかわりについて理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
保育者に求められる人間関係について		求められる人間関係について自らの意見を示すことができる		求められる人間関係について理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション／この授業について／ヒトと他者のかかわり合いはいつ頃から始まるのか①</b>				<b>第9回 保育者と子どものかかわり⑧ 4歳児とのかかわり⑨／保育者と子どものかかわり⑩ 5歳児とのかかわり⑪</b>			
【到達目標】 (1)この授業で学習する内容が、領域「人間関係」に基づくものであることを理解する。 (2)「他者とのかかわり合いはいつ頃から始まるのか」について、自分の考えを説明できる。				【到達目標】 (1)4歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)5歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。			
【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第2回 ヒトと他者とのかかわり合いは、いつ頃から始まるのか②／子どもを取り巻く人間関係①</b>				<b>第10回 保育者と子どものかかわり⑩ 5歳児とのかかわり⑩／子ども同士のかかわりをどう援助していくのか①</b>			
【到達目標】 (1)「他者とのかかわり合いはいつ頃から始まるのか」を理解する。 (2)就園前後で変化する子どもたちの人間関係の様相を理解し、この中で保育者の役割を考察する。				【到達目標】 (1)5歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)保育場面における子ども同士のかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。			
【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもを取り巻く人間関係②／保育者と子どものかかわり① 総論①</b>				<b>第11回 子ども同士のかかわりをどう援助していくのか②／保育者同士のかかわり①</b>			
【到達目標】 (1)前回授業で解説した「子どもたちの人間関係の様相」の中で保育者の役割を理解する。 (2)各年齢に共通するかかわり方の基本的事項について授業内容を基に考察する。				【到達目標】 (1)保育場面における子ども同士のかかわりへの望ましい援助のあり方について考察する。 (2)保育者同士のかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。			
【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第4回 保育者と子どものかかわり① 総論②／保育者と子どものかかわり② 0歳児とのかかわり①</b>				<b>第12回 保育者同士のかかわり②／保育者と保護者のかかわり①</b>			
【到達目標】 (1)各年齢に共通するかかわり方の基本的事項について理解する。 (2)0歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。				【到達目標】 (1)保育者同士のかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。 (2)保護者とのかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。			
【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第5回 保育者と子どものかかわり② 0歳児とのかかわり②／保育者と子どものかかわり③ 1歳児とのかかわり①</b>				<b>第13回 保育者と保護者のかかわり②／保育者と地域のかかわり①</b>			
【到達目標】 (1)0歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)1歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。				【到達目標】 (1)保護者とのかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。 (2)地域とのかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。			
【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第6回 保育者と子どものかかわり③ 1歳児とのかかわり③／保育者と子どものかかわり④ 2歳児とのかかわり①</b>				<b>第14回 保育者と地域のかかわり②</b>			
【到達目標】 (1)1歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)2歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。				【到達目標】 (1)地域とのかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。			
【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第7回 保育者と子どものかかわり④ 2歳児とのかかわり④／保育者と子どものかかわり⑤ 3歳児とのかかわり①</b>				<b>第15回 保育者に求められる人間関係とは</b>			
【到達目標】 (1)2歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)3歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。				【到達目標】 (1)これまでの授業内容を理解した上で、保育現場での実践に即した課題に対して具体的な対応方法を自ら考えることができる。			
【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第8回 保育者と子どものかかわり⑤ 3歳児とのかかわり⑤／保育者と子どものかかわり⑥ 4歳児とのかかわり①</b>							
【到達目標】 (1)3歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)4歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。							
【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】 ・原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ・授業に理解を深めるための課題作成を、授業時間外に課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定のURLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。							
【オンライン授業の場合】 ・オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しません。 ・各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ・出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。 ・授業に理解を深めるための課題作成を、授業時間外に課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定のURLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布する（オンライン形式の場合はオンライン上で配信する）プリント教材を使用します。 参考書：①文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、②内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）、③厚生労働省『保育所保育指針』（最新版）							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。							
【オンライン授業の場合】 ・毎授業時の提出物の評価……75% 期末課題の結果……25% ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。							

科目名	造形表現Ⅱ			担当者	本 永 直 子		
英文名	Formative Expression II						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		科目ナンバー	CBE204		卒業認定方針との関連	⑥
授業形態	演習						
<b>【到達目標】</b> 1年次の造形表現Ⅰで学んだ基本的な技能や理論を展開させ、主に立体的、空間的創作を通じて、各種造形素材の特質や複合的な表現技法等を学び、指導者としての基礎技能を発展させるとともに、自らの表現力と教材への応用力を高める。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	子どもの造形的発達について	理解に基づき、説明することが出来る。	資料等を参照しながら説明することが出来る。	理解が不十分で説明することが出来ない。			
	造形表現素材への理解と利用について	理解に基づき、適切に用いることが出来る	資料等を参照しながら適切に用いることが出来る。	理解が不十分で適切に用いることが出来ない。			
	造形表現技術及び技能について	適切に用いることが出来る。	資料等を参考にしながら適切に用いることが出来る。	理解が不十分で適切に用いることが出来ない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 「造形表現」とは何か／立体表現/造形遊びと素材研究</b> 【到達目標】 子どもの遊びから芸術作品まで幅広く捉える。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第9回 造形表現と素材（ビニール袋小・中）</b> 【到達目標】 「切る」「結ぶ」「つなぐ」などの行為を加えることによって、様々な形に変化するビニールの特性を体験し、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第2回 造形表現と平面</b> 【到達目標】 造形表現Ⅰを振り返り、面・線・色彩で表す。また、実際に制作と発表を体験することで、子どもたちと関わるための展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第10回 造形表現と素材（ビニール袋大・縦長）</b> 【到達目標】 「切る」「結ぶ」「つなぐ」などの行為を加えることによって、様々な形に変化するビニールの特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第3回 造形表現と素材（色紙）</b> 【到達目標】 「折る」「広げる」「切る」などの行為を加えることによって様々な形に変化する紙の特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第11回 造形表現とからだ</b> 【到達目標】 ビニールや紙の性質や特性をいかしてお洋服づくりを体験することで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第4回 造形表現と素材（新聞紙）</b> 【到達目標】 「くしゃくしゃにする」「丸める」「破く」「ねじる」などの行為を加えることによって、様々な形や質感に変化する紙の特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第12回 造形表現と空間</b> 【到達目標】 ビニールや紙の性質や特性をいかして部屋飾り作りを体験することで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第5回 造形表現と素材（トイレットペーパー）</b> 【到達目標】 「包む」「まく」「ちぎる」「やぶく」などの行為を加えることによって、様々な形や質感に変化する紙の特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第13回 造形表現と素材（ダンボール大）</b> 【到達目標】 「切る」「折る」「貼る」などの行為を加えることによって、ダンボールの性質や特性を知り、「貼る」「吊るす」「ひっかける」「立てかける」など、仕切ることで変化する空間を知ることで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第6回 造形表現と素材（O+水）</b> 【到達目標】 Oに水を加え、更に「混ぜる」「ねる」「こねる」などの行為を加えることによって様々な形や質感に変化する特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第14回 造形表現と素材（ダンボール小）</b> 【到達目標】 「切る」「折る」「貼る」などの行為を加えることによって、ダンボールの性質や特性を知り、「貼る」「吊るす」「ひっかける」「立てかける」などの仕切ることで様々なに変化する空間を知ることで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第7回 造形表現と素材（粘土）</b> 【到達目標】 「こねる」「のぼす」「たたく」「押し付ける」などの行為を加えることによって様々な形や質感に変化する粘土の特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第15回 まとめ</b> 【到達目標】 これまでの活動や体験を振り返ることで子どもの造形遊び・造形活動について話し合うと共に、子どもの造形表現・造形活動について理解を深める。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第8回 造形表現と素材（プラスチック）</b> 【到達目標】 「切る」「つなぐ」「重ねる」などの行為を加えることによって、様々な形に変化するプラスチックの特性を知り、実際に造形活動を行うことで、子どもの制作過程への展開を実践的に理解する。  【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 実習が中心になるので自律的に活動すること。造形作業のしやすく汚れても良い服装を心掛け、基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 対面による授業を原則とするが、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じてオンライン形式の授業を導入する。その際、各授業回の指定に応じて出来る限り実技課題に取り組むこと。また、場合によってはレポート課題を指定することがある。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 東山明編著『絵画・製作・造形あそびかんぱきB00k』ひかりの国 種口一成編著『幼児造形の基礎－乳幼児の造形表現と造形教材－』萌文書林							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 制作過程を50%、ノートやワークシート等の提出物30%、課題作品や発表を20%として総合的に評価する。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 写真データやレポート等の提出により制作過程を判断する。							

科目名	運動あそび			担当者	森田 陽子・木皿久美子		
英文名	Plays and Games for Children						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2						専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE205		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】 設定された運動あそびのテーマについて、対象となる幼児の発達に適した指導案を作成し事前指導を受ける。作成した指導案に基づき附属みどり幼稚園の園児とともに運動あそびを実践する。実践の後にディスカッションを行うことで、次週への課題を得るという演習形式で授業を展開する。事前、実践、事後の指導を通して、子どもを主体にした運動あそびはどのように行われるべきか、子どもがあそびを発見し創造し発展させていく活動の中で保育者がどのように準備し、どのように見守り、どのように関わればよいのかについて学ぶことを目的とする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
運動遊びの基礎的事項・理論と実践		運動遊びの基礎的事項・理論と実践を理解し、発育発達に応じた指導案を作成することができる。		運動遊びの基礎的事項・理論と実践を理解し、指導案を作成できる。		運動遊びの基礎的事項・理論と実践の理解が不足し、指導案が作成できない。	
運動遊びの応用的事項・理論と実践		運動遊びの応用的事項・理論と実践を理解し、発育発達に応じた指導案を作成することができる。		運動遊びの応用的事項・理論と実践を理解し、指導案を作成することができる。		運動遊びの応用的事項・理論と実践の理解が不足し、指導案が作成できない。	
保育現場における運動遊びの指導実践		保育現場における幼児体育の実践において適切な指導や補助、環境構成ができる。		保育現場における幼児体育の実践において、指導や補助、環境構成ができる。		保育現場における幼児体育の実践（適切な指導や補助、環境構成）ができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 (1)オリエンテーションを受け、授業の進行について理解する。 (2)指導案の作成の仕方を理解する。 (3)ディスカッションの観点、評価の仕方について理解する。 【授業時間外学習】 指導案立案の準備をする。(4.0hr)				第9回 功技台を使ってあそぶ…年長児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第2回 リーダーの決定、遊具の確認 【到達目標】 (1)計画表に基づき指導担当日を決め、原案を検討する。 (2)施設や遊具について確認し、環境構成について考える。 【授業時間外学習】 指導案立案の準備をする。(4.0hr)				第10回 マットを使ってあそぶ…年中児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第3回 ボールを使ってあそぶ…年長児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)				第11回 功技台を使ってあそぶ…年中児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第4回 手具を使ってあそぶ…年長児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)				第12回 からだを使ったあそび…年少児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第5回 運動能力測定を実施する…全園児 【到達目標】(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。 (2)担当した種目の測定を実施する。 (3)子どもの様子を観察し、ノートに記録する。 (4)測定結果のデータを整理する。 【授業時間外学習】 事後学習として授業内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)				第13回 手作りの道具を使ったあそび…年少児あそび 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第6回 ボールを使ってあそぶ…年中児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)				第14回 移動遊具を使ってあそぶ…年少児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第7回 手具を使ってあそぶ…年中児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)				第15回 いろいろな遊具を使ってあそぶ…年少児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第8回 マットを使ってあそぶ…年長児 【到達目標】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業】 子どもと直接関わる授業なので、学生としてというよりも、教員としてふさわしい服装、髪型で出席すること。毎週2・3人のリーダーがあそびを展開していくことになるので十分に検討して指導案を作成し、事前指導を受けること。実践では内容や言葉かけが年齢に合っていたか、安全面の配慮はなされていたか、子どもが主体で楽しんでいただかたについて記録する。毎回記録に基づきディスカッションをする。ディスカッションによって得られた課題を次週に活かしていく。 ただし、子どもと直接関わるができない場合は、学生が子ども役となり授業を展開していくこととする(対面授業参照)。その際は12回の授業とし、残り3回については、状況に応じて子どもと関わるようになってからの開講とする。							
【教科書・参考書など】 「0歳児から5歳児 運動あそび12ヶ月」小学館(2022年)							
【成績評価方法】 実践指導70%(指導案作成、指導の実践、ディスカッション、実践後提出された指導案)、提出されたノートの内容を30%、を目安に評価する。							

科目名	バスケットボール			担当者	佐々木直基		
英文名	Basketball						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	選択の区別				専門基礎・選択	
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE111		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b>							
バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。また習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	知識と技能について	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）をしっかりと説明でき、技能をゲームで十分に発揮することができる	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）を説明でき、技能をゲームで発揮することができる	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）を説明することができず、技能をゲームで発揮することができない			
	思考力・判断力・表現力について	グループ活動の中で自らの意見を理解してもらえよう仲間伝えることができる	グループ活動の中で自らの意見を仲間話すことができる	グループ活動の中で自らの意見を十分に伝えることができない			
	学びに向かう力について	授業に対して主体的・積極的に非常によく取り組むことができる	授業に対して主体的・積極的に取り組むことができる	授業に対して主体的・積極的に取り組むことができない			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 授業のねらいと進め方</b>				<b>第9回 ゲーム【リーグ戦①】</b>			
<b>【到達目標】</b> 1 授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。 2 導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。				<b>【到達目標】</b> 1 リーグ戦形式でのゲームを実践する。 2 バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
<b>第2回 基礎的な個人技術 ドリブルシュート①</b>				<b>第10回 グループ戦術 バス&amp;ラン</b>			
<b>【到達目標】</b> 1 ワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートの技術を理解し、習得する。 2 利き手および非利き手でのワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートの習得を目指す。				<b>【到達目標】</b> 1 グループ戦術としてのバス&ランの原則を理解し、習得する。 2 ゲームの中でバス&ランが実践できるよう目指す。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
<b>第3回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート①</b>				<b>第11回 グループ戦術 ドライブ&amp;合わせ</b>			
<b>【到達目標】</b> 1 ゴール下でのワンハンドシュートの技術を理解し、習得する。 2 利き手および非利き手でのワンハンドシュートの習得を目指す。				<b>【到達目標】</b> 1 グループ戦術としての1対1（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解し、習得する。 2 ゲームの中でドライブ&合わせが実践できるよう目指す。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
<b>第4回 基礎的な個人技術 バスとキャッチ①</b>				<b>第12回 ゲーム【リーグ戦②】</b>			
<b>【到達目標】</b> 1 ボールキャッチの技術を理解し、習得する。 2 いろいろなバスの技術を理解し、習得する。 3 試しのゲームを実践する。				<b>【到達目標】</b> (1) ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 1 リーグ戦形式でのゲームを実践する。 2 バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
<b>第5回 ゲーム</b>				<b>第13回 チーム戦術 5人でのセットプレー</b>			
<b>【到達目標】</b> 1 バスケットボールの特性を理解し、ゲームを実践する。 2 チームの仲間と協力してゲームを実践する。				<b>【到達目標】</b> 1 5人でのセットプレーを理解し、習得する。 2 ゲームの中でセットプレーが実践できるよう目指す。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
<b>第6回 基礎的な個人技術 ドリブルシュート②</b>				<b>第14回 ゲーム【リーグ戦③】</b>			
<b>【到達目標】</b> 1 ドリブルからのワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートを理解し、習得する。 2 利き手および非利き手でのドリブルを習得する。				<b>【到達目標】</b> 1 リーグ戦形式でのゲームを実践する。 2 バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
<b>第7回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート②</b>				<b>第15回 基礎的な個人技術の総合的検証</b>			
<b>【到達目標】</b> 1 動きながらのゴール下ワンハンドシュートを理解し、習得する。 2 ワンハンドシュートでのシューティングゲームを実践する。				<b>【到達目標】</b> 1 習得した基礎的な個人技術の習熟度を検証する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)			
<b>第8回 基礎的な個人技術 バスとキャッチ②</b>							
<b>【到達目標】</b> 1 走りながらのバスとキャッチを理解し、習得する。 2 走りながらのバスとキャッチを用いた対人ドリブルを実践する。							
<b>【授業時間外学習】</b> 各回で習得する技術・戦術について調べ、振り返る。また、バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b>							
実習の授業となるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本実習はグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。							
<b>【オンライン授業の場合】</b>							
可能な範囲でオンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する資料や自習をサポートするための資料となる。資料配信の目安は、本来の各授業回が予定されている曜日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、原則として次回の授業まで掲載する。出席の確認は、各授業回の課題の提出によって確認する。ただし、評価のための技能レベルの確認が必要な場合はオンデマンド方式となっても対面授業を要することがある。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
参考書 「バスケットボール指導教本改訂版 上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 平常授業での到達目標に対する到達度を60%、スキルテストを40%として評価する。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回に提出された課題（動画や学習報告書など）の評価、さらに、全授業回終了時点でまとめたレポートを合わせて到達度として評価する。スキルテストについては可能な範囲でオンラインで実施するが、対面形式を要することがある。各授業回の到達度を60%、スキルテストを40%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	陸上競技			担当者	大橋 祐二		
英文名	Track and Field						
単位数	1	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE112		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b>							
陸上競技は、走・跳・投運動による最大達成を競う競技である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験すること、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	陸上競技の技能について	基本的な技能だけでなく発展的な技能まで実践できる。	基本的な技能を実践できる。	基本的な技能を実践できない。			
	陸上競技の理論について	理論を理解し自分の動きに応用できる。	理論を理解し説明できる。	理論の理解が不十分で説明できない。			
	陸上競技の競技規則について	競技規則を理解し、正しく競技運営を行うことができる。	競技規則を理解し説明できる。	競技規則の理解が不十分で説明できない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 授業内容の説明（採点表）</b>				<b>第9回 走り幅跳び：全助走跳躍</b>			
【到達目標】 100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。また、単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。				【到達目標】 踏切版に足が合う正確な助走距離を見つけ出す。			
【授業時間外学習】 陸上競技の種目およびルールを調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 フェールをしないためには、どのようなことを意識して助走すれば良いかと定める。(1.0hr)			
<b>第2回 100m走：中間疾走</b>				<b>第10回 走り幅跳び：記録測定①</b>			
【到達目標】 短距離走の走り方として、中間疾走の支持局面を意識して実践してみる。				【到達目標】 走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。			
【授業時間外学習】 中間疾走の技術を高めるためにはどのような練習方法があるか調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 走り幅跳びの内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)			
<b>第3回 100m走：クラウチングスタート</b>				<b>第11回 走り幅跳び：記録測定②</b>			
【到達目標】 自分に合ったクラウチングスタートの方法を身につける。				【到達目標】 前回の記録を更新するための改善点を見つけ出し、より高いレベルにチャレンジする。			
【授業時間外学習】 スターティングブロックに上手く力加える方法を考えまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 前回に比べ改善できた点をまとめ、さらに記録を更新するために必要なことを考察する。(1.0hr)			
<b>第4回 100m走：スタート～加速</b>				<b>第12回 砲丸投げ：基本技術とルール</b>			
【到達目標】 クラウチングスタートから最高速度に到達するまでの加速局面で、問題点を把握し、その改善を図る。				【到達目標】 砲丸投げの基本技術である突き出し動作のドリルを実習する。また、砲丸投げのルールを理解する。			
【授業時間外学習】 スムーズに加速するためにはどのような練習方法があるか調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 突き出し動作を強くする練習方法を調べる。(1.0hr)			
<b>第5回 100m走：スタート～中間疾走</b>				<b>第13回 砲丸投げ：メディシンボールでの突き出し</b>			
【到達目標】 100m走記録測定の準備として、100mという距離を体感する。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。				【到達目標】 メディシンボールでの突き出し、砲丸での突き出しを繰り返し行うことによって、合理的な突き出し動作を身につける。			
【授業時間外学習】 100m後半の減速を最小限に抑えるためにはどのような意識が大切かと定める。(1.0hr)				【授業時間外学習】 合理的な突き出し動作をするために意識することをまとめる。(1.0hr)			
<b>第6回 100m走記録測定</b>				<b>第14回 砲丸投げ：ホップ、グライドからの投げ</b>			
【到達目標】 100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。				【到達目標】 突き出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。			
【授業時間外学習】 100m走の内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 助走のスピードをうまく砲丸に伝えるために意識することをまとめる。(1.0hr)			
<b>第7回 走り幅跳び：基本技術とルール</b>				<b>第15回 砲丸投げ記録測定</b>			
【到達目標】 走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術およびルールを身につける。				【到達目標】 砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。			
【授業時間外学習】 基本技術を高める練習方法を調べる。(1.0hr)				【授業時間外学習】 砲丸投げの内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)			
<b>第8回 走り幅跳び：短助走跳躍</b>							
【到達目標】 短助走跳躍を実践する中で、自分に合った効果的な踏切技術を探り当てる。							
【授業時間外学習】 踏切技術を高める練習方法を調べる。(1.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 各種目の技能を習得するため、ふさわしい服装とシューズを使用すること。また、目標記録到達を手助けする手段としてスパイクシューズの使用が望ましい。適宜ルール等に関する小テストを実施し、授業内でフィードバックを行う。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式による陸上競技の知識に関する授業を30%、実技課題の自習による授業を60%、リアルタイム方式の陸上競技についての講義・質疑応答を10%実施する。学習内容となる技能や運動に関する動画ならびに参考資料を配信する。資料は、各授業開始時刻から一週間閲覧できるように本学Google Drive上にアップする。出席確認は、各授業回のレポート提出によって行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の提出されたレポートならびに動画を毎回評価する。さらに全授業回終了時点でまとめたレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめたレポートを40%とし、合計100%として評価する。							

科目名	野外活動			担当者	中丸信吾	
英文名	Outdoor Activities					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2				専門基礎・選択	専門基礎・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CBE206		卒業認定方針との関連	⑦
<b>【目的とねらい】</b> この授業の目的は、自然を活用したキャンプを行い、キャンプに必要な野外生活技術、環境を配慮した活動、登山等の活動、クラフト、キャンプファイヤー等を体験し学ぶことである。また、キャンプを通して自分自身や対人関係の理解、環境への配慮、リスクマネジメントの観点について考えることができるようになることをねらいとしている。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
キャンプに必要な技能や環境配慮行動の習得		技能や環境配慮行動を理解し自ら説明できる。		資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。
キャンプを通じた対人関係の理解と構築		対人関係を理解し構築することができる。		対人関係を理解することができる。		対人関係を理解できない。
リスクマネジメントの理解と実践		リスクマネジメントを理解し実践することができる。		リスクマネジメントを理解することができる。		リスクマネジメントを理解できない。
<b>【授業内容】</b> 8月下旬から9月中旬において学外での宿泊実習（3泊4日）を行う。実習参加者は、複数回の事前指導に参加するものとする。						
<b>【到達目標】</b> 1. キャンプに必要な技能や環境配慮行動を習得する。 (1) テント・タープ、野外炊事、テント泊、登山、キャンプファイヤー、クラフトの技能を習得する。 (2) 人間と自然との関わりについて理解し、歓呼湯に配慮した行動を習得する。 2. キャンプを通して対人関係を理解し実践する。 (1) キャンプ生活において協同的な態度を習得する。 (2) キャンプ生活において他者の立場に立った視点で行動する。 3. リスクマネジメントを理解し実践する。 (1) 各種活動において安全に活動を行う方法を理解し実践する。 (2) 各種活動におけるリスクマネジメントを理解し実践する。						
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業内容を理解し、実践につなげられるようにする。キャンプ実習のレポートを提出する。						
<b>【学習上の留意点】</b> 野外教育の理解を深めるため、「野外教育論」を履修することが望ましい。 【対面授業の場合】事前・事後指導に参加し、8月末または9月上旬に行うキャンプ実習（¥30,000程度）に参加すること。学外で実施するため、服装、言葉使いなど、日本女子体育大学の学生として相応しい言動を行うこと。キャンプ中はグループで活動する場面が非常に多いため、各種活動ではグループへ貢献するとともに、各係の役割でリーダーシップを取ることを心がける。装備の取り扱いや管理は丁寧に行うこと。 【オンライン授業の場合】本実習では、必要に応じて一部の授業をオンライン形式（オンデマンド）で実施する場合がある。各授業回のテーマは原則的には変更せず行うこととする。配信は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし掲載する。出席の確認は、小レポートの提出によって行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。 参考書：「キャンプ指導者入門」（公社）日本キャンプ協会、2016年						
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業の場合】 野外教育の理解とそれに伴う技術の習熟度80%、レポート20%、 【オンライン授業の場合】 オンライン形式（オンデマンド）にて実施した授業は、各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、「野外教育の理解」の評価に含めることとする。						

科目名	子ども家庭支援論			担当者	石川 円		
英文名	Theory of Child and Family Support						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE301			卒業認定方針との関連	⑧
【到達目標】 本講義では、保育士や幼稚園教諭による子ども家庭支援の基本について学ぶ。実際に起きた事例を分析・考察しながら、子育て家庭の状況やニーズを理解し、支援の展開や保育士の行う相談や支援の意義、役割について理解を深める。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
家族の諸相と社会状況の変化について		変遷と現状を理解し、自らまとめ説明することができる		変遷と現状について、資料を参考にしながら説明することができる		理解が不十分で説明できない	
子育て支援体制について		内容を自らまとめ説明することができる		内容を資料を参考にしながらまとめることができる		理解が不十分でまとめられない	
事例の分析について		自ら対策を提案し、その根拠を説明することができる		教科書や資料を参考にしながら対策を提案し、その根拠を説明することができる		理解が不十分で提案できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 子ども家庭支援の意義と役割</b> 【到達目標】 保育士養成課程における本科目の位置づけを理解する。  【授業時間外学習】 <予習>シラバスをよく読む <復習>授業内容をノートにまとめる(4.0hr)				<b>第9回 保育所における子ども家庭支援①</b> 【到達目標】 事例の内容を分析し、保育所における具体的な子ども家庭支援と注意点について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>配布資料を熟読し、どのような支援ができるか考察する <復習>事例解説について、自分の考えをまとめる(4.0hr)			
<b>第2回 家庭生活をとりまく社会状況の変化</b> 【到達目標】 家庭生活の変容と社会の動向について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>家族や自分の子ども時代について調べる <復習>現在の子育て環境について調べる(4.0hr)				<b>第10回 保育所における子ども家庭支援②</b> 【到達目標】 事例の内容を分析し、保育所における具体的な子ども家庭支援と注意点について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>配布資料を熟読し、どのような支援ができるか考察する <復習>事例解説について、自分の考えをまとめる(4.0hr)			
<b>第3回 子ども家庭支援のための社会資源①法体系</b> 【到達目標】 日本国憲法、児童福祉法をはじめとする児童や家庭に関する法令の変遷について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>児童福祉に関連する法制度を調べる <復習>授業の内容をノートにまとめる(4.0hr)				<b>第11回 関係機関・専門職との連携</b> 【到達目標】 事例の内容を分析し、実際に行われている関係機関や専門職との連携と注意点について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>配布資料を熟読し、どのような支援ができるか考察する <復習>事例解説について、自分の考えをまとめる(4.0hr)			
<b>第4回 子ども家庭支援のための社会資源②地域の専門機関</b> 【到達目標】 地域の専門機関の機能や役割、連携について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>幼い頃に利用していた施設を調べる <復習>身の回りの専門機関を調べる(4.0hr)				<b>第12回 要保護児童とその家族への支援</b> 【到達目標】 事例の内容を分析し、要保護児童とその家族に対しての支援について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>配布資料を熟読し、どのような支援ができるか考察する <復習>事例解説について、自分の考えをまとめる(4.0hr)			
<b>第5回 子ども家庭支援の変遷</b> 【到達目標】 子ども家庭支援の変遷、対象の変化、内容の多様化を理解する。  【授業時間外学習】 <予習>幼い頃に利用していた制度を調べる <復習>予習の内容と現行の制度を比較する(4.0hr)				<b>第13回 特別なニーズのある子どもとその家族への支援①</b> 【到達目標】 事例の内容を分析し、特別なニーズのある子どもとその家族に対しての支援について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>配布資料を熟読し、どのような支援ができるか考察する <復習>事例解説について、自分の考えをまとめる(4.0hr)			
<b>第6回 子ども家庭支援の展開</b> 【到達目標】 児童の発達や家庭の特徴に応じた子育て支援の展開について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>育児期の福祉ニーズを書き出す <復習>授業内容をノートにまとめる(4.0hr)				<b>第14回 特別なニーズのある子どもとその家族への支援②</b> 【到達目標】 事例の内容を分析し、特別なニーズのある子どもとその家族に対しての支援について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>配布資料を熟読し、どのような支援ができるか考察する <復習>事例解説について、自分の考えをまとめる(4.0hr)			
<b>第7回 保育士による子ども家庭支援</b> 【到達目標】 保育士による子ども家庭支援の内容について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>実習先で実施されていた子育て支援について書く <復習>予習の内容と学習したことを比較する(4.0hr)				<b>第15回 子ども家庭支援の課題と今後の展望</b> 【到達目標】 子ども家庭支援の課題と今後の展望について考える。  【授業時間外学習】 受講前にこれまでのノートをすべて読み、要点をまとめておく(4.0hr)			
<b>第8回 子ども家庭支援とソーシャルワーク</b> 【到達目標】 保育の現場や家庭への支援でのソーシャルワークの援用について理解する。  【授業時間外学習】 <予習>配布した資料を熟読する <復習>授業内容をノートにまとめる(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 パワーポイントもしくは資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。 毎回、予習、授業時間内、復習の課題を書き込むワークシートを用いる。 本講義を理解するためには実習で得た知見や日常生活でのできごと、社会情勢などについて日頃から意識してほしい。 【オンライン授業の場合】 授業動画を用いる。 毎時間必ずレポートを課し、示唆に富んだものを次回動画内で紹介する。 課題の提出によって出席とするため、提出期限を守ること。 本講義を理解するためには実習で得た知見や日常生活でのできごと、社会情勢などについて日頃から意識してほしい。							
【教科書・参考書など】 なし							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 ワークシート60%、期末レポート40% 【オンライン授業の場合】 課題の提出100%							

科目名	スポーツマネジメント			担当者	芳地 泰幸	
英文名	Sport Management					
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE113		卒業認定方針との関連	⑦
<b>【到達目標】</b>						
近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日的な状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織と人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
スポーツマネジメントの基礎的事項（社会的要請や歴史の変遷）		基礎的事項について自らまとめて説明することができる		基礎的事項の要点について理解している		基礎的事項の要点について理解が不十分である
スポーツマネジメントの理論的知見に関する事項		理論的知見について自らまとめて説明することができる		理論的知見の要点について理解している		理論的知見の要点について理解が不十分である
スポーツマネジメントの理論的知見の活用・応用に関する事項		身近な具体的組織事例を挙げて、知見の活用・応用について論述することができる		知見の活用・応用について自身の考えを論述することができる		知見の活用・応用について自身の考えを論述できない
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 スポーツマネジメントの発展</b>				<b>第9回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメント I</b>		
【到達目標】 (1) スポーツの様々な捉え方について理解する。 (2) スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。				【到達目標】 (1) モチベーションとはなにかについて理解する。 (2) モチベーションの内容論について理解する。		
【授業時間外学習】 経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか、自分なりに整理する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 何が満たされるとやる気になるのか、についてこれまでの経験を基に考えてみる。(4.0hr)		
<b>第2回 マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化</b>				<b>第10回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメント II</b>		
【到達目標】 (1) マネジメントの誕生（科学的管理法）について理解する。 (2) スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。				【到達目標】 (1) モチベーションの過程論（プロセス論）について理解する。 (2) 身近な組織のモチベーション・マネジメントに向けた効果的な改善策を立案する。		
【授業時間外学習】 スポーツのビジネス化の背景について身近な事例を調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 どのようにモチベーションが生起し、変化するのか、考えてみる。(4.0hr)		
<b>第3回 スポーツビジネス（企業）の目的と責任</b>				<b>第11回 スポーツ組織におけるリーダーシップ</b>		
【到達目標】 (1) 企業の目的について理解する。 (2) マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。				【到達目標】 (1) リーダーシップの役割、機能について理解する。 (2) リーダーシップの代表的理論（特性論・行動理論・状況適合理論）を理解する。		
【授業時間外学習】 スポーツ関連企業の経営理念や組織体制など、IR情報を調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 優れたリーダーとはどのような資質や行動特性を有しているのかについて整理する。(4.0hr)		
<b>第4回 スポーツマーケティングの意義と役割</b>				<b>第12回 組織変革とリーダーシップ</b>		
【到達目標】 (1) マーケティングとセリングの違いを理解する。 (2) マーケティングにおける市場細分化とターゲティングを理解する。				【到達目標】 (1) 変革型リーダーシップについて理解する。 (2) 組織におけるリーダーシップとマネジメントの違いについて理解する。		
【授業時間外学習】 スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 リーダーとマネジャーの違いについて、身近な事例から整理する。(4.0hr)		
<b>第5回 マーケティング戦略とスポーツプロダクト</b>				<b>第13回 チーム作りとチームビルディング</b>		
【到達目標】 (1) マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。 (2) スポーツプロダクト（有形・無形）の捉え方について理解する。				【到達目標】 (1) チームビルディングの手法について理解する。 (2) チームワークを育むコミュニケーションについて理解する。		
【授業時間外学習】 ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかをその要因について整理する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 チームが機能するとはどのような状態か、身近な事例から整理する。(4.0hr)		
<b>第6回 スポーツ事業の経営戦略</b>				<b>第14回 スポーツ施設の運営と管理</b>		
【到達目標】 (1) 代表的な環境分析の手法を理解する。 (2) 基本的な経営戦略（競争戦略）について理解する。				【到達目標】 (1) 我が国のスポーツ施設の現状を理解する。 (2) スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。		
【授業時間外学習】 成功している企業の経営戦略（競争戦略）について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。(4.0hr)		
<b>第7回 スポーツ組織のマネジメント</b>				<b>第15回 スポーツ施設のデザインとユーザビリティ</b>		
【到達目標】 (1) 組織とは何かを理解する。 (2) 組織成立の要件を理解する。				【到達目標】 (1) ユニバーサルデザイン（UD）の視点を理解する。 (2) ユーザビリティを高めるための改善手法を理解する。		
【授業時間外学習】 組織とはどのようなものか、集団や群衆との違いについて整理する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 誰もが快適に、安全に利用できる施設や空間の設計・デザイン等について整理する。(4.0hr)		
<b>第8回 スポーツ組織の人間の（情緒的）側面</b>						
【到達目標】 (1) 経営管理における人間関係論を理解する。 (2) 人材をマネジメントする際の情緒的側面の重要性を理解する。						
【授業時間外学習】 組織における人間関係や規範（暗黙のルール）の影響について整理する。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<b>【対面形式の場合】</b>						
パワーポイントを使用して講義をおこなう。関連資料やVTR等の補助教材も活用し、具体的事例からマネジメントに関する理解を深めていく。受講生は専用のノートを準備し、適宜板書をおこなうこと（講義ノートを作成すること）。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニッツペーパー（確認テスト/レスポンスカード）を実施し、次の講義時にフィードバックをおこなう。時間外での主体的な学びを促すための課題（予習・復習課題やレポート等）も課す。さらに、講義形式を中心とした授業の中に、アクティブラーニングの手法を取り入れる。具体的には学生から質問、意見を求めたり、グループ討論の機会を設ける。						
<b>【e-ラーニング形式の場合】</b>						
オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と関連資料である。各資料は大学の定めた授業時間制に基づいて配信する（受講するためのURL等を送付する）。受講生は専用のノートを準備し、講義動画を視聴しながら適宜、板書をおこなうこと（講義ノートを作成すること）。出席は、Google Formsに指定された内容を入力し、送信完了をもって出席と判断する。受講可能期間は原則、公開（配信）後、一週間である。毎回の授業後には、当該授業に関する意見交換の機会や教員に対する質問の機会等を確保する。さらに、時間外での主体的な学びを促すための課題（予習・復習課題やレポート等）も課す。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
教科書は特に定めない。 <参考書>「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年。 ※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。						
<b>【成績評価方法】</b>						
<b>【対面形式の場合】</b> 各授業回の予習課題と復習課題を課す。各授業回の理解度や予習・復習の状況を把握するための確認テストや課題レポート（講義内での小レポートやミニッツペーパーを含む）を実施する。さらに、全授業終了後に定期試験を実施する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。各授業に係る評価を40%、定期試験を60%とし、あわせて100%として総合評価する。						
<b>【e-ラーニング形式の場合】</b> 各授業回の予習課題と復習課題を課す。各授業回の理解度や予習・復習の状況を把握するための確認テスト（小レポート含む）をGoogle FormsまたはPhollyで実施し、毎回評価する。さらに、全授業終了後に定期試験を実施する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。各授業に係る評価を40%、定期試験を60%とし、あわせて100%として総合評価する。						

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助友裕子		
英文名	Hygiene and Public Health						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE114		卒業認定方針との関連	④⑦	
<b>【到達目標】</b>							
我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活の営みや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
衛生学・公衆衛生学の基礎的事項への理解（知識）		衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を十分説明している。		衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を説明している。		衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を説明できない。	
衛生学・公衆衛生学の知識の活用（思考力・判断力・表現力）		衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを良く表現している。		衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを表現している。		衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを表現できない。	
衛生学・公衆衛生学を学ぶ主体性（態度）		衛生学・公衆衛生学の学修に積極的に取り組もうとしている。		衛生学・公衆衛生学の学修に取り組もうとしている。		衛生学・公衆衛生学の学修に取り組もうとしていない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 健康と公衆衛生</b>				<b>第9回 感染症対策</b>			
【到達目標】 (1)健康には様々な考え方があることを知る。 (2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。				【到達目標】 (1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。 (2)主な感染症について理解する。			
【授業時間外学習】 公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 咳エチケットの方法とその理由について調べておく。(4.0hr)			
<b>第2回 保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか</b>				<b>第10回 環境保健</b>			
【到達目標】 (1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。				【到達目標】 (1)人間と環境のかかわりについて理解する。 (2)環境問題とその対策について知る。			
【授業時間外学習】 政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)			
<b>第3回 疫学：その健康情報はどこからくるか</b>				<b>第11回 産業保健</b>			
【到達目標】 (1)疫学の起源について知る。 (2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。				【到達目標】 (1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。			
【授業時間外学習】 喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			
<b>第4回 ヘルスプロモーション</b>				<b>第12回 メンタルヘルス対策</b>			
【到達目標】 (1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。				【到達目標】 (1)精神疾患の現状とその対策について知る。			
【授業時間外学習】 本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)			
<b>第5回 世界と日本の健康戦略</b>				<b>第13回 親子保健</b>			
【到達目標】 (1)世界の健康戦略の流れを知る。 (2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。				【到達目標】 (1)我が国の母子保健の水準を知る。 (2)母子保健活動の動向について理解する。			
【授業時間外学習】 教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び、説明できるようにしておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
<b>第6回 健康の社会的決定要因</b>				<b>第14回 地域保健</b>			
【到達目標】 (1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。				【到達目標】 (1)地域の様々な保健活動を知る。 (2)健康なまちづくりについて理解する。			
【授業時間外学習】 現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
<b>第7回 生活の場と健康</b>				<b>第15回 災害時の公衆衛生</b>			
【到達目標】 (1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。 (2)WHOのsettingsアプローチを理解する。				【到達目標】 (1)災害の種類とその備えについて知る。 (2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。			
【授業時間外学習】 一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 がん対策</b>							
【到達目標】 (1)がんが身近な疾病であることを理解する。 (2)我が国のがん対策の現状を知る。							
【授業時間外学習】 がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】毎回の講義で、その回のキークエスションに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次回の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体で共有する。							
【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を原則とする。授業内容は、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料等である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一週月曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。出席は、各授業回の課題提出（GoogleフォームとPholilyの併用による）によって確認する。							
<b>【実務経験のある教員による授業科目】</b>							
行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験を活かし、地域や国民の健康を実現するための対策について講義を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
「学生のための現代公衆衛生 改訂8版」野中浩一編著（南山堂） このほかに適宜資料を配布する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							
【オンライン授業の場合】各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点で確認課題の実施をもって評価する。各授業回の総合評価50%、確認課題の達成度50%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	子どものスポーツプログラミング			担当者	森田陽子		
英文名	Sports Programing for Children						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門基礎・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CBE207		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b>							
<p>子どもの発育・発達に応じて、運動や将来のスポーツ活動や健康な日常生活の基本となる「動き」の習得を促すために、将来、幼稚園教諭や保育士、子どものスポーツ指導を目指す者等がどのように関与すべきかを理解する。具体的には、様々な年代の子ども達に対して、どのような遊びや動きを通してスポーツの基礎となるものを習得させていくのか、積極的に運動に取り組む習慣を身につけさせるにはどうすればよいかについての方法を考案し、実践する。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	子どものスポーツプログラミングの基礎的事項・理論と実技	子どものスポーツプログラミングの基礎的事項・理論と実技について十分に理解している。	子どものスポーツプログラミングの基礎的事項・理論と実技について理解している。	子どものスポーツプログラミングの基礎的事項・理論と実技について理解していない。			
	子どものスポーツプログラミングの応用的事項・理論と実技	子どものスポーツプログラミングの応用的事項・理論と実技について十分に理解している。	子どものスポーツプログラミングの応用的事項・理論と実技について理解している。	子どものスポーツプログラミングの応用的事項・理論と実技について理解していない。			
	子どものスポーツプログラミングの指導と実践	子どもの発育発達及び実態に合わせてプログラミングし、指導と実践ができる。	子ども実態に合わせてプログラミングし、指導と実践ができる。	子ども実態に合わせてプログラミングすることや、指導・実践ができない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 ガイダンス</b> <b>【到達目標】</b> ガイダンスでこの授業の必要性やこの授業によって獲得してほしい能力について理解する。また、実際に身体を動かしながら、体得し実践できる力を養う。				<b>第9回 子どもの体力向上を目指す遊び③</b> <b>【到達目標】</b> 「投動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもの運動遊びの実践①</b> <b>【到達目標】</b> 「歩く」「走る」「跳ぶ」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。				<b>第10回 子どもの体力向上を目指す遊びの指導</b> <b>【到達目標】</b> 7・8・9回の学びから、現代社会の問題点である「子どもの体力向上」を目指し、幼稚園や保育園でできる運動遊びについて、その指導案を考案する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもの運動遊びの実践②</b> <b>【到達目標】</b> 「道具を使わない運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。				<b>第11回 発表・グループワーク</b> <b>【到達目標】</b> 「体力向上のための」遊びや運動の指導を実際に行い、それぞれの考え方やその問題点を検討し、よりよいものを完成させる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第4回 子どもの運動遊びの実践③</b> <b>【到達目標】</b> 「道具を使った運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。				<b>第12回 総合的実践指導①</b> <b>【到達目標】</b> これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもの運動遊びの指導</b> <b>【到達目標】</b> 2・3・4回の授業で行った、「子どもの運動遊び」の学びから、その指導案を考案する。				<b>第13回 総合的実践指導②</b> <b>【到達目標】</b> これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第6回 発表・グループワーク</b> <b>【到達目標】</b> 実際に指導を行い、それぞれの良い点、修正点を検討し、よりよいものを完成させる。				<b>第14回 総合的実践指導③</b> <b>【到達目標】</b> これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
<b>第7回 子どもの体力向上を目指す遊び①</b> <b>【到達目標】</b> 「走動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。				<b>第15回 総合的実践指導④</b> <b>【到達目標】</b> これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。15回の授業で学んできた「動き」「遊び」に対する学びをまとめる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 授業で学んだ内容についてレポートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 子どもの体力向上を目指す遊び②</b> <b>【到達目標】</b> 「跳動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。							
<b>【授業時間外学習】</b> 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業】</b> 実技を伴う授業なので、必ず運動できる服装に着替えること。自分たちが考案した指導案を実践するなかで、運動が発生する感覚を、子どもが実際に身につけられるかを検証しながら考えることが大切である。また他の班の考案した指導案を実施し、お互いに意見を出しながら各自の指導案を完成させる。完成した指導案を全員が共有し、各々が現場で実践できるように学習する必要がある。尚、本授業は実際に園児が参加する場合もあることから、幼児への対応（言葉遣い含む）、服装等には留意すること。後半には附属幼稚園や附属保育園、または近隣の幼稚園、保育園の子ども達と一緒に授業を展開する。ただし、子どもと直接関わることができない場合は、学生が子ども役となり授業を展開していくこととする。状況に応じて臨機応変に対応していく。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
開講時に随時紹介する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
授業の習熟度、積極性・理解度50%、指導案・実技指導50%で評価する。							

科目名	器楽Ⅱ			担当者	諸富満希子・森 立子		
英文名	Instrumental Music Ⅱ						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択	
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE302		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b> 器楽Ⅰ（1年次）で学んだピアノ演奏の基礎をふまえ、さらに演奏技術の向上をめざす。また2回ほど「子どものうた」の伴奏にも取り組む。レベルに応じた個人レッスンをおこなうが、各自が演奏技術だけでなく、豊かで自然な表現力を持って演奏することができることを目標とする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育者として必要とされる技量		音楽を通して子どもに働きかけることができる		音楽を子どもの前で披露することができる		音楽を子どもの前で披露するための技術が不十分である	
音楽的な表現		強弱などを含め、音楽的に表現できる		強弱などは理解しているが、表現力が乏しい		強弱など表情を出すための技術が不十分である	
楽譜の理解		読譜が完全にでき、他の曲にも応用ができる		読譜はできているが、応用ができない		読譜能力が不十分である	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 バイエルの復習</b> <b>【到達目標】</b> 器楽Ⅰで学習したバイエルをもとに、基礎を再確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 1年次の最後に弾いた曲を復習する。(1.0hr)				<b>第9回 子どものうた②</b> <b>【到達目標】</b> 新しい「子どものうた」の伴奏に取り組む。  <b>【授業時間外学習】</b> 「子どものうた」(既習曲5曲)を復習する。(1.0hr)			
<b>第2回 ブルクミュラー2番</b> <b>【到達目標】</b> 一定の速さの中で、16分音符が均等に弾けるようにする。  <b>【授業時間外学習】</b> 音をしっかりと読んだ上で、片手ずつ練習する。(1.0hr)				<b>第10回 ブルクミュラー19番</b> <b>【到達目標】</b> レガート奏法を学ぶとともに、ペダルの踏み方を再確認する。  <b>【授業時間外学習】</b> 「アヴェ・マリア」という曲の意味を調べ、同名の他の作品を鑑賞してみる。(1.0hr)			
<b>第3回 ブルクミュラー3番</b> <b>【到達目標】</b> 音楽的表現を試みるとともに、ペダルの踏み方を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> この曲の情景を言語化し、物語を創作する。(1.0hr)				<b>第11回 ブルクミュラー23番</b> <b>【到達目標】</b> 主旋律がどこにあるのかを確認し、メロディーラインをきれいに歌う。  <b>【授業時間外学習】</b> 和音を揃えて弾くことができるようにする。(1.0hr)			
<b>第4回 ブルクミュラー5番</b> <b>【到達目標】</b> 滑らかな運指を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 指使いに注意しながら、へ長調の音階を練習する。(1.0hr)				<b>第12回 ブルクミュラー25番</b> <b>【到達目標】</b> 情景を思い浮かべ、音楽的に演奏する。3連符、16分音符などの速さを正確に演奏する。  <b>【授業時間外学習】</b> この曲の情景を言語化し、物語を創作する。(1.0hr)			
<b>第5回 子どものうた①</b> <b>【到達目標】</b> 2年次「音楽表現」で学習した「子どものうた」の伴奏に再度取り組む。  <b>【授業時間外学習】</b> 「子どものうた」(既習曲5曲)を復習する。(1.0hr)				<b>第13回 クレメンティ (op. 36-1) 1楽章</b> <b>【到達目標】</b> ソナタ形式を理解して演奏する。  <b>【授業時間外学習】</b> クレメンティという作曲家について、また彼が生きた時代の音楽について調べる。(1.0hr)			
<b>第6回 ブルクミュラー10番</b> <b>【到達目標】</b> 二長調に慣れる。ゆっくりした速さの中で、音楽的に表現する。  <b>【授業時間外学習】</b> 指使いに注意しながら、二長調の音階を練習する。(1.0hr)				<b>第14回 ブルクミュラー19・23・25番、クレメンティ (op. 36-1) 1楽章</b> <b>【到達目標】</b> ブルクミュラー19・23・25番、クレメンティ 1楽章の中から1曲暗譜して弾くことができる。  <b>【授業時間外学習】</b> 曲の全体像をとなえながら演奏ができるように練習する。(1.0hr)			
<b>第7回 ブルクミュラー15番</b> <b>【到達目標】</b> 左手のメロディーを生かしながら、緊迫感のある演奏をする。  <b>【授業時間外学習】</b> 同主調への転調を感じ取り、その変化を言語化して説明ができるようにする。(1.0hr)				<b>第15回 発表会</b> <b>【到達目標】</b> 曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。  <b>【授業時間外学習】</b> 緊張の中でも演奏できるように、曲を弾きこむ。(1.0hr)			
<b>第8回 ブルクミュラー18番</b> <b>【到達目標】</b> 右手の16分休符を休みととらず、メロディーがつながっていくような演奏を心掛ける。  <b>【授業時間外学習】</b> 指使いに注意しながら、ホ短調の音階を練習する。平行調への転調を意識する。(1.0hr)							
<b>【授業時間外学習】</b> 読譜を正確におこなったうえで、毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。教員が認めた場合、バッハ・モーツァルト・シューマン・ショパンなどの曲に進む場合もある。その際は、教員より楽譜を指定する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンドで曲の時代背景などを解説したうえ、模範演奏と学習上のポイントを配信することもあるが、どのような状況下においても必ず数回は対面授業を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「バイエル」(全音楽譜出版)、「ブルクミュラー25の練習曲」(全音楽譜出版)、「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、その他適宜楽譜を配布する							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 新型コロナウイルスの感染状況下においても同様の基準で判断する。ただし、試験を行う時期については検討する。							

科目名	器械運動			担当者	森井大樹		
英文名	Apparatus Exercise						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		科目ナンバー	CBE115		卒業認定方針との関連	⑦
授業形態	実技						
<b>【到達目標】</b>							
達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階の練習方法を通して身につけていく。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル		未到達レベル		
	マット運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。		技の成立条件を満たす実施ができない。		
	とび箱運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。		技の成立条件を満たす実施ができない。		
	鉄棒運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。		技の成立条件を満たす実施ができない。		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 マット運動の基礎技能</b>				<b>第9回 マット運動（側立回転系・側立回転とびの技）④</b>			
<b>【 到達目標 】</b> (1)器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。 (2)マット運動の基礎技能の習熟を図る。				<b>【 到達目標 】</b> (1)ハンドスプリングの技能テスト。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第2回 マット運動（側立の基礎・接転系の技）①</b>				<b>第10回 とび箱運動（反転系の技の基礎技能）</b>			
<b>【 到達目標 】</b> (1)側立の基礎知識・技能を習得する。 (2)前転、後転の基礎知識・技能を習得する。				<b>【 到達目標 】</b> (1)反転系の技の基礎知識・技能を習得する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第3回 マット運動（側立の基礎・接転系の技）②</b>				<b>第11回 とび箱運動（反転系の技・開脚とび）</b>			
<b>【 到達目標 】</b> (1)側立の静止技能および歩行技能を習得する。 (2)前転、後転の変形技を習得する。				<b>【 到達目標 】</b> (1)開脚とびの技能を習得する。 (2)開脚とびの技能テスト。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第4回 マット運動（側立の基礎・接転系の技）③</b>				<b>第12回 とび箱運動（反転系の技・開脚とび）</b>			
<b>【 到達目標 】</b> (1)側立前転の技能を習得する。 (2)伸膝後転の技能を習得する。				<b>【 到達目標 】</b> (1)開脚とびの技能を習得する。 (2)開脚とびの技能テスト。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第5回 マット運動（側立の基礎・接転系の技）④</b>				<b>第13回 鉄棒運動（支持回転系の技）①</b>			
<b>【 到達目標 】</b> (1)側立前転の技能テスト。 (2)伸膝後転の技能テスト。				<b>【 到達目標 】</b> (1)鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第6回 マット運動（側立回転系・側立回転とびの技）①</b>				<b>第14回 鉄棒運動（支持回転系の技）②</b>			
<b>【 到達目標 】</b> (1)側方側立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。 (2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。				<b>【 到達目標 】</b> (1)支持回転系の技の技能を習得する。 (2)支持回転系の技の技能テスト。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第7回 マット運動（側立回転系・側立回転とびの技）②</b>				<b>第15回 課題の達成度と身体知</b>			
<b>【 到達目標 】</b> (1)側方側立回転の技能を習得する。 (2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。				<b>【 到達目標 】</b> (1)技の習得に必要な身体知について理解する。 (2)達成できた動きの身体知について理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
<b>第8回 マット運動（側立回転系・側立回転とびの技）③</b>							
<b>【 到達目標 】</b> (1)側方側立回転の技能テスト。 (2)ハンドスプリングの技能を習得する。							
<b>【授業時間外学習】</b> 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b>							
課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらかじめ動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。							
<b>【オンライン授業の場合】</b>							
オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容や成績評価方法は原則的に変更しない。課題技の基礎技能に関する学習部分のみをオンラインで実施することになる。各自ができる範囲で指定された課題に取り組むことを望む。課された運動課題に関する感覚記述、提出をもって出席確認をする。課題技の達成度に関する確認は、原則的に対面授業で実施するので、補講措置を取る場合もある。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
<参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友・著（大修館書店）							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b>							
課題技の達成度 100%							
<b>【オンライン授業の場合】</b>							
課題技の達成度 100%							

科目名	サッカー		担当者	鈴木健介		
英文名	Soccer					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	実技	科目ナンバー	CBE116		卒業認定方針との関連	⑦
<b>【到達目標】</b>						
サッカーの基本的な技術を習得することが本授業の目的である。そのために、ボールに触れる機会がサッカーより断然多いフットサルのゲームをサッカーの練習と並行して行っていく。①フットサルの基本技術をドリルし、スキルとして習得できるよう努力する。②チーム構成員同士が勝利を目指し、協力し合う態度を学ぶ。③ゲームを楽しむためには相手チームの選手やレフェリーを尊重しなければならないという現実を認識し、フェアな態度や他者への思いやり等を学ぶ。 以上のことを目的として本授業を展開する。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
サッカーにおける基礎的な技能について		試合での技能発揮に優れ、実技テストの得点が90%以上である		基礎的な技能が試合で発揮でき、実技テストの得点が60～89%である		試合での技能・実技テストの得点が60%に満たない
サッカーにおける基礎的な理論について		参照資料がなくとも理論の説明・実践ができる		参考書や資料参照のもと理論の説明ができる		基礎的な理論の理解が不十分で説明できない
サッカーにおける基礎的な戦術・戦略について		参照資料無しで基礎的な戦術・戦略の説明・実践ができる		参考書や資料参照のもと基礎的な戦術・戦略の説明ができる		基礎的な戦術・戦略の理解が不十分で説明できない
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 ボールコントロールとキックのトレーニングとゲーム</b>				<b>第9回 3人目のプレーヤーを使う攻撃のトレーニングとゲーム</b>		
【到達目標】 (1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。				【到達目標】 (1)3人目のプレーヤーを使うタイミング、使われるタイミングを理解し、実践できるようにする。		
【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)				【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)		
<b>第2回 ボールコントロールとヘディングのトレーニングとゲーム</b>				<b>第10回 ボールを奪うトレーニングとゲーム</b>		
【到達目標】 (1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。				【到達目標】 (1)タックルのタイミングと方法を理解し、実践できるようにする。		
【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)				【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)		
<b>第3回 ボールコントロールとドリブルのトレーニングとゲーム</b>				<b>第11回 守備におけるチャレンジとカバーのトレーニングとゲーム</b>		
【到達目標】 (1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。				【到達目標】 (1)チャレンジとカバーについて理解し、実践できるようにする。		
【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)				【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)		
<b>第4回 コミュニケーションのトレーニングとゲーム</b>				<b>第12回 クロスボールからの攻撃パターンのトレーニングとゲーム</b>		
【到達目標】 (1)コミュニケーションのタイミングを理解し、実践できるようにする。				【到達目標】 (1)クロスボールからシュートまでのパターンを3種類実践し、シュートまでつながるようにする。		
【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)				【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)		
<b>第5回 視野の確保のトレーニングとゲーム</b>				<b>第13回 チーム毎でのウォームアップとゲーム①</b>		
【到達目標】 (1)良いボディシェイプを確保するステップワークを学び、実践できるようにする。				【到達目標】 (1)ウォームアップをチーム毎できちんと行い、その後ゲームを行えるようにする。		
【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)				【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)		
<b>第6回 攻撃のサポートのトレーニングとゲーム</b>				<b>第14回 チーム毎でのウォームアップとゲーム②</b>		
【到達目標】 (1)サポートの角度とタイミング、そして距離を理解し、実践できるようにする。				【到達目標】 (1)ウォームアップをチーム毎できちんと行い、その後ゲームを行えるようにする。		
【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)				【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)		
<b>第7回 3対1のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム</b>				<b>第15回 レクリエーションゲーム</b>		
【到達目標】 (1)サポートの動きと良い視野を保つことを理解し、実践できるようにする。				【到達目標】 (1)班編成を変え、レクリエーションゲームを行う。		
【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)				【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)		
<b>第8回 4対2のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム</b>						
【到達目標】 (1)クサビのパスのタイミングを理解し、実践できるようにする。						
【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b>						
【対面授業の場合】 実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとする。アクセサリ類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。前回の技術的課題を落とし込んだウォームアップを行い、技術の定着の一助とする。						
【オンライン授業の場合】 オンライン授業の場合は講義・オンライン上での運動等が中心となるが、対面授業の場合と同様に、自主的・積極的に活動すること。実技授業の特性上、全く実技を見ずに成績評価を行うことは難しいため、オンライン授業時ビデオをONにできる環境や運動ができる環境を作ることが好ましい。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。						
<b>【成績評価方法】</b>						
【対面授業の場合】以下の割合にて評価し、点数化する。 ①授業への取り組み方・参加度60%、②技術点(実技テスト)10%、③知識点(理論テスト)10%、④準備点(服装・ゼッケン等の準備)20%。						
【オンライン授業の場合】以下の割合にて評価し、点数化する。 ①授業への取り組み方・参加度(課題レポート含む)60%、②技術点(実技テスト・動画での提出)20%、③知識点(理論テスト)20%。						

科目名	ことばの研究			担当者	並木真理子		
英文名	Language Studies						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4					専門基礎・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE303	卒業認定方針との関連	⑥		
【到達目標】 子どもや保育における「ことば」に関する先行研究や保育書籍から、子どもの言葉を豊かに育て、保護者との信頼関係を築く保育のあり方について理解を深める。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どものことばに関する研究や文献について		知識を習得し自らまとめて説明できる		知識を習得し、資料等を参照しながら説明できる		知識が不十分で説明できない	
こどものことばを豊かに育む保育について		十分に理解し自らまとめて説明できる		内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
保護者との信頼関係を築く保育方法について		十分に理解し自らまとめて説明できる		内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 ガイダンス</b> 【到達目標】 授業の概要と進め方を知り、学習の心構えを形成する。発表の準備の方法を理解する。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業計画表を読み込み授業の見直しをもつ。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第9回 言葉を視点とした小学校との連携</b> 【到達目標】 小学1年生の国語について学び、小学校生活・学習につながることばの力を考える。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、小学校国語との連続性を考える。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 絵本研究①</b> 【到達目標】 絵本の歴史や構造、特性に関する先行研究や文献を読み、造詣を深める。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、先行研究内容に興味をもつ。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第10回 配慮を要する子どもの言葉</b> 【到達目標】 配慮を要する子どもの姿を学び、適切な援助方法を理解する。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
<b>第3回 絵本研究②</b> 【到達目標】 絵本作家やその技法に関する先行研究や文献を読み、造詣を深める。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、先行研究内容に興味をもつ。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第11回 連絡帳の書き方</b> 【到達目標】 連絡帳の意義を学び、実際の場面を想定して連絡帳の書き方のポイントを理解する。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
<b>第4回 絵本を活用した保育</b> 【到達目標】 絵本を活用した保育について学び、絵本から始まる保育活動を計画・実践できる。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、絵本から始まる保育活動を考える。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第12回 保育ドキュメンテーション</b> 【到達目標】 保育ドキュメンテーションについての文献を読み、実践方法についての理解を深める。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
<b>第5回 子どもの言葉を育てる[0-2歳]</b> 【到達目標】 乳児～低年齢児の言葉を豊かに育てる関わりや保育のあり方を学ぶ。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、0～2歳児の言葉の発達過程を復習する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第13回 保育におけるSNS</b> 【到達目標】 保育現場で活用されるインターネット利用に関するメリットデメリットを学び、配慮すべき点を理解する。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
<b>第6回 子どもの言葉を育てる[3-5歳]</b> 【到達目標】 3～5歳児の言葉を豊かに育てる関わりや保育のあり方を学ぶ。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、3～5歳児の言葉の発達過程を復習する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第14回 保護者会におけるコミュニケーション</b> 【到達目標】 実際の場面を想定して実践的に学び、保護者会進行のポイントを理解する。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
<b>第7回 言葉による伝え合い</b> 【到達目標】 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における「言葉による伝え合い」を理解し、子どもの姿を通してその援助方法を学ぶ。  【授業時間外学習】 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を復習する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第15回 保育文書の基本</b> 【到達目標】 保育文書の書式や書き方を学び、保育者に必要な言語表現力を高める。  【授業時間外学習】 配付資料とノートを読み返して、授業での学びを振り返る。(4.0hr)			
<b>第8回 文字に親しむ保育</b> 【到達目標】 子どもの書字の実態を知り、子どもの文字習得とその支援について理解する。  【授業時間外学習】 配付資料を読み、文字に親しむ保育を考える。課題に取り組む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ・指定されたテーマについて、保育書籍の要点をまとめ、発表を行うこと。 ・積極的に子どもの「ことば」や保護者連携についての先行研究や関連文献を読み、研究的視点をもって授業に参加すること。グループワークやディスカッションに積極的に参加し、多角的な考え方を身につけること。ポータル配信の方法は初回授業で説明する。 ・毎回、授業での学びをまとめる授業シートを記入する。授業シートをもとに次回授業でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 ・オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、オンデマンド授業の課題提出状況によって順番を入れ替える場合がある。 ・配布資料はPDF資料や授業動画としてポータル配信する。 ・相互に課題内容を共有するため、写真や動画での課題提出を求めることがある。 ・毎回、出席確認を兼ねた課題フォームを配信する。課題フォームの回答をもとに次回授業でフィードバックを行う。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。 参考文献は授業内で適宜紹介する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業内発表40%、グループワークや提出物20%、試験課題40%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 授業内発表30%、毎回の課題30%、試験課題40%として総合的に評価する。							

科目名	スポーツ社会学		担当者	溝口紀子		
英文名	Introduction to Sociology of Sport					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門基礎・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE208	卒業認定方針との関連		⑦
【到達目標】						
スポーツの歴史や文化史を通して、スポーツの社会的役割、文化的意義について考察する。グローバル社会の多様な側面や文化的特徴についてスポーツという切り口から理解を深める。「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」の視点からスポーツがどのように社会や人と関わりを持っているのかを社会学の視点から考察する。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
スポーツ社会学における基礎的知識		知識を理解し自らまとめて説明できる。	知識を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
スポーツ社会学の研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。		
スポーツ社会学の研究知見の活用に関する事項		知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできている、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 ガイダンス（授業の進め方 スポーツ権）			第9回 女性と身体			
【到達目標】 スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。			【到達目標】 女性の身体を社会学の視点から考察する セクシュアリティ、ダイバシティといった視点から身体を読み解く			
【授業時間外学習】 現代社会におけるスポーツの抱える問題について、自分なりに整理し書き出してみる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 セクシュアリティ、DSDについて調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			
第2回 遊びとスポーツ -「ホモ・ルーデンス」・「遊びと人間」を読み解く-			第10回 武道の国際化-文化変容とは何か-			
【到達目標】 スポーツの定義、遊び、eスポーツについて理解する。			【到達目標】 武道を例に、文化相対主義、文化変容について理解する			
【授業時間外学習】 eスポーツについて調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 海外のスポーツの流入、武道の流出に関して調べる。(4.0hr)			
第3回 スポーツの近代化と武道の誕生			第11回 障がいスポーツ			
【到達目標】 スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する（小レポートを実施）。			【到達目標】 障がいスポーツの基礎知識、課題について理解する			
【授業時間外学習】 武士道、武道の違いについて、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 障がいスポーツ種目、パラアスリートについて調べる(4.0hr)			
第4回 スポーツとナショナリズム			第12回 スポーツと危機管理（安全配慮義務）			
【到達目標】 スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。			【到達目標】 スポーツと事故、安全配慮について、社会的観点から議論できるようにする。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会的観点から理解する（小レポートを実施）。			
【授業時間外学習】 スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分のスポーツ経験・体験におけるスポーツ事故をまとめる(4.0hr)			
第5回 プロパガンダとオリムピック（美の祭典・民族の祭典）			第13回 スポーツと倫理-ドーピングの問題性とスポーツの本質			
【到達目標】 プロパガンダの作用について学習する。 民族の祭典、美の祭典の映画鑑賞、スポーツ文化について取り上げる。			【到達目標】 ドーピング問題とは何かについて理解し、スポーツにおけるドーピング問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。			
【授業時間外学習】 プロパガンダの意味を調べる。プロパガンダの具体的な例を調べる。(4.0hr)			【授業時間外学習】 パラドーピング、日本選手のドーピング事件を調べる。(4.0hr)			
第6回 五輪とボイコット（冷戦下のスポーツ）			第14回 スポーツと体罰			
【到達目標】 スポーツが政治とどのように結びつのか、冷戦時代を例にボイコットについて取り上げる。			【到達目標】 スポーツを身体、規律、訓練の視点から考察する 指導者と生徒の関係性、課外活動におけるハラスメント等も社会的観点から理解する。			
【授業時間外学習】 五輪ボイコットに関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)			
第7回 子どもの健康・経済格差			第15回 1964東京五輪と東京2020			
【到達目標】 子どもの経済格差について、スポーツの環境視点から検証する			【到達目標】 1964年東京五輪の当時の時代背景、スポーツ政策はいかに進められたかを理解する。 2020東京のレガシーについて考察する			
【授業時間外学習】 「子どもの経済格差」について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 1964年、2020年のそれぞれの東京五輪の問題点について調べる。(4.0hr)			
第8回 スポーツとジェンダー						
【到達目標】 女性アスリートのメディア・イメージやバタナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができる（小レポート実施）。 人見絹枝が残したスポーツの功績を考える						
【授業時間外学習】 スポーツに限らず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】						
1. テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。						
2. 現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。						
3. 感染予防、静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。						
【オンライン授業の場合】						
オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の18:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】						
教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。 参考図書：「現代スポーツのパースペクティブ」菊幸一他編著（大修館書店）2006、「性と柔一女子柔道史から問う」溝口紀子著（河出書房新社）2013、「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著（ミネルヴァ書房）2012、「日本の柔道 フランスのJUDO」溝口紀子著（高文研）2015						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】						
試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可）、授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40%、良好な出席状況は当然の前提である。						
【オンライン授業の場合】						
各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	スポーツ史			担当者	都 筑 真		
英文名	Sport History						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4					専門基礎・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	CBE209		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b>							
社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解し、説明できるようになる。そして、各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの歴史を理解していくことを通じて、今後のスポーツのあり方について自らの考えを表明できるようになる。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
スポーツ史学の基礎的事項		基礎的事項を理解し自らまとめて説明できる。		基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
スポーツ史学の研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。		研究知見を資料等を参照しながら説明できる。		知見の理解が不十分で説明できない。	
スポーツ史学の研究知見の活用に関する事項		知見の活用について意見を示すことができる。		知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。		知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 ガイダンス</b>				<b>第9回 近代の戦争と体育・スポーツ</b>			
【到達目標】 (1) 講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。				【到達目標】 (1) 近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解し、説明することができる。 (2) 体育・スポーツが戦争と関係する理由について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第2回 スポーツ史を学ぶ意義</b>				<b>第10回 オリンピックムーブメントと世界平和</b>			
【到達目標】 (1) スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解し、説明することができる。 (2) スポーツ史を学ぶ意義について理解し、説明することができる。				【到達目標】 (1) オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解し、説明することができる。 (2) オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第3回 スポーツのルーツへのまなざし</b>				<b>第11回 日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法</b>			
【到達目標】 (1) スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解し、説明することができる。				【到達目標】 (1) 日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由を理解し、説明することができる。 (2) これまでのスポーツ振興政策踏まえて、今後とるべき振興政策について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第4回 各時代の社会におけるスポーツ</b>				<b>第12回 スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果</b>			
【到達目標】 (1) スポーツの時代毎の変化を理解し、説明することができる。 (2) 近代までのスポーツと現代のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) スポーツの発展に貢献した「モノ」「場」「サービス」の歴史を理解し、説明することができる。 (2) スポーツの経済効果について理解し、説明することができる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第5回 スポーツ種目の誕生と変容</b>				<b>第13回 女性スポーツの展開と現在</b>			
【到達目標】 (1) われわれの身近にあるスポーツ種目の誕生と変容を理解し、説明することができる。 (2) これまでのスポーツの変容を踏まえ、今後のスポーツのあり方について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) 女性にとってのスポーツの歴史を理解し、説明することができる。 (2) 女性にとってスポーツが今後どのようなものとなっていくかについて自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 欧米スポーツの日本への移入</b>				<b>第14回 スポーツとメディア</b>			
【到達目標】 (1) 欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解し、説明することができる。 (2) 欧米スポーツが日本に普及した意義について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) スポーツとメディアの歴史的関係を理解し、説明することができる。 (2) スポーツとメディアの今後の関係について自らの考えを表明できる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
<b>第7回 体操、身体教育、スポーツ教育</b>				<b>第15回 スポーツと環境問題</b>			
【到達目標】 (1) 古代の体操、近代の身体教育に関する理論と歴史を理解し、説明することができる。 (2) 古代の体操、近代の身体教育とスポーツ教育との類似点や相違点について自らの考えを表明できる。				【到達目標】 (1) スポーツと環境問題の関係を理解し、説明することができる。 (2) スポーツ界における環境保全の取り組みを理解し、説明することができる。			
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 スポーツの技術、ルールの歴史的変容</b>							
【到達目標】 (1) スポーツの技術やルールの歴史的変容を理解し、説明することができる。 (2) スポーツの技術やルールが今後どのように変化していくのかについて自らの考えを表明できる。							
【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と補足資料である。資料は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の課題の提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『スポーツの歴史と文化』（新井博／榎原浩児編著、道和本院）を講義の参考書として利用すること。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 講義毎に課す小レポート(50%)及び期末課題の結果(50%)で評価する。合格基準は60%である。							

科目名	保育者論			担当者	百瀬ユカリ		
英文名	Theory of Nursery Teacher						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1						専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR101		卒業認定方針との関連	⑦	
【到達目標】							
保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解し、保育者の役割と倫理について認識している。子どもの前に立つ者としての自覚と責任を持っている。また、保育の仕事は、保育者間で連携し協働していくことの必要性を理解している。さらに今日では、子育て支援を担う役割が保育者に求められており、園外の専門職や地域の関係機関との連携を推し進めていくことの大切さを踏まえ、乳幼児の保育と保護者支援に取り組む保育の専門性について理解している。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解している		保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解し、説明できる。		保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解し、教科書等を参照しながら説明できる。		保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを説明できない。	
保育者の役割と倫理についての認識している		保育者の役割と倫理について説明でき、保育者としての自覚と責任を持っている。		保育者の役割と倫理について教科書等を参照しつつ説明でき、保育者としての自覚と責任を持っている。		保育者の役割と倫理について理解に乏しく、保育者としての自覚と責任を持っていない。	
乳幼児の保育と保護者支援に取り組む保育の専門性について理解している		園内での協働、子育て支援を担う役割、地域関係機関等の連携について理解し説明できる。		園内での協働、子育て支援の役割、地域関係機関等の連携について教科書等を参照しつつ説明できる。		園内での協働、子育て支援を担う役割、地域関係機関等との連携について説明できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 保育者の現在（いま）				第9回 保育園・幼稚園の一日			
【到達目標】 (1) 保育者を志す者としての自覚と責任を持つ。 (2) 保育者の仕事と置かれている状況等について説明できる。				【到達目標】 (1) 映像資料や実践記録を通して保育所の一日について理解し説明できる。 (2) 映像資料や実践記録を通して幼稚園の一日について理解し説明できる。			
【授業時間外学習】 「保育者になりたい」自分を振り返る。(4.0hr)				【授業時間外学習】 写真や資料を通して園生活及び保育者の仕事の全体像を把握する。(4.0hr)			
第2回 保育者の制度的位置づけ				第10回 園での協働			
【到達目標】 (1) 保育の法的根拠を理解している。 (2) 保育者の仕事と資格・要件等について理解し説明できる。				【到達目標】 (1) 保育における職員間の連携、協働について理解し説明できる。 (2) 保育の場の運営（チームとしての園のあり方、チーム学校運営）について理解し説明できる。			
【授業時間外学習】 児童福祉法、学校教育法、認定こども園法の該当箇所を読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 保護者への保育の情報提供の方法について考えて書き記す。(4.0hr)			
第3回 保育士と幼稚園教諭				第11回 専門機関との連携			
【到達目標】 (1) 保育士の制度的位置づけや職務内容について理解し説明できる。 (2) 幼稚園教諭の制度的位置づけや職務内容について理解し説明できる。				【到達目標】 (1) 療育機関との連携について理解し説明できる。 (2) 教育機関との連携について理解し説明できる。			
【授業時間外学習】 保育者の職務内容を書き記す。(4.0hr)				【授業時間外学習】 保育現場と小学校との連携について考えて書き記す。(4.0hr)			
第4回 保育者の役割と責務				第12回 保護者支援を担う保育者			
【到達目標】 (1) 保育者の役割について理解し説明できる。 (2) 保育者の責務について理解し説明できる。				【到達目標】 (1) 保護者支援の必要性について理解し説明できる。 (2) 保護者支援の方法と内容について理解し説明できる。			
【授業時間外学習】 保育者の役割について、テキストで確認する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 保育現場における保護者支援に関する取組を調べる。(4.0hr)			
第5回 保育者の倫理				第13回 地域社会との連携			
【到達目標】 (1) 保育者の倫理について考察する。 (2) 守秘義務や社会的責任について理解し説明できる。				【到達目標】 (1) 保育所等の社会的役割について理解し説明できる。 (2) 地域関係機関等との連携について理解し説明できる。			
【授業時間外学習】 保育者の倫理について資料を見て確認する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 保育現場における地域交流の場面を写真などで見る。(4.0hr)			
第6回 保育者の専門性①				第14回 保育者の専門的成長			
【到達目標】 (1) 保育者の資質・能力について理解し説明できる。 (2) 保育者に求められる知識・技術について理解し説明できる。				【到達目標】 (1) 専門性の発達について理解し説明できる。 (2) 他職種との連携について理解し説明できる。			
【授業時間外学習】 テキストを読む。(4.0hr)				【授業時間外学習】 保育の専門性について考えると書き記す。(4.0hr)			
第7回 保育者の専門性②				第15回 生涯発達とキャリア形成			
【到達目標】 (1) 子どもの保育に関する専門性について理解し説明できる。 (2) 保護者支援に関する専門性について理解し説明できる。				【到達目標】 (1) 保育者としてのキャリアアップについて自分の考えを述べるができる。 (2) 保育者のライフサイクルについて理解し説明できる。			
【授業時間外学習】 保育者の専門性について、他の職種との違いを考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 保育者として成長していくために必要なことを考える。(4.0hr)			
第8回 保育者の一日							
【到達目標】 (1) 保育者の一日について理解し説明できる。 (2) 保育者の援助について理解し説明できる。							
【授業時間外学習】 保育者のタイムスケジュール表を作成し、保育（子どもとかかわる）以外の仕事を考えてみる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】教科書を中心に、具体的事例を確認しながら進める。毎時間配布する小レポートを作成し、復習に役立て、理解度の確認をすること。小レポートの内容は、次の授業時にフィードバックを行う。必要に応じて映像資料も提示し理解を深める。保育者を志す者としての自覚と責任をもち、保育者の専門性とは何かを常に問いながら意欲的に学んでほしい。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。							
【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減っても大幅な変更はしない。配信資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業の時間割と同一時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする（掲載期限はその都度確認のこと）。出席は各回の課題提出により確認する。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
保育現場で実務経験のある教員が、保育活動場面における事例観察を行いながら、自身の保育経験などを踏まえ、保育者の役割と倫理について講義を行う。							
【教科書・参考書など】							
教科書：井上孝之・山崎敦子編『子どもと共に育ちあう エピソード保育者論』（第2版）株式会社みらい、村上かつら作・百瀬ユカリ監修『新人保育者物語・さくら』小学館 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館（最新版）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】平常点（授業への参加度、授業内の小レポートを含む）及び課題提出により50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。							
【オンライン授業の場合】毎回の授業課題と最終課題レポートの内容を評価する。毎回の授業課題の評価を60%、最終課題レポート評価40%の合計100%として評価する。							

科目名	教育原論			担当者	青木純一		
英文名	Theory of Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		科目ナンバー	CMR102		卒業認定方針との関連	⑦
授業形態	講義						
<b>【到達目標】</b>							
「教育とは何か」というテーマについて考えることは、教職を志す上で不可欠の作業である。また今日の日本は深刻な教育問題を抱えており、こうした問題の解決を考えるためには幅広い教育的素養が求められる。本科目においては、以上の課題について、基本的な知識を身につけるとともに、いくつかの側面から考察を加え、教育に関する洞察を深めることを目的とする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	教育原論の基礎的事項・理論について	基礎的事項を理解し自ら説明できる。	基礎的事項を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。			
	教育原論の研究知見に関する事項について	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。			
	教育原論の研究知見の活用に関する事項について	知見の活用の際し意見を述べるができる。	知見の活用の際し、資料などを参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で、意見を述べられない。			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 教育とは何か</b>				<b>第9回 諸外国の保育制度</b>			
【到達目標】 本授業で学習する内容の概要を理解し、学習への意欲を高める。				【到達目標】 アメリカ、中国、オランダなど諸外国の保育制度の特徴を理解する。			
【授業時間外学習】 幼児における教育の役割とはなにか、その基本的な意味を学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 諸外国の幼児教育の実態を知るとともに、その特徴を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第2回 幼児教育を築いた人々(1) ルソーの思想</b>				<b>第10回 教育課程・保育課程</b>			
【到達目標】 ルソーの思想を中心に近代の教育思想を理解する。				【到達目標】 教育課程や保育課程の全体的、基本的な事項について理解する。			
【授業時間外学習】 ルソー『エミール』を読む中で、近代教育の特徴を学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 幼児教育の教育計画の理念、作成方法、留意点などを学ぶ。(4.0hr)			
<b>第3回 幼児教育を築いた人々(2) ベスタロッチ、フレーベルの思想</b>				<b>第11回 子どもの発達の特徴と遊び</b>			
【到達目標】 ベスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育を中心にその思想を理解する。				【到達目標】 子どもの発達にとって遊びが重要な役割を果たしていることを理解する。			
【授業時間外学習】 ベスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育の特徴を学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 子どもが発達する上で遊びが重要であることを学ぶ。(4.0hr)			
<b>第4回 我が国の幼児教育と保育の歴史(1) 戦前の幼児教育・保育</b>				<b>第12回 特別支援教育とは</b>			
【到達目標】 戦前・戦中日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。				【到達目標】 日本の障害児教育の歴史を理解する。			
【授業時間外学習】 日本で幼児教育が生まれる背景やその内容を学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 障害児の特性と特別支援教育の理念について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第5回 我が国の幼児教育と保育の歴史(2) 戦後の幼児教育・保育</b>				<b>第13回 障害児に対する支援</b>			
【到達目標】 戦後日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。				【到達目標】 特殊教育から特別支援教育に変わって障害児への支援の仕方が変化したことを理解する。			
【授業時間外学習】 戦後日本において、幼稚園や保育園における学習内容を学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 障害の特性に応じた指導方法について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第6回 子どもの発達と教育</b>				<b>第14回 生涯学習社会における幼児教育と保育</b>			
【到達目標】 ピアジェの発達論を中心にその意義を理解する。				【到達目標】 生涯学習社会における幼児教育や保育のもつ意味について理解する。			
【授業時間外学習】 ピアジェの発達論を通して人の環境に対する認識方法を学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 生涯教育社会において幼児教育を知ることの意味について学ぶ。(4.0hr)			
<b>第7回 教育と児童福祉における目的と目標</b>				<b>第15回 幼児教育とはなにか</b>			
【到達目標】 教育基本法やその他の法規から、幼稚園・保育所の目的や役割を理解する。				【到達目標】 幼児教育とはなにか、学生一人一人が自分の基本的な考え方をまとめる。			
【授業時間外学習】 幼児教育に関する基本的な法令を学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 幼児にとって教育の意味とはなにか、その基本を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第8回 日本の幼児教育・保育の制度</b>							
【到達目標】 日本の幼児教育・保育制度について、その目的や課題を理解する。							
【授業時間外学習】 幼稚園と保育園の二元体制が生まれた背景と、幼保一元化にむけた動きを学ぶ。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】 講義に加え、グループワークやディスカッション、授業内でのレポートの作成などを課す予定である。学生諸君には、積極的に授業に参加することを求める。							
【オンライン授業の場合】 以下の点に留意すること。 (1) 授業に関する資料はGoogle Driveにアップし、資料にアクセスするためのアドレス等は随時メールにて配信する。 (2) 資料の配信期間やレポート等の提出期限等もその都度メールでお知らせするので、見逃さないように十分に注意すること。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書を使用するので、各自、用意すること。 【教科書名】『子どもの教育の原理』古橋和夫編著（萌文書林）							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業・オンライン授業共通】 授業内小レポート（50%）、試験または課題レポート（50%）から総合的に評価する。							

科目名	幼児体育			担当者	森田陽子		
英文名	Physical Education for Preschool Children						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1						専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR103		卒業認定方針との関連		⑥
<b>【到達目標】</b>							
<p>幼児期になぜ運動あそびが必要なのか、幼児期の運動プログラム、運動あそび指導の実践例などについて、実技とともに大きな単元ごとに講義を行う。この授業で保育実践に必要な教材・教具・遊具の特性について理解し、実際の保育において適切な援助や補助、環境構成ができるようになることを目的とする。</p> <p>実際に幼稚園児・保育園児とかかわりながらさらにその理解を深める。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
幼児体育の基礎的事項・理論と実践		幼児体育の基礎的事項の理論を理解し、模範的に実践することができる。		幼児体育の基礎的事項の理論を理解し、実践することができる。		幼児体育の基礎的事項の理論を理解し、実践することができない。	
幼児体育の応用的事項・理論と実践		幼児体育の応用的事項の理論を理解し、模範的に実践することができる。		幼児体育の応用的事項の理論を理解し、実践することができる。		幼児体育の応用的事項の理論を理解し、実践することができない。	
保育現場における幼児体育の実践		保育現場における幼児体育の実践において適切な援助や補助、環境構成ができる。		保育現場における幼児体育の実践において、援助や補助、環境構成ができる。		保育現場における幼児体育の実践（適切な援助や補助、環境構成）ができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション・コミュニケーションゲームなど</b> <b>【到達目標】</b> (1) 授業の予定を知り、授業を受けるためのルールを理解する。 (2) オリエンテーションゲームで、五感の大切さを知る。  <b>【授業時間外学習】</b> この授業における各自の目標、コミュニケーションゲームでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第9回 固定遊具を使つてのあそび①鉄棒を使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) 固定遊具に関する知識を得る。 (2) 鉄棒の基本動作と逆上がりの段階的な指導法を学ぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第2回 小さな遊具を使つてのあそび②ボールを使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) ボールの特性を考えたり、大きさや感触の違いを感じる。 (2) 身近にあるものを使つてあそぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> ボールを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第10回 固定遊具を使つてのあそび②鉄棒を使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) 基本動作を実践する。 (2) 逆上がりを実践する、補助の仕方を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> 鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント、補助のポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第3回 小さな遊具を使つてのあそび③縄を使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) 縄の特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2) 一人・二人・大人数で、どんな跳び方ができるか挑戦する。  <b>【授業時間外学習】</b> 縄を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第11回 大きな遊具を使つてのあそび④跳び箱を使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) 跳び箱運動に必要な感覚を養うあそびを体験する。（跳び箱を使用しない）  <b>【授業時間外学習】</b> 跳び箱を跳ぶことにつなげる遊び、跳び箱の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第4回 小さな遊具を使つてのあそび③フープを使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) フープの特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2) 回す、転がす、投げる、受ける、くぐるなどに挑戦する。  <b>【授業時間外学習】</b> フープを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第12回 大きな遊具を使つてのあそび④跳び箱を使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) またぎ越し、踏み越し、とび上がり降りを楽しむ。（低い跳び箱を使つて）  <b>【授業時間外学習】</b> 跳び箱を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第5回 小さな遊具を使つてのあそび④棒を使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) 棒の特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2) バランスをとったり、リズムに合わせてあそぶ。  <b>【授業時間外学習】</b> 棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第13回 大きな遊具を使つてのあそび④跳び箱を使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) いろいろな馬跳びを楽しむ。 (2) 開脚跳び越しを楽しむ。（好きな跳び箱を使つて）  <b>【授業時間外学習】</b> 跳び箱を使った遊びでの学び、開脚跳びの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第6回 大きな遊具を使つてのあそび①マットを使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) マットの特性を知る。 (2) 前転のバリエーションを体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> マットを使った遊びでの学び、前転の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第14回 表現あそび…布やパラバルーンを使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) いろいろな大きさの布を使つて表現遊びを楽しむ。 (2) パラバルーンの基本技術を体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> 布やパラバルーンを使った表現遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第7回 大きな遊具を使つてのあそび②マットを使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) 側転のバリエーションを体験する。 (2) 補助の仕方を習得する。  <b>【授業時間外学習】</b> マットを使った遊びでの学び、側転の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)				<b>第15回 調整力を高めるあそび…いろいろな遊具を使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) バランス感覚を養うあそびを楽しむ。  <b>【授業時間外学習】</b> いろいろな遊具を使った遊びでの学び、指導ポイント、この授業のまとめ等をレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 大きな遊具を使つてのあそび③マットを使つて</b> <b>【到達目標】</b> (1) マットを使つたあそびを体験する。  <b>【授業時間外学習】</b> マットを使った遊びでの学び、マットの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 指導者として子どもの前に立つ場面を想定して身支度を整えて授業に臨むこと。 各単元の到達目標を達成できるよう努力するとともに、授業内容を振り返りレポートにまとめる。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 4回のみオンデマンド方式での展開とする。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。残りの11回については、実技を行うこととする（対面授業参照）ため、状況によって連絡をする。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
『0歳児から5歳児運動あそび12ヶ月』小学館（2022年） 『保育者のための幼児の運動遊び指導』幼児体育研究会編 不昧堂、 『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、『保育所保育指針』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省厚生労働省							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 単元ごとの実技テスト80%、レポートおよび授業内の提出物の内容20%。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 4回の配信レポート20%、実技テスト80%。							

科目名	保育・教育課程論				担当者	青木 純一	
英文名	Theory of Curriculum for Early Childhood Care and Education						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の區別				専門・必修	
授業形態	講義	科目ナンバー		CMR201	卒業認定方針との関連	⑧	
<b>【到達目標】</b>							
<p>保育園、幼稚園における保育や教育の目標達成をめざし、どのように保育・教育を進めていくのか。その内容を明らかにするために編成されるのが保育課程・教育課程である。そういった意味で保育所や幼稚園の根幹をなすものである。本科目では保育・教育課程の編成、指導計画の実際、評価と改善の過程を理解することがねらいである。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育・教育課程論の基礎的事項・理論について		基礎的事項を理解し自ら説明できる。		基礎的事項を教科書等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
保育・教育課程論の研究知見に関する事項について		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。		研究知見を資料等を参照しながら説明できる。		知見の理解が不十分で説明できない。	
保育・教育課程論の研究知見の活用に関する事項について		知見の活用の際し意見を述べるができる。		知見の活用の際し、資料などを参考にしながら説明できる。		知見の活用に関する理解が不十分で、意見を述べられない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 保育・教育課程と保育士の仕事</b>				<b>第9回 援助計画の種類と書き方②-3～5歳児を対象に</b>			
<p>【到達目標】</p> <p>保育教育課程が社会において果たす役割や機能を理解する。また、教育課程編成の基本原則を理解する。その上で、保育者の一日の仕事を理解し、記録はすべて一律に必要なものではなく、各園の実情に合わせて柔軟に使われるべきことを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>保育園や幼稚園における「記録」の種類やその意味を学ぶ。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <p>3～5歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。とくに、計画の作成の際には、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列することを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>3歳～5歳児の指導計画を作成する際の留意点を学ぶ。(4.0hr)</p>			
<b>第2回 保育者にとっての保育・教育課程</b>				<b>第10回 環境設定の方法</b>			
<p>【到達目標】</p> <p>保育者にとって保育・教育課程はなぜ必要なのかを理解する。教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する。とくに、各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>幼稚園や保育園において保育・教育計画がなぜ必要なのか、その理由を学ぶ。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <p>幼児の主体性を引き出す環境はどのように構成されるべきか、その方法を理解する。とくに、環境設定をする際には教育課程の編成の基本原則を理解するとともに、教育課程や指導計画を検討する際には幼児・児童の実態を踏まえる重要性を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>幼児の主体性を引き出すための保育環境とはどうあるべきか学ぶ。(4.0hr)</p>			
<b>第3回 保育・教育課程とは何か</b>				<b>第11回 保育・教育実践計画</b>			
<p>【到達目標】</p> <p>保育・教育課程とは何か、その目的と計画の手順を理解する。とくに、幼稚園教育要領や保育所保育指針の性格及び位置付け並びに保育・教育課程編成の目的を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>実際に保育計画を作成する際の手順や留意点について学ぶ。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <p>「設定保育」の意味を知り、縦割り保育や延長保育、預かり保育など、様々な保育方法の意図や課題を理解する。とくに、単元、学期、学年をまたいだ長期的視野から、教育課程や指導計画を検討することを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>「設定保育」の意味を知り、様々な保育制度や保育方法について学ぶ。(4.0hr)</p>			
<b>第4回 子どもの遊びの理解</b>				<b>第12回 実践に応じた保育・教育課程の工夫</b>			
<p>【到達目標】</p> <p>保育・教育課程の編成を理解する一歩として、まず子どもの遊びを理解する方法を学ぶ。とくに、子どもの遊びを発達段階別に分けて援助方法と環境設定の在り方を理解する。同時に、長期的な視野に立って教育課程や指導計画を検討することを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>幼稚園や保育園における幼児の遊びの意味を学ぶ。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <p>地域・家庭との連携など、新たな課題に応じた保育・教育課程の作成方法を理解する。とくに、幼保一元化を取り入れる際の課題や小学校の連携を深める際の課題を理解する。また子どもの実態に沿ったカリキュラム・マネジメントの必要性を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>最近の幼児教育における諸課題について学ぶ。(4.0hr)</p>			
<b>第5回 子どもの発達と個性</b>				<b>第13回 実践の向上を図る記録のあり方</b>			
<p>【到達目標】</p> <p>子どもの発達を理解し、併せて発達に応じた教育とはどうあるべきかを理解する。とくに、配慮すべき点として、子供の発達は一律ではなくそれぞれ個別に違うことを理解する。同時に、長期的な視野に立って教育課程や指導計画を検討することを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>幼児の発達の特性についてこれまでの発達論が示した内容を学ぶ。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <p>カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解し、保育・教育課程作成のための記録の必要性を知り、様々な記録方法があることを理解する。併せて記録がカリキュラム評価の重要な資料となることを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>保育・教育課程を作成する際の「記録」の活用の仕方について学ぶ。(4.0hr)</p>			
<b>第6回 幼稚園教育要領とはなにか</b>				<b>第14回 保育実践の向上とこれからの保育・教育課程</b>			
<p>【到達目標】</p> <p>幼稚園教育要領とはなにか、その変遷の歴史を理解する。とくに、教育要領は絶対的なものではなく、常に子どもにとって必要な計画とはなにかという問いの中から生まれてくるものである。その意味でカリキュラム・マネジメントの在り方を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>幼稚園教育要領とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <p>保育実践における個性、多様性、偶発性の意味を理解し、これからの保育・教育課程に必要な課題を理解する。とくに、幼児・児童や地域の実態を踏まえて教育課程を検討することを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>保育実践の個性、多様性、偶発性といった特徴を事例を通して学ぶ。(4.0hr)</p>			
<b>第7回 保育所保育指針とはなにか</b>				<b>第15回 保育の専門性の向上をめざして</b>			
<p>【到達目標】</p> <p>保育所保育指針とはなにか、その性格、位置づけ及び教育課程編成上の目的を理解する。内容と歴史を理解する。とくに、保育指針は絶対的なものではなく、常に子どもにとって必要な計画とはなにかを考えて生まれることから、カリキュラム・マネジメントの在り方も理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>保育所保育指針とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <p>この講義で重要だと思われる事項を再度確認し、あらためて幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>保育・教育課程論の全体像を理解し、かつ重要事項をあらためて振り返る。(4.0hr)</p>			
<b>第8回 援助計画の種類と書き方①-0～2歳児を対象に</b>							
<p>【到達目標】</p> <p>0～2歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。とくに、計画の作成の際には、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列することを理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>0～2歳児を対象とする指導計画を作成する際の留意点について学ぶ。(4.0hr)</p>							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<p>【対面授業の場合】</p> <p>実際に保育・教育課程を作成する活動を通して諸理論や課題についての理解を深めること。</p> <p>【オンライン授業の場合】</p> <p>オンラインで授業をする場合、以下の点に留意すること。</p> <p>(1) 授業に関する資料はGoogle Driveにアップし、資料にアクセスするためのアドレス等は随時メールにて配信する。</p> <p>(2) 資料の配信期間やレポート等の提出期限等もその都度メールでお知らせするので、見逃さないように十分に注意すること。</p>							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
<p>教科書を使用するので、各自、用意すること。</p> <p>【教科書名】「乳幼児の教育保育課程論」北野幸子編著（建邦社）</p> <p>「幼稚園教育要領」（最新版）文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（最新版）文部科学省厚生労働省</p>							
<b>【成績評価方法】</b>							
<p>【対面授業の場合】</p> <p>授業出席2/3を満たした学生に対し試験（100%）を実施する。</p> <p>【オンライン授業の場合】</p> <p>小レポート（50%）と課題レポート（50%）から総合的に評価する。</p>							

科目名	保育指導法		担当者	百瀬ユカリ		
英文名	Methods of Guidance for Child Care					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR202		卒業認定方針との関連	⑦
【到達目標】 保育現場において求められる、「環境を通して」の保育や「遊びや生活を通して」子どもの育ちを促すことについて理解している。乳幼児を対象とする保育の方法、内容について理解し、その指導法を説明できる。子どもの意欲や自主性を尊重し、その主体的な活動を保障するための保育の指導法について理解し活用できる。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
保育の基本：環境を通しての保育、遊びや生活を通して子どもの育ちを促すことについて		環境を通しての保育について及び遊びや生活を通して子どもの育ちを促す意義について説明できる。	環境を通しての保育について及び遊びや生活を通して子どもの育ちを促す意義を理解している。	環境を通しての保育について及び遊びや生活を通して子どもの育ちを促す意義を理解していない。		
保育現場における乳幼児を対象とする保育の方法、内容についての理解と指導法について		5領域の基本的な内容と具体的な活動展開について把握し、指導法の全体構造を説明できる。	5領域の基本的な内容と具体的な活動展開について理解している。	5領域の基本的な理解と具体的な活動展開について理解していない。		
子どもの意欲や自主性を尊重し、その主体的な活動を保障するための保育の指導法		保育の基本及び指導法の学びを活かし、保育指導案を立案し模擬保育を行うことができる。	保育の基本及び指導法の学びを活かし、保育指導案を立案できる。	保育の基本及び指導法の学びを活かし、保育指導案を立案できない。		
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 保育における指導 【到達目標】 (1) 保育の全体構造及び保育者の役割について理解している。 (2) 子どもの育ちを支える保育環境の重要性について理解している。 【授業時間外学習】 保育と指導の違いまたは共通点について考えて記す。(4.0hr)			第9回 人間関係の領域にかかわる援助・指導の方法 【到達目標】 (1) 役割遊び、ごっこ遊び、けんかの場面について理解している。 (2) 視覚覚教材を活用しながら、遊びやけんかの場面への対応・指導法について理解している。 【授業時間外学習】 ごっこ遊びのリスト（必要な道具や用具等も含めて）を作成する。(4.0hr)			
第2回 環境を通して行う保育 【到達目標】 (1) 保育のねらい及び内容について理解している。 (2) 視覚覚教材を活用しながら保育の環境構成について理解している。 【授業時間外学習】 環境構成と指導の関係について考えて記す。(4.0hr)			第10回 環境の領域にかかわる援助・指導の方法 【到達目標】 (1) 自然との関わりや自然を活かした保育について理解している。 (2) 文字や記号など認識力に関する指導法について、小学校へのつながりと共に理解している。 【授業時間外学習】 自然に関わる遊びや活動のリストを作成する。(4.0hr)			
第3回 子どもの発達過程に応じた保育 【到達目標】 (1) 乳幼児期の発達過程と適切な対応（指導、援助）について理解している。 (2) 個別支援が必要な子どもの援助・指導について理解している。 【授業時間外学習】 発達の課題や支援の方法について調べて記す。(4.0hr)			第11回 言葉の領域にかかわる援助・指導の方法 【到達目標】 (1) 話す、聴く、言葉の感覚を養うための指導法について、小学校のつながりと共に理解している。 (2) 絵本やお話を活用した指導法について理解している。 【授業時間外学習】 絵本のリストを作成する。(4.0hr)			
第4回 保育における個と集団の指導 【到達目標】 (1) 個の成長に寄り沿った援助・指導について理解している。 (2) 集団としての成長の過程に寄り沿った指導について理解している。 【授業時間外学習】 幼児期の集団活動や集団遊びを考えて書く。(4.0hr)			第12回 表現の領域にかかわる援助・指導の方法 【到達目標】 (1) 絵画・造形に関する指導法について理解している。 (2) 音楽・身体表現に関する指導法について理解している。 【授業時間外学習】 絵画造形に関する素材や道具等のリストを作成する。(4.0hr)			
第5回 生活にかかわる援助・指導の方法 【到達目標】 (1) 生活習慣の習得に関する指導の方法を理解している。 (2) 生活技術の習得及び社会生活に関する指導の方法を理解している。 【授業時間外学習】 必要な生活習慣を考えて書く。(4.0hr)			第13回 保育実践に向けて① 【到達目標】 (1) 指導計画書の作成と保育の展開について理解している。 (2) 指導計画書の理解と指導の多様性について理解している。 【授業時間外学習】 指導計画を作成し、何通りかの実践を考える。(4.0hr)			
第6回 遊びにかかわる援助・指導の方法① 【到達目標】 (1) 遊びの意義及び遊具の種類や果たす役割について理解している。 (2) 遊びに必要な教材について理解している。 【授業時間外学習】 遊具のリストを作成する。(4.0hr)			第14回 保育実践に向けて② 【到達目標】 (1) 模擬保育の計画を立案することができる。 (2) 模擬保育の振り返りにより、保育の改善点を理解している。 【授業時間外学習】 指導計画を改善する。(4.0hr)			
第7回 遊びにかかわる援助・指導の方法② 【到達目標】 (1) 遊びの導入・内容について理解している。 (2) 遊びの発展・展開について理解している。 【授業時間外学習】 遊びのリストを作成する。(4.0hr)			第15回 保育の総合性 【到達目標】 (1) 遊びの連続性、総合性を踏まえた保育実践について理解している。 (2) 養護と教育の一体性を踏まえた指導法について理解している。 【授業時間外学習】 保育における指導と何かを再考する。(4.0hr)			
第8回 健康の領域にかかわる援助・指導の方法 【到達目標】 (1) 園庭の環境やその遊びについて自分の考えを述べるができる。 (2) 運動遊びの指導法について具体的に理解している。 【授業時間外学習】 運動遊びのリストを作成する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】具体的な保育場面を想定した多岐にわたる保育の方法、指導の内容を主体的に学んでいく。これまでの体験、子どもとのかかわり、そして、授業や教科書、資料などから得たことをもとに、保育実践の礎を築いてほしい。この授業のノートは今後の実習や実践の場面で必ず活かされるので、しっかりノートをとり確認し自分のものにしてほしい。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増減しても大幅な変更はしない。配信資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業の時間割と同一時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする（掲載期限はその都度確認のこと）。出席は各回の課題提出により確認する。						
【実務経験のある教員による授業科目】 保育現場で実務経験のある教員が、豊富な保育活動の実践事例を通し、保育内容及び活動展開、保育計画、具体的な保育活動の指導方法について講義を行う。						
【教科書・参考書など】 百瀬ユカリ著『実習に役立つ保育技術』創成社 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） その他、資料プリントを配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】毎回の授業課題と最終課題レポートの内容を評価する。毎回の授業課題の評価を60%、最終課題レポート評価40%の合計100%として評価する。						

科目名	保育内容（健康）			担当者	森田陽子		
英文名	Child Care Studies (Child Health)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR203		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b> 幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容の取扱いについて理解し、健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育内容「健康」の基礎的事項・理論		保育内容「健康」の基礎的事項・理論について説明できる。		保育内容「健康」の基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。		保育内容「健康」の基礎的事項・理論について説明できない。	
保育内容「健康」の応用的事項・理論		保育内容「健康」の応用的事項・理論について説明できる。		保育内容「健康」の応用的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。		保育内容「健康」の応用的事項・理論について説明できない。	
保育内容「健康」の保育での実践（指導法含む）		保育内容「健康」の保育での実践（指導法含む）について指導案を立案できる。		保育内容「健康」の保育での実践（指導法含む）について授業資料を参照しながら指導案を立案できる。		保育内容「健康」の保育での実践（指導法含む）について指導案を立案できない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 近年の子どものたちの状況</b> 【到達目標】 (1)近年の子どものたちの育ちに見る変化と実態を理解する。 (2)幼児期とはどのような時期なのかを理解する。  【授業時間外学習】 近年の子どものたちの状況についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第9回 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助</b> 【到達目標】 (1)気になる子、障がい児、肥満児等に応じた援助の仕方を理解する。 (2)家庭経験、性格特性に応じた援助の仕方を理解する。  【授業時間外学習】 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第2回 保育における「健康」とは</b> 【到達目標】 (1)要領および指針の意義と改訂の趣旨を理解する。 (2)領域「健康」の位置づけと意味を理解する。  【授業時間外学習】 保育所保育指針、幼稚園教育要領「健康」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第10回 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2）</b> 【到達目標】 (1)様々な運動遊びを知る。 (2)運動遊びを中心とした具体的な指導の在り方を理解する。 (3)情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。  【授業時間外学習】 いろいろな運動遊びについて、その指導の在り方をレポートする。(4.0hr)			
<b>第3回 健康管理と安全能力を育む援助</b> 【到達目標】 (1)子どもの生活とケガや事故について理解する。 (2)安全生活の習慣や態度の形成について理解する。  【授業時間外学習】 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動することについての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第11回 健康な心と体を育む保育の実践（教材研究2）</b> 【到達目標】 (1)保育における運動遊びの実際をビデオで確認する。 (2)空間や遊具の配置等運動遊びにおける環境構成を理解する。  【授業時間外学習】 運動遊びの指導案を立案する。(4.0hr)			
<b>第4回 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1）</b> 【到達目標】 (1)基本的な生活習慣の概要、その形成を理解する。 (2)安全生活の習慣や態度の形成について理解する。 (3)情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。  【授業時間外学習】 健康指導・安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第12回 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育2）</b> 【到達目標】 (1)指導案の実践。 (2)情報機器の活用法を理解する。  【授業時間外学習】 ビデオを見ながら、模擬保育を振り返りレポートする。(4.0hr)			
<b>第5回 健康な心と体を育む保育の構想（教材研究1）</b> 【到達目標】 (1)健康指導の実際を知る。 (2)安全指導の実際を知る。  【授業時間外学習】 保育の中の健康指導・安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)				<b>第13回 健康な心と体を育む保育の評価と改善2</b> 【到達目標】 (1)模擬保育の実践を評価する。 (2)模擬保育の実践を反省する。  【授業時間外学習】 模擬保育の評価と反省から指導案の再構成を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育1）</b> 【到達目標】 (1)健康指導の指導案の立案をする。 (2)安全指導の指導案の立案をする。 (3)幼児の動機づけや意欲などを配慮した健康指導・安全指導の在り方を知る。  【授業時間外学習】 健康指導・安全指導の指導上の留意点についてレポートする。(4.0hr)				<b>第14回 幼児期に育まれる健康な心と心と小学校の生活や学習に活かされる力</b> 【到達目標】 (1)幼児期の体や運動発達における発達課題と小学校における運動発達との関係性を確認する。 (2)小学校の教科等とのつながりについて理解する。  【授業時間外学習】 幼児期に育まれる健康な心と心と小学校の生活や学習に活かされる力についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第7回 健康な心と体を育む保育の評価と改善1</b> 【到達目標】 (1)健康な心と体を育む保育の評価方法について理解する。 (2)健康な心と体を育む保育の改善方法について理解する。  【授業時間外学習】 立案した指導案を評価し、改善点をレポートする。(4.0hr)				<b>第15回 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践</b> 【到達目標】 (1)幼児を取り巻く現代的課題を確認する。 (2)領域「健康」の指導の方向性を考察し、保育実践の動向をする。  【授業時間外学習】 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践についての学びをレポートする。(4.0hr)			
<b>第8回 多様な動きの経験を促す援助</b> 【到達目標】 (1)遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成について理解する。 (2)遊びや生活の中の動きの経験を促す援助の仕方を理解する。  【授業時間外学習】 多様な動きの経験を促す援助方法についての学びをレポートする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 幼稚園教育要領等に示された基本を踏まえ、保育内容「健康」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 <b>【対面授業の場合】</b> 授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式での展開とする。授業内容については、授業回数に変更が出ても大幅な変更はしない。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> テキスト：『保育内容「健康」—幼児期の教育と小学校教育をつなぐ』ミネルヴァ出版（2023年） 参考書：『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省厚生労働省、『保育所保育指針』（最新版）厚生労働省							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業】</b> ①授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）、②毎回の講義内容に対する課題レポート作成（40%）、③最終課題レポート作成（40%） <b>【オンライン授業の場合】</b> ①毎回の講義内容に対する課題レポート（50%）、②最終課題レポート作成（50%）							

科目名	保育内容（環境）			担当者	鈴木信夫		
英文名	Child Care Studies (Environment)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2						専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR204		卒業認定方針との関連	⑧	
<b>【到達目標】</b>							
<p>幼児は日常生活の中で自然を直接肌で感じ、さまざまな事象に興味や関心をもちながら成長していく。この授業では、領域「環境」の目的と意義を理解し、幼児になじみの深い動植物の飼育栽培の基本や、自然観察の方法を学ぶ。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育内容の領域「環境」の基礎的事項に関して		基礎事項を理解し、自らまとめて説明できる。		基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
保育内容の領域「環境」の研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。		研究知見を資料等を参照しながら説明できる。		知見の理解が不十分で説明できない。	
保育内容の領域「環境」の研究知見の活用に関する事項		知見の活用について意見を示すことができる。		知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。		知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 授業の概要とねらいを理解する。				<b>第9回 秋の自然(2)</b> <b>【到達目標】</b> 近くの公園に行って、ドングリや木の実を実際に観察し、雑木林の特徴を理解する。木の実など、自然の教材を利用する方法を、実際に教材として研究することにより理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで雑木林について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
<b>第2回 領域「環境」</b> <b>【到達目標】</b> 幼稚園教育要領および保育所保育指針における、「環境」の意義と目的を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。				<b>第10回 冬の自然</b> <b>【到達目標】</b> 冬の典型的な気圧配置を理解する。また、冬に日本海側に大雪が降るメカニズムを理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> インターネットで、キーワード「過冷却」と「雪の結晶ができるまで」を検索し、動画を見ようこと。次回の授業のために指導案を準備すること。(4.0hr)			
<b>第3回 小動物の飼育・ウサギ</b> <b>【到達目標】</b> 動物の飼育例としてウサギを取り上げる。ウサギの飼育の基本とウサギの生物学的な特徴を理解する。幼稚園・保育所での小動物の飼育の実践例を通して、動物介在教育の意義を再確認する。				<b>第11回 おもちゃ作り</b> <b>【到達目標】</b> ドングリや木の実、落ち葉など、自然の素材を利用しておもちゃを作成し、準備した指導案をもとにおもちゃを使った模擬授業を行う。課題を通して、実際に自然教材の扱い方を理解するとともに、生活科の内容にある、「身近な自然を利用し、みんなで遊びを楽しむことができる」こととの関連を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでカイウサギについて調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 自然の素材を使っておもちゃを作成すること。指導案を作成し、模擬授業ができるよう準備すること。(4.0hr)			
<b>第4回 水槽で飼う生き物(1)</b> <b>【到達目標】</b> メダカや金魚など、水槽で飼育する生き物の飼育の基本を理解する。				<b>第12回 植物の栽培と観察(1)</b> <b>【到達目標】</b> 花壇作りの基本を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> ペットショップに行って、水槽の種類や観賞魚を実際に観察すること。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 身の回りにある花壇が、どのような種類の花壇で、どんな花が植えてあるか観察すること。(4.0hr)			
<b>第5回 水槽で飼う生き物(2)</b> <b>【到達目標】</b> オタマジャクシやザリガニ等の生き物の基本を理解する。また、幼稚園等で動物を飼育することの意義を理解する。小動物の飼育をテーマに、実際に指導案を作成することで、作成方法を理解する。				<b>第13回 植物の栽培と観察(2)</b> <b>【到達目標】</b> トマトやキュウリなどの野菜栽培の基礎を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> インターネット等でアメリカザリガニの飼育について調べ、授業の理解を深めること。指導案の作成方法を確認すること。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> ホームセンターに行って、野菜の苗を実際に見て、その特徴を理解すること。(4.0hr)			
<b>第6回 春の自然</b> <b>【到達目標】</b> 春の野原に一齐に咲き出す、草花たちの繁殖戦略を理解する。				<b>第14回 園外活動(1)</b> <b>【到達目標】</b> 園外活動の意義を理解するとともに、園外活動の一例として、動物園を取り上げ、飼育されている代表的な動物の特徴を理解する。			
<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで、「スプリングエフェメラル」について調べること。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで東京にある代表的な動物園を調べ、その特徴を理解すること。(4.0hr)			
<b>第7回 夏の自然</b> <b>【到達目標】</b> 夏の行事、七夕祭りに関連して、星座や星の一生について理解を深める。スマートフォンのアプリを利用して、星座や天体の見つけ方を理解する。				<b>第15回 園外活動(2)</b> <b>【到達目標】</b> 潮干狩りに関連して、潮の満ち引きが起きるメカニズムを理解する。また、潮間帯に生息する生き物についての理解を深める。			
<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで夏の星座について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどで潮の満ち引きを調べ、今月の大潮の日を知ること。(4.0hr)			
<b>第8回 秋の自然(1)</b> <b>【到達目標】</b> 紅葉のメカニズムを理解する。また、ドングリを取り巻く生き物達について、理解を深める。							
<b>【授業時間外学習】</b> インターネットなどでドングリや木の実について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。課題として、「おもちゃ」を作成するので、指定された期日までに必ず準備すること。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回のパワーポイントと補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版） 文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 厚生労働省『保育所保育指針』（最新版）							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 課題を20%、テストを80%として評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	保育内容（言葉）			担当者	並木真理子		
英文名	Child Care Studies (Language)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		科目ナンバー	CMR205			専門・必修
授業形態	演習				卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b> 言葉の機能や言語獲得のメカニズム、子どもの言葉の発達の流れを理解し、『幼稚園教育要領』及び『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育保育要領』における子どもの言葉の育ちを支える保育のあり方を学ぶ。また、子どもの言葉に関する様々な課題とそれを踏まえた支援について理解する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
言葉の機能や子ども言葉の発達について		知識を習得し自らまとめて説明できる		知識を習得し、資料等を参照しながら説明できる		知識が不十分で説明できない	
要領・指針における保育内容「言葉」について		十分に理解し自らまとめて説明できる		内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
子どもの言葉に関する様々な課題と支援について		十分に理解し自らまとめて説明できる		内容を理解し、資料等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 ガイダンス／領域「言葉」とは</b> <b>【到達目標】</b> 授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。 幼稚園教育要領・保育所保育要領 領域「言葉」のねらいと内容について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第9回 子どもの言葉の発達（5）</b> <b>【到達目標】</b> 視聴覚教材を視聴しながら幼児期後期（4～5歳）の言葉の発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第2回 言葉の機能と獲得</b> <b>【到達目標】</b> 言葉の機能と子どもの言語獲得のメカニズムについて理解し、子どもの言葉の育ちにおける保育者の支援の重要性を認識する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第10回 幼児期における言葉の援助①</b> <b>【到達目標】</b> 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の領域「言葉」における保育者の援助のあり方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもの言葉の発達（1）</b> <b>【到達目標】</b> 視聴覚教材を視聴しながら乳児期の言葉の発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第11回 幼児期における言葉の援助②</b> <b>【到達目標】</b> 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の領域「言葉」における保育者の援助のあり方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第4回 乳児保育における言葉の援助</b> <b>【到達目標】</b> 『保育所保育指針』の乳児保育における保育者の援助のあり方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第12回 子どもの言葉の発達（6）</b> <b>【到達目標】</b> 幼児期の書き言葉の発達について理解し、小学校国語との連携について理解を深める。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもの言葉の発達（2）</b> <b>【到達目標】</b> 視聴覚教材を視聴しながら低年齢期（1～2歳）の言葉の発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第13回 言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援</b> <b>【到達目標】</b> 発達上の課題を抱える子どもや多様なルーツを持つ子どもに対する言葉の支援を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第6回 子どもの言葉の発達（3）</b> <b>【到達目標】</b> 視聴覚教材を視聴しながら幼児期前期（2～3歳）の言葉の発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第14回 言葉に親しむ保育教材</b> <b>【到達目標】</b> 言葉の面白さを感じられる保育教材の実際を理解し、教材を作成する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第7回 低年齢児保育における言葉の援助</b> <b>【到達目標】</b> 『保育所保育指針』の1歳以上3歳未満児保育の領域「言葉」における保育者の援助のあり方について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				<b>第15回 子どもを取り巻く言語環境と言葉の保育</b> <b>【到達目標】</b> 子どもの言葉を取り巻く現代的な課題について理解し、その課題を踏まえた言葉の保育について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
<b>第8回 子どもの言葉の発達（4）</b> <b>【到達目標】</b> 視聴覚教材を視聴しながら幼児期中期（3～4歳）の言葉の発達について理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は講義と演習を組み合わせで行う。グループワークやディスカッションには積極的に取り組み、多角的に授業内容の理解に努めること。</li> <li>自主的に『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読みこなし、内容の理解を深めること。</li> <li>毎回、授業での学びをまとめる授業シートを記入する。授業シートをもとに次回授業でフィードバックを行う。</li> </ul>							
<b>【オンライン授業の場合】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、オンデマンド授業の課題提出状況によって順番を入れ替える場合がある。</li> <li>配布資料はPDF資料や授業動画としてポータル配信する。ポータル配信の方法は初回授業で説明する。</li> <li>相互に課題内容を共有するため、実践や作品について写真や動画での提出を求めることがある。</li> <li>毎回、出席確認を兼ねた課題フォームを配信する。課題フォームの回答をもとに次回授業でフィードバックを行う。</li> </ul>							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）2018 『保育所保育指針解説』厚生労働省（フレーベル館）2018 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> グループワークや提出物50%、試験課題50%として総合的に評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 毎回の課題50%、試験課題50%として総合的に評価する。							

科目名	保育内容（人間関係）			担当者	角 田 和 也		
英 文 名	Child Care Studies(Social Relation of Nursery School and Kindergarten Teacher)						
単 位 数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2						専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR206	卒業認定方針との関連		⑧	
<b>【到達目標】</b>							
幼稚園教育要領および保育所保育指針に示されている、領域「人間関係」について学ぶ。発達過程に即した子どもの人間関係の変化を様々な視点から概観するとともに、子どもの状況に応じた援助の仕方について検討する。また、保育者同士および保護者や地域とのかかわりについても理解を深める。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
	領域「人間関係」の基本的事項について	基本的事項について自らの意見を示すことができる		基本的事項について理解している		理解が不十分で説明できない	
	子どもとのかかわり方について（各論）	子どもとのかかわり方について自らの意見を示すことができる		子どもとのかかわり方について理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
	保育展開と指導計画について	保育展開及び指導計画を自ら立案できる		保育展開と指導計画について理解し説明ができる		理解が不十分で説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション/領域「人間関係」における保育および教育の目標</b>				<b>第9回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅲ—自己主張・葛藤・育ち合い—</b>			
【到達目標】 (1)人間関係を取り巻く現代社会の状況を理解する。 (2)幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、それぞれの教育・保育の基本および目標を理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【到達目標】 (1)事例を基に、子どもたちの「自己主張」「葛藤」「育ち合い」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第2回 領域「人間関係」におけるねらいと内容</b>				<b>第10回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅳ—共同的遊び—</b>			
【到達目標】 (1)幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、それぞれの教育・保育のねらいおよび内容を理解する。 (2)「評価」の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【到達目標】 (1)事例を基に、子どもたちの「共同的遊び」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第3回 身近な人とのかかわりと発達</b>				<b>第11回 人とのかかわりが難しい子どもへの支援</b>			
【到達目標】 (1)人間関係の発達の指標となる発達課題について具体的に学ぶ。 (2)それぞれの発達課題が、その後の人間関係の成長にどのような影響を与えていくのかを理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【到達目標】 (1)事例を基に、「人とのかかわりが難しい子ども」を支援する方策について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第4回 保育者に求められている人間関係Ⅰ</b>				<b>第12回 領域相互の関連性と保育展開Ⅰ—指導計画の意義・作成実践例（0～2歳児）—</b>			
【到達目標】 (1)乳児期の子どもたちとのかかわりを理解する。 (2)幼児期の子どもたちとのかかわりを理解する。 (3)情報機器を活用した人とのかかわりを支援する方策について理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【到達目標】 (1)未満児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第5回 保育者に求められている人間関係Ⅱ</b>				<b>第13回 領域相互の関連性と保育展開Ⅱ—指導計画の意義・作成実践例（3歳児）—</b>			
【到達目標】 (1)保育者同士のかかわりについて理解する。 (2)保育者と保護者のかかわりについて理解する。 (3)情報機器を活用した関係づくりの方策について理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【到達目標】 (1)3歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第6回 仲間とのかかわりと発達</b>				<b>第14回 領域相互の関連性と保育展開Ⅲ—指導計画の意義・作成実践例（4歳児）—</b>			
【到達目標】 (1)自己調整力に育ちについて理解する。 (2)道徳性と規範意識の芽生えについて理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【到達目標】 (1)4歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第7回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅰ—イメージの共有—</b>				<b>第15回 領域相互の関連性と保育展開Ⅳ—指導計画の意義・作成実践例（5歳児）—</b>			
【到達目標】 (1)事例を基に、子どもたちの「イメージの共有」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)				【到達目標】 (1)5歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
<b>第8回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅱ—試行錯誤の過程—</b>							
【到達目標】 (1)事例を基に、子どもたちの「試行錯誤の過程」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】 ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題の作成を、授業時間外学習で課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定URLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 【オンライン授業の場合】 ①オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しません。 ②各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ③出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。 ④授業に理解を深めるための課題作成を、授業時間外に課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定のURLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布する（オンライン形式の場合はオンライン上で配信する）プリント教材を使用します。 参考書：①田代和美他編著『演習保育内容人間関係』建帛社、②無藤隆監修『事例で学ぶ保育内容2（領域）人間関係』萌文書林、 ③寺見陽子編著『子どもの心の育ちと人間関係』保育出版社、④田村美由紀・室井佑美著『（領域）人間関係ワークブック』萌文書林、 ⑤文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、⑥文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）、⑦厚生労働省『保育所保育指針』（最新版）							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 【オンライン授業の場合】 ・毎授業時の提出物の評価……75% 期末課題の結果……25% ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。							

科目名	保育内容（表現A）			担当者	諸富満希子		
英文名	Child Care Studies (Expression A)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2					専門・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR207	卒業認定方針との関連	⑥		
【到達目標】 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し子どもたちの発達を踏まえた上で、表現領域の一分野である音楽の楽しさを子どもたちに伝え、また子どもたちからさまざまな表現を引き出すことのできる指導法を身につける。1年次の「歌唱法」で取り扱ってきた教材を、実際に子どもたちと歌ったり、楽器で演奏したり、音楽に合わせて動いたりしながら、子どもの「表現」を実際に感じ取る。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育者としての応用力		子どもとともに表現を楽しむ工夫ができる		子どもの表現に寄り添うことができる		子どもの表現を受けとめる気持ちがない	
感性を育む働きかけ		保育者として豊かな感性を持っている		保育者として感性を育む努力をしている		保育者として感性を育む努力が乏しい	
音楽環境の整備		子どもに与える音楽環境を整えることができる		子どもに与える音楽環境を、ある程度整えることができる		子どもに与える音楽環境を整えることができない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 領域「表現」のねらい及び内容の理解 【到達目標】 幼児教育の基本及び領域「表現」のねらい・内容について理解する。表現活動について、3・4・5歳を中心に、育みたい資質・能力について具体的に考える。  【授業時間外学習】 「発育発達論」や「保育・教育心理学」など、1年次に学習してきたことを復習する。(4.0hr)				第9回 年中児の指導（歌と動きを中心に） 【到達目標】 映像や音声の効果的な使用方法を実践的に学ぶとともに、「静」の環境を整える。  【授業時間外学習】 自らが「静」の環境を味わい、身の回りにある音に対しての感覚を磨く。(4.0hr)			
第2回 指導の進め方・教材研究（対象：年長児） 【到達目標】 年長児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。  【授業時間外学習】 いろいろな指導案の書き方を比較検討する。(4.0hr)				第10回 グループ③による体験授業 【到達目標】 年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  【授業時間外学習】 グループ③を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
第3回 年長児の指導（歌と動きを中心に） 【到達目標】 年長児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。  【授業時間外学習】 年長児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)				第11回 グループ④による体験授業 【到達目標】 年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  【授業時間外学習】 グループ④を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
第4回 年長児の指導（歌と動きを中心に） 【到達目標】 ダルクローズなど海外の音楽メソッドの特色を理解し、実践の場で活用してみる。  【授業時間外学習】 国内外における音楽メソッドについて、どのようなものがあるか調べる。(4.0hr)				第12回 指導の進め方・教材研究（対象：年少児） 【到達目標】 年少児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。  【授業時間外学習】 年少児にふさわしいと思われる曲を選択し、教材研究をおこなう。(4.0hr)			
第5回 グループ①による体験授業 【到達目標】 年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  【授業時間外学習】 グループ①を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)				第13回 年少児の指導（あそび歌を中心に） 【到達目標】 年少児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。  【授業時間外学習】 年少児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)			
第6回 グループ②による体験授業 【到達目標】 年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  【授業時間外学習】 グループ②を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)				第14回 グループ⑤による体験授業 【到達目標】 年少児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。その振り返りを通して保育の改善について考える。  【授業時間外学習】 グループ⑤を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
第7回 指導の進め方・教材研究（対象：年中児） 【到達目標】 年中児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。  【授業時間外学習】 年中児にふさわしいと思われる曲を選択し、教材研究をおこなう。(4.0hr)				第15回 お楽しみ会を開こう 【到達目標】 卒園を間近に控えた年長児たちと共に、子どもたちが喜ぶ表現活動を考える。小学校の教科とのつながりを意識し、音楽だけでなく、造形・動きも取り入れた活動をする。  【授業時間外学習】 「内容が年齢に合っているか」「ことば掛けは適切か」などの観点を持ち、活動を工夫する。(4.0hr)			
第8回 年中児の指導（歌と動きを中心に） 【到達目標】 年中児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。  【授業時間外学習】 年中児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 教材や指導方法など万全の準備を怠らない努力が必要であるが、それとともに実際の子どもの様子を観察し臨機応変に対応していく柔軟性が求められる。そのため、日頃から、ボランティアなどで子どもと接する機会があることが好ましい。園側の都合により、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下においては、幼稚園での授業が難しい場合も想定される。その場合は、学生が指導する側と指導される側になり、体験授業を実施する。							
【教科書・参考書など】 『子どものうた140選』ドレミ楽譜出版社、および1年次「歌唱法」の授業時に配ったプリント。 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） その他、適宜楽譜を配布する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 「指導の記録」およびレポート50%、グループ発表ならびに毎授業時における子どもとのコミュニケーション能力50%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下において、幼稚園での授業実施が困難な場合は、学生を対象として行った授業発表時における指導内容30%、指導方法30%、音楽的レベル20%、コミュニケーション能力20%で評価する。							

科目名	保育内容（表現B）			担当者	本 永 直 子		
英文名	Child Care Studies (Expression B)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR208		卒業認定方針との関連	⑥	
<b>【到達目標】</b>							
<p>幼児期における表現活動の意義と特質、子どもの姿や発達を促す要因について造形遊びを中心に学び、幼児の感性や創造性を豊かにする基本的教材について、素材、技法、ねらいや環境構成、指導上の留意点、評価方法等に関する専門的事項について実践的に理解する。また他の表現活動も視野に入れ、幼児の総合的な表現の可能性を考察する。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
幼児期における造形表現活動の意義と特性について		理解に基づき、説明することが出来る。		資料等を参照しながら説明すること出来る。		理解が不十分で説明することが出来ない。	
保育の造形表現活動における専門事項の理解について		理解に基づき、説明することが出来る。		資料等を参照しながら説明すること出来る。		理解が不十分で説明することが出来ない。	
保育の造形表現活動における専門事項の実践について		理解に基づき、適切に実践することが出来る。		資料等を参照しながら適切に実践ことが出来る。		理解が不十分で適切に実践することが出来ない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 領域「表現」について（造形を中心に）</b> <b>【到達目標】</b> 子どもの表現活動を広く理解し、領域「表現」の位置づけについて説明できる。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの発達や行動を観察すると共に、子どもの世界における造形表現に触れる。(4.0hr)				<b>第9回 子どもになりきる造形活動（制作）</b> <b>【到達目標】</b> 決定した行事に向けて、素材・材料を活かし、道具を活用する方法を試行錯誤しながら制作を進め、皆で力を合わせながら作り上げる作り上げる造形活動の展開を実践的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 制作進捗の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第2回 幼児と造形遊び（心とからだ 繋がる造形）</b> <b>【到達目標】</b> 幼児期の造形表現の特質と乳幼児期(0.1歳)の発達段階を理解し、作品の見方や環境設定等の知識を身につける。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの発達や行動を観察すると共に、子どもの世界における造形表現に触れる。(4.0hr)				<b>第10回 子どもになりきる造形活動（発表）</b> <b>【到達目標】</b> 自らが企画した活動を実際に体験することで、総合的な造形遊びの意義について学ぶ。また、共同で作る作り上げる造形活動の実践について振り返り、造形活動・造形遊びによって育まれる思いや気づきについて理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第3回 幼児と造形遊び（心とからだ 育む造形）</b> <b>【到達目標】</b> 幼児期の造形表現について、幼児期（2.3歳）の発達段階に合わせた楽しさを生み出す指導上のポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの発達や行動を観察すると共に、子どもの世界における造形表現に触れる。(4.0hr)				<b>第11回 子どもと関わる造形表現（制作計画・参考資料探し）</b> <b>【到達目標】</b> 絵本・紙芝居・指人形・おもちゃなど、子どもと関わる保育用品や教材について理解する。また、自らが子どもたちと関わる際に用いる保育用品や教材について検討する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育園・幼稚園で用いられる保育用品や教材について調べる。また、各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第4回 幼児と造形遊び（思考・心・からだ 育む造形）</b> <b>【到達目標】</b> 幼児期の造形表現について、幼児期（4.5歳）の発達段階に合わせた楽しさを生み出す指導上のポイントを理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 子どもの発達や行動を観察すると共に、子どもの世界における造形表現に触れる。(4.0hr)				<b>第12回 子どもと関わる造形表現（対象と内容決め・制作）</b> <b>【到達目標】</b> 制作計画を立て、適した素材・材料、用いる道具とは何かについて考え、手法について検討し、制作の準備を進める。また、対象となる子どもたちの様子や思いを想像しながら制作することで、造形作品を介した子どもたちとの関わりを実践的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第5回 幼児と自然と造形遊び</b> <b>【到達目標】</b> 自然の中にある造形素材との出会いと発見について学び、子どもの興味を増やすような造形遊びの展開を実践的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 児童文化や美術、工芸作品等、広く造形表現に触れる。(4.0hr)				<b>第13回 子どもと関わる造形表現（対象と内容決め・制作）</b> <b>【到達目標】</b> 準備した素材・材料、道具、手法について検討しながら、制作を進める。また、対象となる子どもたちの様子や思いを想像しながら制作することで、造形作品を介した子どもたちとの関わりを実践的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第6回 幼児と生活と造形遊び</b> <b>【到達目標】</b> 日常の中にある造形素材との出会いと発見について学び、子どもの興味を増やすような造形遊びの展開を実践的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 児童文化や美術、工芸作品等、広く造形表現に触れる。(4.0hr)				<b>第14回 子どもと関わる造形表現（対象と内容決め・制作）</b> <b>【到達目標】</b> 準備した素材・材料、道具、手法について検討しながら、制作を進める。また、対象となる子どもたちの様子や思いを想像しながら制作することで、造形作品を介した子どもたちとの関わりを実践的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
<b>第7回 子どもになりきる造形活動（企画・計画・グループ分け）</b> <b>【到達目標】</b> ごっこ遊び、なりきり遊び・ゲーム大会・迷路作りなど、子どもたちの思いや想像・願望等を実現する造形遊びについて学び、共同で作る作り上げる造形活動の展開を実践的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 保育園・幼稚園の活動や行事について調べる。また、各作業の遅れを補う。(4.0hr)				<b>第15回 子どもと関わる造形表現（発表・まとめ）</b> <b>【到達目標】</b> 造形作品の発表を通して保育・教育現場における子どもたちとの関わり方を理解すると共に、制作過程や発表を振り返ることで造形表現・造形活動の意義を理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 全員の発表が終了しない場合は補講を行う。また、授業で学んだ造形表現・造形活動についての学びや気づきについて、各自レポートを提出する。(4.0hr)			
<b>第8回 子どもになりきる造形活動（準備・制作）</b> <b>【到達目標】</b> 決定した行事に向けて制作計画を立て、適した素材・材料、用いる道具とは何かについて考え、それらを調達し、制作の準備を進める。また、制作を進めることで共同で作る作り上げる造形活動の展開を実践的に理解する。  <b>【授業時間外学習】</b> 制作進捗の遅れを補う。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 実習が中心になるので自律的に活動すること。造形作業のしやすく汚れても良い服装を心掛け、基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。  <b>【オンライン授業の場合】</b> 対面による授業を原則とするが、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じてオンライン形式の授業を導入する。その際、各授業回の指定に応じて出来る限り実技課題に取り組むこと。また、場合によってはレポート課題を指定することがある。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針』（最新版） 文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 制作過程を50%、ノートやワークシート等の提出物を30%、課題作品や発表を20%で総合的に評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 写真データやレポート等の提出により制作過程を判断する。							

科目名	音楽表現		担当者	諸富満希子・森 立子 辛島安妃子		
英文名	Music for Children					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR209		卒業認定方針との関連	⑥
<b>【到達目標】</b>						
子どもの「表現」の育ちを支えていくためには、まず子どもが潜在的に持っている資質を理解することが必要である。この授業では「表現」のなかでも「音楽」に焦点を当て、子どもが自らを豊かに表現できる環境づくりに寄与できる保育者となれるよう、「ソルフェージュ（楽典）」「歌唱法」「器楽Ⅰ」など1年次に習得した音楽の知識をより実践的かつ統合的に学ぶ。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
保育者として必要とされる技量		子どもとともに音楽を楽しむことができる	子どもを意識して演奏ができる	子どもを意識して演奏することができない		
音楽的な表現		うたと伴奏のバランスを考え音楽的に表現できる	一つの曲を止まらずに演奏できる	止まらずに演奏することができない		
楽譜の理解		読譜が完全にでき、移調など応用ができる	読譜はできているが、応用ができない	読譜能力が不十分である		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 音楽による「表現」の教育</b>			<b>第9回 季節のうたの弾き歌い②</b>			
【到達目標】 領域「表現」のねらい及び内容について理解を深める。 環境と音について考える。			【到達目標】 秋・冬のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。			
【授業時間外学習】 身近にいる子どもの様子を観察する。(4.0hr)			【授業時間外学習】「歌唱法」で習った秋・冬のうたを復習する。(「どんぐりころころ」「お正月」など)(4.0hr)			
<b>第2回 八長調のうたの弾き歌い</b>			<b>第10回 歌唱と伴奏のバランスの理解①</b>			
【到達目標】 平易な曲で、歌いながら弾くことに慣れる。 「子どもの豊かな感性を引き出すような伴奏とはどのようなものか」を考えながら弾く。			【到達目標】 うたに合った伴奏の音量や表現を理解する。 また、音響機器や映像機器の活用および注意点について理解する。			
【授業時間外学習】 1年生で使用した「バーナム・ピアノテクニック」を使い、指を動かす練習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 うたとピアノを別々に十分練習する。(4.0hr)			
<b>第3回 和音で伴奏する4拍子曲</b>			<b>第11回 歌唱と伴奏のバランスの理解②</b>			
【到達目標】 簡単な和音進行を理解し、マーチを弾く。			【到達目標】 うたに合った伴奏の音量、またペダルの使用について理解する。			
【授業時間外学習】 「バイエル」の中から任意に選んだ曲を復習する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 適宜ペダルを踏みながらピアノを弾く練習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 関生活のうたの弾き歌い①</b>			<b>第12回 へ長調・二長調の曲の弾き歌い</b>			
【到達目標】 「おはようのうた」「おべんとう」を正確に弾く。			【到達目標】 調号の#やbに注意しながら弾く。			
【授業時間外学習】 「おはようのうた」「おべんとう」のうたを覚える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 「ソルフェージュ（楽典）」で習った調性について復習する。(4.0hr)			
<b>第5回 関生活のうたの弾き歌い②</b>			<b>第13回 良く歌われている子どものうたの弾き歌い①</b>			
【到達目標】 「おかえりのうた」を正確に弾く。			【到達目標】 子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。 「さんぼ」などの曲を通して、小学校「音楽科」とのつながりを理解する。			
【授業時間外学習】 「おかえりのうた」を覚える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 「きのこ」「さんぼ」など、子どもの好きなうたを1曲選び、うたを覚える。(4.0hr)			
<b>第6回 動きと表現について</b>			<b>第14回 良く歌われている子どものうたの弾き歌い②</b>			
【到達目標】 音楽と動きのかかわりについて、舞踊学的観点から学ぶ。			【到達目標】 子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。 「さんぼ」などの曲を通して、小学校「音楽科」とのつながりを理解する。			
【授業時間外学習】 子どもの動きを観察する。(4.0hr)			【授業時間外学習】 「きのこ」「さんぼ」など、子どもの好きなうたを1曲選び、うたを覚える。(4.0hr)			
<b>第7回 マーチ・ランニング・スキップのリズム</b>			<b>第15回 発表会</b>			
【到達目標】 リズムを変えたり、調を移調したりして弾く。			【到達目標】 子どもたちがいることを想定し、うたと伴奏のバランスを考えながら人前で演奏する。 また自身の演奏が子どもの感性を呼び覚ますものとなるよう、表現を工夫する。			
【授業時間外学習】 「歩く」「走る」「スキップする」というそれぞれのリズムを身体で覚える。(4.0hr)			【授業時間外学習】 うたとピアノを別々に十分練習する。(4.0hr)			
<b>第8回 季節のうたの弾き歌い①</b>						
【到達目標】 春・夏のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。						
【授業時間外学習】「歌唱法」で習った春・夏のうたを復習する。(「先生とおもだち」「うみ」など)(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b>						
【対面授業の場合】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課す。ピアノだけに力を注ぐのではなく、うたの部分きれいに歌うことが肝心である。個人レベルに差があるため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンドで曲の模範演奏と学習上のポイントを配信するが、どのような状況下においても必ず数回は対面授業を行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社） 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） その他適宜楽譜を配布する。						
<b>【成績評価方法】</b>						
【対面授業の場合】 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下においても同様の基準で判断する。ただし、試験を行う時期については検討する。						

科目名	特別支援教育・障害児保育			担当者	雨宮由紀枝		
英文名	Special Needs Education・Childcare for Children with Disabilities						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR210	卒業認定方針との関連	⑧		
<b>【到達目標】</b> 障害のある子ども、その他の特別な配慮を要する子どもを理解し、個別のニーズに対応するために必要な基礎的知識と支援方法を習得することを目的とする。 障害児保育・特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について学び、個々の特性や心身の発達に応じた支援の方法や配慮について具体的に理解する。さらに、家庭への支援、関係機関との連携・協働、障害児保育（特別支援教育を含む）の現状と課題を理解する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
特別の支援を必要とする子どもの特性や心身の発達に関する基礎的事項の習得について		基礎的事項を十分理解し、説明できる		基礎的事項を、資料を参照しながら説明できる		基礎的事項の理解が不十分で、説明できない	
個別のニーズに対応するための支援方法・技術に関する習得について		支援方法・技術を十分理解し、説明と実践的思考ができる		支援方法・技術を理解し、説明できる		支援方法・技術の理解が不十分で、説明できない	
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について		特別支援保育の理論・方法を十分理解し、専門職として説明と実践的思考ができる		特別支援保育の理論・方法を理解し、専門職として説明できる		特別支援保育の理論・方法の理解不足で、専門職として説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 障害児保育・特別支援教育を支える理念</b> 【到達目標】 (1) 障害の概念、障害児保育・特別支援教育の歴史の変遷について理解する。 (2) 自立、地域社会への参加、インクルージョンなどの理念について理解する。 (3) 合理的配慮の考え方について理解する。 【授業時間外学習】 授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				<b>第9回 障害児保育の実際(1) 記録・評価、個別の指導計画・支援計画</b> 【到達目標】 (1) 行動観察、成育歴、検査等による発達の記録と評価について理解する。 (2) 保育所保育指針および特別支援教育課程の趣旨に基づき、個別の指導計画・支援計画の作成について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第2回 障害のある子どもの理解と支援(1) 視覚・聴覚・言語障害</b> 【到達目標】 (1) 「国際生活機能分類」による障害の捉え方を説明できる。 (2) 視覚・聴覚・言語障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				<b>第10回 障害児保育の実際(2) 環境づくり、子ども同士の育ち合い</b> 【到達目標】 (1) 個々の発達を促す生活や遊びの環境・体制の整備方法を具体的に理解する。 (2) 子ども同士の関わりと育ち合いについて理解する。 (3) 障害児保育における子どもの健康と安全について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第3回 障害のある子どもの理解と支援(2) 肢体不自由、重症心身障害、病弱、医療的ケア児</b> 【到達目標】 (1) 肢体不自由・重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2) 病弱、医療的ケア児について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				<b>第11回 障害児保育の実際(3) 職員間の連携・協働</b> 【到達目標】 (1) クラス内の人的配置、保育所・幼稚園内の連携体制を理解する。 (2) 情報の共有と守秘義務について理解する。 (3) 特別な保育ニーズをもつ子どもへの保育者の専門性を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第4回 障害のある子どもの理解と支援(3) 知的障害</b> 【到達目標】 (1) 知的障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				<b>第12回 家庭への理解と支援</b> 【到達目標】 (1) 障害のある子どもを育てる家庭への子育て支援について理解する。 (2) ライフステージに応じた親やきょうだいへの支援について理解する。 (3) 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第5回 障害のある子どもの理解と支援(4) LD、ADHD</b> 【到達目標】 (1) LD・学習障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2) ADHD・注意欠陥多動性障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				<b>第13回 関係機関との連携</b> 【到達目標】 (1) 保育機関と児童発達支援センター・医療機関等との連携について理解する。 (2) 保育機関と地域の小学校、教育委員会との連携について理解する。 (3) 特別支援教育コーディネーターの役割について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 障害のある子どもの理解と支援(5) 自閉スペクトラム症</b> 【到達目標】 (1) ASD・自閉スペクトラム症について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)				<b>第14回 特別のニーズのある子どもの現状と課題(1) 保健・医療</b> 【到達目標】 (1) 保健をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 (2) 医療をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第7回 障害のある子どもの運動発達支援</b> 【到達目標】 (1) DCI・発達性協調運動障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2) 障害のある子どもの発達を支援する運動あそびの理論と実際を理解する。 (3) 支援課題に結び付けた環境設定(遊具等)の方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)				<b>第15回 特別のニーズのある子どもの現状と課題(2) 福祉・教育</b> 【到達目標】 (1) 福祉をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 (2) 教育をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 (3) 地域における支援の場の広がりやつながりを理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
<b>第8回 障害はないが特別の支援ニーズのある幼児の把握や支援</b> 【到達目標】 (1) 母国語の違い、LGBT、貧困、虐待、DV、社会的養護等、特別な支援を必要とする子どもの学習上または生活上の困難について理解する。 (2) 多様な特別支援ニーズをもつ子どもへの、組織的な対応の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 障害のある子どもを保育するときも、一人ひとりの育ちを支援していくという保育の本質は変わらない。実際に児童発達支援や特別支援学校の児童とかかわる機会をもちながら学習することで、理論と実際を結び付け、適切な支援を行うための基礎的知識と実践的な技術を身につけていくことが重要である。家族や関係機関、地域社会の人々との連携の進め方など、子どもの育ちの支援について幅広い視点を学習し、自らが主体的に保育にかかわることを想定しながら取り組んでほしい。 パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 各回の授業時での小レポート課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。期末に試験を行う。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 各回の小レポート課題により評価を行う。							

科目名	幼児リトミック			担当者	森田陽子		
英文名	Eurhythmics for Children						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2						専門・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR211	卒業認定方針との関連	⑥		
<b>【到達目標】</b>							
リトミックは、リズムという素材を生かし、音楽に反応して動くことにより、感じる心、想像力や創造力を養うものである。また、心で感じたものを、からだを使って自分なりに表現することで心とからだの協調・調和を作り出そうとするものである。授業では、天野式リトミックを基本に現在の保育の現場にあったリトミックを模索することで、保育者自身に必要な基礎的能力を養う。また、保育現場でのリトミックの取り入れ方を実践的に学び、応用する力をつける。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
幼児リトミックの基礎的事項・理論		基礎的事項・理論について説明できる。		基礎的事項・理論について授業資料を参照しながら説明できる。		基礎的事項・理論についての理解が不十分で説明できない。	
幼児リトミックの基礎的事項・実技		基礎実技を体得し、模範的な実践できる。		基礎実技を体得し、実践ができる。		基礎実技の体得が不十分で実践ができない。	
幼児リトミックの基礎的事項等の理解とその応用（指導）		基礎的事項（理論・実技）に基づき年齢に応じた指導ができる。		基礎的事項（理論・実技）に基づき指導ができる。		基礎的事項（理論・実技）に基づいた指導ができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 オリエンテーション</b>				<b>第9回 音楽反応②</b>			
【到達目標】 オリエンテーション：リトミックについて リトミックの特性について認識する。				【到達目標】 手足のコントロール、その他の音楽反応を理解する。			
【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 基礎リズム①</b>				<b>第10回 体育遊び①</b>			
【到達目標】 リズムとは何かを理解する。				【到達目標】 幼児テクニクを理解する。			
【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 基礎リズム②</b>				<b>第11回 体育遊び②</b>			
【到達目標】 身体や教具を用いて、基礎リズムを表現することができる。				【到達目標】 幼児体操を理解する。			
【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 リズムパターン①</b>				<b>第12回 年齢別カリキュラム①</b>			
【到達目標】 記憶したリズムパターンを身体表現することができる。				【到達目標】 1歳児と2歳児のカリキュラムについて理解する。			
【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 リズムパターン②</b>				<b>第13回 年齢別カリキュラム②</b>			
【到達目標】 リズムパターンを作成し、教具で表現できる。				【到達目標】 3歳児のカリキュラムについて理解する。			
【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 拍子①</b>				<b>第14回 年齢別カリキュラム③</b>			
【到達目標】 拍子の種類、各拍の役割について理解する。				【到達目標】 4歳児のカリキュラムについて理解する。			
【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 拍子②</b>				<b>第15回 年齢別カリキュラム④</b>			
【到達目標】 各拍子に合わせた動作を表現することができる。				【到達目標】 5歳児のカリキュラムについて理解する。			
【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)				【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 音楽反応①</b>							
【到達目標】 和音遊び、拍子練習、音符の表現を理解する。							
【授業時間外学習】各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 本授業は演習実技なので、動きやすい服装、素足で行う。授業で経験した活動、幼児のための指導については必ずノートを取り、気付いたことなど書きとめておくようにすること。授業後半には、年齢に応じた模擬授業の実践を行なう。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 4回のみオンデマンド方式での展開とする。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。残りの11回については、実技を行うこととする（対面授業参照）ため、状況によって連絡をする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 天野式「幼児リトミック」第1集 永倉栄子編（チャイルド本社） 天野式「幼児リトミック」第2集 永倉栄子編（チャイルド本社）							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業】</b> 授業の習熟度、授業での課題及び提出物の評価50%、実技試験・年齢に応じた模擬授業50%。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 4回の配信レポート（20%）、授業の習熟度、授業での課題及び提出物の評価30%、単元ごとの実技試験50%。							

科目名	教育社会学			担当者	青木 純一		
英文名	Sociology of Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR301		卒業認定方針との関連	⑧	
<b>【到達目標】</b>							
学校や児童生徒に関する社会的かつ具体的問題について考える。その上で様々な教育問題は学校だけで解決できるものではなく、ひろく家庭、地域、社会との連携が必要であることを理解することが本科目の目的である。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
教育社会学の基礎的事項・理論について		基礎的事項を理解し自ら説明できる。		基礎的事項を教科書等を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
教育社会学の研究知見に関する事項について		研究知見の要点を自らまとめて説明できる。		研究知見を資料等を参照しながら説明できる。		知見の理解が不十分で説明できない。	
教育社会学の研究知見の活用に関する事項について		知見の活用の際に意見を述べるができる。		知見の活用の際に、資料などを参考にしながら説明できる。		知見の活用に関する理解が不十分で、意見を述べられない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 日本の学校と教育の在り方について考える</b>				<b>第9回 いじめ問題の歴史とその特徴を考える</b>			
【到達目標】 日本の学校を支える理念とはなにかを理解する。とくに、教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて理解する。併せて近年の学校をめぐる様々な変化について理解する。				【到達目標】 いじめが学校問題として登場した背景とその特徴について理解する。とくに近年の子どもの変化を踏まえ、指導上の課題を探る。また諸外国の教育事情や教育改革の動向と関連させて理解する。			
【授業時間外学習】 日本の学校と教育の特徴について学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 いじめの歴史について、とくにいじめが学校問題となった経緯や背景を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第2回 教師の指導力を考える</b>				<b>第10回 いじめ対策の在り方考える</b>			
【到達目標】 学校における役割を例に教師の指導力とはなにかを理解する。併せて教師をめぐる教育関連法規法を理解するとともに、指導力を高める際に必要な学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。				【到達目標】 いじめ対策の一例として長野県の取り組みを中心にその具体策を探る。いじめ対策は地域との連携を基とする開かれた学校づくりが大切であることを理解する。また、公教育制度を構成する教育関連法規と関連させていじめ対策に取組む必要性や学級経営上の留意点等を理解する。			
【授業時間外学習】 教員や幼稚園教諭、保育士の役割から指導力について学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 いじめ対策は学校だけでなく、家庭、地域が一体になる必要性を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第3回 小学校における最近の児童の実態を考える</b>				<b>第11回 子どもの病気や怪我を考える</b>			
【到達目標】 小学校高学年における学級崩壊の様子を映像などを通して知り、具体的な事例などを参考にしながら、その問題点を理解する。とくに子どもの生活の変化を踏まえ指導上の課題を理解する。こうした取組を通して学級経営の仕組みやPDCAサイクルなど効果的な指導方法も併せて理解する。				【到達目標】 不幸にして病気や事故で大きなハンディを負う子どもがいる。そこで、学校の管理下で起こる事件、事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。			
【授業時間外学習】 小学校高学年の実態を学級崩壊の実態から学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 いじめによる自殺者や病気・事故による子どもの死から大人の果たすべき役割を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第4回 中学校における最近の生徒の実態を考える</b>				<b>第12回 世界の中の日本の子どもを考える</b>			
【到達目標】 中学校における荒れの実態を知るとともに、どのような生徒指導が必要か、その在り方を探る。とくに、最近の子どもの変化、社会の変化と関連させ、教職員が協同して取組む必要性を理解する。こうした取組を通して学級経営の仕組みやPDCAサイクルの重要性を理解する。				【到達目標】 各種の統計・実態調査を使って、諸外国の教育事情と教育政策の動向と比較して理解する。とくに、教育制度を支える教育理念の違いや教育制度をめぐる諸課題を日本と比較して理解する。			
【授業時間外学習】 中学校における生徒の実態を荒れる実際から学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 日本の子どもの実態について世界と比較しながら学ぶ。(4.0hr)			
<b>第5回 幼小の連携の在り方考える</b>				<b>第13回 子どもの貧困とその対策を考える</b>			
【到達目標】 幼児教育と小学校とのスムーズな連携を図るために、どのような取組が必要かを理解する。とくに近年の教育政策の動向を理解し、小1プロブレムのような問題を起こさないためにスタートカリキュラム等の実践例を挙げて、その特徴を理解する。				【到達目標】 日本の子どもの貧困について理解する。とくに、子ども食堂など、ボランティアによる支援など、子どもの貧困問題の解決には地域との連携・協力が欠かせないことを理解する。こうした子どもへ配慮する、効果的な学級経営の方法や指導法を理解する。			
【授業時間外学習】 保育所、幼稚園と小学校の連携のあり方について学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 貧困に関する日本や世界の実態を統計から学ぶ。(4.0hr)			
<b>第6回 不登校の歴史とその特徴を考える</b>				<b>第14回 子どもの健康・安全について考える</b>			
【到達目標】 登校拒否から不登校に至る歴史とその特徴について理解する。その際には社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響と不登校を生み出す学校制度をめぐる諸課題についても理解する。併せて、子どもの生活の変化を踏まえ指導上の課題を理解する。				【到達目標】 子どもの健康や安全の視点から、学校は地域とどのように連携・協力すべきか、その具体的な対策について考える。とくに学校事故を未然に防ぐための安全管理、安全教育の両面から具体的な取組を理解する。			
【授業時間外学習】 不登校の歴史的経過や最近の実態について学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 日本における子どもの健康の実態とその対策の歴史を学ぶ。(4.0hr)			
<b>第7回 インクルーシブなカリキュラムを考える</b>				<b>第15回 これからの学校・教育の在り方考える</b>			
【到達目標】 不登校や障害者問題を契機に学校におけるインクルーシブ教育の在り方を理解する。とくに、地域との連携をもとに開かれた学校づくりの観点から障がい者と健常者が一体となった学びの在り方を理解するとともに、最近の特別支援教育の動向も理解する。				【到達目標】 第1回～第14回の講義を踏まえ、これからの学校や教育の在り方を探る。とくに公教育の原理及び理念を理解する。また、学校を巡る近年の様々な状況の変化も併せて理解する。			
【授業時間外学習】 多文化共生社会にあつて、どのようなカリキュラムが必要になるかを学ぶ。(4.0hr)				【授業時間外学習】 これからの学校に必要なものとはなにか、教師に必要な資質とはなにかを学ぶ。(4.0hr)			
<b>第8回 学校外の教育活動について考える。</b>							
【到達目標】 フリースクールや学習塾など、学校外で教育を保障する活動を理解する。具体的にはフリースクールや予備校、塾などの果たす役割を公教育の原理及び理念と絡めて理解する。また、諸外国の教育事情と、関連させながら理解する。							
【授業時間外学習】 学校教育以外の教育活動の実態とその特徴を学ぶ。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 最近の教育問題について新聞、雑誌などに目を通しておくことが大切である。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンラインで授業をする場合、以下の点に留意すること。 (1) 授業に関する資料はGoogle Driveにアップし、資料にアクセスするためのアドレス等は随時メールにて配信する。 (2) 資料の配信期間やレポート等の提出期限等もその都度メールでお知らせするので、見逃さないように十分に注意すること。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 参考書：「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省、その他の参考書は随時紹介する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 授業出席2/3を満たした学生に対し試験（100%）を実施する。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 小レポート（50%）と課題レポート（50%）から総合的に評価する。							

科目名	教育方法学			担当者	田中君枝		
英文名	Methodology of Education						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	CMR302		卒業認定方針との関連	⑧	
【到達目標】							
これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な教育について広く捉え、教育者としての素養と実践へとつながる基礎として、適切な教育方法及び技術、教材や情報機器等の活用の仕方に関する知識・技能を身につける。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
教育方法学の基礎的事項・理論について		基礎的事項・理論を理解し自らまとめて説明できる。		基礎的事項を資料を参照しながら説明できる。		理解が不十分で説明できない。	
教材や情報機器等の活用について		優れた技術、発想、表現を行い、知見の活用について意見を示すことができる。		知見の技術を発揮し、発想、表現を工夫しようとしている。		知見の活用に関する理解が不十分で説明できない。	
教育方法及び技術について（学習指導案作成）		指導案の要点を丁寧に分かりやすくまとめ、説明することができる。		指導案の要点をまとめ、説明することができる。		指導案の内容が不十分で説明ができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 教育方法の基礎理論</b> 【到達目標】 教育方法の基礎的な理論を理解する。  【授業時間外学習】 「教育原論」等で学習した内容を復習する。(4.0hr)				<b>第9回 環境を通して行う教育 子どもの育ちと人的環境</b> 【到達目標】 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。  【授業時間外学習】 幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)			
<b>第2回 日本の幼児教育方法の歴史</b> 【到達目標】 教育方法の実践の基本を理解する。  【授業時間外学習】 「保育原理」等で学習した内容を復習する。(4.0hr)				<b>第10回 幼児教育・保育における情報機器（ICT）の活用</b> 【到達目標】 子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容を振り返ったりするために、幼児の体験と関連を考慮しながら、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。  【授業時間外学習】 情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)			
<b>第3回 学習指導について（幼稚園）</b> 【到達目標】 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材等、授業・保育を構成する基礎的な要件を理解する。  【授業時間外学習】 先輩が作成したものや公開されている学習指導案について調べる。(4.0hr)				<b>第11回 情報機器等の活用1</b> 【到達目標】 子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。情報機器等を活用した授業（活動）について、数グループに分かれて情報機器を作成し、その結果を発表することで、教材作成や活用の基礎的な能力を身に付ける。  【授業時間外学習】 情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)			
<b>第4回 教材研究・学習指導案作成1</b> 【到達目標】 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容を教材・教具、授業・保育展開、学習形態評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。  【授業時間外学習】 教材研究と学習指導案作成の不足を補う。(4.0hr)				<b>第12回 情報機器等の活用2</b> 【到達目標】 子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。情報機器等を活用した授業（活動）について、数グループに分かれて保育教材を作成し、その結果を発表することで、教材作成や活用の基礎的な能力を身に付ける。  【授業時間外学習】 情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)			
<b>第5回 教材研究・学習指導案作成2</b> 【到達目標】 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容を教材・教具、授業・保育展開、学習形態評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。  【授業時間外学習】 教材研究と学習指導案作成の不足を補う。(4.0hr)				<b>第13回 幼児教育・保育における遊び</b> 【到達目標】 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。  【授業時間外学習】 幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)			
<b>第6回 模擬授業1</b> 【到達目標】 数グループに分かれ、学生を幼児に見立てて、各自指導案に基づいた模擬授業（活動）を行い、互いに講評しあうアクティブラーニングを通じて、話法を始めとする保育を行う上での基礎的な指導技術を身につける。  【授業時間外学習】 模擬授業に向けての教材、教具等の準備を行う。(4.0hr)				<b>第14回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程</b> 【到達目標】 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解する。備に対する基礎的な考え方を理解する。  【授業時間外学習】 幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)			
<b>第7回 模擬授業2</b> 【到達目標】 数グループに分かれ、学生を幼児に見立てて、各自指導案に基づいた模擬授業（活動）を行い、互いに講評しあうアクティブラーニングを通じて、話法を始めとする保育を行う上での基礎的な指導技術を身につける。  【授業時間外学習】 模擬授業に向けての教材、教具等の準備を行う。(4.0hr)				<b>第15回 幼児教育・保育のこれから</b> 【到達目標】 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。各自要点をまとめて発表する。  【授業時間外学習】 プレゼンテーションに向けて準備をする。(4.0hr)			
<b>第8回 環境を通して行う教育 子どもの育ちと物的環境</b> 【到達目標】 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。  【授業時間外学習】 幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 適宜小レポート、発表を課すので、授業内容について教育実践を念頭において、考えをまとめる習慣をつけておく。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogledrive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は各授業の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 参考書：「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」小櫃智子（編者）田中君枝 小山朝子、遠藤純子（わかば社） 「幼稚園・保育園・学童保育まで使える楽しい手遊び50」百瀬ユカリ 田中君枝（創成社） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省 資料のプリントも配付する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 授業内における小レポートと学習指導案の合計を30%、各発表の合計を30%として評価する。さらに、全授業終了時点でのまとめのレポート40%を実施し、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							
【オンライン授業の場合】 授業内における小レポート、学習指導案、提出課題の合計を60%、さらに、全授業終了時点でのまとめのレポート40%を実施し、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	保育内容（総合）			担当者	百瀬ユカリ		
英文名	Child Care Studies (Seminar)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		科目ナンバー	CMR303		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
授業形態	演習						
<b>【到達目標】</b>							
保育内容の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）及び養護に関する保育の内容が、関連性をもって総合的に展開されることを具体的な保育実践につなげて理解している。多様な要素を含む子どもの遊びの内容や、その展開を助けるための環境構成に関する知識・技術について理解し活用できる。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育・幼児教育現場の基本的な保育理念、保育内容、保育活動展開、子どもの育ちについての理解		保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育・幼児教育の基本について説明できる。		保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育・幼児教育の基本について理解している。		保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育・幼児教育の基本について理解していない。	
保育・幼児教育における5領域の内容及総合的な展開について		5領域の内容及性質を理解したうえで、それらの総合的な展開について具体的に説明でき実践できる。		5領域の内容及性質を理解したうえで、それらの総合的な展開について説明できる。		5領域の内容及それらの総合的な展開について説明できない。	
保育の環境・教材・計画に対する理解と指導計画の立案		保育の環境・教材・計画への理解を深め、長期的視野に立った具体的な指導計画の立案ができる。		保育の環境・教材・計画への理解を深め、具体的な指導計画の立案ができる。		保育の環境・教材・計画に対する理解が不十分で、指導計画の立案ができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 幼児教育・保育の基本</b>				<b>第9回 模擬保育の実践（グループ学習）</b>			
<b>【到達目標】</b> (1)環境を通して行う教育・保育について理解している。 (2)幼児期に育みたい資質・能力について理解している。				<b>【到達目標】</b> (1)指導計画に沿って模擬保育を行い、問題点を理解している。 (2)保育を改善するための視点を持ち活用できる。			
<b>【授業時間外学習】</b> 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について資料を読み、理解を深める。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 模擬保育の後に、指導計画案を修正する。(4.0hr)			
<b>第2回 幼稚園の一日</b>				<b>第10回 保育環境の構成と再構成</b>			
<b>【到達目標】</b> (1)幼稚園の一日の流れについて理解している。 (2)保育内容と保育者の援助について具体的に理解している。				<b>【到達目標】</b> (1)環境構成の重要性やその意図について理解している。 (2)環境の再構成について具体的に理解している。			
<b>【授業時間外学習】</b> 保育者の援助の観点から幼稚園の一日について振り返る。認定こども園についても考察する。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 保育の事例を調べ、環境構成の重要性を理解する。(4.0hr)			
<b>第3回 保育所の一</b>				<b>第11回 遊びの導入と展開①（グループ学習）</b>			
<b>【到達目標】</b> (1)保育所の一日の流れについて理解している。 (2)保育内容と保育者の援助について具体的に理解している。				<b>【到達目標】</b> (1)遊びの導入の方法について理解している。 (2)視聴覚教材の活用により遊びの展開の方法について理解している。			
<b>【授業時間外学習】</b> 保育者の援助の観点から保育所の一について振り返る。認定こども園についても考察する。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 導入～展開に関する教科書の該当箇所から、理解を深める。(4.0hr)			
<b>第4回 保育内容の考え方・捉え方</b>				<b>第12回 遊びの導入と展開②</b>			
<b>【到達目標】</b> (1)幼稚園教育要領と保育内容について説明できる。 (2)保育所保育指針と保育内容について説明できる。				<b>【到達目標】</b> (1)遊びの導入と展開を具体的に理解している。 (2)遊びの導入と展開を考察し、適切な教材について理解している。			
<b>【授業時間外学習】</b> 幼稚園教育要領、保育所保育指針等を読み、授業内容の理解を深める。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 映像や写真から遊びの導入と展開を予測したり考えたりする。(4.0hr)			
<b>第5回 子どもの発達過程と保育内容①</b>				<b>第13回 遊びと保育内容①</b>			
<b>【到達目標】</b> (1)3歳未満児の発達過程について理解している。 (2)3歳未満児の発達に応じた保育内容について理解している。				<b>【到達目標】</b> (1)遊びをみる視点と保育者の援助について理解している。 (2)「物とのかかわり」「人とのかかわり」について理解している。			
<b>【授業時間外学習】</b> 3歳未満児の資料により、発達のな特徴を捉える。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 遊びをみる視点に関する教科書の該当箇所から、理解を深める。(4.0hr)			
<b>第6回 子どもの発達過程と保育内容②</b>				<b>第14回 遊びと保育内容②（グループ学習）</b>			
<b>【到達目標】</b> (1)3歳以上児の発達過程について理解している。 (2)3歳以上児の発達に応じた保育内容について理解している。				<b>【到達目標】</b> (1)5領域の特性に応じた保育実践と総合的指導について理解している。 (2)視聴覚教材を活用しながら遊びの援助の実際を理解している。			
<b>【授業時間外学習】</b> 3歳～5歳児の資料により、発達のな特徴を捉える。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> “○○ごっこ”を5領域の観点から分析してみる。(4.0hr)			
<b>第7回 保育の計画①</b>				<b>第15回 保育内容の更なる充実をめざして</b>			
<b>【到達目標】</b> (1)保育課程と指導計画について理解している。 (2)指導計画の内容について理解している。				<b>【到達目標】</b> (1)接続期（年長～小1）のカリキュラムについて理解している。 (2)長期指導計画・短期指導計画について再確認理解している。			
<b>【授業時間外学習】</b> 保育課程及び指導計画に関する教科書の該当箇所を読み、理解を深める。(4.0hr)				<b>【授業時間外学習】</b> 小学校との連続性に関する資料やアブローチカリキュラムについての資料を読む。(4.0hr)			
<b>第8回 保育の計画②</b>							
<b>【到達目標】</b> (1)指導計画に基づく保育実践を理解している。 (2)具体的な指導計画案を作成できる。							
<b>【授業時間外学習】</b> 保育現場の指導計画を参考に、指導計画案を作成する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 保育内容を総合的に理解しているために、様々な科目と関連づけて学ばなければならない。今後の保育実習や実践に活かすべく、具体的な保育場面を想定しながら学びを深めてほしい。毎時間、授業内容に関する小レポートを作成し、次回の授業にフィードバックをして理解度を深める。模擬保育及び視聴覚教材によるグループ学習からの学びも大切にすること。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、大幅な変更はしない。授業配信の場合は、対面授業の時間割と同一時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする（掲載期限はその都度確認のこと）。出席は各回の課題提出により確認する。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書：津金美智子、新井美保子編 安部孝、伊藤博美、百瀬ユカリ他著『子どもの主体性を育む保育内容総論』（株式会社みらい） 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領解説書』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針解説書』（最新版）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（最新版）（フレーベル館）							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 各回の授業時での課題60%、理解度確認のための授業内試験の結果を40%として総合的に評価する。 <b>【オンライン授業の場合】</b> 毎回の授業レポートと最終課題レポートの内容を評価する。毎回の授業レポート（メールで提出）の評価を60%、最終課題レポート（メールで提出）の評価40%として総合的に評価する。							

科目名	保育指導法演習			担当者	桐川 敦子		
英文名	Seminar in Method of Child Care						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別				専門・必修	
授業形態	演習	科目ナンバー	CMR304	卒業認定方針との関連		⑦	
<b>【到達目標】</b> 幼稚園の保育は基本的に次のような考え方によって行われる。「幼児の主体的な生活を中心に展開される。」「環境を通して行う。」「幼児一人ひとりの特徴や発達に応じて行う。」「あそびを通して総合的な指導によって行われる。」 子どもが主体的につくるあそびに保育者はどのようにかかわっていったらよいのか。どのように援助し、働きかけていくべきか。保育の中で指導とは何か。子どもと共にある保育者の姿勢とは。これらを、具体的な実践の場を設定し、学んでいく。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育指導法の基礎的事項、理論を理解する。		保育指導法の理論について、自らまとめ、説明できる。		保育指導法の理論について、資料を参照しながら説明できる。		保育指導法に対する理解が不十分で説明できない。	
積極的に子どもとかかわりながら、保育指導法に対する理解を深める。		積極的に子どもとかかわりながら、臨機応変に対応し、保育指導法に対する理解を深める。		積極的に子どもとかかわりながら、保育指導法について理解する。		子どもとかかわりながらの学習が不十分で、保育指導法について理解することができない。	
自らの実践を振り返り課題を見出す。		実践を振り返りながら自己課題を明確にし、説明することができる。		実践を振り返りながら自己課題を明確にし、資料などを参照しながら説明することができる。		実践の振り返りが不十分であり、自己課題について見出すことができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 本授業におけるオリエンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 幼稚園教育要領や保育所保育指針で述べられている保育の基本的な考え方について確認し、授業の中であそびのコーナーを展開し、附属幼稚園の子どもとかかわりながら学ぶといった、この授業の在り方を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 配布資料の確認をする。(4.0hr)				<b>第9回 保育活動の実践2</b> <b>【到達目標】</b> 4歳児、5歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
<b>第2回 保育と指導</b> <b>【到達目標】</b> 保育形態について学び、自分たちが行おうとする保育活動の位置づけを明らかにする。グループごとに保育活動のねらいとテーマを考える。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れて保育活動を構想する。情報機器や教材の活用等も考慮し、保育の構想に役立てる。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育の形態についての復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 保育活動の実践3</b> <b>【到達目標】</b> 4歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
<b>第3回 保育活動の指導計画作成</b> <b>【到達目標】</b> グループごとに保育活動の指導計画を立て、発表する。指導案立案に際しては、ねらい及び内容について考慮し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解しながら行う。子ども達への働きかけ、かかわり方等十分に検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 指導計画の立案をする。(4.0hr)				<b>第11回 保育活動の実践4</b> <b>【到達目標】</b> 3歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
<b>第4回 教材研究</b> <b>【到達目標】</b> 教材などについて検討し、グループごとに発表する。安全面、子どもの年齢、発展性など様々な角度から検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究を行う。(4.0hr)				<b>第12回 保育活動の実践5</b> <b>【到達目標】</b> 3歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
<b>第5回 保育活動の準備1</b> <b>【到達目標】</b> 準備は各年齢の子どもの気持ち、姿を予測しながら行う。途中、中間報告会を設ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究を行う。(4.0hr)				<b>第13回 実践の振り返り1</b> <b>【到達目標】</b> 実践で学んだことを、様々な思想、学問と照らし合わせる。理論と実践を融合させながら考察し、保育について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 保育活動の準備2</b> <b>【到達目標】</b> 準備は各年齢の子どもの気持ち、姿を予測しながら行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究を行う。(4.0hr)				<b>第14回 実践の振り返り2</b> <b>【到達目標】</b> 反省点などをまとめ、資料を整理する。自己課題を明確にし、学習した事柄を記録として残す。 <b>【授業時間外学習】</b> 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 環境構成</b> <b>【到達目標】</b> 子どもたちにとって良い環境構成とは何かを考える。安全面など様々な角度から検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 教材研究を行う。(4.0hr)				<b>第15回 実践の振り返り3</b> <b>【到達目標】</b> 活動中の映像を見ながら総合的に振り返り、保育と指導、あそびと援助について理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 保育活動の実践1</b> <b>【到達目標】</b> 保育活動を行う。(5歳児)子どもと関わる回においては、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を確実に身に付けようとする。5歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。5歳児については小学校との接続を考慮しながら援助を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 附属幼稚園の子どもたちとかかわる授業なので、保育者を目指す学生の真剣な取り組みを期待する。コロナ禍において、子どもとかかわる授業が難しい場合は、写真や動画を活用しながら子どもの様子の詳細を伝え、子どもの育ちに適した保育指導方を学ぶようにする。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育指導法の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育指導法についての講義・質疑応答を行う。動画は、対面授業のスケジュールに従い、その始業時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、次の授業前日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書(所定の様式)の提出(メール)によって行う。							
<b>【実務経験のある教員による授業科目】</b> 保育現場で実務経験のある教員が、保育活動の位置づけ、指導計画の作成、教材研究などについて、具体的な実践的の場を設定し指導を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書「離れてあそぼう」桐川敦子著 東洋館出版 「保育・教育の方法と技術」編集代表 阿部アサミ、監修 無藤隆 大学図書出版 「幼稚園教育要領」(最新版)文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(最新版)文部科学省厚生労働省							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 授業中の発表50%、レポート50% <b>【オンライン授業の場合】</b> 毎時間のレポートを40%(回答を撮影した写真及び回答用紙をメール添付で提出)、期末のレポートを60%(メール添付で提出)として評価する。							

科目名	子どもの保健			担当者	上村 明		
英文名	Children's Health						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	CME101	卒業認定方針との関連	⑦		
【到達目標】 本科目では、子どもの健康問題、保健活動の意義とあり方について解説するとともに、保健活動を展開していくための方法について教授する。具体的には、発育・発達、健康状態の把握方法、疾病と予防・対応方法、保育環境と衛生管理、母子保健、他職種間の連携について取り扱い、保健活動のあり方と健康教育を展開していくための方法について考える。到達目標は2点とする。 ①保健活動の意義および健康活動を展開していくために必要な基本的知識について説明できる。 ②子どもの健康に関する知識を踏襲し、健康に関する身近な出来事と関連付けながら保健活動を展開していくための工夫を提案できる。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どもの健康に関する基本的事項・理論		基本的知識（理論やエビデンス）について説明できる。		基本的知識（理論やエビデンス）について、教科書や資料を参照しながら説明できる。		基本的知識（理論やエビデンス）について、理解が不十分なため説明できない。	
保健活動や健康教育を展開していくための工夫や提案		基本的事項や理論を踏まえ、展開していくための工夫を自らの言葉で説明し、提案できる。		基本的事項や理論を踏まえ、展開していくための工夫を教科書や資料を参照しながら説明し、提案できる。		理解が不十分なため、説明が乏しく提案できない。	
健康に関する身近な出来事への活用		身近な出来事の課題解決や知見の活用に向けて、学習状況を把握し、必要に応じて粘り強く思考し探求できる。		身近な出来事の課題解決や知見の活用に向けて、学習状況を把握し、教科書や資料を参照しながら探求できる。		身近な出来事と学習内容が結びつかず、探求できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
<b>第1回 保健活動の意義と目的</b> 【到達目標】 ・保育における保健活動の意義や目的を説明できる。 ・保育における保健活動の基本的な法令や指針、基本的な保健統計について説明できる。 ・子どもの保健活動のあり方について考察できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。				<b>第9回 こどもの事故（2）</b> 【到達目標】 ・子どもの事故死の特徴について理解できる。 ・発達段階ごとに起こりやすい事故について説明できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。			
<b>第2回 こどもの発育・発達と保健</b> 【到達目標】 ・日本における子どもの健康課題と母子保健対策について説明できる。 ・体のしくみと子どもの発育・発達について説明できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。				<b>第10回 こどもに多いケガへの対応</b> 【到達目標】 ・けがの種類と対処方法（外傷、口腔内、目、頭部、やけど等）について理解できる。 ・子どもの事故・怪我場面における対応をシミュレーションできる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。			
<b>第3回 こども健康状態の把握（1）</b> 【到達目標】 ・子どもの健康状態の把握方法について説明できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。				<b>第11回 慢性・急性疾患への理解</b> 【到達目標】 ・慢性・急性疾患の種類と特徴について理解し説明できる。 ・慢性・急性疾患の対応方法について説明できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。			
<b>第4回 こども健康状態の把握（2）</b> 【到達目標】 ・感染症の種類と感染経路について理解できる。 ・子どもの特徴について理解できる。 ・体調のよくない子どもへの対応（発熱、下痢、嘔吐、咳）について説明できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。				<b>第12回 アレルギー疾患への理解</b> 【到達目標】 ・アレルギー疾患の特徴について説明できる。 ・集団生活におけるアレルギー疾患児について説明できる。 ・アレルギー疾患児への配慮点について考察できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。			
<b>第5回 こどもの病気とその予防（1）</b> 【到達目標】 ・学校保健安全法と予防接種の意義について説明できる。 ・学校感染症の種類について理解できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。				<b>第13回 保育環境</b> 【到達目標】 ・保育環境の整備や安全管理に関する法律やガイドラインについて理解できる。 ・望ましい保育環境について説明できる。 ・熱中症予防と対応について説明できる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。			
<b>第6回 こどもの病気とその予防（2）</b> 【到達目標】 ・学校感染症（第二種感染症）の症状について理解し説明できる。 ・学校感染症（第二種感染症）の症状に合わせた対応をシミュレーションできる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。				<b>第14回 保健活動の実際（保健だよりの作成）</b> 【到達目標】 ・保健活動の実際について理解できる。 ・ほけんだよりを作成し、保健活動の具体的な内容について提案できる。 【授業時間外学習】 各自が設定したテーマに合わせてレビューを行い、情報を整理する(4.0hr)。			
<b>第7回 こどもの病気とその予防（3）</b> 【到達目標】 ・学校感染症（第三種感染症）の症状について理解し説明できる。 ・学校感染症（第三種感染症）の症状に合わせた対応をシミュレーションできる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。				<b>第15回 総括（フィードバックを含む）</b> 【到達目標】 ・第1～14回までの学習内容を踏まえ、健康に関する身近な出来事と関連付けながら考察できる。 【授業時間外学習】 第1～14回までのテキストの該当箇所及び資料を繰り返し確認し、知識の定着を図る。(4.0hr)			
<b>第8回 こどもの事故（1）</b> 【到達目標】 ・子どもの視野を体験し、大人との異同について説明できる。 ・子どもの視野に起因する事故や誤飲予防について考察することができる。 【授業時間外学習】 理解度の確認、およびテキストの該当箇所を読みレビューを行う(4.0hr)。							
<b>【学習上の留意点】</b> <b>【対面授業の場合】</b> 教科書や配布資料を用いて講義を進めていく（※のり＆ハサミを持参すること）。授業時間外学習については、授業内で適宜説明する。 子どもの健康や病気、事件や事故に関する書籍やニュース等、日頃からこどもの保健に関連する情報を収集する習慣を身につけ授業に臨んで欲しい。 <b>【オンライン授業の場合】</b> オンライン授業となった場合には、オンデマンド方式で実施する。また、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。出席については、配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：これだけはおさえたい！ 保育者のための「子どもの保健」 創成社 その他：必要に応じてプリントを配布する。							
<b>【成績評価方法】</b> <b>【対面授業・オンライン授業共通】</b> 対面授業・オンライン授業ともに、平常点および提出課題50%、期末試験50%で総合的に評価する。不適切な受講態度と判断した学生は、減点対象とする。							

科目名	子ども家庭福祉		担当者	雨宮由紀枝		
英文名	Child and Family Welfare					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
授業形態	講義	科目ナンバー	CME201	卒業認定方針との関連		⑧
【到達目標】						
子どもや家庭を取り巻く社会的環境は大きく変化し、子どもの育ちという側面からみても、子育てという側面からみても、昨今多様な課題をもたらしている。本講義では、子どもの育ちや子育てを社会的に支える仕組みや制度について、基礎的事項を学ぶことを目的とする。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
子ども家庭福祉に関する法制度や実施体制の習得について		法制度や実施体制を十分理解し、説明できる		法制度や実施体制を、資料を参照しながら説明できる		社会福祉の法制度や実施体制の理解が不十分で、説明できない
子ども家庭福祉の動向と課題の理解と、課題解決に向けた論理的思考について		動向や課題について十分理解し、課題解決に向けて、論理的に考えることができる		動向や課題について理解し、課題解決に向け、ある程度論理的に考えることができる		動向や課題の理解が不十分で、課題解決に向け、論理的に考えることができない
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について		子ども家庭福祉の理論・方法を十分理解し、専門職としての確かな説明と意見表明ができる		子ども家庭福祉の理論・方法を理解し、専門職としての確かに説明できる		子ども家庭福祉の理論・方法の理解が不十分で、専門職としての確かに説明できない
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 子ども家庭福祉の理念・概念				第9回 母子保健と子どもの健全育成		
【到達目標】 (1)現代社会における子ども家庭福祉の理念を理解する。 (2)現代社会における子ども家庭福祉の概念について理解する。				【到達目標】 (1)母子保健施策の現状と課題を理解する。 (2)子どもの健全育成施策の現状と課題を理解する。		
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第2回 子ども家庭福祉の歴史の変遷				第10回 障がいのある子どもとその家族への支援		
【到達目標】 (1)日本の子ども家庭福祉の歴史の変遷について理解する。 (2)欧米の子ども家庭福祉の歴史の変遷について理解する。				【到達目標】 (1)障がいのある子どもと家族について現状と課題を理解する。 (2)障がいのある子どもと家族を支援する制度について理解する。		
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第3回 現代の養育環境				第11回 社会的養護・少年非行等と家族への支援		
【到達目標】 (1)子どもの育ち、子育てをめぐる社会の変容を理解する。 (2)現代社会の子ども家庭をめぐる多様な問題を理解する。				【到達目標】 (1)社会的養護について、現状と課題を理解する。 (2)非行児童とその家族を支援する制度について理解する。		
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第4回 子どもの人権擁護				第12回 児童虐待防止への取り組み		
【到達目標】 (1)子どもの人権擁護の歴史の変遷を理解する。 (2)児童の権利に関する条約について理解する。 (3)子どもの人権擁護と現代社会における課題を理解する。				【到達目標】 (1)児童虐待の定義、現状と課題について説明できる。 (2)子どもを虐待から保護する仕組みについて説明できる。		
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)		
第5回 子ども家庭福祉の法体系				第13回 ドメスティックバイオレンスへの対応		
【到達目標】 (1)児童福祉法をはじめとする児童福祉六法について説明できる。 (2)その他の子ども家庭福祉関連法の概要を理解する。				【到達目標】 (1)ドメスティックバイオレンスの現状と課題を理解する。 (2)ドメスティックバイオレンスへの対応について理解する。		
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第6回 子ども家庭福祉の実施体制、行財政、専門職				第14回 現代的課題への対応		
【到達目標】 (1)子ども家庭福祉行政の実施機関、児童福祉施設について説明できる。 (2)子ども家庭福祉の財政、専門職について説明できる。				【到達目標】 (1)貧困家庭、ヤングケアラー、外国籍の子どもとその家庭への対応について理解する。 (2)地域における連携・協働とネットワークについて理解する。		
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)		
第7回 少子化と地域子育て支援				第15回 諸外国の動向		
【到達目標】 (1)少子化と子育て支援・次世代育成支援施策の動向を理解する。 (2)地域における子育て支援サービスの概要を理解する。				【到達目標】 (1)諸外国の子ども家庭福祉の動向を理解する。		
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)		
第8回 多様な保育ニーズへの対応						
【到達目標】 (1)保育制度と保育施策の現状と課題について説明できる。 (2)多様な保育ニーズに対応するサービスについて説明できる。						
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 現代社会に実際に起こっている子どもの育ち、子育てをめぐる問題を、新聞やTVのニュース報道より適宜取り上げる。日頃から、社会の動きに敏感にキャッチし、多様な視点から思考できる力を養っておくことが大切である。子ども家庭福祉をめぐる課題について、自身の子ども時代と結びつけながら、あるいは親になったときのことを思いながら、具体的に考えてみると理解が深まるであろう。 パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。						
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合は出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。						
【教科書・参考書など】 教科書：新・基本保育シリーズ3「子ども家庭福祉」公益財団法人児童育成協会 監修、新保幸男・小林理 編集（中央法規） 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 各回の授業時での小レポート課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。期末に試験を行う。						
【オンライン授業の場合】 各回の小レポート課題により評価を行う。						

科目名	乳児保育 I				担当者	福田 篤子	
英文名	Early Child Care I						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択	
授業形態	講義	科目ナンバー	CME202		卒業認定方針との関連	⑧	
<b>【到達目標】</b>							
乳児保育の理念と歴史の変遷及び社会的役割等について学び、多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解する。その際、3歳未満児の心身の発育・発達過程の特徴や環境とのかかわりを理解し保育所保育指針をふまえた保育計画のあり方、地域交流、関係機関との連携など、現代における保護者支援と乳児保育の役割について修得することを旨とする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
乳児保育の意義、目的と役割、乳児保育の現状と課題について理解する		意義、目的、役割、現状と課題について理解し自分でまとめて説明できる		意義、目的、役割、現状と課題について教科書等を参考にしながら説明できる。		意義、目的、役割、現状と課題について理解が不十分で説明できない	
乳児保育の内容や体制を理解する		乳児保育の内容や体制について理解し自分でまとめて説明できる		乳児保育の内容や体制について教科書等を参考にしながら説明できる。		乳児保育の内容や体制について理解が不十分で説明できない	
職員間の協働や関係機関等との連携を理解する		職員間の協働や関係機関等との連携について理解し自分でまとめて説明できる		職員間の協働や関係機関等との連携について教科書等を参考にしながら説明できる。		職員間の協働や関係機関等との連携について理解が不十分で説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 乳児保育とは何か</b> <b>【到達目標】</b> 「乳児」とは、どの年齢の子どものことを指すのか、どこで行われているのか、なぜ必要があるのかなど、乳児保育を学ぶうえで押さえておきたいことを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 乳児保育が行われている場所とその内容についてまともましよう（4時間）				<b>第9回 乳児保育の基礎知識2</b> <b>【到達目標】</b> 保育所の安全配慮について、またアレルギー症状のある子に対する配慮について検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 保育所の安全配慮について、自分の一番気になる案件について調べる（4時間）			
<b>第2回 「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念1</b> <b>【到達目標】</b> 保育所保育指針で求められている乳児保育はどのようなものなのかについて理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 養護と教育の一体化について考えること。設備運営基準について調べる（4時間）				<b>第10回 保育所の安全配慮について</b> <b>【到達目標】</b> 自分が気になった案件について発表し、現状とその対応について検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 発表を聞いて、他に人の意見を聞いたことをまとめる（4時間）			
<b>第3回 「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念2</b> <b>【到達目標】</b> 認可保育所と認可外保育施設の設備基準を比較して、子どもたちにとってどのような影響があるか、現場ではどのようにフォローしているのかについて考察していく <b>【授業時間外学習】</b> 海外での保育がどのようなになっているか、日本と比較しながらまとめる（4時間）				<b>第11回 保育所・認定こども園における乳児保育</b> <b>【到達目標】</b> 保育所・認定こども園でどのように保育が行われているのかについて学ぶ。保育士の勤務体制や役割についての理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 新聞記事等を読んで感想を人的環境の視点からまとめる（4時間）			
<b>第4回 乳児保育の歴史</b> <b>【到達目標】</b> 乳児保育が成立した背景について学ぶ。どのような人がどのような思いで乳児保育を支援してきたかについて理解する。さらに外国でどのような保育が実践されているか理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 様々な国の保育を学び、どう保育、支援に興味をわいたのかについてまとめる（4時間）				<b>第12回 乳児院における乳児保育</b> <b>【到達目標】</b> 乳児院における乳児保育についての理解を深める。施設の特徴とその役割に合わせた乳児保育の在り方を知る。 <b>【授業時間外学習】</b> 乳児保育の現状と課題について自分の関心から調べてくる（4時間）			
<b>第5回 乳児保育の基礎知識1</b> <b>【到達目標】</b> 乳幼児の心の発達、愛着と特性、年齢ごとの発達の特徴についてまなぶ <b>【授業時間外学習】</b> 本日の学びをまとめておく（4時間）				<b>第13回 乳児保育の現状と課題</b> <b>【到達目標】</b> 調べてきた課題に対して、グループで課題解決について検討する <b>【授業時間外学習】</b> 今迄の学習の中で一番関心のあったことについてパワーポイントでまとめる（5時間）			
<b>第6回 乳児保育の基礎知識2</b> <b>【到達目標】</b> 乳児の運動機能・物との関わり、人との関わり・自己の育ちについて視覚教材を通して学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 母性神話、3歳児神話について調べておく。（4時間）				<b>第14回 家庭的保育等における乳児保育</b> <b>【到達目標】</b> 保育所・認定こども園、乳児院以外で行われている保育施設について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 今迄の学習の中で一番関心のあったことについてパワーポイントでまとめる（5時間）			
<b>第7回 母性神話・3歳神話について</b> <b>【到達目標】</b> 母性神話について、調べてきたことを発表する。調べてきたことに対して、グループで考察をする。 <b>【授業時間外学習】</b> 他のグループの発表を聞いて新たに出てきた疑問点について自分で知らべる（4時間）				<b>第15回 まとめ</b> <b>【到達目標】</b> 課題について発表する。他の人の意見を聞く。 <b>【授業時間外学習】</b> 他の人の発表を聞いて、自分が課題に取り組んだことをまとめる（2時間）			
<b>第8回 乳児保育の基礎知識1</b> <b>【到達目標】</b> 乳児保育の保育内容が保育所保育指針でどのように位置づいているか、乳児、1歳以上3歳未満児、3歳以上児とどのように繋がっていくのかを理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 本日の学びをまとめておく（4時間）							
<b>【学習上の留意点】</b>							
配布資料や教科書を用いて授業を進めるが、グループ学習や学生によるプレゼンテーションを取り入れながら、相互に学びあう機会を多く設けたり、動画をもとにディスカッションできる機会を設ける。							
オンライン授業となった場合には、オンデマンドで実施し、授業内容によってはオンライン・グループ演習も実施する。また、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書 「乳児保育演習ブック」ミネルヴァ書房・「保育所保育指針解説」フレーベル館							
<b>【成績評価方法】</b>							
各回の課題達成度（45%）、課題テスト（10%）課題レポート（45%）にて総合的に評価する。							

科目名	子ども家庭支援の心理学		担当者	倉盛美穂子		
英文名	Psychology for Child and Family Support					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	CME203	卒業認定方針との関連	⑧	
【到達目標】						
1年次に履修する「保育・教育心理学」で学んだ内容を基に、乳幼児の発達や学習を支える保育者になるために必要な心理学的知識を深めることを目的とする。具体的には、乳幼児期の発達や学習の特徴、それを支える家庭環境や教育環境の重要性について講義する。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
乳幼児期の発達や学習に関する特徴の理解		乳幼児期の発達や学習の特徴を理解し、具体例を交えながら説明できる		乳幼児期の発達や学習の特徴を理解し、説明できる		学習に関する理論や考え方を理解が不十分で、説明することが難しい
家庭支援とは何か		家庭支援の考え方を理解し、具体例を交えながら説明できる		家庭支援の考え方を理解し、説明できる		家庭支援の考え方の理解が不十分で、説明することが難しい
多様な家族とその理解		多様な家族のあり方を理解し、具体例を交えながら説明できる		多様な家族のあり方を理解し、説明できる		多様な家族のあり方の理解が不十分で、説明することが難しい
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 子ども家庭支援とは			第9回 多様な家族とその理解 (2) 貧困			
【到達目標】 (1) 子ども家庭支援が必要になった背景を理解する。			【到達目標】 (1) 貧困家庭について理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第2回 中期の発達			第10回 多様な家族とその理解 (3) 子育て支援のネットワーク			
【到達目標】 (1) 成人期の発達の概要を理解する。			【到達目標】 (1) 家庭と地域をつなぐ関係機関の連携体制について理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 老年期の発達			第11回 多様な家族とその理解 (4) ステップファミリー			
【到達目標】 (1) 老年期の発達の概要を理解する。			【到達目標】 (1) ステップファミリーについて理解する。 (2) 外国にルーツがある子どもたちについて理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第4回 家族システム			第12回 多様な家族とその理解 (5) 育児不安			
【到達目標】 (1) 家庭の意義と機能を理解する。			【到達目標】 (1) 育児不安について理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第5回 家族の発達段階			第13回 多様な家族とその理解 (6) 心の不調			
【到達目標】 (1) 親になることの発達について理解する。 (2) 家族の発達システムについて理解する。			【到達目標】 (1) 心の不調について理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第6回 親と子の発達を支える			第14回 しつけと虐待			
【到達目標】 (1) 親子間の相互作用システムについて理解する。			【到達目標】 (1) 虐待の実態と対応、保育所保育指針による保育士の役割を理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第7回 ライフコースと仕事・子育て			第15回 愛着の発達			
【到達目標】 (1) 親子の間で安定した愛着が形成されるためのメカニズムを説明できる。 (2) 子育てで家庭を取り巻く現状と保育者にとっての支援課題について理解を深める。			【到達目標】 (1) 愛着の発達プロセス、愛着の世代間伝達、愛着障害の出現について理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第8回 多様な家族とその理解 (1) ひとり親						
【到達目標】 (1) ひとり親について理解する。						
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 講義ではパワーポイントを使用する。適宜資料を配布する。授業のターゲットとなる年齢や事象をイメージするために、映像教材を活用する。事例をもとに討議しながら、対象者や問題への理解を深める。質問は適宜受け付け、次回の授業冒頭で全員で共有する。授業後、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。受講者は、毎授業後、課題を提出をすること。						
【オンライン授業の場合】 オンライン授業になった場合は、オンデマンド方式で授業を行う。出席は、毎授業後の課題提出によって確認する(Pholly)。課題の提出とともに、授業内容についての質問や感想を積極的にを行うことを推奨する(質問への解答は当該学生にフィードバックしたり、全員で共有したほうがよい質問や感想は次週授業内容に反映させます)。動画は、授業日9時に本学ポータルサイトにアップし、一週間掲載する。						
【教科書・参考書など】						
参考書 「子ども家庭支援の心理学」相良順子・沖住佐江子(編)ナカニシヤ出版 「子ども家庭支援の心理学」白川佳子・福丸由佳(編)中央法規						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】毎授業後の課題提出 50%、最終レポート 50%						
【オンライン授業の場合】毎授業後の課題提出 50%、最終レポート 50%						

科目名	乳児保育Ⅱ			担当者	福田 篤子		
英文名	Early Child Care Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2						専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME204		卒業認定方針との関連	⑧	
<b>【到達目標】</b>							
乳児保育Ⅰで学習した内容をもとに、3歳未満児の発育・発達過程や特性をふまえた保育計画の実際について理解することを目的とする。養護および教育の一体性をふまえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に理解し、0歳、1歳、2歳の保育計画の立案・評価の方法を修得することを旨とする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
3歳未満児の発達に即した生活や遊びについて理解する。		3歳未満児の発達に即した生活や遊びについて理解し自分でまとめて説明できる		3歳未満児の発達に即した生活や遊びについて教科書等を参考にしながら説明できる。		3歳未満児の発達に即した生活や遊びについて理解が不十分で説明できない	
乳児保育の方法や環境の構成について理解する。		乳児保育の方法や環境の構成について理解し自分でまとめて説明できる		乳児保育の方法や環境の構成について教科書等を参考にしながら説明できる。		乳児保育の方法や環境の構成について理解が不十分で説明できない	
乳児保育における配慮の実際について理解する。		乳児保育における配慮の実際について理解し自分でまとめて説明できる		乳児保育における配慮の実際について教科書等を参考にしながら説明できる。		乳児保育における配慮の実際について理解が不十分で説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 発達を踏まえた生活習慣の援助</b> <b>【到達目標】</b> 乳児保育で生活リズムを整えるために優先的に位置づけている、睡眠、食事、排泄について、発達を踏まえた対応について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 睡眠、食事、排泄についての発達過程をまとめる（4時間）				<b>第9回 集団での生活における配慮</b> <b>【到達目標】</b> 乳児における集団生活に対する考えかた、配慮について、個と集団の在り方について考察していく。 <b>【授業時間外学習】</b> 指導計画作成（4時間）			
<b>第2回 子どもの育ち保育内容</b> <b>【到達目標】</b> 子どもの発達過程について再度学び、発達過程にあった保育内容が展開できるようにする。 <b>【授業時間外学習】</b> 本日のまとめと、オムツ交換について予習しておく（4時間）				<b>第10回 環境の変化や移行に対する配慮</b> <b>【到達目標】</b> 進級の際の環境の変化についての配慮について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 指導計画作成（4時間）			
<b>第3回 オムツ交換</b> <b>【到達目標】</b> オムツについて知識と、オムツ交換を行う技術について理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> オムツ交換を復習しておくこと。着替え、おんぶ紐の使い方について予習しておくこと（4時間）				<b>第11回 保護者とのパートナーシップ</b> <b>【到達目標】</b> 保護者支援について、相談にどのように回答していくとよいかについて事例を通して検討する。 <b>【授業時間外学習】</b>			
<b>第4回 衣服の着脱・おんぶ紐の使い方</b> <b>【到達目標】</b> 衣服の着脱の仕方、おんぶ紐の使い方について実践できるように理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 衣服の着脱・おんぶ紐の使い方の復習。授乳の予習。（4時間）				<b>第12回 事例検討</b> <b>【到達目標】</b> 乳児との関わりを具体的にイメージできるように、事例を通して理解する。 <b>【授業時間外学習】</b>			
<b>第5回 授乳</b> <b>【到達目標】</b> 授乳に対する知識と技術を理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> アレルギー、離乳食に対する配慮について実践例を探してまとめる（4時間）				<b>第13回 グループワーク①</b> <b>【到達目標】</b> 今までの授業で学んできたことの中からテーマをきままとめる <b>【授業時間外学習】</b> パワーポイント作成（4時間）			
<b>第6回 離乳食</b> <b>【到達目標】</b> 離乳食、アレルギーについて、園での対応等を視覚教材を使用して理解する。 <b>【授業時間外学習】</b> 手作り玩具について調べる（4時間）				<b>第14回 グループワーク②</b> <b>【到達目標】</b> プレゼンテーション準備 <b>【授業時間外学習】</b> パワーポイント作成（4時間）			
<b>第7回 子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境</b> <b>【到達目標】</b> 発達に合わせた遊びについて考え、それが可能となる手作り玩具について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 手作り玩具を作成して写真にとってまとめる。				<b>第15回 プレゼンテーション</b> <b>【到達目標】</b> 今迄学習してきたことについてグループで説明をする。 <b>【授業時間外学習】</b> 発表を聞いて深まった点についてまとめる（4時間）			
<b>第8回 乳児保育における指導計画</b> <b>【到達目標】</b> 3歳児未満児における指導計画について学び、3歳未満児の特徴を理解して計画を立てられるようになる。 <b>【授業時間外学習】</b> 指導計画作成（4時間）							
<b>【学習上の留意点】</b>							
配布資料や教科書を用いて授業を進めるが、グループ学習や学生によるプレゼンテーションを取り入れながら、相互に学びあう機会を多く設けたり、動画をもとにディスカッションできる機会を設ける。							
オンライン授業となった場合には、オンデマンドで実施し、授業内容によってはオンライン・グループ演習も実施する。また、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
「乳児保育演習ブック」ミネルヴァ書房 「保育所保育指針解説」フレーベル館							
<b>【成績評価方法】</b>							
各回の課題達成度（45%）、課題テスト（10%）課題レポート（45%）にて総合的に評価する。							

科目名	子どもの健康と安全			上村 明		
英文名	Children's Health and Safety					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME205	卒業認定方針との関連		⑦
【到達目標】						
<p>本科目では、「子どもの保健」での学びを踏まえ、子どもの健康と安全を守るために必要な対応方法について教授する。具体的には、日常に必要な健康観察技術、身体計測・生理機能計測技術、疾病と予防と対処法、救急時の対応、事故防止のため危機管理や安全管理について取り扱い、演習（実践）を通して現場で必要な技能を身につける。本科目の到達目標は以下の2点である。</p> <p>①保育施設における適切な健康管理、安全管理、環境管理方法について理解し説明できる。</p> <p>②こどもの健康と安全を守るため、体調不良時の対応、応急処置、緊急時の対応について適切に実践できる。</p>						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どもの健康と安全を守るために必要な基礎理論・基本技術	基礎理論と技能のポイントについて、実践を交えて説明できる。		基礎理論と技能のポイントについて、教科書や資料を参照しながら実践を交えて説明できる。		基礎理論と技能のポイントについて、理解が不十分なため実践を交えて説明できない。	
施設や子どもの状況に応じて保健活動や健康教育を展開していくための工夫や提案	施設や子どもの状況に応じた対応と工夫を基礎理論と技能を踏まえ、実践を交えて説明し提案できる。		施設や子どもの状況に応じた対応と工夫を教科書や資料を参照しながら、実践を交えて説明し提案できる。		施設や子どもの状況に応じた対応と工夫について理解が不十分なため、説明が乏しく、実践を交えて説明し提案できない。	
健康・安全に関する身近な出来事への活用	身近な出来事の課題解決や知見の活用に向けて、学習状況を把握し、必要に応じて粘り強く思考し探求できる。		身近な出来事の課題解決や知見の活用に向けて、学習状況を把握し、教科書や資料を参照しながら探求できる。		身近な出来事と学習内容が結びつかず、探求できない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 子どもの健康観察と保育環境（講義・演習）				第9回 子どもの体調不良と傷害発生時の対応（講義・演習）		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの環境を整えるための保育環境整備について説明できる。</li> <li>関連法規・ガイドラインに基づく基準を個別対応と集団管理について理解できる。</li> <li>子どもの日常の保育に必要な技術（抱っこ・おんぶ）について実践を交えて説明できる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事例をもとに、体調不良時（熱中症含む）の適切な対応方法についてシュミレーションできる。</li> <li>事例をもとに、薬の扱いと与薬の適切な対応方法についてシュミレーションできる。</li> <li>事例をもとに、応急手当での適切な対応方法についてシュミレーションできる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシュミレーションする。(4.0hr)</p>		
第2回 保育における保健的対応1：身体計測と評価（演習）				第10回 子どもの応急手当：主な怪我等への対応、止血法、包帯法（演習）		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの健康診断の意義とポイントについて説明できる。</li> <li>身体計測方法と発育評価について理解できる。</li> <li>身体計測と評価について正しく実践することができる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読む。身体計測と評価を行い実践結果を記録する。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主な怪我等への対応についてポイントを押さえて実践することができる。</li> <li>止血の方法についてポイントを押さえて実践することができる。</li> <li>包帯の方法についてポイントを押さえて実践することができる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、包帯法について繰り返し練習する。(4.0hr)</p>		
第3回 保育における保健的対応2：観察項目の測定方法と評価（演習）				第11回 一次救命措置（講義・演習）		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの健康観察の意義とポイントについて説明できる。</li> <li>健康観察の計測方法と評価方法について理解できる。</li> <li>子どもの健康観察と評価について正しく実践することができる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、健康状態の測定と評価を行い実践結果を記録する。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一時救命措置の重要性について説明できる。</li> <li>心臓蘇生法についてポイントを押さえて実践することができる。</li> <li>気道異物の除去についてポイントを押さえて実践することができる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシュミレーションする。(4.0hr)</p>		
第4回 3歳未満児への対応1：排泄・沐浴・衣服の着脱に関する保健技術（演習）				第12回 感染症の予防対策と罹患後の対応（講義・演習）		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健的対応の基本的な考え方や3歳未満児への援助のあり方について説明できる。</li> <li>排泄・沐浴・衣服の着脱の方法について理解できる。</li> <li>3歳未満児を想定し排泄・沐浴・衣服の着脱についてポイントを押さえて実践することができる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシュミレーションする。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症の集団発生予防と感染症対策のあり方について説明できる。</li> <li>事例をもとに、適切な対応方法をふまえた計画を立案できる。</li> <li>事例をもとに、状況に応じた保健活動や健康教育を展開していくための工夫を提案できる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシュミレーションする。(4.0hr)</p>		
第5回 3歳未満児への対応2：調乳・授乳・離乳食・歯磨き・午睡時の対応に関する保健技術（演習）				第13回 個別な配慮を必要とする子どもへの対応：アレルギー（講義・演習）		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健的対応の基本的な考え方や3歳未満児への援助のあり方について説明できる。</li> <li>調乳・授乳・離乳食・歯磨き・午睡時の対応の方法について理解できる。</li> <li>3歳未満児を想定し排泄・沐浴・衣服の着脱についてポイントを押さえて実践することができる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシュミレーションする。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー疾患の特徴と個別の配慮点について説明できる。</li> <li>アレルギー対応の基本原則を理解し、症状に応じた適切な対応を実践案や例を挙げ説明できる。</li> <li>アナフィラキシーショック時の対応についてポイントを押さえて実践することができる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシュミレーションする。(4.0hr)</p>		
第6回 衛生管理（講義）				第14回 個別な配慮を必要とする子どもへの対応：慢性疾患と障害（講義・演習）		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境衛生の基準、室内外の衛生管理、職員の衛生管理のポイントについて説明できる。</li> <li>児童福祉施設の設置及び運営に関する基準と学校保健安全法の意義と目的について理解できる。</li> <li>衛生管理に関する関連法規・ガイドラインを参照し、適切な対応を実践案や例を挙げ説明できる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患および障害の特徴と個別の配慮点について説明できる。</li> <li>事例をもとに、各慢性疾患の特徴に応じた適切な対応方法と配慮についてシュミレーションできる。</li> <li>事例をもとに、各障害の特徴に応じた適切な対応方法と配慮についてシュミレーションできる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシュミレーションする。(4.0hr)</p>		
第7回 衛生管理（演習）				第15回 総括：保育現場における健康・安全への取り組み		
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>嘔吐物処理についてポイントを押さえて実践することができる。</li> <li>プール時の残留塩素測定についてポイントを押さえて実践することができる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を参考に繰り返しシュミレーションする。(4.0hr)</p>				<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事例レポートにより学びの達成度を把握し、各自の学習課題を整理する。</li> <li>子どもの健康と安全を守るために、状況に応じて必要な情報と技能を判断し活用方法を提案できる。</li> <li>第1～14回までの学習内容を踏まえ、健康と安全に関する身近な出来事と関連付けながら考察できる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>子どもの健康と安全を守るための実践ポイントについて、第1～14回を踏まえ自分の言葉で整理する。(4.0hr)</p>		
第8回 事故防止と安全管理・危機管理（講義）						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事故防止と安全管理のあり方について説明できる。</li> <li>危機管理（防災、防犯など）のポイントについて説明できる。</li> <li>災害対策計画の整備及び対応マニュアルの作成の必要性を理解し、適切な対応を実践案や例を挙げ説明できる。</li> </ul> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)</p>						
【学習上の留意点】						
<p>【対面授業の場合】</p> <p>教科書や配布資料を用いて演習を進めていく（※必要に応じてのり＆ハサミを持参すること）。授業時間外学習については、授業内で適宜説明する。</p> <p>授業開始の前後は、予習復習を丁寧に行い、限られた授業時間内で十分に演習（実践）できるように意識し、授業に臨んで欲しい。</p> <p>子どもの健康や安全（事故や災害等含む）に関する書籍やニュース等、日頃から情報を収集する習慣を身につけ、授業に臨んで欲しい。</p> <p>【オンライン授業の場合】</p> <p>オンライン授業となった場合には、オンデマンド方式で実施する。また、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。出席については、配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。</p>						
【教科書・参考書など】						
<p>教科書：これだけはおさえたい！ 保育者のための「子どもの健康と安全」〔改訂版〕 創成社</p> <p>その他：必要に応じてプリントを配布する。</p>						
【成績評価方法】						
<p>【対面授業・オンライン授業共通】</p> <p>対面授業・オンライン授業ともに、平常点および提出課題50%、期末レポート課題50%で総合的に評価する。不適切な受講態度と判断した学生は、減点対象とする。</p>						

科目名	子どもとあそび			担当者	桐川 敦子・倉盛美穂子		
英文名	Children's play						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2						専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME206		卒業認定方針との関連	⑦	
<b>【到達目標】</b>							
子どものあそびに対する理解を深め、その意義を学ぶ。子どものあそびに対する保育者の援助、指導について学ぶ。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どものあそびの基礎的事項、理論について		子どものあそびの基礎的事項、理論について理解し、自らまとめて説明することができる。		子どものあそびの基礎的事項、理論を理解し、テキストを参照しながら説明することができる。		子どものあそびの基礎的事項、理論についての理解が不十分で、説明できない。	
子どものあそびの発達について		子どものあそびの発達について基礎的事項、理論を理解し、自らまとめて説明できる。		子どものあそびの発達について基礎的事項、理論について理解し、テキストを用いて説明できる。		子どものあそびの発達について基礎的事項、理論についての理解が不十分で、説明できない。	
保育現場におけるあそびについて		保育現場のあそびについて基礎的事項、理論を理解し、自らまとめて説明できる。		保育現場のあそびについて基礎的事項、理論を理解し、テキストや資料を用いて説明できる。		保育現場のあそびについて基礎的事項、理論の理解が不十分で、説明できない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 あそびの意義</b>				<b>第9回 子どもが遊ぶ環境</b>			
【到達目標】 子どもにとってあそびとは何かを考え、その重要性を理解する。				【到達目標】 近年の子どもを取り巻く環境の変化やあそびの実態を学ぶ。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 身体的あそびと発達</b>				<b>第10回 子どもとあそびと保育者の役割</b>			
【到達目標】 リズムあそび、運動あそび、取っ組み合いあそびにおける発達とその意義を理解する。				【到達目標】 保育者として子どものあそびにどのように関わっていくべきか理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 ごっこあそびと発達</b>				<b>第11回 伝承あそびなどの実践</b>			
【到達目標】 ごっこあそびにおける発達とその意義を理解する。				【到達目標】 伝承あそびなどを理解し、体験する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 構成あそびと発達</b>				<b>第12回 季節のあそび</b>			
【到達目標】 積み木やブロックなど物を構成するあそびの発達とその意義を理解する。				【到達目標】 四季折々のあそびについて理解し、体験する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 ルールのあるあそびと発達</b>				<b>第13回 手作りのおもちゃ</b>			
【到達目標】 鬼ごっこ、ドッチボールなどルールのあるあそびの発達とその意義を理解する。				【到達目標】 手作りのものを使うあそびについて理解し、製作に取り組む。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 乳幼児期のあそびにおける親の役割</b>				<b>第14回 親子のあそび</b>			
【到達目標】 乳幼児のあそびを親がどのようにサポートしているのか、また親のサポートの効果や意義について考える。				【到達目標】 子育て支援の現場における親子のあそびの実践について理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 あそびとメディア</b>				<b>第15回 保育者のあそびごころ</b>			
【到達目標】 あそびに対するテレビやゲームなどの影響について説明できるようになる。				【到達目標】 ワークショップを通し、あそびの楽しさを体験する。 あそびごころについて考える。			
【授業時間外学習】 文献を読み、レポートを作成する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 教材研究とレポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 あそびを中心とした保育</b>							
【到達目標】 幼稚園、保育園における子どものあそびについて学ぶ。							
【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b>							
全ての授業に対し積極的にかつ自主的に学習すること。講義においてはパワーポイントを用いて要点を示し、口頭で詳細を説明する。具体的な子どもの姿を思い浮かべながら受講することが大切である。あそびの体験や教材研究の回においても、子どもの視座に立ち受講することが求められる。ほぼ毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。							
<b>【オンライン授業の場合】</b>							
オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による子どもと遊びの知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の子どもと遊びについての講義・質疑応答を行う。動画は、対面授業のスケジュールに従い、その始業時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、次の授業前日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書「離れてあそぼう」桐川敦子著 東洋館出版社 参考書「保育園・幼稚園のわくわく運動遊び」桐川敦子監修（成美堂出版） その他、適宜、参考資料を配布する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業・オンライン授業共通】</b>							
授業中の発表50% レポート50%							

科目名	社会的養護			担当者	雨宮由紀枝		
英文名	Child Care and Protection						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	講義	科目ナンバー	CME301	卒業認定方針との関連	⑧		
<b>【到達目標】</b> 社会的養護とは、保護者のない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。本講義では、社会的養護の基礎的事項を理解することを目的とする。特に、現代の社会的養護において、施設養護中心から家庭養護へと大きな政策転換が推進されていることを理解することが重要である。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
社会的養護の法制度や実施体制の習得について		社会的養護の法制度や実施体制を十分理解し、説明できる		社会的養護の法制度や実施体制を、資料を参照しながら説明できる		社会的養護の法制度や実施体制の理解が不十分で、説明できない	
社会的養護の動向と課題の理解と、課題解決に向けた論理的思考について		社会的養護の動向や課題について十分理解し、課題解決に向け論理的に思考できる		社会的養護の動向や課題について理解し、課題解決に向け、ある程度論理的に思考できる		社会的養護の動向や課題の理解が不十分で、課題解決に向け論理的に思考できない	
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について		社会的養護の理論・方法を十分理解し、専門職としての確かな説明と意見表明ができる		社会的養護の理論・方法を理解し、専門職としての確かに説明できる		社会的養護の理論・方法の理解が不十分で、専門職としての確かに説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 現代社会における社会的養護の意義</b> 【到達目標】 (1) 子どもの養育問題の現状と社会的養護の必要性を理解する。 (2) 社会的養護の理念と概念を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第9回 家庭養護と施設養護</b> 【到達目標】 (1) 家庭養護と施設養護の実態について理解する。 (2) 施設の小規模化、里親委託等の推進について、具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 社会的養護の歴史の変遷</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護の歴史の変遷について理解する。 (2) 社会的養護にかかわる先駆者の取り組みについて理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第10回 社会的養護に関わる専門職</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護において求められる職員の資質・専門性について理解する。 (2) 社会的養護に関わる専門職について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 子どもの人権擁護と社会的養護</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護における子どもの権利の捉え方について理解する。 (2) 社会的養護における子どもの権利擁護とその課題について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第11回 社会的養護に関する社会的状況</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護問題と家庭・地域・社会的状況との関連について理解する。 (2) 家庭支援の重要性について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 社会的養護の基本原則</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護の理念に基づく基本原則を理解する。 (2) 運営指針と第三者評価について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第12回 施設等の運営管理</b> 【到達目標】 (1) 施設等の運営管理にかかわる法制度、基準、利用類型、財源等について理解する。 (2) 施設等の運営管理の現状と課題について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 社会的養護における保育士等の倫理と責務</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護におけるケアと倫理について理解する。 (2) 専門職の倫理としての職業倫理について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第13回 被措置児童等の虐待防止</b> 【到達目標】 (1) 被措置児童等虐待防止の経緯と現状について理解する。 (2) 被措置児童等虐待の発生要因と虐待防止の課題について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 社会的養護の制度と法体系</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護の制度の根幹としての「措置制度」について理解する。 (2) 社会的養護の基本法とさまざまな関連法の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第14回 社会的養護と地域福祉</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護関係の施設と地域とのかわりについて理解する。 (2) 社会的養護関係の施設の地域貢献のあり方、諸機関との連携について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 社会的養護の仕組みと実施体系</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護の基本的な仕組みを理解する。 (2) 社会的養護に関する実施体系の現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第15回 社会的養護の今後の課題</b> 【到達目標】 (1) 施設養護中心から家庭養護への大きな政策転換とその推進について理解する。 (2) 社会的養護の今後の課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 社会的養護の対象</b> 【到達目標】 (1) 社会的養護の対象となる子どもの特徴と背景について理解する。 (2) 社会的養護の対象となる子どもの家庭、親子関係について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 【対面授業の場合】 ここでの学びは、施設実習の前に習得しておくべき基礎的事項である。入所型児童福祉施設の状態については具体的にイメージしにくいという問題がある。ビデオ教材や事例を多く提示して多面的な理解を促していくが、実習以外でもボランティア活動等を通じて体験的に理解していくことが望まれる。パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭での詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割の曜日の時刻前にポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：新・基本保育シリーズ6「社会的養護Ⅰ」公益財団法人児童育成協会 監修、相澤仁・林浩康 編集（中央法規） 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業の場合】 各回の授業時での小レポート課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。期末に試験を行う。 【オンライン授業の場合】 各回の小レポート課題により評価を行う。							

科目名	社会的養護内容			担当者	雨宮由紀枝		
英文名	Practice in Care and Protection of Children						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	演習	科目ナンバー	CME302	卒業認定方針との関連	⑧		
<b>【到達目標】</b>							
社会的養護とは、保護者のない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。社会的養護の基礎的事項を具体的に理解し、子どもとその家庭の理解を踏まえ、援助にあたり必要となる実践力を習得することを目的とする。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容の具体的な習得について		基礎的内容を十分理解し、具体的に説明できる		基礎的内容を、資料を参照しながら具体的に説明できる		基礎的内容の理解が不十分で、具体的に説明できない	
施設養護・家庭養護に関わる相談援助の方法・技術に関する習得について		相談援助の方法・技術を十分理解し、実践的な思考ができる		相談援助の方法・技術を理解し、実践的な思考がある程度できる		相談援助の方法・技術の理解が不十分で、実践的な思考ができない	
子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について		施設・家庭養護の理論・方法を十分理解し、専門職としての確かな説明と意見表明ができる		施設・家庭養護の理論・方法を理解し、専門職としての確かに説明できる		施設・家庭養護の理論・方法の理解が不十分で、専門職としての確かに説明できない	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 社会的養護の視点</b>				<b>第9回 施設ごとの支援の実践（4）児童自立支援施設</b>			
【到達目標】 (1)社会的養護の基本理念と原理について具体的に理解する。				【到達目標】 (1)児童自立支援施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)自立支援、リービングケア、アフターケアについて具体的に理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 社会的養護が必要な子どもと家庭の理解</b>				<b>第10回 施設ごとの支援の実践（5）児童心理治療施設</b>			
【到達目標】 (1)子どもの貧困・家庭の孤立など、子どもと家庭を取り巻く現状と課題を理解する。 (2)被虐待児、障害のある子ども等、社会的養護における子どもの理解を深める。				【到達目標】 (1)児童心理治療施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)被虐待児への治療的支援のあり方について具体的に理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 施設養護と家庭養護</b>				<b>第11回 施設ごとの支援の実践（6）障害児入所施設・児童発達支援センター</b>			
【到達目標】 (1)施設養護（入所施設・通所施設）の生活特性と実際について理解する。 (2)家庭養護の生活特性と実際について理解する。				【到達目標】 (1)障害児入所施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)児童発達支援センターにおける専門的支援について具体的に理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 個別の支援計画</b>				<b>第12回 家庭的養護 里親制度・ファミリーホーム</b>			
【到達目標】 (1)社会的養護における計画・記録・自己評価の実際を理解する。 (2)アセスメントと個別支援計画の作成について理解する。				【到達目標】 (1)子どもと里親との関係形成について具体的に理解する。 (2)里親委託・ファミリーホーム等の家庭的養護の推進について理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 相談支援の方法・技術</b>				<b>第13回 社会的養護の支援の実践（1）</b>			
【到達目標】 (1)施設養護における基本的な相談支援の方法・技術について理解する。 (2)里親委託等における基本的な相談支援の方法・技術について理解する。				【到達目標】 (1)施設実習と関連づけながら、社会的養護の実際を考察する。 (2)レポート作成およびプレゼンテーションを行い、理解を深める。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 施設ごとの支援の実践（1）乳児院</b>				<b>第14回 社会的養護の支援の実践（2）</b>			
【到達目標】 (1)乳児院での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)乳児院における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践を理解する。				【到達目標】 (1)施設実習と関連づけながら、社会的養護の実際を考察する。 (2)レポート作成およびプレゼンテーションを行い、理解を深める。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 施設ごとの支援の実践（2）児童養護施設</b>				<b>第15回 今後の課題と展望</b>			
【到達目標】 (1)児童養護施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)児童養護施設における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践を理解する。				【到達目標】 (1)社会的養護における家庭支援の重要性を理解する。 (2)社会的養護の課題を理解し、家庭的養護の推進等、今後の展望を考察する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)			
<b>第8回 施設ごとの支援の実践（3）母子生活支援施設</b>							
【到達目標】 (1)母子生活支援施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)DV被害者への支援について具体的に理解する。							
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】 社会的養護をめぐる問題は、入所型児童福祉施設に限らず、保育所や教育機関等、すべての子どもの現場に共通の課題となっている。厳しい環境に置かれた児童の社会的養護を日常生活場面で担う保育士の福祉専門職としての役割を十分認識して、学びを深めてほしい。 演習に先立ち、パワーポイントと補足資料を用いて要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。事例分析では、毎回異なるメンバーのグループで検討および合意形成を行い、各グループの結果発表という形式で授業を進める。施設実習と関連付けながら、学生によるプレゼンテーションも実施し、実践への基礎づくりに取り組む。							
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。演習に先立ち、音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間制通りの曜日・時刻前にポータル配信する。演習に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
教科書：「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護Ⅱ」雨宮由紀枝・下尾直子編著（大学図書出版） 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業の場合】 各回の授業時での課題30%、レポート作成とプレゼンテーション30%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。レポート課題の発表、および学期末試験を行う。							
【オンライン授業の場合】 オンライン授業の場合は、各回の小レポート課題70%、レポート課題30%として評価を行う。							

科目名	子どもの食と栄養			担当者	秋山佳代		
英文名	Child Nutrition and Diet						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME207		卒業認定方針との関連		⑦
【到達目標】							
食事をおいしく楽しく摂ることは、子どもが心身ともに健康に育つ上で基本となる。本授業は、現代の子どもの食生活の現状や課題について理解し、子どもの望ましい食生活、保育施設等での食の支援のあり方や食育の重要性について考えとともに、子どもの発育の段階や身体状況に対応した食生活の支援が適切に行えるようになることをねらいとする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どもの心身の健康にかかわるの基礎的事項・理論について		理論を理解し自らまとめて説明できる		理論を教科書等を参照しながら説明できる		理解が不十分で説明できない	
子どもの心身の健康にかかわる研究知見に関する事項		研究知見の要点を自らまとめて説明できる		研究知見を資料等を参照しながら説明できる		知見の理解が不十分で説明できない	
子どもの心身の健康にかかわる研究知見の活用に関する事項		知見の活用について意見を示すことができる		知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる		知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義①				第9回 子どもの発育・発達と食生活Ⅰ③			
【到達目標】 授業内容や進め方について理解する。 子どもの心身の健康と食生活の関わりや子どもの食生活の現状と課題について理解する。				【到達目標】 幼児期の心身の発達と食生活の特徴及びお弁当の献立作成について理解する。			
【授業時間外学習】 テキスト第1章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			
第2回 子どもの健康と食生活の意義②				第10回 子どもの発育・発達と食生活Ⅰ④ 実習 幼児期の弁当			
【到達目標】 食生活指針および食事バランスガイドについて理解する。 食事摂取基準や食品分類について理解する。 保育所等における「食」に関する指針について理解する。				【到達目標】 幼児期の弁当を調理し、望ましい幼児食について理解を深める。			
【授業時間外学習】 テキスト第2章の該当箇所を読み、予習する。また、三日間の食事記録を行う。(4.0hr)				【授業時間外学習】 テキスト第5章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			
第3回 栄養と食品①				第11回 子どもの発育・発達と食生活Ⅱ			
【到達目標】 食事バランスガイドを用いて自身の食生活について現状を把握する。 食品の表示について理解する。				【到達目標】 学童期・思春期・妊娠期の心身の特徴を踏まえた望ましい食生活について理解する。			
【授業時間外学習】 食事バランスガイドを踏まえ、栄養バランスのとれた一日分の献立を考える。(4.0hr)				【授業時間外学習】 テキスト第6章を読み、予習する。(4.0hr)			
第4回 栄養と食品②				第12回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養			
【到達目標】 栄養バランスの良い食事の組み合わせ方について理解する。 食事の重要性、特に朝食の意義について理解し、理想の朝食内容を考える。				【到達目標】 家庭や児童福祉施設における食事と栄養について理解する。 疾病や体調不良の子ども、食物アレルギーや障がいのある子等の対応について理解する。 食を通じた保護者への支援について具体的に考える。			
【授業時間外学習】 テキスト第2章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 市販されている食物アレルギー対応の食品について調査する。(4.0hr)			
第5回 栄養と食品③ 実習 献立作成と調理				第13回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 実習 食物アレルギー児のおやつ			
【到達目標】 市販の惣菜等を利用し、適切な栄養バランスの取れた食事の組み合わせについて理解を深める。				【到達目標】 食物アレルギーに配慮したおやつを調理し、食物アレルギー対応について理解を深める。			
【授業時間外学習】 テキスト第3章を読み、予習する。				【授業時間外学習】 食物アレルギーへの対応について症例をもとに対策を考える。(4.0hr)			
第6回 子どもの発育・発達と栄養生理				第14回 食育の基本と内容①			
【到達目標】 子どもの発育と発達、及び食べ物の消化吸収など栄養生理について理解する。				【到達目標】 保育における食育の意義について理解する。 食育の具体例をもとに食育指導計画及び食育媒体の作成方法や食育のあり方を考える。			
【授業時間外学習】 テキスト第4章を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 テキスト第6章を読み、予習する。食育指導計画及び食育媒体を考える。(4.0hr)			
第7回 子どもの発育・発達と食生活Ⅰ①				第15回 食育の基本と内容② 演習 食育媒体の作成			
【到達目標】 授乳期及び離乳期の意義と食生活、離乳期の献立について理解する。				【到達目標】 食育だよりを作成し、正しい食育情報のまとめ方や発信方法について理解を深める。			
【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 食育だよりの活用方法について調査する。(4.0hr)			
第8回 子どもの発育・発達と食生活Ⅰ② 実習 調乳、離乳食							
【到達目標】 離乳の段階や摂食機能の発達に応じた離乳食について、実習を通して理解を深める。							
【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
日頃から子どもを取り巻く食生活や栄養に関心を持ち、授業内容と関連付けて考える。							
【対面授業の場合】パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、実習（演習）を通じて理解を深めていく。実習（演習）やグループ活動に積極的に参加し、自身の視野を広げたり、考えを深めたりする。授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問する。授業中の飲食・携帯使用・私語は厳禁とする。							
【オンライン授業の場合】オンデマンド形式の授業を中心とするが、実習（演習）は対面形式で行う場合もある。オンデマンド方式の授業では、各授業回のテーマは原則的には変更しない。学習は配信された音声入りパワーポイント動画と授業資料を基に進める。その後、指定された課題に取り組み、提出する。さらに、提出課題のフィードバックや共有を通じて、内容の理解や自身の考えを深めていく。配信は、各授業日前日9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、6日間程度掲載する。出席の確認は、各授業回の課題提出によって行う。							
【教科書・参考書など】							
「子どもの食と栄養演習（第4版）」 小川雄二編著 建帛社 食品成分表があるとわかりやすい。各種「指針」や「ガイドライン」およびその他の参考図書は授業中に適宜紹介する。							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 原則として、試験の結果（50%）、実技（演習）の達成度（20%）、レポート（30%）を用いて評価する。							
【オンライン授業の場合】 原則として、毎回のレポートを70%、期末のレポートを30%として評価する。							

科目名	子育て支援			担当者	雨宮由紀枝		
英文名	Childcare Support						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME303		卒業認定方針との関連	⑧	
<b>【到達目標】</b>							
保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解することを目的とする。様々な場や対象に即した子育て支援の内容と方法および技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル			
	保育の専門性を背景とした保護者に対する保育相談支援の特性と展開の習得について	保育相談支援の特性と展開を十分理解し、説明できる	保育相談支援の特性と展開を、資料を参照しながら説明できる	保育相談支援の特性と展開の理解が不十分で、説明できない			
	保育士の行う子育て支援の方法・技術に関する実践的な習得について	保育士の行う子育て支援の方法・技術を十分理解し、実践的な思考ができる	子育て支援の方法・技術を理解し、実践的な思考がある程度できる	子育て支援の方法・技術の理解が不十分で、実践的な思考ができない			
	子ども家庭支援を行う専門職としての資質と職務遂行に必要な理論・方法の習得について	子育て支援の方法・技術を十分理解し、専門職としての確かな説明と意見表明ができる	子育て支援の方法・技術を理解し、専門職としての確かな説明ができる	子育て支援の方法・技術の理解が不十分で、専門職としての確かな説明ができない			
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 保育士の行う子育て支援の特性（1）</b>				<b>第9回 保育士の行う子育て支援の展開（5）</b>			
【到達目標】 (1)保育士の行う子育て支援の特性を理解する。 (2)子どもの保育とともに保育者の支援について理解する。				【到達目標】 (1)社会資源の活用について理解する。 (2)自治体・関係機関・専門職との連携・協働について理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 保育士の行う子育て支援の特性（2）</b>				<b>第10回 保育士の行う子育て支援とその実際（1）</b>			
【到達目標】 (1)日常的・継続的な関わりを通じた保護者の支援について理解する。 (2)保護者との相互理解と信頼関係の形成について理解する。				【到達目標】 (1)保育所・認定こども園等における支援とその実際について理解する。 (2)通園施設における支援とその実際について理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 保育士の行う子育て支援の特性（3）</b>				<b>第11回 保育士の行う子育て支援とその実際（2）</b>			
【到達目標】 (1)保護者や家庭の抱える支援のニーズについて理解する。 (2)保護者や家庭の多面性について理解する。				【到達目標】 (1)地域の子育て家庭に対する支援とその実際について理解する。 (2)地域子育て支援拠点における支援とその実際について理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 保育士の行う子育て支援の特性（4）</b>				<b>第12回 保育士の行う子育て支援とその実際（3）</b>			
【到達目標】 (1)子ども・保護者が多用な他者と関わる機会や場の提供について理解する。 (1)保育士の行う子育て支援の特性についてまとめる。				【到達目標】 (1)障害のある子どもと家族に対する支援とその実際について理解する。 (2)アレルギー児・医療的ケア児等と家族に対する支援とその実際について理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 保育士の行う子育て支援の展開（1）</b>				<b>第13回 保育士の行う子育て支援とその実際（4）</b>			
【到達目標】 (1)子どもの状況・状態の把握について理解する。 (2)保護者の状況・状態の把握について理解する。				【到達目標】 (1)特別な配慮を必要とする保護者への支援とその実際について理解する。 (2)日本語を母語としない保護者への支援とその実際について理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第6回 保育士の行う子育て支援の展開（2）</b>				<b>第14回 保育士の行う子育て支援とその実際（5）</b>			
【到達目標】 (1)支援の計画について理解する。 (2)環境の構成について理解する。				【到達目標】 (1)子ども虐待の予防に向けた支援とその実際について理解する。 (2)虐待傾向にある保護者への支援とその実際について理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第7回 保育士の行う子育て支援の展開（3）</b>				<b>第15回 保育士の行う子育て支援とその実際（6）</b>			
【到達目標】 (1)支援の実践・記録について理解する。 (2)支援の評価・カンファレンスについて理解する。				【到達目標】 (1)要保護児童等の家庭に対する支援とその実際について理解する。 (2)入所施設における支援とその実際について理解する。			
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第8回 保育士の行う子育て支援の展開（4）</b>							
【到達目標】 (1)園内の保育者間の連携・協働について理解する。 (2)園内の他職種との連携・協働について理解する。							
【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 保育者として知っておくべき事項や現場で遭遇することの多い出来事について、事例を提示し、演習形式で子育て支援の理論や技術を学ぶ。保育現場で活用できる実践力を身につけるため、体験的な学びを重視する。ほぼ毎時間、演習内容に関する小レポートを作成し、理解度を確認する。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。 演習に先立ち、パワーポイントと補足資料を用いて要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。事例分析では、グループワークにより検討および合意形成を行い、各グループの結果発表という形式で授業を進める。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。演習に先立ち、音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。演習に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として評価する。期末に試験を行う。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 各回の小レポート課題により評価を行う。							

科目名	子どもの理解と援助			担当者	倉盛美穂子		
英文名	Child understanding and support						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME304	卒業認定方針との関連		⑧	
【到達目標】							
「子どもの理解」は、保育者の専門性の根幹となるものである。本授業は、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解することを目的とする。具体的には、子どもを理解する。基本的な視点について学んだ上で、より確かな理解に基づいた発達援助を行うために、観察や記録の手法、職員間や保護者との連携の取り方などを習得することをねらいとする。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
子どもの理解に基づく保育者の援助の基本的視点		子どもの理解に基づく保育者の援助の基本的視点を理解し、具体例を交えながら説明できる		子どもの理解に基づく保育者の援助の基本的視点を理解し、説明できる		子どもの理解に基づく保育者の援助の基本的視点の理解が不十分で、説明することが難しい	
発達援助の考え方の理解		発達援助の考え方を理解し、具体例を交えながら説明できる		発達援助の考え方を理解し、説明できる		発達援助の考え方の理解が不十分で、説明することが難しい	
発達援助方法の理解		発達援助方法を理解し、具体例を交えながら説明できる		発達援助方法を理解し、説明できる		発達援助方法の理解が不十分で、説明することが難しい	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 保育における「子どもの理解」				第9回 個と集団			
【到達目標】 (1) 保育における「子どもの理解」の意義について理解する。				【到達目標】 (1) 集団の視点で保育を考える。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第2回 気質				第10回 保育環境の理解や構成			
【到達目標】 (1) 気質について理解する。 (2) 遺伝的要因と環境的要因から子どもの育ちを考える。				【到達目標】 (1) 保育環境の重要性について理解する			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 子ども理解に基づく養護と教育の一体的展開				第11回 職員間の対話 ー保育環境の視点からー			
【到達目標】 (1) 「子どもの理解」に基づく養護および教育の一体展開について理解する。				【到達目標】 (1) 「子どもの理解」に基づく園内研修・保育カンファレンスについて具体的に理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第4回 子ども理解と援助の関係				第12回 保護者との情報共有 ー保育環境の視点からー			
【到達目標】 (1) 子ども理解と援助の関係を考える				【到達目標】 (1) 「子どもの理解」を保護者と共有し、援助につなげていくことについて理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第5回 子ども理解と共感的理解の関係				第13回 発達の課題に応じた援助と関わり ー保育環境の視点からー			
【到達目標】 (1) 事例を通じて共感的理解の理解を深める				【到達目標】 (1) 発達の課題に応じた保育者の援助と関わりについて理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第6回 感情				第14回 特別な配慮を要する子どもの理解と援助			
【到達目標】 (1) 感情の発達の視点から、子どもを理解する。				【到達目標】 (1) 個々の子どもに応じた発達支援のあり方を理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第7回 社会性の発達 (1)				第15回 発達の連続性と就学への支援			
【到達目標】 (1) 葛藤やつまずき場面における援助について考える。				【到達目標】 (1) 発達の連続性について理解する。 (2) 「幼保小連携」の今日的課題を知り、就学に向けた支援について理解する。			
【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第8回 社会性の発達 (2)							
【到達目標】 (1) モノや人との関わり方から子どもの発達を推測する。							
【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 指定教科書に準拠して授業をすすめる。受講者は講義を聞きながらメモを取ったり、教科書に書き込んだりしながら、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料を配布する。授業後、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。受講者は、毎授業後、課題を提出をすること。松原校舎で授業を行うこともある。							
【オンライン授業の場合】 オンライン授業になった場合は、オンデマンド方式で授業を行う。出席は、毎授業後の課題提出によって確認する（Pholly）。課題の提出とともに、授業内容についての質問や感想を積極的に行うことを推奨する（質問への解答は当該学生にフィードバックしたり、全員で共有したほうがよい質問や感想は次週授業内容に反映させます）。動画は、授業日9時に本学ポータルサイトにアップし、一週間掲載する。							
【教科書・参考書など】 教科書 「子どもの理解と援助 演習ハンドブック」松本峰雄（監修）ミネルヴァ書房							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】毎授業後の課題提出 50%、期末試験 50% 【オンライン授業の場合】毎授業後の課題提出 50%、期末試験 50%							

科目名	保育実習指導 I			担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ		
英文名	Childcare Training Instruction I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		科目ナンバー	CME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
授業形態	演習						
<b>【到達目標】</b> 保育所及び児童福祉施設等（保育所以外）における実習の意義、目的、内容、方法（観察、実践、記録、評価）を理解するとともに、自らの実習の課題を明らかにする。 子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務を理解する。 実習後の事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
実習についての基礎的事項について		実習についての基礎的事項を理解し、自らまとめて説明できる。		実習についての基礎的事項を理解し、テキストを参照しながら説明できる。		実習についての基礎的事項の理解が不十分で、説明できない。	
保育所実習 I（保育所実習、施設実習）について理解し、準備をする。		保育所実習 I について理解し、十分に準備をすることができる。		保育所実習 I について理解し、準備をすることができる。		保育所実習 I についての理解が不十分である。	
保育所実習 I を振り返り、今後の課題を明確化する。		保育所実習 I を振り返り、今後の課題を明確化し、自らまとめて説明できる。		保育所実習 I を振り返り、今後の課題を明確化し、説明できる。		保育所実習 I の振り返りが不十分であり、今後の課題を見出すことができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 授業の目的と流れ</b> 【到達目標】 保育実習 I（施設実習・保育所実習）の目的と全体的な流れを理解する。  【授業時間外学習】 テキストを見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第9回 保育所実習における実習の意義と心構え</b> 【到達目標】 保育所実習における実習の意義と心構えについて理解する。  【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第2回 施設の社会的役割や業務内容について</b> 【到達目標】 施設の社会的役割や業務内容について理解する。  【授業時間外学習】 保育所保育指針の理解を深める。(4.0hr)				<b>第10回 保育所の社会的役割や業務内容についての理解</b> 【到達目標】 保育所の社会的役割や業務内容について理解する。  【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第3回 施設実習における実習の意義</b> 【到達目標】 施設実習における実習の意義や心構えを理解する。  【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第11回 保育所実習の目標の設定</b> 【到達目標】 保育所実習における目標の立て方を理解する。  【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第4回 施設実習における目標の設定</b> 【到達目標】 施設実習における目標の立て方を理解する。  【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第12回 保育実習における文書について</b> 【到達目標】 実習記録の意味を理解し、記入の仕方を修得する。  【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
<b>第5回 施設実習における文書について</b> 【到達目標】 実習記録の意味を理解し、記入の仕方を修得する。  【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第13回 保育実習における指導案について</b> 【到達目標】 指導計画について理解し、部分指導案を作成する。  【授業時間外学習】 指導案を作成する。(4.0hr)			
<b>第6回 施設実習に関する全体的な学習</b> 【到達目標】 子どもの人権の尊重、守秘義務、プライバシーの保護など、保育士の職業倫理と社会的責任について理解する。  【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				<b>第14回 保育実習に関する実践的指導</b> 【到達目標】 子どもの姿をイメージしながら模擬保育を行う。  【授業時間外学習】 実践できる教材を研究する。(4.0hr)			
<b>第7回 施設実習に関する個別指導</b> 【到達目標】 実習を行う施設ごとに個別の課題を見出す。  【授業時間外学習】 配布資料を見直しながら個別の課題に取り組む(4.0hr)				<b>第15回 保育実習の振り返り</b> 【到達目標】 保育実習終了後に実習の振り返りを行う。  【授業時間外学習】 レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 施設実習の振り返り</b> 【到達目標】 施設実習終了後に実習の振り返りを行う。  【授業時間外学習】 レポートを作成する。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b> 【対面授業の場合】 質の高い保育者になるという自覚を持ち出席すること。実習に向けて、全ての授業において積極的にかつ自主的に学習すること。書類の提出は期限を守ること。ほぼ毎時間レスポンスカードなどで、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育実習の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育実習指導の講義・質疑応答を行う。動画は、対面授業のスケジュールに従い、その始業時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、次の授業前日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著（建帛社） 「より深く理解できる施設実習―施設種別の計画と記録の書き方」藤京子他著（萌文書林）、「よくわかる保育所実習[第6版]」百瀬ユカリ著（創成社） 「保育所保育指針」厚生労働省、フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館							
<b>【成績評価方法】</b> 【対面授業・オンライン授業共通】 保育計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合成績を出す。							

科目名	保育実習指導Ⅱ			担当者	桐川 敦子		
英文名	Childcare Training Instruction Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME402		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
<b>【到達目標】</b>							
保育実習指導Ⅰや既習の教科の内容との関連性を踏まえ、観察、記録、事例研究、実践を通して自己課題を明確にし、保育士の専門性と職業倫理について理解する。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育実習指導Ⅰや既習の教科の内容との関連性を踏まえ保育実習Ⅱの基礎的事項を理解する。		保育実習Ⅱについての基礎的事項を理解し、自らまとめて説明できる。		保育実習Ⅱについての基礎的事項を理解し、テキストを参照しながら説明できる。		保育実習Ⅱについての基礎的事項の理解が不十分で、説明できない。	
保育所実習Ⅱについて理解し、準備をする。		保育所実習Ⅱについて理解し、十分に準備をすることができる。		保育所実習Ⅱについて理解し、準備をすることができる。		保育所実習Ⅱについての理解、準備が不十分である。	
保育所実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確化する。		保育所実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確化し、自らまとめて説明できる。		保育所実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確化し、説明できる。		保育所実習Ⅱの振り返りが不十分であり、今後の課題を見出すことができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 観察実習の振り返り</b> 【到達目標】 保育実習Ⅰで理解したことを踏まえ、実習の意義、目的などについて再確認する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第9回 責任実習指導案立案</b> 【到達目標】 保育所の1日の流れをイメージし、保育者の援助について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第2回 子ども理解を深める①</b> 【到達目標】 0～2歳児の特徴とかかわり方を理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第10回 責任実習指導案立案</b> 【到達目標】 保育所の1日の流れをイメージし、適切な環境構成について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第3回 子ども理解を深める②</b> 【到達目標】 3～5歳児の特徴とかかわり方を理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第11回 指導案展開</b> 【到達目標】 模擬保育を行い指導案の在り方について深める。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第4回 保育計画を立てることの意味について理解する。</b> 【到達目標】 保育計画を立てることの意味を理解し、全体的計画、長期計画と短期計画について学ぶ。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第12回 計画案の実践後の自己評価と改善</b> 【到達目標】 作成した指導案について、子どもの発達に即したものであったか、子どもたちの最善の利益を考慮した保育計画であったかを自己評価をする。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第5回 子ども理解に基づく保育計画について理解する。</b> 【到達目標】 子ども理解に基づく保育計画について理解し、適切な環境構成などを学ぶ。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第13回 保育士の業務と職業倫理の理解</b> 【到達目標】 専門家としての保育士の業務と職業倫理について理解する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
<b>第6回 指導案の立て方について理解する。</b> 【到達目標】 具体的な指導案の立て方について学ぶ。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第14回 実習の心構えについて</b> 【到達目標】 実習の心構えについて理解する。  【授業時間外学習】 実習ノートに必要事項を記入する。(4.0hr)			
<b>第7回 部分指導案の立案①</b> 【到達目標】 子どもをイメージしながら保育を構想する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)				<b>第15回 自己課題の明確化</b> 【到達目標】 実習にむけての目標や自己課題を明確にする。  【授業時間外学習】 レポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 部分指導案立案②</b> 【到達目標】 保育全体の見直しをもって構想する。  【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
【対面授業の場合】 保育実習Ⅰで学んだ理論と実践を基に保育実習Ⅱに臨めるように、保育実習Ⅰでの記録や資料等を整理しておくこと。							
【オンライン授業の場合】 オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育実習Ⅱの知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育実習指導Ⅱについての講義・質疑応答を行う。動画は、対面授業のスケジュールに従い、その始業時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、次の授業前日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。							
<b>【実務経験のある教員による授業科目】</b>							
保育現場での実務経験および実習指導の実績を活かし、観察・記録・事例研究・実践を通して自己課題を明確にし、保育士の専門性と職業倫理等について理解できるよう演習を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著（建帛社）							
<b>【成績評価方法】</b>							
【対面授業・オンライン授業共通】 保育計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合成績を出す。							

科目名	保育実習 I			担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ		
英文名	Practice of Child Care I						
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME403		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
<b>【目的とねらい】</b>							
<p>保育所の日常保育に参加し、0歳～6歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。</p> <p>児童福祉施設等（保育所以外）の養護と機能を実習を通して具体的に学習し、施設を利用する対象児とその養護内容の理解、現状の問題点を考察する。様々な職種の専門教職員との中で働く保育士の職務内容を理解すると共に、具体的な支援方法を学ぶ。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育所の日常保育に参加し、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。		保育所の日常保育に参加し、保育所の機能と保育士の職務を学び具体的に説明できる。		保育所の日常保育に参加し、保育所の機能と保育士の職務を学び説明できる。		保育所の保育に参加する中で保育所の機能と保育士の職務に対する学びが不十分である。	
児童福祉施設等（保育所以外）の養護と機能を実習を通して具体的に学習する。		施設等における実習を通して、施設等の機能と保育士の職務を学び具体的に説明できる。		施設等における実習を通して、施設等の機能と保育士の職務を学び説明できる。		施設等の実習に参加する中で、保育士の職務に対する学びが不十分である。	
保育所と児童福祉施設等での実習を通して保育士の職務内容を理解すると共に、支援方法を学ぶ。		実習を通して保育士の職務内容を理解し、支援方法を学び、具体的に説明できる。		実習を通して保育士の職務内容を理解し、支援方法を学び、説明できる。		実習を通して保育士の職務内容を理解し、支援方法を十分に学ぶことができない。	
<b>【授業内容】</b>							
<b>【保育所】</b>							
9月上旬を標準的期間として12日間の保育所実習を行う。終了後は実習報告会を行う。							
<b>【児童福祉施設等（保育所以外）】</b>							
11月を標準的期間として12日間の児童福祉施設等（保育所以外）の実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。							
<b>【到達目標】</b>							
<b>【保育所】</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の一日の流れを理解し、保育所の生活に参加する。</li> <li>2. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。</li> <li>3. 保育計画・指導計画を理解する。</li> <li>4. 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。</li> <li>5. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。</li> <li>6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。</li> <li>7. 安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。</li> </ol>							
<b>【施設】</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等（保育所以外）の生活に参加し、施設の実際（養護の一日の流れ）を理解する。</li> <li>2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。</li> <li>3. 援助計画・内容の実際を理解する。</li> <li>4. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。</li> <li>5. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。</li> <li>6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。</li> <li>7. 安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。</li> </ol>							
<b>【授業時間外学習】</b>							
実習記録をまとめる。							
<b>【学習上の留意点】</b>							
「最善の利益は子どもたちに」をモットーに、生きる力を発揮し子どもたちと共に保育を楽しむ実習をする。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著（建帛社） 「よくわかる保育所実習【第6版】」百瀬ユカリ著（創成社） 「より深く理解できる施設実習―施設種別の計画と記録の書き方」藤京子他著（萌文書林）							
<b>【成績評価方法】</b>							
レポート30%、実習ノート30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。							

科目名	保育実習Ⅱ			担当者	桐川 敦子		
英文名	Practice of Child Care Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3						専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME404		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
<b>【目的とねらい】</b>							
保育所の日常保育に参加し、0歳～6歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
保育所の日常保育に参加し、保育士の職務を学ぶ。		保育に参加し、保育士の職務を学び、具体的に説明できる。		保育に参加し、保育士の職務を学び説明できる。		保育に参加しながらの、保育士の職務の学びが不十分である。	
保育の一部を担当しながら保育士の職務を学ぶ。		保育の一部を担当し、保育士の職務を学び、具体的に説明できる。		保育の一部を担当し、保育士の職務を学び、説明できる。		保育の一部を担当しながらの、保育士の職務の学びが不十分である。	
保育士として求められる資質等について理解し、自己の課題を確認する。		保育士として求められる資質等を理解し、自己の課題を確認し自らまとめ説明できる。		保育士として求められる資質等を理解し、自己の課題を確認しテキストを参照し説明できる。		保育士として求められる資質等について理解が不十分であり、自己課題を確認できない。	
<b>【授業内容】</b>							
2月中旬を標準的期間として12日間の保育所実習を行う。終了後は実習報告会を行う。							
<b>【到達目標】</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。</li> <li>2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。</li> <li>3. 指導計画を作成し、実際に実践する。</li> <li>4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。</li> <li>5. 地域社会に対する理解を深め、地域との連携について理解する。</li> <li>6. 保育士としての職業倫理を理解する。</li> <li>7. 保育士として求められる資質等について、自己の課題を確認する。</li> </ol>							
<b>【授業時間外学習】</b>							
実習記録をまとめる。							
<b>【学習上の留意点】</b>							
「最善の利益は子どもたちに」をモットーに、生きる力を発揮し子どもたちと共に保育を楽しむ実習をする。							
<b>【実務経験のある教員による授業科目】</b>							
保育現場での実務経験および実習指導経験のある教員が、保育実習に関する個別の事前事後指導および巡回指導を行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著（建帛社） 「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著（創成社）							
<b>【成績評価方法】</b>							
レポート30%、実習ノート30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。 保育実習指導Ⅱの授業を受講し、準備を行うこと。							

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		担当者	青木 純一・桐川 敦子		
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	CME405		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
<b>【到達目標】</b>						
この科目は、教職課程及び保育士養成課程の総仕上げとなる科目である。これまでの教職課程の学修や教育実習及び保育実習の経験を振り返り、自己の成長と課題について認識するとともに、学生による発表やグループ討論により、学生一人ひとりが自己の課題解決のための学修を積極的に進めていく。さらに、今日の教育と学校についての理解を深め、それを担う教職の意義や保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について理解を深めるとともに、自らの保育者（幼稚園教諭・保育士）となるための発達課題を明らかにする。また、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。 授業全体としては、保育者としての指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
	学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル		
	保育・教職実践演習の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。		
	保育・教職実践演習の研究知見に関する事項について	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。		
	保育・教職実践演習の研究知見の活用に関する事項について	知見の活用の際に意見を述べるができる。	知見の活用の際に、資料などを参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で、意見を述べられない。		
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>						
<b>第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認</b> 【到達目標】 授業開始までの夏季休業期間中に、幼稚園教育実習及び保育実習を振り返り、それをもとに討論する。課題レポートを提出する。 【授業時間外学習】 実習の振り返りに関するレポートを作成する。(4.0hr)			<b>第9回 教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（討論・発表）</b> 【到達目標】 学生によるグループ討論と発表を行う。こうした取組みを通して学生は保育者としての自己の課題を明確化し卒業までの自己目標を確認する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第2回 子どもの理解を深めるためのビデオカンファレンス</b> 【到達目標】 子どもへのかかわり方について考える力を養う。また、経験とともにその変化があるのかを考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第10回 学級経営、学校経営についての理解（講義）</b> 【到達目標】 学級の経営や園経営の実際を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第3回 保育者の服務と研修、保育者としてのライフサイクルと成長の課題（講義）</b> 【到達目標】 現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保育者の服務と研修、保育者としてのライフサイクルの実際について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第11回 小学校との連携について（講話）</b> 【到達目標】 現職保育者を招き、現場の事情について講話を聞く。こうした取組みを通して幼小の連携の実際やスタートカリキュラムの内容を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第4回 保育者に求められる教科の指導力を高めるためのロールプレイ</b> 【到達目標】 教育・保育に関わる基本的知識及び実技能力等の補完指導を受ける。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第12回 保育者として求められる社会性・対人関係能力</b> 【到達目標】 これまでの授業を通して得た知見をもとに討論する。こうした取組みを通して保育者にとって親や保護者とのコミュニケーションが大切なことを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 行事について考える</b> 【到達目標】 附属幼稚園等の運動会を見学し、各園の保育の方針と行事の在り方について討論する。 【授業時間外学習】 幼稚園、保育所における行事の見学とレポートを作成する。(4.0hr)			<b>第13回 自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価1</b> 【到達目標】 自己課題を認識し、解決するまでのプロセスを発表する。こうした取組みを通して自分の課題をより相対化する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第6回 保護者との連携についての理解（講話）</b> 【到達目標】 現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保護者との連携の現状を知り、連携のために必要とされていることについて学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第14回 自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価2</b> 【到達目標】 自己課題を認識し、解決するまでのプロセスを発表する。こうした取組みを通して自分の課題をより相対化する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
<b>第7回 前半の授業のまとめ</b> 【到達目標】 前半の授業を通して得た知見をもとに、自己の課題を整理する。自己課題解決に向けての取り組みについて計画し、開始する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			<b>第15回 魅力ある保育者を目指してレポート作成と意見交換一</b> 【到達目標】 保育者としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。 【授業時間外学習】 本科目のまとめに関するレポートを作成する。(4.0hr)			
<b>第8回 教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（講義）</b> 【到達目標】 今日の教育について理解を深め教職の意義、教員の役割について考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<b>【対面授業の場合】</b> 夏季休業期間中に、幼稚園教育実習及び保育実習を振り返り、各自の課題等についてまとめ、レポートとして提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。授業前半は、実習で体験した保育活動に近い具体的な内容であり、各人の課題を振り返り、さらに新たな課題を見つけ出したり、課題解決のための計画を立てやすいように進める。授業後半は、より深く保育、教職について深めながら、各人の課題解決への取り組みをサポートしていく。ほぼ毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。1回～7回は桐川が、8～15回は青木が担当する。						
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育教職実践演習の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育教職実践演習についての講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日12:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。						
<b>【教科書・参考書など】</b> 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、「保育所保育指針」厚生労働省 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実習」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習・保育実習時に作成する指導案、「実習ノート」等						
<b>【成績評価方法】</b>						
<b>【対面授業・オンライン授業共通】</b> 各種レポートの提出（50%）、授業時の発表、発言内容（50%）						

科目名	保育実習指導Ⅲ			担当者	百瀬ユカリ		
英文名	Childcare Training Instruction III						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
授業形態	演習	科目ナンバー	CME406	卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧		
<b>【到達目標】</b>							
事前指導では、保育実習Ⅰで学んだ理論と実践をもとに、保育所以外の児童福祉施設で行う実習を意義について理解している。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、施設における保育士としての課題を認識している。							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
児童福祉実習についての基礎的事項について		保育実習Ⅰを踏まえ、実習についての基礎的事項を理解し、自らまとめて説明できる。		保育実習Ⅰを踏まえ、実習についての基礎的事項を理解し、テキストを参照しながら説明できる。		実習についての基礎的事項の理解が不十分で、説明できない。	
保育実習Ⅲについて理解し、準備をする。		保育実習Ⅲについて理解し、実習課題を明確にし、自ら十分な実習準備をすることができる。		保育実習Ⅲについて理解し、保育実習Ⅰを踏まえた自己課題を明確にした実習準備ができる。		保育実習Ⅲについての理解が不十分で準備が出来ない。	
児童福祉施設実習を振り返り、自己課題を明確化する。		施設実習を振り返り、自己評価をより具体的にすることで、新たな学習に繋げ自らの課題を説明できる。		施設実習を振り返り自己評価を行い、自己課題を明確化している。		施設実習の振り返りが不十分であり、自己評価から今後の課題を見出していない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 保育実習Ⅰを振り返る①</b>				<b>第9回 個別の支援計画の理解</b>			
【到達目標】 保育実習Ⅰを振り返り、保育者を目指すものとしての自己課題を理解している。				【到達目標】 個別の支援計画について理解し、対象児にあわせて立案することができる。			
【授業時間外学習】 保育実習Ⅰの実習日誌や自己評価などを見直す。(4.0hr)				【授業時間外学習】 施設における個別の支援計画に目を通し、その意図等を理解している。(4.0hr)			
<b>第2回 保育実習Ⅰを振り返る②</b>				<b>第10回 支援の計画・実践・評価</b>			
【到達目標】 保育実習Ⅲの進め方と概要、評価方法について確認し、保育実習Ⅲの目標と内容を理解している。				【到達目標】 個別の支援計画に基づく実践を評価し、改善点等について理解している。			
【授業時間外学習】 これまでの振り返りをもとに、実習の課題を明らかにして書き記す。(4.0hr)				【授業時間外学習】 作成した個別の支援計画を再考する。(4.0hr)			
<b>第3回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解</b>				<b>第11回 子どもをとりまく環境を踏まえた地域社会との連携</b>			
【到達目標】 それぞれの実習希望先に応じて、事例（資料）を用いて、施設の役割や機能について理解している。				【到達目標】 子どもをとりまく環境や生活状況等を理解し、地域社会との連携や支援体制について理解している。			
【授業時間外学習】 施設や児童養護に関する事例（資料）を収集し、整理する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 新聞記事や雑誌などを通して子どもを取り巻く環境を考察する。(4.0hr)			
<b>第4回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解</b>				<b>第12回 職員間の連携や役割分担の理解</b>			
【到達目標】 それぞれの実習希望先に応じて、事例検討を行い、施設の役割や機能について理解している。				【到達目標】 保育士等の職員間の連携や役割分担について理解している。			
【授業時間外学習】 施設や児童養護に関する事例から必要な支援や関わりを考えて書く。(4.0hr)				【授業時間外学習】 施設の職員の職種とその役割をまとめる。(4.0hr)			
<b>第5回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解</b>				<b>第13回 専門職としての倫理と子どもの最善の利益の理解</b>			
【到達目標】 それぞれの実習希望先に応じて、グループ活動を通して、テーマを明確にする。				【到達目標】 子どもの人権の尊重、プライバシーの保護と守秘義務等の職業倫理について具体的に理解している。			
【授業時間外学習】 資料及び参考文献を用いて施設への理解を深め、グループ内報告の準備をする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 子どもの権利条約や人権擁護にかかわる法律等を読み、理解する。(4.0hr)			
<b>第6回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解</b>				<b>第14回 実習の振り返りと自己評価</b>			
【到達目標】 グループごとに事例検討を行い、それぞれの施設の役割や機能について理解している。				【到達目標】 実習を振り返り、子どもへの支援や養護的かわり等について理解している。			
【授業時間外学習】 グループ報告での内容を整理し、子どもの心理や行動を理解しようとする。(4.0hr)				【授業時間外学習】 自己評価の観点を踏まえて実習を自己評価する。(4.0hr)			
<b>第7回 施設を利用する子どもの理解</b>				<b>第15回 実習に基づく自己課題の明確化</b>			
【到達目標】 子どもの観察と記録および援助のかわりについて具体的に理解している。				【到達目標】 自己評価をもとに新たな課題や学習目標を明確にする。			
【授業時間外学習】 教科書を読み、観察の観点や記録の重要性を知る。(4.0hr)				【授業時間外学習】 施設からの実習評価と自己評価を照らし合わせながら自己課題を見出す。(4.0hr)			
<b>第8回 一人一人の子どもの状態に応じた援助やかかわりの理解</b>							
【到達目標】 入所の事由や子どもの状態に応じたかわりや援助の実践について理解している。							
【授業時間外学習】 参考文献を読む等して、援助の実践を知る。(4.0hr)							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 個人学習及びグループ学習を通して、児童福祉や社会的養護の学びを踏まえ、施設に入所する子どもへの理解や施設の役割についての理解を深め、支援の内容や方法を具体的に学んでほしい。また、実習先となる施設と異なる種類の施設についても、事前学習や実習報告等様々な機会を利用して理解できるよう努めることが望ましい。実習で得た学びを、自己評価するとともに、実習生全体の学びとして共有できるよう、フィードバックしていく。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育実習の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育実習指導の講義・質疑応答を行う。動画は、対面授業のスケジュールに従い、その始業時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、次の授業前日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。							
<b>【教科書・参考書など】</b> 教科書：『より深く理解できる施設実習－施設種別の計画と記録の書き方』藤京子他著（萌文書林） 参考書：『教育、保育、施設実習テキスト 第4版』二階堂邦子編著（建帛社）							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業の場合】</b> 個別の支援計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合的に評価する。							
<b>【オンライン授業の場合】</b> 個別の支援計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合的に評価する。							

科目名	保育実習Ⅲ			担当者	百瀬ユカリ		
英文名	Practice of Child Care Ⅲ						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4						専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME407		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
<b>【目的とねらい】</b>							
<p>保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解を深める。また、保育士の職業倫理について具体的に理解し、入所児童の人権やプライバシーに配慮しながら子どもへの理解を深める。さらに、施設の現状や課題に着目しながら、様々な専門職と連携を図り子どもと保護者を支援する保育士の役割や、具体的な支援の内容について学び、保育士としての自己課題を明確にする。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
児童福祉施設等の役割や機能について実習を通して理解を深める。		保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解し説明できる。		保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解している。		保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通しての理解していない。	
施設における支援の実際を理解する。		基本的な施設保育士の態度、支援内容を理解し、長期的視野に立った個別支援計画作成・実践が出来る。		基本的な施設保育士の態度、支援内容を理解し、個別支援計画作成・実践が出来る。		基本的な施設保育士の態度、支援内容を理解が不十分で、個別支援計画作成・実践ができない。	
保育士の職業倫理、子どもへの理解を深め、保育士としての自己課題を明確にする。		保育士の職業倫理及び役割を理解しており、実践に結び付けた自己課題が明確になっている。		保育士の職業倫理及び役割を理解しており、自己課題が明確になっている。		保育士の職業倫理及び役割が理解できておらず、自己課題が明確になっていない。	
<b>【授業内容】</b>							
<p>1 1月を標準的期間として、12日間の児童福祉施設での実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
<p>1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能について、実習を通して理解している。  2. 施設における支援の実際を理解している。  ①受容し、共感する態度  ②個人差や生活環境に伴うニーズの把握と子ども理解  ③個別支援計画の作成と実践  ④子どもの家庭への支援と対応  ⑤多様な専門職との連携  ⑥地域との連携  3. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解している。  4. 保育士としての自己課題が明確になっている。</p>							
<b>【授業時間外学習】</b>							
<p>子ども一人一人の理解を深めるために、社会的養護や児童養護に関わる書物や資料を読む。また、新聞や雑誌などで現代の家庭や社会が抱える問題・課題に関する記事を読み、考察する。</p>							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<p>現代社会における児童福祉や社会的養護の重要性について理解を深めながら、施設の在り方や子どもの最善の利益を踏まえた支援の実際について意欲的に学んでほしい。施設実習の経験は保育や福祉の根幹にかかわる重要な学びとなり、貴重な経験になることを踏まえ、課題意識をもって実習に臨んでほしい。</p>							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
<p>教科書：『より深く理解できる施設実習－施設種別の計画と記録の書き方』藤京子他著（萌文書林）  参考書：『教育・保育・施設テキスト 第3版』二階堂邦子編著（建帛社）、『児童福祉施設における子どもの育ちと貧困』（明石書店）、『虐待を受けた子どもへの自立支援』（中央法規出版）、『児童養護施設近未来Ⅱ～子どもを未来とするために』（全国児童養護施設協議会）</p>							
<b>【成績評価方法】</b>							
<p>レポート30%、実習日誌30%、施設からの評価40%によって総合的に評価する。</p>							

科目名	教育実習（事前・事後指導を含む）			担当者	桐川 敦子		
英文名	Guidance Teaching Practice						
単位数	5	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4					専門・選択	
授業形態	実習	科目ナンバー	CME408		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
<b>【到達目標】</b>							
<p>「教育実習」は大学での「事前・事後指導」（1単位）と幼稚園での4週間の「幼稚園実習」（4単位）からなる。幼稚園における実際の保育にかかわり、幼稚園教育（教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等）の理解を深め、保育者としての資質を高めることを目的とする。</p>							
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
事前指導において、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等を理解する。		教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任を理解し自らまとめて説明できる。		教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任をテキストを参照しながら説明できる。		教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任への理解が不十分で説明できない。	
幼稚園で実際の保育に関わり、子どもや保育者から学びながら保育者としての資質を高める。		実際の保育に関わり、保育者としての資質を高め、そのことを自らまとめて説明できる。		実際の保育に関わり保育者としての資質を高め、そのことをテキストを参照しつつ説明できる。		実際の保育に関わりながら、保育者や子どもから十分に学ぶ事ができない。	
実習を振り返り、自己課題を明確にする。		実習を振り返り、自己課題を明確にし、自らまとめ、説明できる。		実習を振り返り、自己課題を明確にし、テキストなどを参照しながら説明できる。		実習の振り返りが不十分で、自己課題を見出すことができない。	
<b>【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】</b>							
<b>第1回 幼稚園実習について</b> <b>【到達目標】</b> 授業の進め方について理解する。 幼稚園教育要領、幼稚園生活の流れなどを学ぶ。 附属幼稚園での実習の仕方、記録の書き方を学ぶ。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第9回 保育実践の留意点</b> <b>【到達目標】</b> 作成した指導案を展開することにより、保育に取り組む姿勢などを学ぶ。 指導案については個人指導を受ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第2回 子どもの理解</b> <b>【到達目標】</b> 様々な角度から子どもを理解する方法を学ぶ。 保育者は子どもとどのように向き合っていくべきか考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第10回 実習に向けての心構え</b> <b>【到達目標】</b> 実習中、実習前後の心構えについて理解する。 服装、持ち物、健康管理など、実習中の詳細について確認する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第3回 附属幼稚園での見学、参加実習1</b> <b>【到達目標】</b> 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。				<b>第11回 実習の振り返りと自己評価</b> <b>【到達目標】</b> 実習を振り返り、自己評価を行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第4回 附属幼稚園での見学、参加実習2</b> <b>【到達目標】</b> 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、観察記録を書き指導を受ける。				<b>第12回 実習報告会1</b> <b>【到達目標】</b> 実習で学んだことを報告し合い、互いに共有する。 実習で得たものを今後どのように活かしていくかを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第5回 附属幼稚園での見学、参加実習3</b> <b>【到達目標】</b> 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、観察記録を書き指導を受ける。				<b>第13回 実習報告会2</b> <b>【到達目標】</b> 実習で学んだことを報告し合い、互いに共有する。 実習で得たものを今後どのように活かしていくかを考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第6回 教材研究</b> <b>【到達目標】</b> 絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアターの教材研究を行い、オリジナルのものを作成する。 造形あそび、リズムあそびなど様々なあそびの研究も行う。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、教材研究を進める。				<b>第14回 保育者を目指すにあたって</b> <b>【到達目標】</b> 保育者を目指すにあたって、今、何をすべきか検討する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第7回 指導計画立案</b> <b>【到達目標】</b> 幼稚園教育課程を学び、指導案を作成する。 指導案作成の際の注意事項などを学ぶ。 教育要領に基づく教育課程の理解を深める。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、指導案を書く作業をすすめる。				<b>第15回 実習ノートの分析</b> <b>【到達目標】</b> 返却された実習ノートを読み返ししながら自己の課題について認識する。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
<b>第8回 保育実技についての検討</b> <b>【到達目標】</b> 絵本、紙芝居などを子どもの前で読んだり、パネルシアターやエプロンシアター、ペープサートを演じる際の配慮すべき点を学ぶ。 子どもとの心の交流や子どもの想像力について考える。 <b>【授業時間外学習】</b> 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。							
<b>【学習上の留意点】</b>							
<p>全ての授業に対し、幼稚園教諭免許状取得を目指し、実習に臨む積極的な態度で臨むこと。課題には自主的に取り組み、提出物は必ず期限を守り提出すること。講義においてはパワーポイントを用いて要点を示し、口頭で詳細を説明する。具体的な子どもの姿を思い浮かべながら受講することが大切である。</p> <p>現場における実習以外の授業をオンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による教育実習の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の教育実習についての講義・質疑応答を行う。動画は、対面授業のスケジュールに従い、その始業時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、次の授業前日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。</p>							
<b>【教科書・参考書など】</b>							
<p>テキスト：「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著（建帛社）、「保育記録のとり方・生かし方」関章信編著（すずき出版）、「幼稚園教育要領」文部科学省／参考書：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、「遊びや生活の中で“10の姿”を育む保育」事例で見る幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（チャイルド本社）</p>							
<b>【成績評価方法】</b>							
<b>【対面授業・オンライン授業共通】</b>							
<p>事前事後の授業でのレポート・課題の評価（50%）            実習園からの評価（50%）</p>							

科目名	スポーツ・舞踊活動特別実習		担当者	井筒紫乃		
英文名	Specially Sport Methods in Club Activities					
単位数	3	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1～3					専門・選択
授業形態	実習	科目ナンバー	CME208	卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧	
<b>【目的とねらい】</b>						
<p>本学における部活動を通して、得られた経験や成果をまとめ、より専門的なスポーツ活動に繋げることを目的とする。1年次から3年次まで継続して活動することが単位取得のための必要条件となる。選手だけではなく、選手をサポートするマネージャー等も受講対象とする。</p> <p>履修者は、1年次から3年次まで年次ごとに活動報告書を作成し、優れた成績や自らのパフォーマンス向上に繋がるような分析や考察をすることが求められる。</p>						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
スポーツ・舞踊活動報告書について		今後の活動に活かすことのできる報告書を作成することができる		十分な内容の報告書を期日までに提出することができる		報告書を期日までに提出することができない
それぞれのスポーツ・舞踊活動に対する主体的・積極性について		スポーツ・舞踊活動に対して主体的・積極的に非常によく取り組むことができる		スポーツ・舞踊活動に対して主体的・積極的に取り組むことができる		スポーツ・舞踊活動に対して主体的・積極的に取り組むことができない
<b>【授業内容】</b>						
<p>1、1年次 4月：ガイダンス 授業の目的やねらいについて説明を行う。また、活動報告書の作成方法及び提出についても説明する。</p> <p>2、1年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、2年次以降の充実につながるような目標を記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p> <p>3、2年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、3年次以降の充実につながるような目標を記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p> <p>4、3年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、最終年次、部活動の集大成としての具体的な目標を記す。さらに、大学での競技を終え、卒業後にこの経験をどのように生かしていくのかについても記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>継続した活動を通して、競技者として競技力を向上させ、より優れた成績を残すことが到達目標となる。さらに、大学生競技者として、年次を重ねるごとに人間的にも成長していることを実感できることが目標となる。卒業後、競技者の継続を希望する者、指導者を希望する者等、将来の自分をイメージしながら日々の活動を行い、報告書を作成することが望ましい。</p>						
<b>【授業時間外学習】</b>						
<p>日々の部活動には、目的意識をもって取り組み、練習ノート等にその日の練習内容に加えて、反省すべき点や今後活かせる点等も記録する。自らの課題を解決するために必要な情報については、授業や書籍等を活用しながら、それらを積極的に取り入れ、より有効な活動ができるようにする。</p>						
<b>【学習上の留意点】</b>						
<p>大学でスポーツ活動を実施する学生が、さらにそのスポーツ活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、スポーツ活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は、1年ごとに実施したスポーツ活動の内容について報告書提出する。不定期でガイダンスを実施するので、掲示をよく見て、必ず出席すること。また、学年をまたいでの課題提出はいかなる理由であっても認めない。その場合は、次年度の履修は取り消しとなるので注意すること。</p>						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
各競技種目に関する専門書や指導書など。						
<b>【成績評価方法】</b>						
3年間を通したスポーツ活動実績と活動報告書に基づき総合的に評価を行う。						

科目名	卒業研究			担当者		
英文名	Graduation Thesis					
単位数	6	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3～4					
授業形態	演習	科目ナンバー	CME409		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
<b>【目的とねらい】</b>						
子ども運動学科において展開されるカリキュラムの中から、一つの専門の領域や分野（研究室）を選択し、各自の興味や関心にふさわしいテーマについて卒業論文として完成させる。3年次からの2年間にわたる活動をとおして幼児発達の理解をさらに深めるとともに、専門的な能力を高める。さらに、具体的な研究手法の実践、自分の考えや研究結果をまとめ、プレゼンテーション（発表）を行う。						
<b>【ルーブリック（学修の到達レベル）】</b>						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
卒業研究の基礎的事項の理解		卒業研究の基礎的事項を十分理解し、自ら積極的に取り組むことができる。		卒業研究の基礎的事項を理解し取り組むことができる。		卒業研究の基礎的事項を十分理解していない。
卒業研究計画の設定と研究活動の展開		研究計画を設定し、自ら進んで研究活動を展開している。		研究計画を設定し、研究活動を展開している。		研究計画通りに、研究活動を展開していない。
卒業論文の作成と成果の発表		卒業論文の作成に積極的に取り組み、研究成果を発表することができる。		卒業論文の作成に取り組み、研究成果を発表することができる。		卒業論文を作成することができず、研究成果を発表することができない。
<b>【授業内容】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解</li> <li>2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定</li> <li>3. 研究活動の展開</li> <li>4. 結果の考察とまとめ</li> <li>5. 論文の作成、研究成果の発表</li> </ol>						
<b>【到達目標】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解 専門的に学ぶ分野の先行研究の概要や、問題の所在を十分に理解する。</li> <li>2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定 対象分野の研究の動向や、研究方法及び手法の特色を理解し、各自のテーマと方法を構想する。</li> <li>3. 研究活動の展開 各自のテーマと研究計画を明確にして、具体的に展開する。</li> <li>4. 結果の考察とまとめ 論文のまとめを構想しながら、さらに研究を進め、考察を深める。</li> <li>5. 論文の作成、研究成果の発表 構成を練り、論理的にまとまりよく、的確に伝えることができる。</li> </ol>						
<b>【授業時間外学習】</b>						
各担当教員の指示による。						
<b>【学習上の留意点】</b>						
各担当教員の指示による。						
<b>【教科書・参考書など】</b>						
状況に応じて参考図書・資料等を紹介する。						
<b>【成績評価方法】</b>						
2年間の論文作成に至る過程での状況と、論文の内容を総合的に評価する。						